

神は語る

目次

探し求めている人、聖書の神を見いだしたいと願うすべての人へ	3
ヨハネの手紙	5
ヤコブの手紙	32
ペテロの手紙第一	33
ペテロの手紙第二	49
ユダの手紙	68
ヘブル人への手紙	82
ヨハネの黙示録	131
結びに	224

探し求めている人、聖書の神を見いだしたいと願うすべての人へ

この本には、新約聖書の一部が、説明を加えながら語り直すスタイルで収められています。取り上げているのは、ペテロ、ヨハネ、ユダ、ヤコブの手紙です。それにヘブル人への手紙。そして最後に、新約聖書の最後の書であるヨハネの黙示録です。

これは**私自身**の言葉による語り直しです。つまり、多くのドイツ語の聖書翻訳に見られるような、これらの古い文書の原典テキストでは**ありません**。これらの聖書のテキストをさらによく理解するための助けとして考えたものです。あるいは、まったく新たに発見するための助けとして。

私は書き手の立場に身を置いてみます。そのうえで、内容を私なりの仕方でも語り直します——簡潔に、わかりやすく説明しながら。特に、聖書をまだまったく知らない人たちのためにです。私のテキストは、ルター訳聖書や共同訳 (Einheitsübersetzung) の本文のおよそ二、三倍の長さになっています。

これは確かに、一種の解釈ではあります。けれども、聖書注解書と比べられるようなものではありません。それでも私は、語り直すにあたって多くの注解書や聖書翻訳を参考にしました。何よりも、テキストの意味を、その本来の歴史的な状況の中で理解するためです——21世紀へと橋を架けることを目指して。たくさんの注解書と聖書翻訳に感謝しています。ただし、出典は示していません。もし誰かが私のテキストの中に自分の考えの跡を見つけたなら、ここにはっきりと感謝を申し上げます。

節番号、引照箇所、脚注や小見出しは、意図して付けていません。あるのは章の表示だけです。とにかく一つの手紙を最初から最後まで通して読んでみてください。全体として心に響かせてください。章の表示は、何かを探するときや、通常の聖書と比べてみたいときのための目印にすぎません。

私自身、この作業を通して、深く、人を変え、勇気を与える祝福を体験しました。いのちの水の、清く神聖な泉から飲むことを許されたのです。これは人間が書いたテキストです。けれども同時に——そしてこれは世界の他のどんな本にも当てはまらないことですが——これは**神のことば**そのものです。イエスのうちにご自分を現されたこの神を求めようとする人は誰でも、そのことに気づき、それを感じ取ります。

あなたも同じことを体験するよう、お招きします。まずは聖書で。あるいは、この自由な、けれども意味に忠実な語り直しで。

これはまったく一人で成し遂げたものではありません。まず特別な感謝を、引退牧師のホルスト・シュトリッカー（Horst Stricker）に捧げます。彼は多くの時間をかけて丹念に私の言葉を研ぎ澄まし、必要なところでは改善してくれました。また、私の原稿に目を通してくれたのが今回で初めてではないバーバラ・クルピンスキー（Barbara Krupinski）にも感謝します。最後になりましたが、組版をしてくれたヴィルヘルム・アーデルベルガー（Wilhelm Adelberger）と、レイアウトを担当してくれたトビ・シュトリッカー（Tobi Stricker）にも感謝します。

この本は、超教派のイニシアティブ「Kirche für Alle（すべての人のための教会）」のために出版されます。この働きは、人々をキリストの弟子とすることを目指しています。ですから、今日まで新約聖書の中で読むことのできる私たちの主イエス・キリストのことばと使徒たちのことばが中心にあります。この本がその目標の助けとなりますように。

四つの福音書と使徒の働きを一冊に、さらにパウロの手紙をもう一冊にまとめた本が出るかどうかは、この出版が助けとなり、人々が聖書を読むよう本当に持続的に動機づけられるかどうかにかかっています。

それを知ることができたら嬉しく思います。どんなご感想も info@kirchefüralle.de までお寄せいただければ幸いです。

Hans-Jörg Ronsdorf、アルゴイ地方ズルツベルクにて、2018年5月

ヨハネの手紙

- 永遠のいのち——今、そしてまもなく
- 永遠のいのちの確信
- 神の光、愛、喜び
- 赦し——ただ一度で永遠に！
- 愛の新しい戒め
- 世と神のみこころ
- 神の家族
- 信仰による勝利

ヨハネの手紙第一

イエスが私たち十二人をご自分の弟子とされたとき、まったく新しいことが始まりました。すべてを変え、もう決して終わることのない何かです。それは、ことばであるイエスのことです。彼は私たちに本当のいのちを明らかにしてくださいました。私たちは、いのちのことばである方について聞いたすべてのことを証しし、伝えます。それは単なることば以上のものでした。そのいのちを見て、驚嘆することができたのです——そうです、触れて、抱きしめることさえできました。彼は私たちと同じ**人間**であり、私たちは三年間その方に従いました。私たちは間近でその方を体験したのです。

神のいのち、神ご自身のいのちが、イエスのうちに、その力と豊かさのすべてをもって、本当に私たちのところに来ました。すべての人がそれを切実に必要としています。私たち使徒も、ほかの多くの人々もそれを見ました。私たちは、この途方もない知らせをあなたがたに告げ知らせる証人です。永遠のいのちそのものである御子は、神のもとから来られました。御子ご自身が、自分は天の父から遣わされたのだと、繰り返し私たちに教えてくださいました。父は、神の栄光のこのいのちを内に宿している御子が、私たちのところに来ることを望まれました。だから神の御子は人となられたのです。なぜなら、そうしてはじめて、神のいのちが死に引き渡されている私たちに届き、私たちのいのちとなることができるからです。神の御子が本当に人となったことを否定する、あなたがたのところにいる人たちにも、このことを知ってほしいのです。

私たちがイエスについて見聞きしたすべてのことを、あなたがたに伝えなければなりません。あなたがたがそれを聞いて信じるなら、イエスが私たちの共通の中心となります。私たちを結び合わせる心臓となるのです。イエスのうちにこそ、ほかの誰のうちでもなく、私たちは互いに交わりを持っています——信じがたいことに聞こえるかもしれませんが、天の父とその御子イエ

ス・キリストとの交わりです。なぜなら、彼は私たちに神のいのちにあずからせてくださったからです。

イエスによって、私たちは皆、あなたがたも私たちも、とにかくイエスに従う者は皆、心と意思を一つにしています。互いに結ばれ、すべてを分かち合う家族のようです。この関係と結びつきの中に、三位一体の神の喜びが起きています。地上のあらゆる喜び、この世のあらゆる喜びを超えた喜びです。これ以上大きくはなりえない喜びです。この天の家族の喜びを、神の家族の交わりの中で意識的に、積極的に生きている人は皆、感じ取ります。

けれども、この交わりと神の近さにまったくそぐわないものがあります。イエスのメッセージは明白でした。彼は私たち使徒に、とても大切なことを指し示されました。それを私たちは、どうしてもあなたがたに伝えなければなりません。もしそうしなければ、私たちはあなたがたに対して罪を負うことになるでしょう。永遠の神は聖なる方です。神ご自身が、最も清く、最も明るい**光**です。神は光の中に住んでおられます。神は罪に耐えられず、ご自分の栄光に満ちたご性質に反するものとは決して妥協されません。たとえば、愛のなさ、感謝のなさ、自己中心、そして、私たちにとって最善である神の良い戒めを軽んじたり、それに反逆したりすることです。このような闇は、神のうちには——そしてイエスのうちにも——何一つ見いだせません。もちろん、文字どおりの、あるいは物理的な意味での闇のことを言っているのではありません。私たちの心を暗くし、私たちの生き方から方向を奪う闇のことです。神のことばは、この状態を罪と不義、光であるこの栄光の神から切り離されていることと呼んでいます。

ですから、もし私たちが——あなたがたのところで何人かがそうしているように——この栄光の神と交わりを持っていると主張しながら、闇の中で、つまり神と神のみこころを問うこともせず、自分勝手に生きているなら、それはまったくの嘘です。決して真理ではありません。けれども、もし私たちが、イエスがただ一度で永遠に私たちを導き入れてくださった神の光の中で生きているなら、私たちは互いに、**そして**父とその御子とも、生きた、変わ

ることのない**交わり**を持っています。神の光の中で、神の愛の中で、そして父の家の喜びの中で。

けれども、私たちは本当にこの神の聖なる光の中で生き、そこにとどまることができるのでしょうか。私たちは何度も何度も失敗し、罪を犯してしまうではありませんか。そうです、できるのです。神に永遠に感謝します。私たちが神の光の中に永遠に立っていただける理由があります。神の御子イエス・キリストが、十字架でご自分の血といのちをささげられたのです。それによって、私たちは**永遠に**罪からきよめられています。このただ一度流された尊い**血**は、私たちがこれから罪を犯すかぎり、私たちをきよめ続けます。かつて、今も、これからも！私たちはいつも神との交わりの中にいます。たとえば私たちがまだ罪を犯すとしてもです。ただイエスの血だけが、私たちの永遠の安全であり保証です。私たちの従順や不従順が、神との交わりを可能にしたり壊したりするものではありません。神は御子の尊い血を見ておられます——ただそれゆえに、私たちは安全なのです。永遠に。かつて過越の小羊の血が、すべてのイスラエル人をさばきから守ったのと同じです。私たちは**すべての**罪からきよめられます。見落としている罪、忘れてしまった罪、自分では気づいていない罪も。そして残念ながら、これからも犯してしまう罪もです。

けれども、もし誰かが、偽教師たちが主張しているように、私たちには罪などまったくなく、イエスの血によるきよめなど必要ない、と考えるなら、それは大きな誤りです。そのとき私たちは、真理と現実から外れて生きることになります。自分自身を惑わすことになります。私たちの罪は、私たちを滅びへと突き落とすでしょう。

罪がないというこの嘘と自己欺瞞から解き放たれる道は、ただ一つしかありません。自分の罪を**認め**、神に告白するときだけに、私たちは罪から解き放たれます。そうしてはじめて、神がイエスの血によって私たちに与えようとしておられる赦しを受け取るのです。認めて告白すること、つまり自分で気づいている罪を口に出して言い表すことによってだけ、私たちは父なる神と御子との、真の生きた交わりに入ります。そしてまた、イエスのきよめる血

のもとに生きている、イエスに従うすべての人たちとの交わりにも入るのです。赦しは**すべての**罪に対して与えられます。もう一度言います。忘れてしまった罪や、気づいていない罪も。そして、これから犯す罪もです。

そもそも私たちは、神が罪を取り除いてくださることに値するのでしょうか。それを要求する権利があるのでしょうか。いいえ！けれども、私たちのためにいのちを与えてくださったイエスこそ、神が赦してくださるという確かさです。イエスの尊い血は、彼の聖なる、罪のないいのちを表しています。彼はそれを私たちのためにささげられました。それは神にとって計り知れない価値を持っています。だから神は、御子のこの血に基づいて、イエスのいけにえを信仰によって自分のものとして受け取り、それに全面的に頼るすべての人を赦すと、ご自分に義務を課されたのです。神はいつもご自分のことばに忠実です！神は真実で正しい方だからです！

すべての人に知ってほしいので、もう一度言います。神の子どもである私たちは自動的に罪なく生きている、と主張する人は、自分自身を欺いています。さらにひどい自己欺瞞は、罪を犯しておきながら、それは罪ではないと考えることです。そうすれば私たちは、神を偽り者とすることになるからです。神は、何が罪であるかを私たちにはっきり示してこられたのです。自分には罪がない、罪なく生きている、と本気で信じている人は、失われています。なぜなら、その人は罪を告白することによってイエスの血を自分のものとして受け取らないからです！ですから、これは滅びへと導く誤った教えです。

第2章

愛する皆さん、これは明らかなことで、本来なら書く必要もないはずですが。罪を犯さないでください！永遠の栄光の神が私たち人間をご自分との交わりへと招いておられるのなら、私たちも罪について、神とまったく同じように考え、感じるべきです。この感じ方において、私たちは成長し、深まっていきたいのです。

神との交わりには、自分の失敗を正直に見つめ、認めることも含まれます。なぜなら、正直に自問しなければならないからです。私たちのすることの中

に、**完全に**清く聖なるものなど、そもそもあるでしょうか。けれども、神の子どもである私たちが、それでもまた罪を犯してしまったとしても、そのために失われることは決してありません。父と御子との交わりも、途切れたり制限されたりすることはありません。なぜなら、**すべて**がすでに赦されているからです。私たちは改めて赦しを必要とはしません。そして、私たちのためにご自分の血を与えてくださった父の御子イエスにほかならない方が、父のもとで私たちの弁護者であり保証人です。彼こそ、永遠に私たちの安全です。彼は**義なる方**です。不義な者である私たち自身は、自分の罪を消し去ることなど決してできなかったでしょう。

私たちのすべての罪を、イエスをご自分の血によって消し去ってくださいました。彼は私たちの罪のための、完全でただ一度きりの**宥めのささげ物**です。今や神は、私たちのうちにもはや何一つ不義なものを見いだされません。なぜなら、神と人に向けられた私たちの汚れた不義な行いはすべて、イエスにあって赦され、取り除かれたからです。彼のいけにえは非常に大きな価値を持っているので、世界のすべての人のすべての罪を消し去ることができるほどです。けれども、もちろん赦しを受けるのは、キリストとそのいけにえのもとに避け所を求める人たちだけです。

では、私たちがイエスを知っていて、彼に従っていることは、どうしたらわかるのでしょうか。単純に、私たちが彼の**戒め**を愛し、行っていることによってです。もし誰かが、イエスと生きた、人生を変える関係を持っていると主張しながら、彼の戒めを行わず、行おうとさえしないなら、その人は自分自身を欺いています。そしてほかの人たちをも。そのような人のうちに、神の真理があるはずがありません。けれども、イエスのことばを行う人のうちには、神の愛が住んでいます——そうです、目的地に到達しているのです。その人は神の愛を受け取っただけでなく、それに応え、さらにほかの人へと手渡してきたのです。

私たちが彼のことばを守り、行うなら、私たちはイエスのうちにいます。そして、イエスのうちにいると称する人は、イエスが生きられたように生きる

以外に道はありません。そのとき、イエス・キリストの愛、あわれみ、真理、聖さが、私たちのうちにも見えることがわかるでしょう。

愛する皆さん、私はあなたがたに、本当は新しい戒めを書いているのではありません。それは、イエスが私たち弟子に与えられたときには新しいものでした。その意味では、これは古い、もともとの、そして今もなお有効な戒めです。あなたがたは、信仰によってイエスを受け入れたときにそれを受けました。同時に、これは永遠に**新しい戒め**です！なぜなら、それはイエスによってまったく新しい次元を得たからです——**愛**の戒めとしてです。そのようなものは、それ以前には決してありませんでした。この愛の戒めは、まことにイエスのうちに生きていました——そして今日、私たちのうちに生きています。彼のいのちが私たちのいのちにもなったのです。そうです、彼は私たちのうちに生きておられます！そのようにして、ただそのようにしてだけ、私たちは彼のように生き、愛することができるのです。イエスにあって、まことの光が世に来ました。それによって新しい、来たるべき時代が始まりました。闇はますます退かなければなりません。闇は私たちの心からも追い払われています。私たちは神の光の中に生きています。そして、闇が完全に消え去り、イエスがすべてを照らされる日が来ます。

この光の中に生きていますと主張しながら、自分の**隣人**を愛さず、かえって憎んでいる人は、必然的に闇に属しています。自分の隣人を愛する人は、光に属しています。神の光の中で、その人はつまずいて信仰から離れ落ちることから守られています。もう一度言わなければなりません。自分の隣人を憎む人は闇の中にいます。それは致命的なことです。闇の中を歩く人は、自分がどこへ行くのかわからないからです。闇の中では、その人は盲目なのです。

神に愛されている**子どもたち**よ。あなたがたのすべての罪は、これから犯す罪も含めて、赦されています！その理由は、ただ神のあわれみだけです。神はそれをイエスにあって約束し、与えてくださいました。そのお名前がそれを保証しています！

信仰の**父たち、母たち**よ。あなたがたは霊的にそのような者へと成長しました。あなたがたがイエスを、ほかの誰よりも知り、愛しているからです。

若い人たちよ。あなたがたもいつか、そのような父や母になるでしょう。今、あなたがたはイエスによって、信仰のうちに悪い者、すなわち悪魔に打ち勝ちました。

まだ信仰に入って間もない子どもたちよ。あなたがたは、とても大切に根本的なことを知りました。永遠の神があなたがたの天の父である、ということです。

父たち、母たちよ。私あなたがたに書いたのは、あなたがたのイエスについての知識、イエスへの愛と熱意が、あなたがたを、今、信仰においてほかの人たちのためにそうあることのできる者にしているからです。

若い人たちよ。私あなたがたに書いたのは、あなたがたがイエスにあって強いからです。何よりも、神のことば、イエスが語られたすべてのことが、あなたがたにとって大切であり、あなたがたがそれを行っているからです。イエスとそのことばによって、あなたがたは悪魔に打ち勝つことができました。悪魔が広めるあらゆる誤った教えも、悪魔が惑わした人々も、あなたがたを不意打ちすることはできませんでした。

気をつけてください。神やイエスなどどうでもいいと思っている人たちが愛し、行っているものを愛してはいけません。本当の愛は、ただ一つのものにしかしがみつくことができません。信仰のない人たちのような生き方を望んだり、それをうらやんだりする人は、天の父の大いなる愛を知りません。**父の愛**は、神から遠く離れたこの世の中にとどまることはできません。そして、そこでは歓迎されてもいないのです。

神ではなく悪い者が支配している社会は、特に三つのものに駆り立てられています。

まず、あらゆる**欲望**に屈し、それを思うままに満たすこと——お金を愛すること、野心、性、名声、あるいは依存症であれ。

次に、この世のもの、目に見えるもの、誘惑的なものだけを見る**目の欲**。そして、それによって本当の意味での生きがいや文字どおり見失ってしまいます。

最後に、**暮らし向きの自慢**——見せびらかし、高慢、うぬぼれと他人との比較、いじめ、そのほか多くのことです。

神のない人間は、まるで神など存在しないかのように、自分を自分の人生の王とみなしています。こうしたものはすべて、決して天の父から出たものではありません。こうしたものはすべて、いつの日か消え去り、過ぎ去ってしまいます。この破滅から逃れるただ一つの救いは、イエスが言われることを行うことです。神のみこころを行うことこそ、この世に対する唯一の価値ある対抗プログラムです。それは、神の新しい、永遠の、聖なる、栄光に満ちた来たるべき世界を、光の中で体験するための唯一の道です。そして、永遠のいのちの中で、永遠にそこにいるための道です。

神の子どもたちよ。イエスとともに、**終わりの時**が始まりました。イエスは、**反キリスト**、すなわち偽りの救い主が来ると言われました。けれども、今すでに多くの反キリストが現れ、キリスト気取りでイエスの座に自分を据えています。彼らはイエスに敵対する立場を取りました。だから私たちは、終わりの時が来ていると言うことができるのです。とても悲しいことに、これらの人々は私たちの中から、私たちの仲間の中から出て来ました。確かに彼らは、神の家族に属していると主張していました。けれども、それは本当ではありません。もしそれが本当だったなら、彼らは私たちのもとにとどまっていたはずです。けれども神は、彼らの正体を暴かれました。彼らは神から出た者ではなく、悪い者から出た者だということです。彼らは私たちのところにいるべき者ではありません。偽りを教え、広めているからです。

私たちは皆、イエスから**注ぎの油**を受けています。イエスは私たちに聖霊を与えてくださいました。聖霊は、イエスがキリストであり、父の永遠の御子であることを私たちに教えてくれました。私があなたがたに書いたのは、あなたがたがこうした事柄を初めて聞くようにするためではありません。あなたがたはもうそれを知っているからです。それをしっかり保ってください。これらの人々の嘘は、真理とはまったく何の関係もありません。

では、イエスについて語る人々の中で、どのような人を偽り者と呼ばなければならぬのでしょうか。それは、ナザレのイエスが神に選ばれたメシアで

あることを否定する人々です！そのような人こそ、父とその御子イエスを否定する反キリストです。その人は、神は父などではなく、御子を持つことなどありえない、と言います。ですから、イエスが父の御子であることを否定する人は、父を知ること、父を自分の父として持つこともできません。けれども、イエスが父の御子であると信じ、それに立ち、それを証しする人は、父なる神を持っています。その人はまことに神の子どもです。あなたがたも初めからそのように聞いてきました。それを売り渡すことのできない真理として堅く保つなら、あなたがたは神の光の中にいます。父と御子に結ばれているのです。

そして、それを堅く保っている私たちには、父の比類のない約束が当てはまります。父はその約束を、ご自分の御子、人となられたイエスにおいて果たし、実現してくださいました。死すべき人間であり罪人である私たちが、永遠のいのちを受けるのです！罪と死は打ち負かされます。私たちは神の子どもとなるのです。

このすべてを、私はあなたがたに書かなければなりません。なぜなら、あなたがたを惑わし、これらの栄光に満ちた、生き死ににかかわる真理を奪い取ろうとする人々、巡回説教者たちが動き回っているからです。あなたがたがイエスから受けた注ぎの油について、もう一度お話しします。それは、あなたがたのうちに、あなたがたとともにとどまり続ける神の御霊です。御霊は初めからすでにそこにおられました。ですから、あなたがたはこれらの惑わす者たちや偽り者たちから教える必要はありません。聖霊に信頼してください。聖霊が、何が真理であるかをあなたがたに教えてください。父の御子イエスのそば近くにとどまっています。

さて今、私は前を見つめます、友人の皆さん。イエスが目に見える姿で天に現れる日が見えます。その日は最大の喜びの日となるでしょう。比べるもののない祝祭の日です。その日、私たちはついに、あらゆる感覚をもって主イエスにお会いするのです。その栄光の日をそのように迎えたいのなら、私たちは今すでに、イエスが目に見える姿で私たちとともにおられるかのように、イエスとともに生きなければなりません。そしてその日まで、熱心にイ

エスに従わなければなりません。そうしないなら、その日は私たちを不意に襲うでしょう。あるいは、私たちを恐れさせ、恥じ入らせるでしょう。そしてそのとき、あなたがたのうちの何人かが、実はまったくイエスに属していなかったと明らかになることがないように願っています。

神がまったく正しい方であると知ったなら、私たちは、ある人がイエスのように義を生きているかどうかも見分けることができます。そのような人は神から生まれた人です。

第3章

父なる神が、どれほど**限りない愛**で私たちを愛してくださっているか、あなたがたは本当に推し量ることができるでしょうか。神は、ご自分から進んで、私たちをご自分の子どもとしてくださったのです！それが神の永遠のご計画であり、みこころでした。誰も、反キリストも偽預言者も、それを私たちから奪ったり、疑わせたりすることはできません。私たちは本当に神の子どもとなったのです。神がそれを望まれたのです。

私たちの外見からは、それを見分けることはできません。イエスも、外見からは神の御子だとわかってもらえませんでした。イエスも私たちも、ほかのすべての人と何ら変わらない姿をしていました。それでも私たちは神の子どもなのです！神の子どもであることの、やがて現れる特質が、外側にはまだ見えていないとしてもです。

一つのことはまったく確かです。神の子どもは皆、まもなく、栄光を受けられたイエス・キリストと完全に**同じ**になります。私たちはありのままの彼を見ることになるのです。そしてただ驚嘆するばかりでしょう。まさにこの事実こそ、私たちの希望の中心です。この事実が、彼の聖さと栄光にそぐわないものをすべて、妥協することなく自分の生活から取り除くよう、日々私たちを動機づけます。こうして私たちは、今すでに、ますます彼に似た者となっていくのです。

神がいないかのように生きている人は、本当は罪人です。自分の永遠の目標を外している人です。なぜなら、神がその人を造られたからです。神がその

人を生かしておられます。その人は神に感謝すべきなのです。そのような生き方は、不法とも呼ばれます。神とその権威を否定する人は、無秩序の中に生きています。人間は、神なしに生きることによって、信じられないほど多くの罪責を積み重ねてきました。神と人に対するこれらの罪を、なかったことにできる人は誰もいません。その罪責は、人間の手段では決して償うことができません。けれどもイエスは、まさにそのために、私たちの罪を取り除くために来られたのです。彼は、それがまるで起こらなかったかのように、罪を取り除くことがおできになります。それは誰にもできなかったことです！ただ彼だけにできたのです。なぜでしょうか。彼はまったく罪に冒されておらず、一度も罪を犯したことがなかったからです。彼は義なる方でした。

イエスに従い、イエスの言われることを行おうとする人は、罪に従いません。神がいないかのように生きている人は皆、イエスを理解してもいなければ、イエスを自分の人生の救い主、主として、そのもとに身を委ねてもいけません。

神の子どもたちよ、妥協してはいけません！神の視点からは、いつも「あれか、これか」しかありません！だから私は灰色の領域について語るのではなく、私があなたがたに伝える真理を、白黒はっきりと対比させて強調しているのです。神に従順であろうとし、神の戒めに従って生きる人は、正しい人です。イエスがその生涯において正しかったのと同じように。神がいないかのように生きる人は、罪を犯し、人生の目標を外しています。そのような人は、**悪魔**が昔からずっとしてきたことを行っているのです。悪魔は初めから神の権威を拒み、この無秩序を広めてきました。そうです、御使いたちと人間たちを惑わして、同じことをさせたのです。罪を犯す人は皆、結局は悪魔に吹き込まれ、悪魔の側に立っているのです。けれども、神の愛する御子イエスが来られたのは、悪魔が引き起こしたすべてのこと、悪魔のあらゆる悪いわざを打ち壊すためでした。悪魔のわざが最後に決定権を持つではありません！そのことは今すぐに見ることができます。なぜなら、神の子どもは皆、神から生まれており、それゆえもはや罪に決定づけられたり支配されたりしていないからです。神の子どもが絶えず罪を犯し続けなくてもよいとい

うこと——それはただ、私たちのうちにある神のみわざなのです！神のいのち、神のことば、神の御霊が、神の子どもたちのうちに現にあります。ですから、神の子どもたちが罪を愛し、まるで父がいないかのように生きることなど、まったくありえないのです。結局、誰も自分の本当の本質を否定することはできません。それは神から出たものか、悪魔から出たものかのどちらかです。ですから、このことについて誰も自分をごまかしてはなりません。神を求めることもせず、そのように生きている人は皆、神から生まれた神の子どもであるはずがありません。神の子どもは、何よりも隣人愛によって見分けられます。イエスがされたように、自分の隣人を無私の心で、行いをもって愛さない人は、神から生まれた人ではありません。

あなたがたが初めてイエスとその良い知らせについて聞いたとき、互いの愛こそが決定的なことでした。それが大きな違いを生み出すものでした。私たちが互いに愛し合うこと、それはいつまでも変わらずにあるべきです。その反対の最も恐ろしい例は、昔からよく知られているカインの話です。彼は自分の兄弟アベルを殺害することによって、悪魔、すなわち悪い者から出た行動をとりました。なぜ彼はそんなことをしたのでしょうか。彼のしたことはすべて悪でした。彼が悪い者から出ていたからです。けれども、彼の兄弟は正しい人でした。アベルは悪魔からではなく、神から出ていたのです。

ですから、今日でもこのようなことが絶えず繰り返されていても、驚いてはいけません。善いもの、聖なるもの、正しいもの、愛に満ちたものを憎むこと、それが悪の本質に属しています。そうです、それを打ち壊すことが。神なしに生きている人々は、多かれ少なかれ私たちを憎んでいます。私たちが神の望まれることを行おうとしていることを、彼らは感じ取るからです。彼らと私たちの違いは、これ以上大きくなりえないほどです。私たちは神から生まれたので、死からいのちへと救い移されました。死はいのちを打ち壊そうとします。それはまさに憎しみにほかなりません。そして、神の子どもたちの真の、本物のいのちのしるしは、私たちが隣人を愛すること、とりわけ神の子どもたちを愛することです。裏返せば、疑いの余地なくこう言えます。隣人を愛さない人は、今もなお死のうちにいます。その人は神の子どもではありません。自分の隣人を憎む人は皆、カインのように人殺しでさえあります

——実際に誰かを殺すにせよ、頭と心でその人を憎むにせよです。隣人を憎む人が永遠のいのちを持つことはできない、ということは、すべての人にとって明らかであるべきです。たとえ一時的には、そう見えたことがあったとしてもです。

愛とは本当は何を意味しているのか、私たちはどうしたらわかるのでしょうか。最も偉大な**模範**、そして本物の神の愛とは何かを測る物差しを、私たちはイエスのうちに見ます。彼は愛のゆえに、私たちのためにご自分のいのちを差し出し、十字架の上でささげられました。彼が私たちのためにそうしてくださったのなら、こうなるほかはありません。私たちも神の子どもたちのために同じことをするのです。隣人のためにもです。けれども、**愛を生きる**ということは、すぐに他人のために自分のいのちをささげることを意味するものではありません。たとえば、それはごく単純に、何かを持っている者として、困っている人のそばに立ち、その人がどうしても必要としているものを与えることを意味します。隣人の苦境に心の奥底で心を動かされない人のうちには、神の愛があるはずがありません。神の愛の本質とは、隣人の苦境に気づき、それに心を動かされ、助けるためにあらゆるものを差し出すことなのです。

神の子どもたちよ、愛についてただ語り、言葉を並べるのはやめなさい。本物の神の愛を、行いによって、自己中心的な動機なしに生きてください。

隣人を助ける代わりに、私たちの心はしばしば、手放すべきものにしがみついています。隣人のために自分のいのちと持ち物を手放すなら、私たちは真理のうちにいます。もし私たちの自己中心的な心が手放そうとせず、無私の施しを非難さえし、隣人を愛することなど不要だと考え、あるいはただ言葉だけで済ませるなら、私たちは自分よりも大きな神の戒めの上に自分を置いていることになります。神は私たちの心の動機や反論を正確に見ておられます。私たちは、この心の感じ方に抵抗することを学び、神の愛の戒めをもっと重んじなければなりません。私たちの心が隣人を惜しみなく、無私の心で助けるために**手放す**なら、私たちは父に対して、自由で喜びに満ちた信頼を持つことができます。私たちは父の子どもとして、父に愛されているではあ

りませんか。私たちは父に願いを申し上げることができ、父が私たちに贈り物をくださることを体験するのです。私たちが隣人の苦境を和らげるために喜んで与えるなら、父も私たちに喜んで与えてくださいます。私たちにとって父の戒めは大切であり、私たちは喜んでそれを果たすからです。こうして私たちの生き方は、父にとって喜びとなります。私たちが喜んで与えるなら、父も喜んで与えてくださるのです！

父なる神は、私たちにこの**戒め**を与えておられます。私たちの信頼を、ご自分の御子イエス・キリストに全面的に置くこと——彼の栄光に満ちた偉大さに、そして彼がすべてのことに、本当にすべてのことに十分であるということに。生きるときにも、死ぬときにも。この戒めには、イエスご自身も言われたように、私たちが互いに愛し合うことも同じように含まれています。この戒めを行う人はイエスのうちにとどまり、イエスもその人のうちにとどまっておられます。イエスが私たちのうちにいらっしゃることを、私たちは知ることができるでしょうか。はい、聖霊によってです。聖霊がこの真理を私たちに証しし、それについての内なる確信と平安を与えてくださいます。この御霊は、ただ証しするだけではありません。イエスは、この御霊がいつも、いつまでも私たちとともにいるように、私たちに御霊を与えてくださったのです。

第4章

愛する皆さん、世には多くの**偽預言者**が出回っています。私がすでに話した、私たちのところから出て行った偽り者たちのことです。あなたがたが持っている神の御霊とは反対に、これらの預言者たちを通して偽りの霊が働いています。ですから、あなたがたを教えようとする人を誰でも信じてはいけません。それが神から出たものかどうかを吟味してください。神から出た本当の霊は、イエスについての真理を告げ知らせることによって見分けられます。すなわち、イエス・キリストが本当に人となり、人であり、これからもいつまでも人であり続けるということです。父のもとで、永遠の御子であつたし、今もいつまでもそうであるにもかかわらずです。これを信じず、人々の前で告白しない人は、神から出た人ではありません。その人は惑わしの

霊、反キリストの霊に満たされています。この反キリストは、いつか公然と、大々的に、華々しく姿を現すでしょう。けれども今日すでに、この霊はそのような偽預言者たちやメシア気取りの者たちを通して働いています。彼らは本当のキリストについての嘘を広めているのです。

神の子どもたちは神から生まれています。彼らは偽りの預言者たちを見抜き、打ち負かしました。あなたがたのうちには、世の霊よりも強い**神の御霊**がおられます。これらの預言者たちの出どころは、神を恐れない、けれども宗教的ではある世です。彼らはただ、世から出たこと、世に喜ばれることだけを語ります。それに対して、私たちは神から出ています。そして、神を知り、神を愛する人は、私たちのことを理解します。神から出ていない人は、私たちの言うことを理解しません。ここでも私が言いたいのは「あれか、これか」ということです。語っているのは真理の御霊か、それとも偽りと誤りの霊か、どちらかなのです。

愛する皆さん！互いに愛し合いましょう。**愛**は神から出ています。神が愛するように愛する人は皆、神から生まれています。その人は神を知り、神を愛しています。神のように愛さない人は、神を知りません。神の最も深い、永遠のご本質は、純粋な愛だからです。この聖なる愛を、神は私たちに与えてくださいました。ご自分のかけがえのない御子を私たち人間のもとに遣わすことによってです。御子が人となられたことによって、私たちはいのちを得ました。御子がそれを私たちにもたらしてくださったのです。この愛は、まったく受けるに値しないものです。それは私たち自身から出たものではありませんでした——まるで私たちが神を愛したかのようにはありません。いえ、神が先に私たちを愛し、ご自分の御子を遣わして、そのいけにえによって私たちの罪を取り除いてくださったのです。

愛する皆さん、私たちがこれほど、あらゆる期待を超えて、受けるに値しないのに愛されたのなら、私たちは互いに愛し合う義務がまさにあるのです。私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにとどまっておられます。神の愛は、いわば私たちのうちで生き生きと働き、そうです、目的地に到達しているのです。神は霊であって、誰も、どんな人間も、いまだかつて神を

見たことはありません。けれども、神の家族が互いに愛し合うその愛を通して、神について何かを見て、つかむことができます。

私たちが神のうちにいること、そして神が私たちのうちにおられることを、どうしたら理解できるでしょうか。神の御霊によって、私たちはそれを理解することができます。そして神の御霊によって、この生き生きとした親しい結びつき、愛の交わりが可能になるのです。

イエスの使徒であり弟子である私たちは、見たこと、そしてあなたがたに証しすることができます。父は本当に私たちが失われていることをご覧になり、ご自分の御子を遣わされました。全世界の救い主として。すべての人のために、父はご自分の御子を遣わされたのです。

イエスが神の御子であると信じ、告白する人は、神との交わりを持ち、神と結ばれています。私たちは、神が私たちに対してどれほど大きな愛を持っておられるかを知り、また信じました。**神は愛だからです**。神のご本質全体が、最も純粋な、自らを与え尽くす愛です。いまだかつて、このようにご自分を現した神はいません。それが神のすべてを決定づけるものです。神のなさること、神のあり方の**すべて**が、愛から出ています。この愛のうちに生きる人は神のうちにとどまり、神もその人のうちにとどまっておられます——それは、私たちが父に心から感謝し、隣人を愛していることによって見分けられます。

神の愛は、私たちを完全に変えました。私たちは、神に対する大胆さと確信を贈られました。ですから、すべての人が聖なる正しい神の前で申し開きをする**さばき**の日を前にしても、私たちは**恐れません**。そこで意味を持ち、残るのは、ただ私たちがこの世で、イエスが生きられたように生きたという事実だけです。私たちが彼のことばを行うなら、それは当てはまります。神から生まれた人々にとって、それは当然のことです。たとえそれが決して百パーセントうまくいかないとしてもです。けれども、そのためにも恐れる必要はありません。神への恐れは、決して神の愛の本質には属していません。それどころか、**神の完全な愛**は、さばきの日への恐れや、イエスのように生きられないという失敗への恐れを追い出します。恐れとは、それ自体がすでに

一種のさばきであり、絶望へと導きかねないものです。まだ神とそのさばきを恐れている人は、まだ信頼していません。その人はまだ、神の愛とイエスの赦しによって安らぎに至っていないのです。

私たちは神と隣人を愛します。神がまず私たちを愛してくださったからです。

これは大切なことで、決して忘れてはなりません。もし誰かが、神を愛していると主張しながら自分の隣人を憎んでいるなら、その人は偽り者です。自分の目で見ることのできる兄弟を愛さない人が、どうして目に見えない神を愛することができるでしょうか。神を愛する人は当然、自分の隣人も愛する——この戒めを、私たちは神から受けているのです。

第5章

イエスがメシア、すなわちキリストであると**信じ、告白する**人は皆、神の子どもです。神から生まれた人です。父と子どもたちは愛で結ばれています。神を愛する人は皆、当然、神から生まれた人をも愛します。私たちが神の子どもたちを愛しているかどうかは、何によってわかるのでしょうか。私たちが神を愛し、神のことばと戒めを行っていることによってです。神の子どもである私たちのうちで、神の愛は、私たちが神の戒めを知り、それを行うように導きます。これらの戒めは、神から出たいのちを持つ人たちにとって、重荷ではありません。彼らは喜んでそれを行います。なぜなら、神から生まれた人は世に打ち勝つからです。世は世で、神の戒めを否定しています。神とその戒めを拒む社会は、私たちの心をも奪い取ろうとします。私たちにも、自分たちと同じように生きさせようとするのです。けれども私たちは揺るがず、勝利し続けます。父と御子と聖霊への信頼が、世に対する勝利を堅く保つ助けとなります。神から遠く離れた世に打ち勝ち、私たちを自分のものだとする世の主張を退けることができるのは誰でしょうか。イエスが神の御子であると**信じる**人たちだけです。世と偽預言者たちはそれを信じません。けれども私たちは信じ、その信仰にとどまり続けます。

イエス・キリストは私たちのために来られました。彼は完全に人となられました。偽教師たちは、洗礼のときに「神的なキリスト」がナザレの人イエス

の上に降り、死の少し前にふたたび彼から離れ去ったのだ、と主張しています。けれども、神の御子イエス・キリストは、ご自分でそう望まれたので、ヨハネによって水で洗礼を受けられました。そして、ご自分を十字架の上でいけにえとしてささげられました。流されたその血によって、彼は私たちを罪からきよめてくださいました。真理の聖霊は、初めからそのことをあなたがたに証ししてこられました。そうです、モーセの律法が求めているように、私は二人か三人の証人を挙げることができます。水と血と御霊です。これらは声をそろえて、神の御子が人となられたことを断言しています。彼の働きは水での洗礼によって始まりました。そして、同じ神の御子がゴルゴタで死なれたのです。人間は何でも主張できます。けれども神の証しはそれより大きく、だから信頼に値します。最終的な決め手なのです。神は、三つの証人が証ししたこととまさに同じことを、キリストについて証しされました。このキリストを信じる人は、この一致した証しを自分の心に抱き、守っています。神がご自分の御子について証しされたことを拒む人は、神を偽り者とするのです。

神が御子について証ししておられることは、大切に、確かなことです。それは私たちにも、きわめて具体的にかかわっています。神は私たちに**永遠のいのち**を与えてくださったのです！このいのちは、ほかの誰のうちにでもなく、神の御子のうちにあります。人となり、私たちのために死に、よみがえられたイエス・キリストのうちにです。そして、御子を信頼して心に迎え入れた人は御子を持っており、それによって永遠のいのちを持っています。御子こそいのちだからです。御子を迎え入れていない人は、決して永遠のいのちを持つことはできません。

私がこれをあなたがたに書くのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、ただ一度で永遠に知るためです——つまり、揺れ動きながら望んだり感じたりするだけではなく、しかしまた疑うこともなく。あなたがたが神の御子を信じているかぎりです。この方は永遠の方です。彼は人となられました。私たちのために死に、よみがえり、栄光のうちに上げられました。そこから彼は戻って来られます。あなたがたが信じているイエスという名前は、これらすべてと、さらに多くのことを含んでいるのです。

私が神についてあなたがたに書いてきたことはすべて、神の御前にいるようにと私たちを招いています。子どものような信頼と、思い煩いのない確信に満ちて。神の優しい御顔の前に。とりわけ、私たちが神に何かを願うときにです。神は私たちの声を聞き、願いをかなえてくださいます。私たちは、神が望まれることを願うのですから。私たちは神と、神のみこころ——神に喜ばれること——を知っているからです。私たちは本当に何でも神に願うことができます。神が私たちの願いをかなえてくださると知っているからです。願ったことが神によってかなえられるなら、それが願いが聞き届けられたしるしだとわかります。神はどんな願いも忘れることなく、ふさわしいときにかなえてくださいます。私たちがその願いをもう忘れてしまったときでさえもです。

神の子どもたちは、**祈る家族**です。特に、家族の一員が明らかに、また継続的に神のみこころに反して行動しているときにはそうです。それは深刻なことです。だからこそ、その兄弟や姉妹には私たちの祈りが必要です。その人が罪を認め、告白し、それをやめるためにです。私たちの祈りは絶対に必要です。神が私たちの祈りを聞いてくださるとき、その祈りが兄弟や姉妹にいのちをもたらすからです。こうして、その人は神が望まれるとおりに戻って来ます。父と御子との、意識的に生きられる交わりの中へ。そして神の家族の交わりの中へ。

死に至る罪があります。兄弟や姉妹、すなわち神の子どもたちは、そのような罪を犯すことはできません。この罪は、偽預言者たちと、死のうちにある世全体の特徴です。あらゆる不義は罪です。それを行うのが神の子どもであれ、偽預言者であれ、同じです。けれども、神の子どもの罪は、その人の死を意味しません。しかし、世の罪——それは永遠の滅びへと導きます。世はキリストと、罪のための彼のいけにえを拒むからです。

神から生まれた人、神の子どもである人は、絶えず、また喜んで罪を犯し続けることはしません。ですから、それは死に至る罪ではありません。そして、そうなることもありえないのです。この手紙で私は、わかりやすくするために、真理をはっきりとした対比で、そうです、白黒の対照で、鋭く説明

してきました。神から生まれた人は罪を犯しません。キリストがその人を守り、しっかりとつかんでくださるからです。キリストはいつもより強い方です。彼は悪い者に対する勝利者です。ですから、悪い者は神から生まれた人に触れることも、滅ぼすこともできないのです。

神が私たちを新しく生まれさせてくださったことを、私たちは確かに知っています。それに対して、神を拒む人々は、悪い者、悪魔の側にいます。彼らは死のうちにいます。この違い、そうです、この対立は、私たち自身によって生じたものではありません。それはイエスによって起こったのです。神の永遠の御子の使命は、私たちに神を示すことでした——神の聖なるご本質、神の光、神の愛を。そして、なぜ彼が私たちのために来なければならなかったのかを、私たちに明らかにすることでした。信じる者にとって、世のあらゆる**神々や偶像**とは異なる、真実な方キリストを知ることは、生き死ににかかわるほど大切なことです。私たちがあなたがたに告げ知らせているイエスに、すべてがかかっています。彼と私たちは、永遠に切り離せないほど結ばれています。神の御子、ナザレのイエスと。彼こそ真実の神であり、永遠のいのちです。誰もこれを見過ごしたり、まして否定したりしてはなりません。

神の御子についてのこの真理を前にして、私は手紙の結びに、ただこう強調するほかありません。イエス・キリストとその栄誉を小さくし、弱め、あるいは疑わせるもの——それらはすべて偶像であり、偶像であり続けます。友人の皆さん、目に見える偶像も、また「内なる」偶像、たとえば人からの名誉や、私たちがしがみつ়富なども、どんな形であれ、あなたがたの間で容認されたり、賞賛されたりすることのないよう気をつけてください。

ヨハネの手紙第二

長老ヨハネが、あなたがたに書き送ります。あなたがたの羊飼いとして仕え、あなたがたのことを気にかけている者です。選ばれた婦人とその子どもたちであるあなたがたへ。私が心から愛している、小さな信仰の共同体であるあなたがたへ。私が言っているのは、神の真理から出る愛のことです。そしてまた、イエス・キリストから出る愛です。イエス・キリストを真理として知り、愛している人は皆、あなたがたのことも愛しています。共通の真理こそが、この愛の土台であり、指針であり、物差しです！**真理**は私たちのうちにとどまります。イエス・キリストが私たちのうちにおられるからです。いつも、永遠に！信じる者たちの交わりは、永遠に神の愛の交わりの中で生きるでしょう。永遠のいのちの中で。

神の恵みとあわれみと平安が、私たちとともにあります。あなたがた一人ひとりとともに——日ごとに。天におられる私たちの父なる神から。また、父の御子イエス・キリストから。この方もまた神です。子なる神です。人となって、神の真理と愛を私たち人間に明らかにしてくださった方です。この真理と愛の中で、私たちは神の子どもとして生きているのです！

あなたの子どもたちの何人かが真理のうちに生きているのを見て、私はとても嬉しく思いました。彼らは、イエスが私たちにもたらしてくださった父の**戒め**を果たしています。ですから、私はあなたがたにお願いします。私たちが初めから聞いてきたことを行ってください。あなたがたを驚かせるような新しい戒めではなく、昔からの戒めです。私たちが互いに愛し合うべきだ、ということです。

父の愛のうちにとどまり、生きるとは、父の戒めを守ることです。御子イエス・キリストの名を信じ、互いに愛し合うことです。父の戒めは、私たちへの父の愛の表れです。守りの役割も果たしています。各地を巡り歩く**偽教師**たちから守るのです。今日、多くの惑わす者たちが、自分たちの嘘を広めようと宣教熱心に出回っています。彼らは、イエスが肉体をもって来られたの

ではないと告白し、宣べ伝えています。子なる神が、私たちと同じように完全に人となられたことを否定しているのです。ベツレヘムで生まれ、ナザレで育ち、エルサレムの門の外で十字架にかかって死なれた。私たちの罪の償いのために。からだをもってよみがえられた。そして人として天に上げられた。こうした事実を一部でも全部でも否定する人は、惑わす者であり、やがて来る反キリストの共犯者です。

これらの惑わす者たちは、現実の**危険**です。ですから、自分自身に気をつけてください。用心してください！私たちが苦勞して得たものを失わないためにです。あなたがたは私たちの宣教の働きの実なのです！あなたがた自身、永遠のいのちのために働いてきました。神のわざを行い、永遠のいのちに至るよう神の名を信じてきたのです。私たちは、約束されている報いを余すところなく受けたいではありませんか。その報いは、私たちが真理を堅く保ち、その中で生き、キリストについて初めから明らかにされていることを越えて行かないときにだけ与えられるのです。

あなたがたが初めから聞いてきたとおりの**キリストの教え**にとどまらない人は誰であれ、そのような人のうちに神は住んでおられません。人となられた神の御子キリストについての教えにとどまる人は誰でも、父と御子に結ばれています。父と御子はその人のうちに住んでおられるのです。

もし誰かがあなたがたのところに来て、私が初めからあなたがたに説明してきたようなキリストについての教えを持って来ないなら、その人を受け入れてはいけません。その人に語らせることさえしてはいけません。ふだん歓迎すべき客を迎えるように、その人にあいさつしたり、迎え入れたりしてはいけません。なぜなら、そのような人をそれでもそのように歓迎する人は、その人の悪いわざにあずかることになるからです。望むと望まざるとにかかわらずです。もし旅をしている教師があなたがたのところに来て、その人がキリストについての真理を語っているかどうかわからないなら、まずそれを**確かめて**ください。確かめられたら、その人を受け入れてください。私たちの主イエス・キリストのことに關しては、いつもはっきりとした立場をとって

ください。ここでは決して、中立や無関心があってはなりません。そうでなければ、私たちの報いのすべてが危うくなるのです。

書くべきことはまだたくさんあります。インクと紙で。けれども、そちらへ行って直接あなたがたと話すほうが、ずっと良く、ずっと素晴らしいことです。顔と顔を合わせて語り合うそのような交わりには、いつも大きな喜びがあるからです。

こちらからも、私が身を寄せているこの地の信者たちから、心からのあいさつを送ります。

ヨハネの手紙第三

長老、すなわちプレスビテロである私ヨハネが、私が真理のうちに愛している愛するガイオ、あなたに書き送ります。イエス・キリストを通して私たちのもとに来て、神の愛のうちに生きるよう、私たちの心を勝ち取った真理のうちにです。

愛するガイオ、あなたがすべての点で幸いを得ているよう、私は心から願い、そのために祈っています。外なる人においても、内なる人においても。あなたの行く道が良く、平らなものでありますように。

あなたに会った兄弟たちが、あなたがどれほど自分の生き方を**真理**に合わせているかを伝えてくれて、私は本当に嬉しく思いました。あなたの心にある真理の実が、すべての人の目に明らかになっていることを喜んでいます。自分の子どもたちが真理のうちに生きているのを見ること以上に大きな喜びは、私にはありません。私が真理であるキリストのもとへ導くことを許され、今はキリストに満たされている人たちのことです。そうです、愛をもって真理を堅く保ち、信仰の兄弟姉妹と隣人を愛している人たちのことです。

愛する者よ、あなたが兄弟たちに対してとった態度は、真理への忠実さそのものです。あなたがまったく知らない人たちに対してです。彼らはここ、私たちの家の教会で、もてなしにおけるあなたの忠実さを証しし、たたえました。そのような兄弟たちが宣教師として旅をしているときには、次の旅に出られるよう彼らを整えて送り出してください。それは神に喜ばれ、神の榮譽となります。彼らはその神に仕えているのです。こうして彼らの奉仕が支えられます。彼らは自分自身のために旅をしているのではないからです。私たちの主イエス・キリストの名のために、彼らは出て行ったのです。この方を宣べ伝えるために。その際、彼らは異邦人の支援には頼らず、いつもその土地の信仰の仲間を訪ねます。その仲間たちは、彼らを受け入れる義務があり、そうです、責任を負っているのです。けれども、惑わす者たちを自分の家に迎え入れてはいけません。本物の宣教師たちだけを迎えてください。そ

うすることで私たちは真理のための同労者となり、主のみわざに、主の王国に、積極的にあずかる者となるのです。

愛するガイオ、私は、あなたが属している家の教会に手紙を書きました。これらの兄弟たちが受け入れられるようにです。けれども、ディオテレペスは私たちの願いを真剣に受け止めません。彼は、彼らの間で**第一の者**になることを好んでいます。そして、自分勝手に決めることを。

私があなたがたのところに行ったら、彼のこの拒絶的な態度について思い起こさせ、彼を問いただすつもりです。これはどうしてもはっきりさせなければなりません。彼は理由もなく、悪意のある言葉で私たちを非難しているからです。彼は言葉だけでは満足せず、私たち皆に仕え、宿を求めている兄弟たちを、あっさりと追い返しています。そして、彼らに宿を提供しようとする人たちを妨げています。それどころか、その人たちを家の教会から追い出すと脅してさえいるのです。それは、信じる者たちの交わりにふさわしくない振る舞いです。

愛するガイオ、そのような振る舞いに刺激されて、同じように行動することのないようにしてください。悪を見倣わず、**善**を見倣ってください。単純で明快な規則があります。善を行う人は神から出ています。神は善なる方からです。悪を行う人は神を見たことがありません。その人は、神がどのような方であるかを見落としています。神が私たちを受け入れてくださること、そして私たちも互いに受け入れ合うべきことを見落としているのです。

デメテリオも、この追い返された人たちの一人です。この手紙を届ける者として、彼はすべての人から良い評判を得ているにもかかわらずです。彼を受け入れることに反対する理由は何もありません。彼にとって真理は最優先です。彼は真理のために立ち、真理と一致して生きています。私たちもそれを証しします。そして、私たちが真実を語っていることを、あなたはよく知っています。

書くべきことはまだたくさんあります。けれども、顔と顔を合わせて語り合い、信じる者たちの交わりの中で分かち合うほうが良いのです。

神の平安があなたとともにありますように。こちらの友人たちが、あなたに
よろしくと言っています。あなたと同じ思いを持つ友人たち一人ひとりに、
私たちからのあいさつを個人的に伝えてください。一人ひとりに。

ヤコブの手紙

- 信仰の試練
- みことばを行う人
- 自由と愛の王の律法
- 神の王国における貧しい人と豊かな人
- 信仰と行い
- 小さな舌——大きな影響
- 上からの知恵——あるいは下からの知恵
- 世との友情
- 主の来臨は近い
- さばき主が戸口に立っている
- 互いの接し方
- 病人のための祈り

ヤコブの手紙

神と私たちの主イエス・キリストのしもべ、ヤコブです。同時に、主の血を分けた弟でもあります。これはついでに申し上げておきます。私は、諸国の民の間に散らされているイスラエルの十二部族すべてに書き送ります。ディアスポラにいるあなたがたにです。あなたがたは忘れられてはいません。神のイスラエルは守られ続け、失われてはいません。あなたがたは、メシアが打ち立てられた新しい契約による神の民なのです！どこに住んでいようと、あなたがたにあいさつを送ります。

あなたがたの信仰が、さまざまな思いがけない困難や恐ろしい出来事によって試みられても、うろたえないでください。貧しさ、迫害による不当な苦しみ、孤独、失望、そのほか多くのことが、あなたがたを悲しませ、試みることがあるでしょう。けれども、そこには喜ぶ理由もあるのです。あなたがたの信仰の**試練**は、忍耐と揺るぎなさを育てるからです。問題や困難には意味があります。たとえすぐにはそれがわからなくてもです。それらは、あなたがたの信仰を弱めるためではなく、強めるためのものです。ですから、信仰における忍耐をととても大切にしてください。耐え抜いてください！あきらめないでください！試練の中で自分が弱いと感じ、限界に達し、多くの疑問を抱いたとしてもです。そうしてあなたがたは、ゆっくりと、しかし着実に、霊的な成熟と信仰の強さへと成長していきます。そうすれば、試練が不意にあなたがたを襲った初めのころとは違って、自分には何一つ欠けたものがないことに気づくでしょう。試練はあなたがたを強くするためのものです。そのことを決して忘れないでください。

もしあなたがたに**知恵**が欠けているなら、もし——特に信仰が試みられているときに——何を考え、何をし、何を言えばよいかわからないなら、あなたがたの神に向かってください。あなたがたが願うなら、神はあなたがたに知恵を与えようと待っておられます。私たちの神は、いつも喜んで与えてくださる方だからです。私たち人間とは違って、神は私たちを責め立てたりなさ

いません。私たちの疑問や失敗のことで私たちを非難するのは、神のなさり方ではありません。神に知恵を願うときに大切なのは、信仰をもって願うことです。神が本当に働いてくださると、堅く信じて願うのです。神が私たちに与えてくださることを疑う人は、風に吹かれて揺れ動く海の大波のようです。神が喜んで与えてくださることを絶えず疑う人は、実際に願いを聞き届けられません。胸の内に二つの心、信仰と疑いを抱き、内なる支えを持たない人は、自分の歩む道がすべて定まらなくなる危険に身をさらしています。その人の祈りは聞き届けられないでしょう。あなたがたの信仰を掘り崩す、ほんの小さな疑いにさえ抵抗してください。それは巨人にまで成長して、最後にはあなたがたを打ち負かしてしまうかもしれないのです。

あなたがたの中の貧しい兄弟姉妹、身分の低い兄弟姉妹は、メシアであるイエスにあって自分が高められていることを誇りなさい。富んでいる兄弟姉妹、裕福な兄弟姉妹は、自分の富が結局は何の意味も持たないことを誇るべきです。彼らは富があるからといって、貧しい人より身分が高いわけでも、価値があるわけでもありません。たとえば言えば、富んでいる人は（貧しい人と同じように）、昇る太陽とそれに続く熱風によって枯れてしまう花のようなものです——草のように。花はしおれ、その花びらは散ってしまいます。その美しさは消え去ります。そのように、富んでいる人とその成功もしおれていくのです。大切に思えたものがすべて、突然、過ぎ去ってしまいます。

もう一度、初めのところに戻ります。信仰の試みと試練の中で揺るがず、耐え忍ぶ人は皆、幸いです。忍耐強く耐え、やり抜いた後に、永遠のいのちが来るからです。それは信仰における献身に与えられる勝利の冠です。神を愛する人は皆、この勝利の冠を受けるのです！困難の中でも神にしがみつき、神の愛を疑わなかった人たちです。

試練があなたがたを襲うとき、それは初めから悪への誘惑だというわけではありません。たとえばあなたがたがそう感じたとしてもです。けれども、悪による**誘惑**というものも確かにあります。とはいえ、誰も、悪へと誘われたり惑わされたりするときに、自分は神に誘惑されているのだと言ってはなりま

せん。誘惑とは、信仰において試されることとはまったく別のものです。神は悪に誘惑されることも、悪へと惑わされることもありえないからです。ですから、神ご自身が誰かを悪へと誘惑したり、悪を行うよう導いたりすることは決してありません。

人が誘惑されるのは、自分自身の快楽を求める欲望に刺激され、悪へと惑わされるときです。餌に食いついて、今や釣り針にかかっている魚のように引きずられていくのです。欲望に屈すると、罪が出産のようにこの世に生まれてきます。そして罪が完全に熟すと、いわば大人になると、死を生み出します。雑草のように引き抜かれる代わりに熟していく罪は、ほとんど必然的に霊的な死へと導きます。この人生においてすでに、そして永遠においては確実に。神との交わりが壊れてしまうのです。この世においても、永遠においても！罪を蒔く人は、罪と死を刈り取ることになります。神の恵みによってこの循環が断ち切られないかぎりです。私たちが罪への欲望に屈するのなら、その責任は私たちにあります。欲望や快楽に気づき、それを感じることも自体は、まだ罪ではありません。けれども欲望に屈することは、罪を野放しにすることです。私たちが罪を殺さなければ、罪が私たちを殺すでしょう。

誰も思い違いをしてはいけません！あらゆる良い**賜物**、あらゆる完全な贈り物は、いつも上から下って来ます。私たち人間からではありません。たどえそう見えたとしてもです。それは、天の星々を造られた光の父である神から来るのです。神のご本質、神の真実は変わることがありません。星々には変化があっても、神には決してありません。それは、私たちを悪へと惑わすのではなく、私たちに知恵を与えようとされる神のみこころにも当てはまります。神のご本質、神の真実と愛は、変わることなく、明確で、揺るぎません。疑う人たちのように分裂してはいないのです。

神の最大の贈り物は、福音という真理のことばによって、私たちを**新しく生まれさせて**くださったことです。神が創造主として私たちに与えてくださった自然の誕生ではなく、上からの、天からの、贖いへと至る私たちの新しい誕生が、私たちを神の造られたものの初穂としたのです。まもなく訪れる、すべてが新しくされることの始まりを証しする初穂です。

ですから、愛する兄弟姉妹の皆さん、誰でも、いつも**聞く**には早く——**語る**には遅くありなさい。とりわけ、怒るには遅くありなさい。何かに腹が立ったり、侮辱されたと感じたり、傷つけられたりしたときにもです。とっさの、激しい、思慮を欠いた怒りは、人と人との間の状況に神の義をもたらしません。かえって事態を悪化させるだけです。人間の怒りは、決して神の義を生み出しません。決してです。その代わりに、怒りの爆発につながりかねないものすべてと、徹底して、永続的に縁を切ってください——たとえば、意地の悪さ、悪意に満ちた心、あふれ出るあらゆる悪です。どうしたらそれができるでしょうか。柔和な心で神のことばとその教えを受け入れてください。新しい誕生とともにDNAとしてあなたがたのうちに植えつけられたこのことばを、成長させてください。そして、あなたがたを変えさせてください。このことばは、あなたがたの人生を変えることができます。それだけの力を持っているのです！そして、私たちに来たるべきいのちを与える力も持っています。イエスが再び来られるとき、あなたがたを救って永遠のいのちに至らせるのは、まさにこのことばだからです。

私が言っていることは、ほかでもありません。**みことばを行う人**になりなさい、ということです。みことばは行うために与えられています。ただ聞くためだけではありません。聞くだけで行わない人は、自分自身を欺いています。それは、鏡をのぞき込んで、見たものをすぐに忘れてしまうようなものです。まるでのぞき込みもしなかったかのようにです。その人は、自分が変えるべきところを見たのに、何もなかったかのように無関心に忘れてしまったのです。

けれども、完全な自由の律法、キリストの律法を定期的に、熱心にのぞき込み、そのとき自分が何者であるかを忘れず、同時に聞いたことを実行する人は、その行いにおいて神に祝福されます。その人は、神が望まれることを行うよう解き放たれています。もう怒る必要はなく、今や神に喜ばれることを行うことによって、神の義を実現するのです。

もし誰かが、自分は神に仕え、自由の律法の教えに従っていると思っていながら、自分の話すことを制御できていないなら、その人の礼拝は価値があり

ません。

天の父に対する本物の、私心のない**礼拝**とは、やもめや孤児を忘れず、彼らを訪ね、悲しく、生きるか死ぬかの状況にある彼らのそばに立つことです。真の礼拝は、あらゆる寄る辺のない人々や故郷を失った人々を助けます。それが神の御心にかなうことだからです。

それはまた、神の教えなど気にもかけず、やもめや孤児を見捨てている世のように振る舞わないことでもあります。世の考え方や生き方を受け入れるのではなく、それを脱ぎ捨て、意識して違った生き方をすることです。神が望まれるとおりに。

第2章

私の兄弟姉妹の皆さん！神のあらゆる栄光の主である私たちの主イエス・キリストへの信仰を、**人をえこひいきすることなく**実践してください。主の前では、私たちは皆、ただ等しくあるほかないのです！

想像してみてください。あなたがたの会堂に、豪華な服を着て、太い金の指輪をはめた人が入って来たとします。同時に、汚れた衣を着た、あるいはかなりみすばらしい服を着た貧しい人も入って来ます。そのときあなたがたは外見を見て、「さあ、ここの楽な席に座ってください」と言います。けれども貧しい人には、「そこの後ろに立っていなさい」——あるいは「ここの下、私の足台のそばに座りなさい」と言うのです。イエスが本当にそのようにされたと思いますか。それは矛盾も甚だしいではありませんか。あなたがたはそこで何も考えずに反応し、本当は存在しない区別をしてしまったのではありませんか。あなたがたが裁判官気取りでいるようにさえ見えます。しかも、自分の利益のための腹黒い計算までして。

よく聞いてください、愛する兄弟姉妹の皆さん。神はまさにこの世の**貧しい人たち**を選んで、信仰によって**富む者**とされたものではありませんか。そうです、彼らをご自分の来たるべき王の支配の相続人とされたものではありませんか。いずれにせよ、神はそれを、ご自分を心から愛するすべての人に約束されました。貧しい人にも、富んでいる人にもです。

それなのに、あなたがたは貧しい人を軽蔑し、辱めました。残念ながら、あなたがたを抑圧し、小さく押さえつけているのは富んでいる人たちではありませんか。そして、できるところでは、あなたがたを裁判所に引いて行くではありませんか。彼らはこうした振る舞いによって、洗礼のときにあなたがたの上に呼び求められた私たちの主イエス・キリストの名を、公然と冒瀆しているではありませんか。

この名を、王の王を告白する人は誰でも、ただこの方の**王の律法**だけが当てはまるべきです。「あなたの隣人を自分自身のように愛せよ。」**これを**果たすことは、良いことであり正しいことです。けれども、もしあなたがたが人を外見で判断し、持ち物で評価するなら、あなたがたは罪を犯しているのです。律法があなたがたを違反者として責めます。

それで律法を守っているつもりなら、それは思い違いです。なぜなら、律法の戒めの一つにでもつまずくなら、律法全体に違反したことになるからです。「姦淫してはならない」と言われた方は、「殺してはならない」とも言われたからです。あなたが姦淫しなくても殺人を犯すなら、あなたは律法の違反者となったのです。

ですから、いつでも**自由の律法**によってさばかれる者として語り、また行いなさい。私たちは解放されています！けれども、それはつまり、愛するために解放されているということです。人生の終わりに、貧しい人や弱い人、やもめや孤児をあわれみなく扱った人々すべてに対して、神のさばきはあわれみなしに下されます。あわれみはさばきに打ち勝ちます。あわれみは、どんな有罪判決も恐れる必要がありません。そうです、判決そのものを必要としないのです。もし皆があわれみ深ければ、さばきなど必要ないでしょう。

愛する兄弟姉妹の皆さん、もし誰かが、私たちの主イエス・キリストへの信仰を持っていると主張しながら、その信仰を証しする**行い**がないなら、何の役に立つでしょうか。そのような**信仰**が、どうしてその人を救うことができるでしょうか。

もし兄弟か姉妹が、凍え、飢え、日々の食べ物も飲み物もないでいるとき、あなたがたが「安心して行きなさい。暖まりなさい。満腹になるまで食べな

さい！」と言いながら、そのような人に必要なものを与えないなら——それに何の役に立つ、何の価値があるのでしょうか。そのように心なく振る舞い、あわれみの行いをしない人の信仰は、死んでいるのです。

行いのない信仰に頼っているこの人に、誰かがこう言うかもしれません。

「あなたには信仰があり、私には行いがあります。行いのないあなたの信仰を私に見せてください！いったい何によって、私はあなたの信仰を見分けることができるのですか。私は、行いによって私の信仰をあなたに見せてあげましょう。」あなたの信仰は、ただ神がおられるということだけから成り立っています。それは良いことです。けれども考えてみてください。悪霊たち、悪い霊たちも、それを信じています。そして、自分たちの悪のゆえに、自分たちの創造主の前で震えているのです。彼らのうちにさえ、信仰のようなものが見て取れます。けれども彼らは、この信仰のゆえに救われることはありません。あなたも同じです。行いがなければ、あなたの信仰は死んでいて、いのちがないからです。

あなたは、自分の信仰についてどうしても考え直さなければなりません、愚かな人よ。アブラハムを見てごらんください。彼は、イサクをささげる覚悟ができていたので、行いによって義と認められたのではありませんか。そこから、彼の信仰と行いが手を携えて働いていたことがわかるでしょう。そうです、彼の行いが彼の信仰に証印を押したのです。彼の行いが彼の信仰を完全なものとしたのです。こうして、創世記15章の聖書のことばが成就しました。「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた。」彼は神の友とさえ呼ばれました。

ここからあなたがたにわかるのは、人は、生きた、救う信仰を映し出す行いによって救われ、義と認められるということです。信仰だけで、それが死んでいて、あわれみの行いがなく、何の行動もしないものであるなら、誰一人救われることはありません。

イスラエル人がカナンを征服したとき、エリコの城壁の中に住んでいた遊女ラハブも、同じように行いによって義と認められ、救われたのではありません

んか。彼女は二人の斥候を迎え入れ、かくまい、別の道から送り出したのです。

さらに、このたとえについても考えてみてください。人間のからだは霊と魂なしには死んでいるのと同じように、信仰も行いがなければ死んでいるのです。

第3章

教師や説教者になることを、教会における最大の奉仕だと思わないでください。脚光を浴びたい、特に注目されたいという動機は、人を惑わすものです。なぜ私たちはそれに乗ってはいけないのでしょうか。話し手になることは魅力的だからです！ほかの人を教え、指導する人は皆、いつか神によって、その言葉に従って評価され、さばかれます。まさにほかの人より多くを知っているからこそ、それを日々の生活でも示す、より大きな責任を負っているのです。そして、それはいつもうまくいくとはとても言えません。私たちは皆、しばしばつまずき、過ちを犯すからです。そうです、何度も何度も罪を犯します。まさに私たちの言葉によってです。

話すことにおいて、私たちの口から出る数多くの言葉のすべてにおいて過ちを犯さない人がいるなら、その人は実際に、自分のからだ全体を制御し、手綱を締めることができます。馬にたとえることができます。私たちは馬の口にくつわをはめます。それによって、馬のからだ全体を操ります。こうして馬は私たちに従うのです。あるいは、海に行く大きな船のことを考えてみてください。船は強く激しい風に押し進められます。それでも、小さな舵によって操られているのです。

同じように、舌も小さな器官ですが、大きなことを誇ります。たとえば、小さな火が大きな森を燃やしてしまふことがあります。私たちの舌も似たようなものです。舌は、不義に満ちた世界を解き放つことができます。舌は世界全体に火をつけ、絶えず火をつけ続けているのです。

からだ全体を汚し、多くの災いを引き起こすのは舌です。舌は、悪意ある、腹黒い、中傷的な、偽りの言葉によって、絶えず世界に火をつけています。

舌そのものが、あらゆる悪の権化である地獄によって火をつけられているのです。

陸の、空の、あるいは水の中の野生の動物はすべて、人間によって従わせられてきました。けれども、**舌**を制御できる人は誰もいません。偽りの言葉や不正な言葉が一つも口から漏れ出ることのないほどに舌を支配できる人は、誰もいないのです。舌は飼いならすことのできない悪であり、死をもたらす毒に満ちています。

私たちは舌で、父である神をほめたたえます。その同じ舌で、神のかたちに造られた人間を呪います。同じ一つの口から、賛美と呪いが出て来るのです。誰がそれを良いと思えるでしょうか。同じ泉から、苦い水と甘い水が同時に湧き出ることがありうるでしょうか。あるいは、いちじくの木にオリーブの実がなったり、ぶどうの木にいちじくがなったりするでしょうか。

あなたがたの中で、**知恵**があり、分別のある人は誰でしょうか。それを自分の生き方においても示している人だけです。つまり、良い振る舞いと、知恵から出る柔和さにおいてです。けれども、もしあなたがたが心の中に苦々しいねたみと争いを好む思いを抱いているなら、まるで自分に知恵と分別があるかのように誇る理由は何もありません。あなたがたは自分自身を欺いています。あなたがたの生き方はその正反対だからです。

あなたがたの生き方を決定づけ、導いているこの知恵は、上から、私たちの神であり父である方から来たものではありません。それは**下から**の、地から出た知恵です。生まれつきの人間の——さらに悪いことに——悪霊的な知恵です。あらゆる争いを好む思いとねたみは下から来るもので、破壊をもたらします。それが広がるところには混乱があり、あらゆる悪い行いを覚悟しなければなりません。

上からの、天からの、神からの知恵は、まったく違います。まず第一に、それは神ご自身のように、まったく清いものです。次に、平和を好みます。優しく、教えを受け入れやすいものです。あわれみと、人々のための多くの良いものに満ち、偏りがなく、偽りがありません。これらすべては神から来ます。神こそ私たちの模範です。

平和の種を蒔き、平和をつくる人は、平和を刈り取ります。それが義にかなうことだからです。

第4章

どう思いますか。あなたがたの間の戦いや争いは、どこから来るのでしょうか。それはどこからともなく来るものではありません。あるいは、いつもあなたがた自身ではなくほかの人から来るのではありません。その理由と原因は、あなたがた自身です。それは、持ち物や富を求めるあなたがたの欲望から来るのです。これらの欲望があなたがたの中で戦いを起こし、何度も何度も噴き出します。けれども、あなたがたは欲しがっても手に入れることができません。人を殺し、ねたんでも、なお何も得ることができません。あなたがたは絶え間なく争い、隣人に対して戦いを企て、仕掛けています。貧しい人に対しても、富んでいる人に対しても。それでも、望むものはなお手に入りません。あなたがたが何も持っていないのは、あらゆる賜物を与えてくださる方に自分を委ねないからです。あなたがたは何でも自分の手で握ろうとします。そして神に願っても、まったく何も受けられません。あなたがたが自己中心的な意図で祈っているからです。快樂のために、自分勝手に自分のものとして取っておき、自分で楽しもうとするものを受けるために祈っているからです。

姦淫する男たち、女たちよ。この世との友情、つまり神とその戒めを拒む社会との友情は、神への敵対であることを知らないのですか。この世の友になりたいと思う人は、それがどんなことにおいてであれ、その瞬間、神の敵のように振る舞っているのです。それは、まるで陣営を乗り換えてしまったかのようにです。神とその良い戒めに逆らう人々や意見と結びつく人は、その点で自分をこの世の友としてしまいます。それとも、聖書が意味もなく、ただ何となく、理由もなく語っているとでも本気で思うのですか。私たちのうちに住んでおられる御霊は、私たちの心のすべてを、ねたむほどに求めておられます。御霊は私たちの**すべて**を求めておられるのです。私たちの愛情をほかの何かと分け合うつもりはありません。男性の皆さん、あなたがたが自分

の妻をほかの男性と分け合うことなど決して受け入れないのと同じように、神も、私たちの忠誠を半分だけ受け取ることなど受け入れられないのです。

神は分かたれることのない忠誠を求めておられます。けれども、そのぶんいっそう大きいのは、神が与えてくださる恵みです。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与える。」

ですから、へりくだって私たちの神に従いなさい。この心構えをもって、悪魔とその誘惑に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げて去ります。なぜなら、神があなたがたの側におられるなら、悪魔があなたがたに対して何をすることができるのでしょうか。神に**近づきなさい**。神に立ち返りなさい。自己中心的な動機なしに神に願いなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。そのとき、あなたがたは神との交わりの中にいるのです。

罪人たちよ、不正を行ってきたその手をきよめなさい。あなたがたの心を新たに神にささげなさい。二心で生きるのをやめ、全面的に神を選び取りなさい。

本当に真剣になりなさい。神への根本的な方向転換を経験しなさい。自分自身のことを嘆き、悲しみ、泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。主の前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます！まったく新しく始め、古いものを後に残しなさい。考えを改めなさい。悔い改めと立ち返りこそ、最高の見通しを開く気づきなのです。

兄弟姉妹の皆さん、互いに悪口を言い合ってははいけません。中傷によって互いをおとしめてはいけません。自分の隣人の悪口を言う人は皆、実は愛の王の律法に対しても悪口を言い、その律法をさばいてさえいるのです。そのときあなたは律法を行う人ではなく、この神の律法をさばく裁判官として自分を高く置いているのです。律法を定め、何をしてよいか、してはいけないかを決めるのは、あなたではありません。律法を与える方はただひとりで、その方は救うことも滅ぼすこともおできになります。あなたがたが愛の律法の上に自分を置くとき、あなたがたはその方を相手にしているのです。そもそ

も自分の隣人をさばき、有罪と決めつけるあなたがたは何者なのですか。さばきは、ただ律法を与える方だけがなさることではありませんか。

さて、**事業欲**に満ち、利益を上げたいと思っているあなたがたに一言申し上げます。あなたがたは自信たっぷりにこう言います。「今日か明日、私たちはあの町に行って、良い商売をしてお金をもうけよう。」本当は、明日がどうなるかさえ、あなたがたはまったく知らないではありませんか。いったい私たちのいのちとは何でしょうか。それは、しばらくの間見えていて、やがて消えてしまう湯気か霧のようなものです。私たちのいのちは、それ以上のものではありません。あなたがたは一度、この不確かさをしっかりと意識すべきです。あなたがたは自分のいのちを自分の手に握ってはいないのです。むしろ、あなたがたの計画を次の標語のもとに置きなさい。「主のみこころであれば、私たちは生きていて、このこと、あるいはあのことをしよう。」ところが今、あなたがたは自分の成功を自慢して回っています。このような自慢や誇張は悪です。あなたがたは、まるで主がいなくても何でもうまくいくかのように振る舞っています。けれども、あなたがたに与え、贈り物をくださるのは主なのです。

もし誰かが、良いことをすべきだとわかっていながらそれをしないなら、その人は罪を犯しているのです。怠りの罪を犯しているのです。

第5章

さらに、**富んでいる人たち**よ、あなたがたに一言申し上げます。恥知らずにも自分の富を増やし——それによって財産に信頼を置いているあなたがたです。やがてあなたがたに降りかかる悲慘を思って、泣き叫びなさい。あなたがたの富は腐り、これ見よがしの衣は虫に食い荒らされるでしょう。あなたがたの金や銀はさびてしまいます。そのさびがあなたがたを訴え、火のようにあなたがたの肉を食い尽くすでしょう。

この終わりの日々にあって、あなたがたには自分の富を絶えず増やすことよりほかに、ましなことは何もないのです。しかも、ほかの人々の犠牲の上に。

見なさい！あなたがたが自分のものとしてため込み、支払わなかった労働者や日雇い人の賃金が、主に向かって大声で叫んでいます。絶望した刈り入れ人たちの助けを求める叫びは、万軍の主の耳に届いています。そこでそれは聞かれ、真剣に受け止められているのです。

ところが、あなたがたはぜいたく三昧に暮らしています。彼らがどうしても必要としているものを浪費し、使い果たしています。あなたがたは、屠られる日のための家畜のように、自分自身を太らせました。毎日が屠りの祝宴であるかのように振る舞っているのです。

しかもあなたがたは、労働者たちと正しい人たちを罪に定めました。あなたがたの振る舞いによって、彼らを殺したのです。そして彼ら、正しい人たちは、あなたがたに逆りません。イエスのように、彼らは自分を守ろうとしません。イエスのように、暴力を用いずにいるのです。天に向かって叫ぶあなたがたの不正にもかかわらず。

不利な扱いを受け、抑圧されている兄弟姉妹の皆さん。主の**来臨**まで忍耐していなさい！主が来られるとき、このような悪弊や不正は終わります。

見なさい。農夫は、大地の尊い実りの収穫を忍耐強く待っています。秋の雨と春の雨を、忍耐強く待つのです。同じように、あなたがたも忍耐し、耐え忍びなさい。互いに励まし合い、心を強くしなさい。主、私たちのメシアの来臨は近づいているからです。

互いに不平を言い合ってはいけません。さばかれたいからです。神は、あなたがたを抑圧している人たちのことを顧みてくださいます。**さばき主**が戸口に立っておられます。あなたがたの振る舞いもまたさばきを受けることのないよう、気をつけなさい。

苦しみに耐え、それを耐え抜いたことにおいて模範となった人々を見なさい。主の名によって預言した預言者たちです。見なさい、私たちは、耐え忍び、あきらめなかった人たちをたたえているではありませんか。**ヨブ**も、最大の喪失、苦しみ、悲しみ、病、疑い、嘆きにもかかわらず、いかに耐え忍ぶかにおいて模範でした。そしてあきらめなかったのです。あなたがたは、

主がすべてを好転させ、彼の苦しみを終わらせてくださったのを見ました。そうです、主はあわれみといつくしみに富んでおられます。主はあなたがたとともにおられ、あなたがたの苦境の中でともに苦しんでくださいます。ですから勇気を出し、主により頼みなさい。主を待ち望みなさい。

けれども何よりも、兄弟姉妹の皆さん、法廷で求められてもいないのに、自分から誓ってはいけません。必要もないのに、話の中で軽々しく誓ってはいけません。天にかけても、地にかけても。そのほかのどんな誓いによってもです。あなたがたの「はい」は、ただ信頼できる「はい」であり、あなたがたの「いいえ」は、ただ信頼できる「いいえ」でありなさい。そうすれば、軽率に誓うことによってさばきに陥ることはありません。

あなたがたの中に、困難や苦難に遭っている人がいますか。その人は祈りの中に慰めと助けを求めなさい。そして困難の中で耐え抜く力を祈り求めなさい。苦難にもかかわらず元気で、喜びに満ちている人がいるなら、その人は賛美の歌を歌いなさい。

あなたがたの中に重い**病気**の人がいるなら、その人は地域の教会の長老たちを呼び、自分のところに来てもらいなさい。その人のために祈ってもらうためです。重い病人であるその人の上で——その人が健康になるように。そのとき長老たちは、主の名によってその人に油を塗り、象徴的に、また新たに、油注がれた方キリストにその人をささげなさい。堅い信頼による**祈り**は、病人を健康にします。主がその人を起き上がらせてくださいます。もし病人が、病気の原因となった罪を犯していたのなら、赦されるために、その罪を率直に告白するべきです。すべての病気が罪によって引き起こされるわけではありません。けれども、赦しを受けることは、からだの癒やしを超えて働きます——救いをもたらすのです。私たちが互いに対して罪を犯したときには、互いに過ちを告白し合い、互いのために祈ることが大切です。もし病気がこうした違反の結果だったのなら、あなたがたは癒やされるでしょう。正しい人の祈りは——長老たちの祈りだけではありません——大きな力があり、すべてを良いほうへと変えることができます！

昔の預言者**エリヤ**は、私たちと同じ感情と感覚を持った人間でした。彼は、雨が降らないようにと、真剣に、熱心に祈りました。すると、三年六か月の間、雨が降りませんでした。そして彼は再び祈りました。すると雨が降り、地は再びその実を結んだのです。

友人の皆さん、もし誰かが真理から迷い出て、自分の人生を神から遠ざけてしまうなら、そのような人は霊的な死への道を歩んでいます。けれども、もし誰かが、そのように迷い出た信仰者を悔い改めと信仰へと連れ戻し、イエスとの交わりを回復させることができたなら、その人は、自分が一人の人を永遠の死から救ったのだと知ってよいのです。そして、神から離れていく道の途中で生じた多くの罪を覆うことになるのです。

ペテロの手紙第一

- 天の相続財産への途上で
- 神は私たちを精錬し、変えてくださる——絶えず
- 神のことば、本当の母乳
- 不当な苦しみ——キリスト者にとって当たり前のこと
- 私たちを迫害する人々に、本当に善を行うことができるのか
- 神の小羊イエス——贖い主であり模範
- 地獄と死と悪魔に対する十字架の勝利
- 旅の途上にある寄留者としてのキリスト者
- 神の真実と配慮

ペテロの手紙第一

私ペテロは、私たちの主イエス・キリストの使徒、遣わされた者として、あなたがたに書き送ります。ディアスポラ、すなわち離散の中で暮らしているすべてのあなたがたへ。ローマの属州のいたるところ——ポントス、ガラテヤ、カパドキア、アジア、ビティニアにいるあなたがたへ。あなたがたはそこで、市民権を持たない寄留者として暮らしています。けれども、あなたがたには父なる神のもとに故郷があるのです。この方は、あなたがたが生まれる前から、あなたがたを知り、愛しておられました。この方があなたがたを選ばれたのです。かつてご自分の民イスラエルを選ばれたように。

聖霊はあなたがたを聖なる者としてくださいました。今や神に従う者となるために、この世から取り分けられたのです。あなたがたは、イエス・キリストの聖める、きよめる血のもとに置かれました。あなたがたは今や、まったく神のものなのです！

神からの豊かな恵みと平安が、神のために生きるあなたがたの人生を支え、満たし、導きますように！

私たちは、私たちの主イエス・キリストの父である神をほめたたえます！私たちは神を礼拝します。ともに。賛美のことばと歌によって。私たちに向かって手を差し伸べてくださった、神の偉大なる**あわれみ**のゆえに。神は私たちを新しく生まれさせてくださったのです。死からいのちへと。絶望と空しさから、生ける**望み**へと——死者の中からのイエスの復活によって。それがすべてを変えました。永遠に。

よみがえられた方によって、私たちに素晴らしい未来が与えられました。朽ちることも、失われることもない、聖なる**相続財産**です。それは天で、私たちのために確実に守られています。神ご自身のもとに保管されているのです。それを受け取り、永遠にその中に生きる日は近づいています。新しい天と新しい地です。それが私たちの生ける望み、私たちの確かな確信です。

相続財産が分け与えられるこの救いの大いなる日は、まだ来ていません。私たちはそこへ向かう途上にいます。神ご自身が私たちを守り、支え、目的地へと導いてくださいます。そして、時に容易ではないこの道のりで、私たちの信仰を強めてくださいます。まもなく救いが明らかにされます。私たちにとって——そしてすべての人にとって。そのとき、私たちは信仰から見ることに至るのです。

そのときには大きな喜びがあるでしょう。これまでになかったほどの喜びです。たとえ今日、私たちが試みや試練の中に生きているとしてもです。それらは私たちの信仰が強められるために必要なのです。それがしばらくの間、悲しみやあきらめをもたらすことがあるとしても。けれども、それによってあなたがたの信仰は堅くされ、イエスが再び来られるその栄光の日に、イエスがほめたたえられるのです。迫害や疎外を通して私たちが経験する、厳しい試練と真価の試し、そうです、私たちの信仰の燃えるような、激しい**精錬**は、金の精錬にたとえることができます。灼熱の炉から、純粹で輝く金が出て来ます。同じように、その栄光の日には、精錬されたあなたがたの信仰も輝き、イエスとともに祝われるのです。

あなたがたは、何よりもこの方を愛しています。しかも、一度もこの方を見たことがないのにです。三年間この方とともに歩み、よみがえられた方をも見た私とは違います。あなたがたは、この方を見ていないのに、この方を信じ、この方に忠実です。そこにおいて、あなたがたは大きく深い喜びを受け、感じています。天からしか来ることのないほどの、大きな喜びです。

そうです、私たちは大いなる救いの日を、強く待ち望んでいます。その日、救いは私たちを、地上の、試みに満ちた、まだ死ぬべき存在から引き抜いてくれます。イエスが再び来られるときに。この救いのことは、すでに昔の預言者たちの心を占めていました。彼らは、あなたがたに与えられるこの神の恵みを預言として示したとき、それを尋ね求め、探り調べました。彼らはキリストの御霊によってそれを予告したのです。彼らは、それがいつ、どのようにして起こるのかを知りたいと願いました。彼らはメシアの苦難を証しました。けれども、十字架の苦難の後に続く栄光をも証したのです。

彼らはすでにそのとき悟っていました。「私たち自身は、これらの出来事を体験することはない。けれども、来たるべき世代のためにそれを書き記すのだ」と。今やあなたがたに**福音**、すなわち良い知らせが告げ知らされました。あなたがたにそれを証した人たちは、昔の預言者たちと同じように、聖霊によってそうしたのです。この聖霊は、全世界に福音を宣べ伝えるために、天から遣わされて降って来られました。地上の失われた人々への、天からのメッセージです！このメッセージの救いと恵みの豊かさはあまりにも大きく栄光に満ちているので、御使いたちでさえ——自分たちには関係のないことなのに——並々ならぬ関心を寄せています。彼らは、昔の預言者たちがしたように、その奥義をのぞき込もうとしているのです。ですから、イエスとともに初めてもたらされたこのように尊いことを聞き、信じているあなたがたが、どれほど意義深い恵みの時代に生きているかを自覚してください。

尊い救いの福音を持っている者として、あなたがたの思いを奮い立たせ、集中させなさい！かつてイスラエルがエジプトを出る準備を整えたように、あなたがたもイエスの来臨に備えていなさい。身を慎みなさい。自分を制しなさい。迫害や敵意の圧力によって、思いや感情をかき乱されてはいけません。イエスが再び来られるときに天からあなたがたにもたらされる恵みに、あなたがたの望みを完全に置きなさい。

今やあなたがたは神の子どもです。神に従う者です。神なしに生きていた古い生活の自己中心的な欲望が、今やもうあなたがたの人生を決定づけることはありません。以前、あなたがたは無知の中に生きていました。けれども今、神はあなたがたをそこから呼び出し、ご自分のもとに招いてくださいました。神が**聖**なる方なので、あなたがたも聖なる者となるのです！考えること、話すこと、行うことのすべてにおいて聖なる者に。レビ記11章に、ご自分の民に向けて、こう書かれています。「わたしが聖であるから、あなたがたも聖でなければならない。」これをあなたがたの人生の標語としてください。とにかく違う者でありなさい。神に倣う者でありなさい。

市民権を持たない寄留者として、神を恐れつつ生きなさい。私たちが父と呼ぶことを許されているその方は、買収されることも、偏ることもない裁き主

です。その方は、人を分け隔てすることなく判断し、さばかれます。奴隷も王も、神のさばきにおいては等しいのです。私たちの身分ではなく、私たちの行いが、いつか神によって、神の基準に従って判断され、評価されるのです。

その際、私たちは、自分が両親から受け継いだ古い、空しい生き方から**贖い出された**ことを知ってよいのですし、また知るべきです。その贖いは、朽ちる金や銀で支払われたものではありません。もしそうなら、贖いそのものが朽ちるものとなりかねないからです。いいえ、私たちはイエス・キリストの尊い血によって贖われたのです。この方は、清く完全ないけにえの小羊のように、ご自分を死に渡されました。

地が存在する前から、神は、この方が人として来られることを計画しておられました。けれども、今この終わりの時になってはじめて、この方は私たちのために来られたのです。この方によって、あなたがたは神を信じています。この方が私たちを神のもとへ導いてくださったからです。神はこの方を死者の中からよみがえらせ、ご自分の御座で、ご自分の右で、栄光をお与えになりました。ですから、私たちは信仰とすべての望みをこの神に置くのです。ほかの誰にでもなく。

あなたがたの心は神によってきよめられました。神にささげられたのです。あなたがたが神の真理、あなたがたへの神のメッセージに従っているからです。だからこそ、あなたがたは愛することもできるのです。偽りなく。互いに熱く愛し合いなさい。粘り強く。相手に手を伸ばし、相手に心を向ける愛によって。清い心から。誤った動機なしに。そして見返りを期待することなしに。

あなたがたは新しく生まれました。そのことを、私はすでに初めにあなたがたに言いました。朽ちる種からではありません。それではまた朽ちるものしか生み出さないでしょう。いいえ、あなたがたは朽ちない種から新しく生まれたのです。この種とは、生きていて、朽ちることのない**神のことば**です。イザヤ書40章にこうあります。「人はみな草のよう。その栄えはみな草の花のようだ。草は乾き、しおれる。花は散り、消えてゆく。しかし、主のこと

ばは永遠に立つ。」まさにこの生きた神のことばが、福音においてあなたがたに告げ知らされたのです。この語られた神のことばには、あなたがたのうちに新しいいのちと信仰を生み出す、創造の力と権威があります。このことばが、**新生**によって私たちをすっかり変えてくださいました。だから私たちは今日、以前とはまったく違った生き方ができるのです。私たちは今、永遠のいのちを生きているのです！

第2章

それでも、私たちの古い存在が持っていた良くない思いや行いや言葉が、自動的に消えてしまったわけではありません。それらがすべてを覆い尽くしてしまう前に、雑草のように自分の生活から取り除くことが求められています。そこには、悪意と悪い策略、偽善と、心を蝕むねたみが含まれます。また、ほかの人の陰口を言ったり、陰で中傷したりすることもあります。

むしろ——生まれたばかりの赤ちゃんのように——霊の、混じりけのない母乳を**慕い求めなさい**。それは神のことばです。そうしてはじめて、あなたがたは成長することができるのです！目標へと、イエスが再び来られるときの救いへと向かって。あなたがたは、主がいつくしみ深い方であることを、すでに味わったではありませんか。ですから、ますますみことばを飲みなさい。

この方、メシアであるイエスこそ、生ける**石**です。私たちはこの方のもとに来ます。絶えずこの方に向かって自分を整えます。この方は人々から捨てられました——今日に至るまで。けれども神のもとでは——そしてそれだけが意味を持つのですが——選ばれた、尊い石なのです。

私たちも生ける石のようです。私たちは、神の御霊が住まわれる霊の**家**、神の神殿へと築き上げられていきます。私たちは聖なる**祭司**として立てられ、神に霊のいけにえをささげるのです。そのいけにえが神に喜ばれるのは、ただ私たちがイエスを通してそれをささげるからです。まず、私たちの生き方そのものがいけにえであるべきです。隣人のために善を行うことです。けれどもまた、ともに感謝と賛美と礼拝のことばと歌によって神をあがめることもです。

イザヤ書28章にこうあります。「見よ、わたしはシオンに礎の石を据える。選ばれた尊い石を。この方に信頼する者は滅びることがない。」あなたがたがこの方に信頼しているので、その尊さのすべてがあなたがたに与えられたのです。この方を拒み、この方に信頼しない人々にとっては、まったく違います。イザヤ書8章はこう言います。「家を建てる者たちが捨てて、役に立たないと見なしたこの石が、家の最も大切な石となった。すべてを一つにまとめる石に。けれども、信じないすべての者にとっては、つまずきの石、妨げの岩、つまずかせるものとなる。」彼らは、さばきが来るときにつまずいて倒れるのです。このようにメシアに逆らう人々は皆、立ち続けることができません。

けれども見なさい、神があなたがたを何のために選ばれたのかを。一人ひとりばらばらにではなく、ともに。交わりとして。私たちは、ともにいるときにだけ持ち、体験することのできる大きな特権を受けました。あなたがたは神の選ばれた**家族**だからです！神によって生み出され、新しく生まれた家族です。永遠の昔から神に望まれた家族です。

あなたがたは**王である**祭司の家族となりました。王の家系に生まれたのでも、祭司の家系に生まれたのでもないにもかかわらずです。あなたがたは王の王に仕えているのです。

聖なる国民です。天の王イエスとともにある国民です。血筋によって属するのではない、霊の民です。そして地理的な国境も知らない民です。

ただ神だけのものである民です。ほかの誰のものでもありません。この世のどんな力も、目に見えない世界のどんな力も、それを神から奪い取り、打ち負かし、自分のものにすることはできません。

あなたがたがこれらすべてのものとなったのは、あなたがたを通して神がこの世で知られ、認められるためです。あなたがたが神のあらゆる素晴らしさと偉大なみわざを告げ知らせることによってです。あなたがたの生き方によって。ことばと行いにおいて。こうしてあなたがたは、祭司として、失われた世のためにとりなすのです。

神は、偶像礼拝と神から遠く離れた闇の中から、あなたがたを**呼び出して**くださいました。ご自分のもとへ——ご自分の愛の驚くべき光の中へ。かつてあなたがたは民ではありませんでした。けれども今は神の民です。かつてあなたがたはあわれみを受けていませんでした。けれども今はあわれみを受けています。このことは、すでに預言者ホセアが語っていました。すべてがこのようにあなたがたのために良い方向へと転じ、あなたがたがこのようにものとされるにふさわしいと認められたことは、なんと素晴らしいことでしょう。

愛する皆さん、あなたがたはディアスポラの中で寄留者として暮らしています。けれども、霊的な意味においてもそうなのです。新しく生まれた者として、あなたがたは諸国民の間の寄留者であり、旅人です。ですから、この世の、肉の**欲**を避けなさい。それらは私たちの新しくされた心に戦いを挑んでいます。それを惑わし、奪い返そうとしているのです。

諸国民の間で、立派な生き方をしなさい。良い行いに満ちた生き方を。彼らは、何が立派で良いことかをよく知っており、見ています。たとえ自分たちはそのように生きていなくてもです。彼らが、本当はわかっていながら、あなたがたを悪人呼ばわりして中傷するときにも、そのように生きなさい。彼らがいつか大きな困難に陥り、苦しい日々が始まるとき、彼らは——あなたがたが神とともに生きる姿を見てきたので——口を閉ざすでしょう。彼らは神をあがめ、自分の罪を悟らされるでしょう。

人間の秩序、国家の秩序に従いなさい。主がそれを望んでおられます。それが主についての証しとなるからです。人間の最高の権威としての皇帝であれ、あるいは、悪事を罰し取り締まるために、また善を行う人々をほめ、たたえるために、皇帝から権限を与えられている総督たちであれ。

神は、あなたがたの**良い行い**によって、神を知らない無知な人々が口を閉ざすことを望んでおられます。彼らの中傷がやむようにです。暴力によってではなく、**愛のわざ**によってです！彼らを黙らせることができるのは、どれほど人を導く模範的な行いでなければならないか、考えてみてください。あなたがたは自由な者です。強いられてこれを行うのではなく、新しくされた心

からそうするのです。あなたがたはキリストにある自由を、悪を行うための口実や隠れみのかたちとして用いることはしません。あなたがたは神のしもべであり、神の所有とされた者なのですから。

すべての人を敬いなさい。神の家族、あなたがたの信仰の兄弟姉妹を愛みなさい。神を畏れなさい。皇帝を敬いなさい。

家で働く召使いたちよ、自分の主人に従いなさい。穏やかで善良な主人にだけではありません。ひねくれていて、扱いにくく、あなたがたをいじめる主人にもです。あなたがたが不当に**苦しみ**や不利益を耐え忍ぶなら、それは神に喜ばれるいけにえなのです。

罪を犯し、主人に逆らったために苦しみを受け、打たれたとしても、それは称賛に値することではありません。けれども、善を行うことにおいて粘り強く、その際に辱めを受けなければならないとしても、それによってあなたがたは神をあがめるのです。それは神に喜ばれます。このような振る舞いへと、私たちは皆召されています。奴隷であるあなたがただけではありません。**イエス**がまさにそのように生きられたからです。イエスこそ私たちの**模範**であり、このような振る舞いの最高の手本を私たちに残してくださいました。イエスは私たちのために苦しみました。私たちはその足跡に従います。私たちはイエスに従い——あなたがたは、当時の私たちのようにイエスを見てはいないけれども——イエスのようになりたいと願っています。ただ一つの罪も犯さず、隠れたところでも罪を犯されなかった方。その言葉は、いつも誠実で、偽りも策略もなかった方。ひどくののしられても——ののしり返さなかった方。苦しみに苛まれても、誰にも復讐すると脅さなかった方。そうすることもできたのにです。イエスはそれを、正しくさばかれる方、すなわち天の父に委ねられました。

イエスご自身が、私たちの数えきれない罪を、ご自分のからだに負って、のろいと拷問の木であるゴルゴタの**十字架**にまで運び上げてくださいました。かつて、手を置くことによって**罪**がいけにえの動物に移され、その動物が屠られ、祭壇の上に置かれて焼かれたように、そのようにイエスは私たちの罪を引き受け、負ってくださったのです。私たちの罪が赦されたことで、私た

ちの古い生き方は終わりました。こうして私たちは、罪の中の生活から逃れることができるのです。私たちは罪の力から解き放たれ、今は義のために生きています。罪の重荷から解き放たれて、その罪をイエスが負ってくださったのです。ゴルゴタでのイエスの打ち傷によって、私たちは健やかにされ、癒やされました。預言者がイザヤ書53章で語ったことは、これ以上の確には言い表せなかったでしょう。心と良心において、癒やされたのです。

私たちは、寄る辺のない羊のようにさまよっていたからです。羊飼いなしに。けれども今、私たちは、私たちの良い、真実な羊飼いのもとに帰って来ました。今はこの方が私たちを見守り、いのちの道へと導いてくださいます。いこいの水のほとり、緑の牧場へと。

第3章

従う姿勢は、妻にも当てはまります。妻は、まだ信仰を持っていない夫を愛し、夫に善を行い、夫を尊ぶことによって、夫をイエスのもとへ導くでしょう。夫の良い行いをほめ、夫に敬意を払うことによってです。多くの言葉によってではありません。むしろ、あなたがたの敬意に満ちた振る舞いと、すぐそばで見られている聖なる生き方によってです。女性の本当の飾りは、外面的なもので人目を引くことにあるべきではありません。あなたがたの飾りは、あなたがたの柔和で控えめな人柄にあるべきです。心に根ざした人柄です。それが神に喜ばれ、神を喜ばせるのです。それはまた、生ける神に望みを置き、同時に自分の夫に従っていた聖なる女性たちの飾りでもありました。こうしてサラはアブラハムに従い、彼を主人と呼びさえしました。あなたがたは、この夫婦の霊的な子どもとなったのです。ですから、できるところで善を行いなさい。すべての人に対して。何事にも惑わされたり、ひるんだりすることなく、一貫してそのように生きなさい。

夫たちよ、妻に対して思いやりがあり、愛情深くありなさい。妻が何を考え、何を感じているかを、どうにかして理解しようとしなさい。妻が、どのような共感や理解や心配りを必要としているかを探りなさい。妻と話しなさい。自分の思いを伝えなさい。妻に対して心を開きなさい。自分自身に求めているのと同じことを、妻に求めてはいけません。妻たちは、例外はあるに

せよ、あなたがたより感情的に傷つきやすく、しばしば体力的にも弱いのです。だからこそ、彼女たちにはあなたがたの強さが必要なのです。彼女たちはあなたがたとまったく同じように永遠のいのちを受け継ぎ、何一つあなたがた男性に劣るところはありません。結婚生活においてそのように生きるなら、あなたがたは喜んでともに祈り、霊的に一つとなり、ともに神のあわれみをふさわしいときに体験するでしょう。

すべてのことが、イエスに従う者として、あなたがたが霊的な調和のうちに生き、ともに**一つ**の目標を目指すことに役立つようにしなさい。互いに思いやりと本物の愛を持ちなさい。自分が好きな人に対してだけではありません。すべての兄弟姉妹に対して愛に満ちていなさい。あわれみ深くありなさい。神があなたがたに対してそうであるように。謙遜でありなさい。受けた悪に悪をもって報いてはいけません。侮辱に侮辱をもって報いてもいけません。むしろ反対に、祝福しなさい。あなたがたの信仰の兄弟姉妹も、まだ信じていない人々も。彼らの幸せを願いなさい——そしてそれを彼らに知らせ、感じ取らせなさい。あなたがたは、まもなく祝福を受け継ぐことになるからです。その豊かさから、あなたがたは今すでに祝福し、イエスのように行動することができるのです。

人生を楽しみ、良い日々を過ごしたいと願い、いつ見つかってしまうかと絶えずびくびくしていたくない人は、誰に対しても、誰についても悪を語ってはいけません。その人はあらゆる悪から離れ、ただ善を行いなさい。すべての人との平和を求め、その平和がまるで逃げ去って永遠に消えてしまうかのように、粘り強くそれを追い求めなさい。

それはまるで自然の法則のようです。**主の目**は全地を見渡し、正しい人に注がれています。善を行う人に。そして彼らの祈りに。主は彼らの切なる願いを聞いてくださいます。けれども、悪を行う人々のことは、まったく喜んでおられません。悪を行う人は、神を敵に回しており、いつか神の怒りを経験しなければなりません。

ですから、あなたがたが善を行い、それをやめずにいるなら、いったい誰があなたがたに悪を行うのでしょうか。そのような人に、神の前で何か弁解の余

地があるでしょうか。それでも、善を行うために悪い目に遭い、苦しむなら、あなたがたは幸いです。これらの人々を恐れてはいけません。神の父としての真実を知らないこれらの人々と同じ恐れや心配を抱いてもいけません。彼らは私たちのメシアを知らないのです。だからこそ、ますます主、メシアに焦点を合わせなさい！人を恐れず、ただこの方だけを恐れなさい。この方を恐れる人は、もはや誰をも恐れることはありません。

困難な状況にあっても、苦しみを経験しているときにも、メシアにある自分の望みを、わかりやすく証しする用意をいつも喜んでしていなさい。人々があなたがたに、なぜそんなに違っているのか、なぜ不利益や苦しみを甘んじて受けるのかと尋ねるなら、あなたがたの望みを告白しなさい。私がこの手紙ですでにあなたがたに書いてきた望みです。それをすべての人に、できるかぎりうまく説明するよう努めなさい。単純に、はっきりと。話し相手が理解できるように。その人の言葉で。あなたがたの望みの弁明は、決して横柄であってはなりません。尋ねてくる人々を尊重し、そのことで彼らが話しかけてくれることを喜びなさい。神は、あなたがたにもしてくださったように、彼らにも働きかけておられるのです。

自分の生き方について、健全な良心を持ちなさい。そうすれば、人々があなたがたに悪いことを非難したり、言いがかりをつけたりしても、彼らはいつか恐れ入って引き下がり、自分たちが間違っていたことを認めざるをえなくなります。

いずれにせよ、神がそう望まれ、それを許されるのであれば、悪い行いのためではなく、良い行いのために苦しむほうがよいのです。私たちの偉大な模範を見るなら、それはあなたがたにとって難しいことでもないはずです。なぜなら、キリストもまた同じように**苦しまれた**からです。不当にです。ご自分が犯してもいない罪のために。つまり、私たちの罪のために。十字架の上で。正しい方が正しくない者たちのために——私たちのためにです！何のためでしょうか。私たちを神のもとに導くためです。私たちを異郷から、罪の冷たく孤独な夜から、ご自分の神であり父である方のもとへ導くためです。神の聖なる、愛に満ちた御前へと。わが家へと！

キリストは十字架の上で死に至らされました。痛めつけられ、責めさいなまれたそのからだにおいてです。それが、キリストを殺した者たちと、闇の目に見えない力が企てたことでした。けれども、それで終わりではありませんでした。キリストは神の御霊によって**生かされた**のです。いのちと復活の御霊によってです。この御霊によって、不死の新しい存在へとよみがえらされたのです。この御霊において、キリストはよみがえられた方として、死者の世界へと入って行かれました。死の牢獄へ。ノアの時代の、墮落した神の子らである霊たちのもとへ。キリストは彼らに、ご自分の**勝利**を宣言されたのです。これらの御使いたちは、ノアの時代に——大洪水の前に——人間の女たちのところに来て、彼女たちとの間に巨人たちを生ませました。主の目には大きな罪でした。それは想像を絶する悪を地上にもたらしました。だからこそ、あの大洪水も来たのです。これらの墮落した神の子らは、人間を滅ぼし、神の救いのご計画を挫こうとしたのです。彼らの子どもである巨人たちは、洪水で滅びました。けれども、その霊は生きています。それが、人間に害を及ぼす悪霊たちです。けれどもキリストは、捕らわれている神の子らに、ご自分の勝利を宣言されました。彼らの終わりと破滅を。彼らへのキリストのメッセージは、私たち人間にとっては良い知らせでした。「おまえたちの計画も、おまえたちの子孫である悪霊たちの計画も、うまくはいかない。わたしは地獄と死と悪魔に対する**勝利者**だ。わたしの死は終わりではなく、新しい出エジプトの始まりだった。人々は自由になる。わたしは彼らを神のもとへ導いたのだ。」

大洪水の死の水を通して、わずかな人々、そうです、たった八人が救われました。古い世界から、きよめられた地へと渡されたのです。それは、同じように少数である今日のあなたがたを指し示しています。**洗礼**において、水の中で、大洪水で起こったことがあなたがたのうちに映し出されています。救いです！外面的なことではありません。たとえば外側の汚れを取り除く祭儀的なきよめとしてではありません。いいえ、洗礼とは、神への信仰と従順を誓う、義務を伴う表明なのです。心からの決断、そうです、清い良心をもって神に仕えるという誓願です。なぜでしょうか。イエスが死からよみがえられたからです。天に入られたからです。神の右に座られたからです。そこで

は、人の子であるこの方に、目に見えない天の世界のすべての御使いと権威と力が服従させられています。私たちはこの方に**忠誠**を誓います。洗礼によって証印を押され、宣言されるのです。その場に居合わせた人々の前でだけではありません。目に見えない世界と、その君である悪魔と、その手下の御使いたちの前でもです。一つひとつの洗礼が、彼らの最終的な**敗北**を確認し、宣言しています。たとえ彼らが今はまだしばらくの間、信じる者たちに害を加えることができるとしてもです。私たちは陣営を乗り換え、永遠に勝利者イエスのものとなったのです。

第4章

キリストが私たちに代わって、私たちの罪の身代わりとして、そのからだに感じ取れるほどの痛みを伴って苦しまれたのですから、あなたがたも、そのような苦しみを受ける覚悟をなささい。なぜなら、イエスに従い、イエスを告白するためにそのような苦しみに遭う人には、罪にふけっている暇などないからです。苦しみはその人を困難に陥れますが、罪への誘惑は静まっています。それらはもはやその人の心を占めることはありません。私たちは、この地上でなお残されている時を、神を否定する人々の関心や欲望のために費やすことは、もうしたくありません。いいえ、私たちは**神が望まれること**を行いたいのです。周りの人々が素晴らしいと思うことではなく。私たちはもう十分長い間、社会や主流派が指図し、良しとすることを行ってきました。そこには、あらゆる種類のとめどない放縦が含まれます。泥酔、暴飲暴食の宴会。祭儀的な売春を伴う恥ずべき偶像礼拝。すべては、自己実現と自己満足のため。そして、手に入るものは何でも手に入れるためです。今や彼らは、あなたがたがこの空しく有害な営みに加わらなくなったことを不思議に思っています。彼らは、自分たちが奔放な生き方の中で求めている充足と喜びがイエスのうちにあることを理解できません。だから彼らはあなたがたをののしり、自分たちこそ人生の正しい側にいると感じているのです。けれども彼らは皆、この生き方と、そのののしりについて申し開きをしなければならなくなります。神が彼らに説明を求められる日が来ます。そのときなお生きているすべての人に、そしてすでに死んだすべての人にもです。死んだ

人々にも、生きているあなたがたにも、贖い主キリストが告げ知らされました。すべての人が永遠のいのちの賜物を受けるためです——聖霊によって。この永遠のいのちの望みがあるので、苦しみに満ちた人生と死でさえ、敗北ではなく勝利なのです。良い知らせを拒み、永遠のいのちの望みなしに死に、さばきの日を待たなければならない人々とは対照的です。

万物の**終わり**が戸口に迫っています！古いもの、朽ちるもの、罪深いものはすべて終わりを迎えます。イエスに従ってきた人々は皆、神の栄光のうちの新しい始まりを待ち望んでいます。

頭を明晰に保ちなさい。宗教的な陶醉にも、世俗的な陶醉にも身を任せてはいけません。**祈り**において積極的でありなさい。その機会を一つも逃してはいけません——一人でいるときも、交わりの中にいるときも。何よりも、互いの間に本物の、変わることはない**愛**を持ちなさい。助けになり、私心なく、利己的でなく、相手に身をささげる愛です。神から出たこの愛は、多くの罪を覆います。それは赦すのです！そして、ほかの人の罪を何度も何度も責め立てて持ち出したりはしません。あなたがたの愛を、惜しみなく、人を招き入れるもてなしによって示しなさい。手間や費用について不平を言うことなく。

すべてのことにおいて、あなたがた一人ひとりが受けた**賜物**によって、互いに仕え合いなさい。しかも、聖霊がそれぞれに分け与えてくださったとおりです。あなたがたは、神の豊かな、この包括的で多様な恵みを贈り物として受けました。忠実な管理者として、責任をもって、人を建て上げるようにそれを用いなさい。恵みを手渡しなさい。あなたがたの交わりの中で誰かがあなたがたに語るなら、それは神からのことばとして受け止められ、聞かれるべきです。誰かが奉仕の働きをするなら、それは神の力によってなされるべきです。すべてが神によってなされるときにだけ、神があがめられ、栄誉を受けられるのです。それがいつも目標だからです。私たちの成功が問題なのでは決してなく、神の栄誉が問題なのです。私たちを神のもとへ、そしてまた互いのもとへと導いてくださったイエス・キリストを通してです。イエスこそ、それをはじめて可能にしてくださいました。私たちはそのことを決

して見失ってはなりません。ですから、イエスに栄誉と力と栄光が永遠にありますように。アーメン。

神に愛されている子どもたちよ。イエスのゆえに受ける**不当な苦しみ**が、燃えさかる火のように思えても、驚いたり、うろたえたりしてはいけません。それは、私が初めにすでにあなたがたに書いたように、あなたがたの信仰の精錬のために役立つのです。かつてメシアが受けられたのと同じ苦しみを今あなたがたが経験しなければならないとしても、喜びなさい。なぜなら、イエスが全世界の前に力と栄光をもって目に見える姿で再び来られ、あなたがたの救いを完成してくださるとき、あなたがたは歓声をあげて喜ぶことになるからです。

そうです、キリストの名を負い、それを告白しているために人からののしられるなら、あなたがたは幸いです。彼らのもとではキリストの名が冒瀆されています。私たちのもとでは、それがあがめられ、高く掲げられています。だからこそ、神の栄光の御霊があなたがた皆の上にとどまっておられるのです。神の聖なる、愛に満ちた、守ってくださる臨在が、あらゆる苦しみの中であなたがたを取り囲んでいます。かつてイスラエルが栄光の雲、シェキナの中にあったように。それは昼も夜も、目に見える形でそこにありました。

私たちの誰一人として、正当に罰せられ、そのために苦しむことがあってはなりません。たとえば人殺しや盗人や悪人として。あるいは、自分に関係のない他人の事柄に、押しつけがましく首を突っ込む者として。けれども、もし誰かが、キリストに属しているために、キリスト者として知られているために苦しむのなら、その人は決して、先に挙げた場合のように恥じる必要はありません。

神のさばきが明らかにされる時が来ました。それはすでに始まっています。実際、それはまず私たちのところから始まるのです。神ご自身の家から。かつて神の民のもとで、さばきがエルサレムの神殿から始まったように。神の聖なるさばきは、私たちを罪に定めるのではなく、きよめ、正しい姿へと整えてくださいます。それは私たちに神の聖さを示し、神にそぐわないものを私たちの生活から取り除き、きよめてくださいます。苦しみによる精錬もそ

れに含まれます。神のさばきを前にして、私たちは聖なる生き方をしたいと願います。私が初めにすでに言ったとおりです。けれども、救いと恵みの良い知らせを信じなかった人々の終わりは、どこへ行き着くのでしょうか。不従順なままだった人々の終わりは。正しい者である私たちでさえ、やっとの思いで救われ、目的地へと導かれるのなら、罪人や神を恐れない者たちには、いったい何が起こるのでしょうか。

ですから、不当な苦しみを受けている人は皆、神がそう望まれ、それを許されるのであれば、自分の人生を、あらゆる弱さや欠点とともに神に委ねなさい。真実な創造主は、ご自分の約束と誓いに忠実であります。けれども、神へのこの願いと委ねは、私たちがほかの人のために善を行い、その人の最善を願う生き方から出て来るものであるべきです。あきらめることなく。まさに私たちに加えられる苦しみの中でこそ、私たちは自分を神に委ねるのです。そうして私たちは、不当な苦しみにもかわからず善を行う力を受けるのです。そのようなことは、ただ神だけが与えることのできるものです。

第5章

神の群れ、すなわち信じる者たちの交わりは、世話をされ、守られ、養われるべきです。それに心を配ることは、**長老**であるあなたがたの、特別な義務であり務めです。羊飼いであり霊的な指導者であるあなたがたに申し上げます。私も、あなたがたとともに長老である者として、同じ義務を負っています。私はこれを、私たちの主イエスの苦難の目撃者として言います。またそれと同時に、主が再び来られるときにすべての人が見ることになる、主の輝かしい栄光にあずかる者としても言うのです。長老たちよ、良い羊飼いでして神の群れを牧しなさい。あなたがたの世話は、強いられてするものではなく、心から、自発的にするものであるべきです。それによって何かの利益を得ようとするのではありません。支配者のように振る舞ってははいけません！あなたがたは、自分の模範的な生き方によって人々の心を勝ち取り、納得させるべきです。そして、まもなく**大牧者**、偉大な羊飼いである私たちの主イエスが現れるとき、あなたがたはその働きのゆえに、栄光の勝利の冠を受けるでしょう。そうです、そのとき私たちは皆、主の栄光にあずかるのです。

若い人たちよ、長老たちを敬いなさい！彼らから学びなさい。彼らは経験において、あなたがたより先を行っているのですから。彼らの教えを受け入れなさい。けれども、それを主の前で吟味することもしなさい。

皆、互いに敬い合い、謙遜を身にまといなさい。決して自分を大きく考えてはいけません。なぜなら、神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられるからです——ソロモンがすでに箴言3章で語ったとおりです。

神の力強い御手があなたがたを置いてくださった人生の状況を受け入れなさい。不満を抱いてはいけません。不当な苦しみのもので、あるいは人生をつらくしているもののことで、嘆いてもいけません。真実な創造主に信頼し、決して忘れないでください。神は、ちょうど良い時にあなたがたを高く上げ、重荷を取り去ってくださいます。この人生において、そして遅くとも、イエスが再び来られるときには。

あなたがたは、自分の**思い煩い**と重荷のすべてを神に委ねてよいのですし、またそうすべきなのです！なぜなら、神ほどあなたがたのことを心にかけてくださる方はいないからです！私たちの創造主はすべてを見ておられます。神ほどあなたがたを顧みてくださる方は、誰もいません。いつもそのことにしがみついていてください。たとえ一見そうは見えないとしてもです。

いつも霊的に警戒を怠らないでいなさい。私たちの最大の敵である悪魔が、うろつき回っているからです。ほえたける獅子のように、悪魔は力を見せつけ、脅し、恐れさせようとします。そうです、獲物を探し回り、見つければ襲いかかるでしょう。迫害と死への恐れによって、悪魔はイエスに従う者たちに信仰を捨てさせようとしているのです。けれども、信仰によって堅く立ち、悪魔に立ち向かいなさい。恐れてはいけません。恐れに場所を与えてはいけません。心に留めておきなさい。こうしたことを経験しなければならないのは、あなたがただけではありません。キリストに属する人々への迫害は、全世界で起こっているのです。

どんな状況においても、最大の安心と励ましは、今も、これからも、次のことを知っていることです。**あらゆる恵みに満ちた神**が私たちの神である、と

ということです。神は、イエス・キリストにあって、私たちをご自分のもとへ、ご自分の栄光へと召してくださいました。しばらくの苦しみの時の後、それが私たちの永遠のわが家となるのです。この道の途上で、苦しみを通してでも、神は私たちを立ち上がらせ、整え、完全な者としてくださいます。神のみこころのままに。神は私たちの信仰をこのように堅くし、強めてくださいます。それで、私たちは苦しみにもかかわらず耐え忍び、善を行い、しっかりと根を下ろしたままでいられるのです。何が来ようとも、私たちが軌道から外れることはありません。

この手紙は、忠実なシルワノによってあなたがたに届けられます。私はあなたがたに、最も大切なことだけを手短に書きました。あなたがたがその中に立ち、生きている神の本当の恵みについてです——苦しみがあるにもかかわらず。

バビロンにいる、ともに選ばれた人たちから、あなたがたによろしくのことです。そして、私の信仰における霊の子マルコからも。

愛の口づけをもって、互いにあいさつを交わしなさい。

キリストと結ばれ、キリストのうちに根を下ろしているあなたがたすべてに、平安がありますように。

アーメン。

ペテロの手紙第二

- 神の本質にあずかる者
- 信仰において成長する
- 確かなことば
- 預言のことば
- 偽教師たち
- 古い地と新しい地
- さばきと神の寛容

ペテロの手紙第二

シメオン、またの名をペテロが、あなたがたに書き送ります。私の主イエス・キリストが、私をそう名づけてくださいました。私はすっかりこの方のものです——ただこの方だけのしもべです。私はまた、この方から遣わされた者、この方の使徒でもあります。私があなたがたに書くのは、あなたがたも、私たち弟子が初めにそうであったように、イエスから同じ尊い信仰を受けたからです。この信仰を、私たちは皆、ただ私たちの神から受けたのです。そして、私たちの救い主イエス・キリストから。神は正しい方です。だから神は、私たちすべてに、使徒たちにも、私たちユダヤ人にも、そしてほかの諸民族にも、同じ尊い信仰を与えてくださったのです。この信仰によって、私たちは神が私たちに与えてくださったすべてのものにあずかっています。神は私たちに、さらに大きなものを与えてくださるでしょう。私たちはキリストにあって、正しい者と宣言されたからです。

私たちの神から、ますます豊かな恵みと助けによって、あふれるほどに祝福されますように。私たちが日々これほど切実に必要としているすべてのことのために。とりわけ迫害と敵意の中で。また、神があなたがたを、人生のあらゆる状況において平安をもって祝福してくださいますように。そこにおいて、私たちは私たちの神と私たちの主イエスを知るのです。この方こそ、恵みと平安の尽きることのない泉だからです。

神ご自身が、ご自分の**神としての力**——それは特に神の創造のわざのうちに見て取ることができます——によって、私たちにすべてを備え、力を与えてくださいました。私たちがついに神の栄誉のために生きることができるようになります。とりわけ、神が私たちを召し、思いがけず、受けるに値しないのに、ご自分を私たちに現してくださった、その贖いのみわざにおいてです。そのとき私たちは、神の栄光と神としての力を知りました——私たちのために死に、よみがえられた方、キリストを通して働く力を。私たちは、神がどれほどの決意をもって、最も大きく、最も尊い**約束**を私たちに与えてくださ

ったかを知りました。神の大いなる救い。永遠のいのち。神の御霊という賜物。そして神の時が来れば、新しい天と新しい地。神は、私たちに対して果たしてくださるこれらの約束によって、ご自分の本質、ご自分のいのちを、私たちのものとしてくださいました。確かに私たちは、ある人々が夢見ているように、神々になるわけではありません。ただ神だけに固有なもののすべてにおいて、神の本質を受けるわけではありません。けれども、私たちは神の本質にあずかっているのです。こうして神が、神の愛、恵み、あわれみが、神の聖さと義が、さまざまな状況において、私たちの生き方を通して私たちのうちに見えるようになります。神の榮譽のためです。神から出た何かが見えるからです！私たちがかわるすべての人の目に明らかになります。私たちを通して、彼らはこの比類のない神を知るようになるでしょう。私たちは神の召しによって、この世の破滅と滅びから逃れ出たのです。神なしに生きる人々をあれほど魅了している、生への貪欲と、私たちは縁を切りました。それ以上です。私たちは、このもろく、過ぎ去っていく生き方を後にしたのです。こうして私たちは、これらの人々が向かって生きている滅びから逃れたのです。

まさにそれゆえに、私たちは受けた信仰において、あらゆる**熱心**と努力と献身を示すべきです。この信仰において、神も私たちに示してくださったような決意をもって、確信をもって、断固として前進すべきです。それだけの価値があるのです！

けれども、断固とした態度には、どうしても**知識**が必要です。あらゆる決意は、正しい方向へと向けられなければなりません。私たちは神のみことばを通して神の思いを知り、ますます深く知っていかなければなりません。私たちは、あらゆることにおいて神からの知恵を必要としています。

そして知識には、**自制**と規律が伴わなければなりません。この自己制御と節制は、いつも必要です。とりわけ、人々が自分の欲望を野放しにしている社会の中を歩んでいるときには。

自制は、若い人にも年配の人にも、生涯にわたって、しっかりと根づいていべきです。その中で私たちは耐え忍び、揺るがずにいるべきなのです。

あらゆる**忍耐**と揺るがない歩みにおいて、あなたがたにとって大切なのは、いつも神に喜ばれることであるべきです。自分が何か偉くなったように思えるような、人間の戒めや伝統に従うことが大切なではありません。

神に喜ばれるとは、何よりもまず、神が同じように召してくださった信仰の兄弟姉妹との交わりを求め、それを生きることです。私たちの住む場所で、また全世界で、神が私たちとともに集めてくださったすべての人たちとの交わりです。彼らを、私たちは私心なく**愛**したいのです。

最も高いものは、いつも神の愛そのものです。それが私たちを満たします。そして、その愛によって、私たちは神と兄弟たちと隣人を愛することができます。この愛こそ、私たちが行うすべてのことの動機でなければなりません。そうでなければ、すべては無価値です！

私が挙げたこれらの大切な特質はすべて、イエスの弟子にとってまったく**当たり前**のものです。ですから、それらはあなたがたの特徴となり、ますますあなたがたを形づくっていくべきです。それこそが、信仰における成熟へと向かう本物の霊的**成長**を意味します。これらの徳は、いくら持っていても多すぎることはありません。そうすれば、あなたがたは信仰において鈍くなったり、怠けたり、何もしないでいたりすることもあります。そうです、神のために豊かな実を結ぶのです。こうして、私たちのうちで、私たちの主イエス・キリストを知る知識が深まっていきます。それは決して終わりに達することがありません。イエスは比べようもなく栄光に満ちた方であり、いわば極め尽くすことのできない方だからです。イエスこそ、すべての始まりであり、中心であり、終わりです——私たちの献身においてもです。心で知るこの成長していく知識が、神のご本質をますます目に見えるものとし、神の喜びとなるのです——すでに書いたとおりです。

けれども、もしこれらの特質がほとんどまったく見られないなら——以前とは違って——その人は**盲目**です。もはや私たちの救い主の栄光を見ようとしません。近視になり、ただ目を細めるだけで、そうです、光を嫌うようになってしまったのです。それは、栄光の神が私たちをご自分のもとに召してくださったことを、忘れたがっているかのようなのです。そのような人は、水

の洗礼という公の告白によって、以前の罪がきよめられたことを忘れてしまっています。けれども、その人が今、以前と同じように生きているなら、それはもう何の役にも立ちません。たとえ洗礼において以前の罪からきよめられていても——、今積み重ねている罪が、その人の滅びとなるでしょう。

ですから、愛する兄弟姉妹の皆さん、自分にできるかぎり、神の召しとあなたがたの選びを**確かなもの**にしてください。そのようにして、あなたがたの人生への神の介入を確証してください。神があなたがたを召し、とらえてくださったのと同じほど断固として、イエスに従いなさい。あなたがたの人生が、神の恵みに対する、はっきりとした喜びに満ちた応答となりますように。そうすれば、神の栄光へと向かう道の途上でつまずくことはなく、まして真理の道から外れることなどありません。私たちの主であり救い主である方の、来たるべき**王の支配**への、凱旋の、歓喜に満ちた入場があなたがたを待っています。それは比べるもののない、忘れがたい出来事となるでしょう。この王国への扉、信仰の目的地への扉は、今すでに大きく開かれています！それが私たちの生きた、確かな望みです。そのためなら、どんな努力も、どんな献身も報われるのです。

私が生きているかぎり、あなたがたのことを心にかけて、この栄光に満ちた見通しをあなたがたに思い起こさせる用意をいつもしています。それには、イエスに従うことの中心的な特質も含まれています。あなたがたがこれらすべてをすでに知っていて、この真理のうちに堅く立っていることは、私にもよくわかっています。それでも私はそうするのです。私はまだこのもろいからだのうちにいる間、これらのことを思い起こさせることによって、あなたがたの目を覚まさせておくつもりです——そして必要なら、揺り起こすつもりです。私がこの世を去る時が近づいているからです。私はこの地上の、死ぬべきからだを、まもなく天幕のようにたたむことになります。そしてそのとき、私の主のもとにいるのです。主は、私がまもなくあなたがたと別れることを、私に示してくださいました。私がここであなたがたに書いていることは、非常に大切なことです。あなたがたがこれらの知識を心と思いの中に保ち続けるよう、私はいつもあらゆることをするつもりです——まさに私がもうあなたがたのもとにいなくなったときにもです。

そこには何よりも、一つの忘れがたい出来事が含まれます。私たち弟子は、神話や、巧みな考えや、夢や、感情の高ぶりに従ったものではありません。私たちが、私たちの主イエス・キリストの大きな力と、来たるべき栄光に満ちた現れについてあなたがたに伝えたとき、私たちは**目撃者**としてそうしたのです。私たちは、聖なる山、雪をかぶったヘルモンの山の上で、自分たちの目で体験し、見たことだけを証しました。私たちは、イエスが父なる神によって輝く光に包まれ、姿を変えられるのを体験することを許されたのです。イエスは太陽のように輝いておられました。この崇高な栄光の光の輝きの中から、声が聞こえて、こう言いました。「これは、何にもまさってわたしが愛する子。わたしはこの子をすっかり喜ぶ。この子だけが、わたしの心の喜びだ。」

まさにこの山の上に、大洪水の前、不従順な神の子らが天から降りて来て、女たちをめとり、巨人たちを生ませたのです。そうして彼らは人類を滅ぼそうとしました。そのことについては、すぐ後でまたお話しします。イエスはこの山の上で、目に見えない世界全体に、失われた人類のための救い主がいることを知らせておられるのです。闇の力は終わりを迎えようとしています。

その場にいた私たち三人の弟子は、畏れのあまり、ほとんど口をきくこともできませんでした。イエスとともにいて、あのようなことを体験したのは初めてでした。けれども、私たちには、これが**預言のことば**の成就であることがはっきりとわかりました。イザヤ、エゼキエル、ダニエル、そのほかすべての預言者たちのことばです。彼らは、終わりの時に神が栄光のうちに現れることを語っています。私たちは、これらの預言の**成就**を自分の目で見たのです。いつの日かすべての人が見ることになるものの、いわば予告編でした。私たちがその成就を見聞きしたこの預言の神のことばは、暗く陰鬱な場所を照らす光のようなものです。暗い場所とは、イエスを拒み、私たちを迫害するこの世のことです。この夜はまもなく終わります。私たちが山の上でイエスをあのように見たとき、輝く**明けの明星**はすでに昇っていたからです。私たちの主イエス・キリストの日は、とどまることなくやって来ます。

朝はもう白み始めています。この世には見えないこの明けの明星を見つめなさい。この世は夜を愛し、光を避けているのです。

預言者たちは、自分自身の考えに従ったものではありません。彼らが語り、書き記した来たるべき栄光は、神の聖霊に導かれ、動かされて、彼らに示されたものです。それを心に受け入れ、堅く保ちなさい！彼らは、受けた神のことばを、今度は私たちに手渡してくれたのです。ちなみに、このことは預言のことば全体に当てはまります。私たちはそれを、私たちが旧約聖書と呼んでいるヘブライ語聖書の諸書の中に見いだします。

預言のことば、すなわち預言の総体は、人間の考えから出たものではありません。神に召された人々が、直接聖霊に動かされ、**導かれた**からです。彼らは神から受け取ったものを証しし、それを書き記しました。彼らは御霊に動かされていたのです。ちょうど風が船の帆に吹きつけて、船を前へと進ませるように。けれども、これらの人々は神のタイプライターでも操り人形でもありませんでした。むしろ神は彼らを、自分自身の理性と自分自身の言葉をもって、神が伝えようとされたことを書き記すことのできる人格として、整えてくださったのです。

第2章

はっきり指摘しておきたいのですが、預言のことばを軽んじることもできてしまいます。さらに悪いのは、勝手な、偽りの預言です。当時すでに、イスラエルには偽りの預言者たちがいました。今、あなたがたの間にも、真理を語らず、神から遣わされてもない教師たちが現れるでしょう。彼らとその**偽りの教え**は、分派や、セクトのような集団を生み出すことになります。そのすべては、かかわり、巻き込まれるすべての人にとって、滅びをもたらすものです。なぜなら、偽教師たちはそれによって、自分たちを買い取ってくださった主人、イエス・キリストを否定しているからです。彼らはこの方に仕えるべきなのです。自分自身にはありません。彼らが行う滅びをもたらすことを、残念なことに、彼らはこの方の名において行っています。このとんでもない主張によって、彼らは自分の身に滅びを招いています。すでに生きている間にか、あるいは、確実に終わりの日の最後のさばきにおいてで

す。彼らの偽りの営みはこれほど明らかなのに、それでも多くの人が彼らについて行きます。それによって、真理の道がそしられるのです。彼らは真理の道を歩んでいると主張しますが、実際はそうではありません。それに感心した人々は、真理の道を見つけたと思い込みますが、本当はその反対なのです。そのことに気づくと、彼らはもうそれとはかかわりたくなりません。真理の道について欺かれたと感じるのも、もっともなことです。

これらの偽教師たちは、あなたがたの財産とお金を**むさぼり**求めています。あなたがたがまんまと引っかかってしまう、ごまかしのことばによって、彼らはあなたがたの懐からそれを巻き上げるのです。そのような行いは、いつも神のさばきを招きます。神の視点から見れば、これまで一度も違ったことはありません。そのような者たちには、すでに言ったとおり、滅びが臨むでしょう。

神は、すべての者にその罪の責任を問われます。それは目に見えない世界の存在にも当てはまります。**御使**いたち、すなわち神の子ら、見張りの者たちは、地上で悪い意図を抱きました。彼らは女たちと結婚し、したがって性的な関係を持ち、そこから巨人たちが生まれました。モーセは、こうした結びつきから生まれた子らをそう呼んだのです。さらに彼らは人間たちに悪いことを教え、それが地上に大きな悪と腐敗をもたらしました。これらの神の子らはさばかれました。神は彼らを容赦されませんでした。そして最終的なさばきのはるか前に、彼らは暗闇の中に投げ落とされ、鎖につながれました。これ以上悪事を働くことができないようにするためです。彼らはそこで、大いなるさばきの日のために閉じ込められているのです。

神が罪を耐え忍び、大目に見ることがおできにならないことを示す例はたくさんあります。神は古い世界全体を容赦されませんでした。神は、その時代のすべての不敬虔な者たちの上に、死をもたらす大洪水を送られました。神の子らが悪い意図をもって生ませた、多くの巨人たちの上にもです。ただノアだけが正しい人でした。彼は神の義と来たるべきさばきを宣べ伝えました。彼は家族とともに、全部で八人でしたが、容赦され、箱舟によって救われました。

すべての不敬虔な者たちへのもう一つの警告の例は、**ソドム**と**ゴモラ**の滅亡と焼き尽くしです。そこには正しい人ロトが住んでいて、町が滅びる直前に救い出されました。彼にとって、これら不敬虔な者たちの暴虐と暴力をいとわない態度、天体への崇拜、そして闇の力との交わりは、耐えがたいものでした。それを来る日も来る日も見聞きし、ともに体験しなければならないことに、彼は心を痛めていたのです。

これらの例は、私たちに警告するためのものです。また、惑わす者たちにも、惑わされた者たちにも警告しています。そして、神が正しく、ご自分を恐れるご自分の民をどのように守り、さばきから救い出してくださるかを示して、私たちを励ましてくれます。彼らがこれら不敬虔な者たちの間で、神を恐れて生きるなら、神はそうしてくださるのです。すべての不義な者、不敬虔な者たちは、逃れることができません。遅くとも死んだ後、さばきの日に、彼らは罰を受けるでしょう。

さばきは、自分の欲望を歯止めなく満たす者たちに確実に臨みます。彼らは、自分が従うべき支配者であるキリストを軽んじているからです。そのような身勝手な者たちは、天の力をそしることさえためらいません。彼らとは対照的に、位においてこれらの天の力より下にある御使いたちでさえ、神の前で彼らに対してそしりのさばきを口にするのをあえてしません。そうするだけの理由ときっかけは十分にあるにもかかわらずです。

これらの偽教師たちは、自分が何をそしり、何を相手にしているのかを知りません。彼らは、ただほふられるために育てられた、理性のない獣のように振る舞っています。彼らは自分自身の腐敗の中で滅びるでしょう。自分のしたことに対して、当然の報いを受けるのです。

彼らは真っ昼間から酒宴にふけることを好みます。働く代わりにです。彼らは自分のごまかしの中で転げ回っています。彼らは、あなたがたが集まる交わりの食事にやって来ます。そのとき彼らが考えていることはただ一つで、それは顔に表れています。自分と姦淫を犯してくれる女を見つけることです。彼らは罪の奴隷です。まだ信仰が堅くされていない信者たちにとって、彼らは大きな危険です。まさにそのような人たちを、彼らは探しているのです。

す。惑わすことを目的としてです。その貪欲は、彼らの目から読み取ることができます。他人を利用し、食い物にすること——それこそ、彼らが本当に得意とすることです。彼らは呪いの子らにほかなりません。彼らは真理のまっすぐな道を捨てました。そうです、そこから迷い出てしまったのです。彼らはバラムの道を選びました。占いの報酬のために偽りを預言しようとした預言者です。けれども彼は、痛烈で、しかも不思議な戒めを受けました。彼が乗っていたろばが、人間のことばで彼をとがめ、こうして預言者の愚かさを阻んだのです。ろばは主の使いを見ましたが、預言者には見えませんでした。

これらの偽預言者たちは、水のない泉のようなものです。ですから彼らは役に立たず、まやかしです。彼らは嵐に吹き流される雲に似ています。最後には、彼らには永遠の暗闇の中のやみだけが残ります。大げさなことばで、彼らは約束をしながら、同時に、自分たちが求めているのは自己中心的な願いを満たすことだけだということを覆い隠しています。それによって彼らは、まさに信仰によってこの世の迷いから逃れたばかりの人たちを誘い、惑わすのです。彼らは大いなる自由について語り、それによって、まだ信仰においてまったく若い人たちを引き寄せます。けれども彼ら自身は、自分自身の腐敗の**奴隷**なのです。彼らが約束する自由は自由ではなく、奴隷の身分です。彼らは、奴隷のように、自分自身の腐敗に支配されているのです。

偽教師たちが惑わそうと狙いを定めている人たちは、この世の迷いとその欲望から逃れたばかりです。彼らは主であり救い主であるイエス・キリストを知ったので、この方のもとに安らぎとよりどころを見いだしました。けれども、もし彼らが今、この惑わしによって、自分が逃れてきたこの世へと再び滑り落ちてしまうなら、彼らの状態は以前よりも悪くなります。あまりにひどいので、彼ら、すなわち惑わす者たちも惑わされた者たちも、義と真理の道をいっそ知らなかったほうがよかったほどです。彼らは再び背を向けてしまったので、福音を通して確かに知っていた私たちの主イエス・キリストの聖なる戒めを拒んでいるのです。

残念ながら、このような悲しい場合には、箴言のことばが当てはまります。犬は、前に吐いたものに戻って、それをまた食べる。同じように、ことわざも当てはまります。洗われたばかりの豚が、また自分の汚物の中を転げ回る。私はこれほど露骨に言わなければならないのです！

第3章

これは、あなたがたへの二通目の手紙です。これによって私は、あなたがたの記憶に訴えます。同時に、あなたがたの思いを研ぎ澄ましたいのです。私がすでに指摘した預言者たちのことばを、しっかりと保ちなさい。私たちの主イエス・キリストの**戒め**、主の使者であるあなたがたの使徒たちがあなたがたに伝えた戒めを、いつも繰り返し思い起こしなさい。

何よりも、一つのことを知っておきなさい。終わりの日に、神を恐れることとは何のかかわりもない**あざける者たち**が現れます。彼らに驚かされたり、おじけづいたりしてはいけません。彼らはただ自分の欲望に従って生きています。彼らはこう言うでしょう。「約束されていた**キリストの来臨**は、いったいどうなったのか。そんな気配はまったくないではないか。すべては昔からのまま、何も変わらない。」けれども彼らは、決定的なことを故意に見落としています。初めから、天と地は神のみこころによって成り立っていました。神はみことばによって、水の中から地を現れさせられました。神は陸地を水から分け、また下の地の上の水と、上の天の水とを分けられました。同じように神は、当時の古い世界が水の中に沈むことを定められました。天からの雨によって、また地から噴き出してすべてを覆い尽くした大水によってです。ですから、すべてが初めのままであり続けたわけでは、決して**ない**のです。神は、まるで何もないところから、突然、力強く歴史の歩みに介入されました。洪水は当時の古い世界を覆い尽くし、すべての不敬虔な者たちからきよめたのです。

同じように、今の天と今の地も、来たるべきさばきの日の火のために、神ご自身によって取っておかれています。それは、すべての不敬虔な者たちとあざける者たちの滅びを意味するでしょう。あの時は、水による神のきよめの

さばきでした。来たるべきさばきは、火によって起こります。大洪水が来たのと同じように確かに、また突然に、神の焼き尽くすさばきは来るのです。

愛する人たち、これらすべてがいつ起こるのか、すでにどれほど長くかかっていて、これからまだどれほどかかるのか、という問いに心を乱されてはいけません。私たちの主のもとでは、私たちの地上の時間の尺度が支配しているのではないからです。主のもとでの一日は、私たちのもとでの千年です。そして私たちのもとでの千年は、主のもとではただの一日のようです。確信していなさい。主は来られるのを遅らせては**おられません**。主はそれを私たちに約束してくださいました。ある人たちは、主がわざと私たちを長く待たせているのだ——あるいは、もしかしたらまったく来られないのだ、と考えています！私たちはそのように考えるべきではありません。むしろ主は、すべての人に対して寛容なのです。主は、誰一人として滅びることを望んでおられないからです。だから主は、私たちユダヤ人にも、諸民族にも、そうです、すべての人に、考えを改め、立ち返るための時間をたっぷりと与えてくださっているのです。

約束は変わることなく、成就します。**私たちの主の日**は来るのです！しかも夜の盗人のように。思いがけなく。ほとんど誰もそれを予期していない、まさにそのときに。この日は、すさまじく、比べるもののない日となるでしょう。反逆する天の力はさばかれ、地の上の天は、ごうごうと轟く大音響の中で過ぎ去ります。こうして地と、人々がその上で引き起こし、造り出したすべてのものは、比喩的に言えば、あらわにされ、神のさばきの火に引き渡されるのです。永続しないものはすべて滅ぼされます。さばきのきよめの火は、地上のすべてのものを溶かすでしょう。ただキリストにある正しい者たちだけが、なおその上に見いだされます。ただ彼らだけが、永遠にとどまるのです。

罪に陥った御使いたち、ソドムとゴモラで起こったおぞましい出来事、そして大洪水の前の一つの世代全体の邪悪さ——これらは、確実に私たちにも迫っていることの前触れなのです。

これらすべては、今日の私たちの生活にとっても意味があるのでしょうか。もちろんです。あなたがたの行いと生き方が、永続し、**永遠の価値**を持つように生きなさい。ただそれだけが、火のさばきに耐えるのです。聖なる者となり、神の栄誉のために生きなさい！切なる思いをもって、神の日を待ち望みなさい！このように生きる人は、この神の日ができるだけ早く来るようにと切に願います。そのとき、天の力によるこの世を超えた反逆はすべて取り除かれ、天は火に包まれ、燃えて溶け去るのです。

私たちは、この焼き尽くす火のさばきを嘆いてはいません。神はその代わりに、**新しい天と新しい地**を、私たちの永遠のわが家としてくださるからです。預言者イザヤがすでにそう告げていたとおりです。古い地はさばきの中できよめられます——罪人たちと罪と、そのすべての結果からです。かつての洪水のときのように。けれども今度は、それが火によって起こります。熱い金を溶かす炉にたとえることができます。地はきよめられ、造り変えられ、新しく創造されます。それは——今日とは対照的に——完全な**義**が永遠に住む場所となるでしょう。新しい地は、私たちが今知っている地とはまったく違うものになります。それは完全に解き放たれているでしょう。死から、あらゆる種類の呪いから、不正、病氣、戦争、憎しみ、飢え、貧困、不安、そして生き残るための闘いから。また、喜びのなさ、孤独、うつ、そして心の空しさからも解き放たれているのです。けれども、この新しい地に住むのは、神を求め、神をあがめる人たちだけです。

まさにこの見通しこそ、それ以下の何ものでもなく、私たちの信仰の旅の**目的的地**なのです。ですから、神の約束の日に、傷もしみもない者として、光の中で神の前に立つよう、自分を奮い立たせなさい。この聖なる神に、私たちは平安のうちに——何の恐れもなく——お会いするのです。私たちは正しい者として見いだされるべきです。私たちは、この世に臨むさばきを通り抜けて、新しい世界へ、イエス・キリストの永遠の**王の支配**へと至るのです。

もう一度言います。イエスの再臨が一見遅れているように見えるという事実は、この世にとって救いを意味しています。主は寛容な方だからです。それ

によって主は、人々に悔い改めと立ち返りのための時間と余地をなお与えておられるのです。

私たちの愛する兄弟パウロも、知恵に満ちて、その手紙の中でそのように書いています。それらは確かに、時に理解するのがたやすくありません。そして残念なことに、信仰において堅く立っていない人や無知な人たちによって、ねじ曲げられ、誤解されています。もっとも、彼らはほかのすべての聖書の書物に対して同じことをして、自分の身に滅びを招いているのです。

けれども、私の愛する兄弟姉妹の皆さん、あなたがたは私の手紙によってこれらすべてのことを前もって知っているのですから、目を覚ましていなさい！これら不法な者たちの逆風と見せかけに押し流され、あなたがたの信仰の堅さから落ちてしまうことのないように、気をつけなさい。

むしろ、私はあなたがたを励まします。恵みにおいて**成長**しなさい！私たちの神のあふれる恵みを、ますます**知り**なさい。キリストにある神の恵みに、あなたがたの人生を賭けなさい。信仰において前進しなさい。何よりも、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストを知る知識において成長しなさい。この方がどなたであり、私たちのために何をしてくださったかを思い起こしなさい。この方のことばと戒めをも思い起こしなさい。この方を証ししなさい。この方を愛しなさい。この方をあがめなさい。この方を礼拝し、この方が言われたことを行いなさい。

この方に栄光がありますように！ほかの誰にでしょうか。今すでに、私たちはこの方を愛し、あがめています。まして神の日には、どれほどでしょう。イエスの王の支配が最終的に、永遠に輝き出るとき、新しい天と新しい地が主を知る知識と主の栄光に満たされるとき！アーメン。

ユダの手紙

- 私たちの最も聖なる信仰
- 惑わす者たち
- 惑わし
- 神のさばき
- 神の愛による守り
- 互いの接し方
- 私たちの目的地

ユダの手紙

これを書いているのは私、ユダです。私は身も心もイエス・キリストのものであり、この方に仕えています。私はヤコブの實の兄弟であり——主イエスの實の兄弟でもあります。私は、福音を通して神に召されたあなたがたに書き送ります。この方に従うようにと召されたあなたがたにです。私たちの父なる神に、ご自分の子どもとして愛されているあなたがたにです。あなたがたは神のうちに守られています。神の宝であり、神のものです。起こるすべてのことの中で、あなたがたをしっかりと支えておられるキリストによって守られています。神のあわれみと平安と愛が、ますます豊かにあなたがたに与えられます。こうして、あなたがたの人生は満たされます。そして、神があなたがたに与えてくださったものが、目に見えるようになるのです。

私は、私たちが共にあずかっている大いなる救いについて、あなたがたに書くことをとても楽しみにしていました。神の大いなるあわれみを、あなたがたの目の前に示したいと思っていました。また、私たちの状況と失われた状態が、どれほど望みのないものだったかをも。けれども、事情があって、私はもっと大切なことに集中しなければなりません。私は、ひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勧め、促さずにはいられない思いに駆られたのです。使徒たちが私たちの主イエスから受け、私たちに届けてくれた信仰です。私たちに救いを与えてくれたこの信仰が、危険にさらされています！なぜなら、ある人たちが信じる者たちの交わりの中に忍び込んできたからです。策略と惑わしの技をもってです。彼らは神の恵みを、放縱と罪の中で生きるための口実にしています。彼らはこう言います。「私たちは何でも好きなことをしてよい。神はいつでも赦してくださるのだから。」こうして彼らは、私たちのただひとりの主人であり主である、イエス・キリストを否定しているのです。私たちはこの方に従うべきです——罪深い欲望を追いかけるのではなく。けれども、彼らのさばきと終わりは、今すでに定まっ

ています。それはすでに予告されているとおりです。このようなことをする者たちに対する神のさばきの判決を、私たちは古い伝承から知っています。

あなたがたは、ヘブライ語聖書やユダヤの伝承にあるこれらの物語を知っているはずですが。私はただ、あなたがたの今の状況によく当てはまる三つの出来事を思い起こさせるだけにします。これら恥知らずな惑わす者たちへの警告としてです。

主は、ご自分の民イスラエルを、目を見張るような仕方エジプトの奴隷状態から解放されました。それにもかかわらず、主は民の中の信じなかった者たちを罰し、皆、荒野で滅びるままにされました。

御使いたちでさえ、すなわち神の子らでさえ、永遠の鎖につながれ、暗闇の中に置かれました。大いなるさばきの日までです。彼らは、御使いとしての召しと身分を捨て、ノアの時代に人間の女たちと交わったからです。信じがたいことです。彼らは巨人たちを生ませ、大洪水の前の世界に意図的に混乱をもたらしたのです。

ソドムとゴモラ、そしてその周りの町々は、淫行にふけりました。男たちは、女たちの肉とは別の肉を追い求めました。彼らは、神がロトのもとに遣わされた天の使者たちとの性的関係を要求したのです。創世記19章がそう伝えています。さばきの火が降り注いだこれらの町は、永遠の火の罰に耐えなければならないことの見本となっています。永遠に放っておかれ、失われ、ひとりきりで。

神のさばきは必ず来ます。荒野のイスラエルのように、肉体の死。墮落した神の子らのように、よみに縛られること。ソドムとゴモラのように、永遠の火のさばき。

これらすべての罪、あるいはそれにごく似た罪が、私があなたがたに警告しているこの人々の中に見られます。彼らは、幻によって自分たちの行いが正しいと認められていると思い込んでいます。自分たちの淫行についても。神とキリストの権威を拒むことについても。そして、神の力と権威を少しも持

っていないのに、闇の御使いの勢力について冒瀆的に語ることにしてもです。

最も力ある御使いの一人であるミカエルでさえ、そうしませんでした。ミカエルは、悪魔、すなわち力ある闇の御使いの勢力であり、神に敵対する者と、モーセのなきがらについて争ったとき、悪い意図を抱くこの者に対して、冒瀆的なさばきを口にすることさえ、あえてしませんでした。敬意からです！ミカエルはただ、「主がおまえをとがめてくださるように！」と言っただけでした。

この人々は、自分がまったく知らないことをそしっています。自分が何を相手にしているのかを知らないのです。けれども、彼らが知っていること、獣のように本能的に理解し行っていること、その中で、彼らは獣のような衝動のままに滅びていくのです。彼らには、道德の羅針盤も靈的な洞察も、まったくありません。

わざわざ、彼らは！これらの惑わす者たちは恐れなければなりません。彼らは、人殺しでねたみ深いカインがすでにしたことをしているのです。彼らは宗教的です！けれども、神の御前から遠ざかり、神の権威を拒んでいます。

バラムのように、彼らはお金のために物事を行います。貪欲と利得欲からです。彼らは買収されるままになり、まるで霊の世界で何かを成し遂げられるかのような迷いに陥っています。

彼らは、反逆者コラのように、神のさばきの中で滅びるでしょう。彼らは、自分に与えられていないものを我がものにしようとしているのです。

この人々があなたがたの共同の食事に加わっているのは、恥ずべきことです。彼らは食べて肥え太り、何も問題がないかのように振る舞っています。

彼らは、雨を予告しながら雨をもたらさない雲のようです。彼らは偽っています。風にあちこちと吹き流されています。よりどころがありません。

彼らは晩秋の木々のようです。けれども、まったく実がありません。葉は落ち、二度も死んでいます。根こそぎにされているのです。

荒れ狂う海の波。彼らの恥は泡のようにあふれ出ています。泡を立てるだけのほら吹きです。

軌道から放り出され、何の道しるべにもならない、さまよう星。

墮落した御使いたちのように、彼らは最も深い暗闇の中へと行くのです。永遠に。

あなたがたも知っているとおり、アダムから七代目の子孫であるエノクも、すでにこのような者たちについて主のことばを語っています。「主は来られた。その聖なる御使いたちとともに。その真ん中に主は立っておられる。さばきを行うために。彼らの不敬虔な行いのゆえに。ただひとりの主であり主人である方に逆らって語った、彼らの厚かましく不敬虔なことばのゆえに。」

彼らはいつも不平を言い、自分の状況に決して満足しません。

彼らはただ自分の欲望だけを求め、神のみこころを問うことをしません。

彼らは自分自身について、大きな、高慢なことばを語ります。

何かの利益を得られるとなると、彼らは人々の前にはいつくばり、こびへつらいます。

あなたがたがこのような人々に会ったら、あるいは彼らがすでにあなたがたの間に忍び込んでいるなら、私たちの主イエス・キリストの使徒たちのことばを思い起こしなさい。神に愛されている人たち、使徒たちは、終わりの時にあざける者たちが現れることを、すでに予告していました。不敬虔に自分の衝動に従う者たちです。彼らの生き方全体が、神の聖さをあざけています。この人々はあなたがたの交わりに毒を盛り、分裂を引き起こします。彼らは地上のことを思う人々であり、神の御霊が内に住んでいない人々です。彼らは、神の本当のいのちを知らないのです。

けれども、愛する人たち、あなたがたには、私たちの最も聖なる信仰が、あなたがたの交わりの土台としてあります。その上に教会を建て上げなさい。これらの偽りの者たちのように、教会を壊してはいけません。主とその使徒たちが私たちに宣べ伝えたこの信仰は、何ものによっても置き換えることが

できません。だからこそ、初めに言ったように、私たちはそのために戦うべきなのです。これらの偽りの者たちに対して、受け身でいてはいけません。立ち上がりなさい！

そのための力を、祈りの中に見いだしなさい。聖霊によって祈りなさい！聖霊の臨在と導きを意識していなさい。内側で、心の中で、聖霊に支えられていなさい。聖霊は私たちを神の御前へと導いてくださいます。決してただ敬虔な義務を果たすためだけに祈るのではなく、喜んで神の御座のもとに来なさい。いつも新たに！

変わることなく大きな神の愛の守りの中にとどまりなさい。イエスの愛のうちにとどまり、イエスの戒めを守りなさい。主人を否定するこれらの偽りの者たちとは、まったく違うようにです。

来たるべき主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。主はご自分の日に私たちに会ってくださり、永遠のいのちへと救い入れてくださいます。

この望みを疑っている人たちには、あわれみ深くありなさい。彼らのそばに寄り添い、厳しくさばいたり、ののしったりしてはいけません。

ほかの人たちは、火の中から救い出すようにして救いなさい。信仰をほとんど捨ててしまったような人たちです。燃えている家から誰かを救い出すときのように、全力を尽くしなさい。

すでにこの人々に惑わされ、その生き方をまねている、さらにほかの人たちを、あわれみなさい。けれども、彼らの生き方を黙って容認することのないように気をつけなさい。これらの罪を憎み、それを明るみに出しなさい。けれども、惑わされたこの人たちを決して憎んではいけません。

勇気を出しなさい！私たちの救い主である神は、私たちが疑いにつまずいたり、惑わされたりしないように守ることがおできになります。神は、私たちが目的地に着くまで、私たちを守ることがおできになります。神は、私たちすべてをご自分の御顔の前に集めてくださいます。私たちには、何の汚れもありません。神の御前で私たちを満たすのは恐れではなく、天の喜びと歓声

です。そのとき祝宴が始まります。そして、決して終わることがないので
す。

これが私たちの神です。私たちの比類のない救い主です。私たちの主イエ
ス・キリストによって、神は私たちの救い主となりました。

この方に、すべての栄誉、威光、力、権威が属し、ふさわしいのです。あら
ゆる時の前から、今も、そしてとこしえに。

アーメン。

ヘブル人への手紙

- イエス——神とはこのような方
- イエス、私たちの偉大な使徒であり大祭司
- 神の御座の前での祈りと礼拝
- 聖所での生活
- 新しい契約
- 完了した
- 永遠に聖なる者とされ、完全な者とされた！
- イエス・キリストにおいて成就した大いなる贖罪の日
- 信仰
- 揺り動かされることのない王国

ヘブル人への手紙

ヘブル人よ、振り返ってみなさい！あなたがたの歴史を。初めから、ヤハウェなる神は語ってられました。何度も。さまざまな、心に深く刻まれる仕方です。神は預言者たちを通してご自分を知らせてられました。神は彼らを遣わされました。彼らは神のことばを伝えました。けれども、その時代は決定的に過ぎ去りました。なぜなら、子なる神が来られ、世に向かって語られたからです。そうです、神は御子を通して、かつてなかった仕方でも語られたのです。それは最後の預言のことばでしたが、完全なことばでした——それゆえに決定的なことばです。それは最も大いなる、すべてにまさる知らせでした。そうです、**御子**ご自身がその知らせだったのです。この方こそ、すべての人のための大いなる救いでした。

この御子は、万物の相続者と定められています。すべてがこの方のものとなるのです。すべてのものは御子によって造られました。父がそのために御子に委ねられたのです。それはすべて、ヤハウェなる神が望まれたとおりに起こりました。なぜなら御子は、その本質において、**そして**そのすべての働きにおいて、神の栄光の完全な輝きであり、その放つ光であり、これからもそうあり続けるからです。この栄光が、イエスの本質を、地上での、からだをもった現実と臨在を決定づけています。御子において、イエスにおいて、神の栄光が現され、示されています。目に見え、体験でき、手で触れることのできるかたちで。これまで預言者たちを通して、断片的に、少しずつしか神について知ることができなかったことが、今、イエスにおいて完全に明らかになるのです。永遠の神とは、まさにイエスのうちに来られた方なのです。私たちが知るようになったイエスのとおりに、神はいつもそうであつたし、今もそうなのです。そして、いつまでもそうであられるのです。

御子が造られたものはすべて、御子によって生きています。へその緒でつながっているかのように。すべては、この方によってのみ存在しています——

この方の力ある、いのちのことば、全能のことばによって。すべてはこの方の御手の中にあるのです。

御子イエスは、私たちの罪からのどうしても必要なきよめのために、自ら戦ってくださいました。そのために、ご自分のいのちをもって代価を払われたのです。この方は**不可能を可能にされた**のです。このことについては、これから何度もお話しします。それほど大切なことだからです。それゆえに、この方は最高の榮譽の座に着かれました。それは神の威光の右です。いと高き所にある、神の永遠の御座においてです。

御使いたちは、被造物の序列において人間より上に立っています。けれども今や、**人**となられたイエスは、彼らよりも大きく、力ある方となられました。この方は、よりすぐれた名を受けられました。人としてです。この名は、この方ご自身を表しています。御子を表しているのです。この名によって、この方はすべての御使いにまさっておられます。

私はこのことを、聖なる書物からの七つの引用によって証明しましょう。この方は、神からよりすぐれた地位と名を受けられました。なぜなら、神はかつて御使いの誰かに対して、詩篇2篇でメシアなる王について言われているように、「あなたはわたしの子。わたしが今日、あなたを生んだ」と言われたことがあったでしょうか。いいえ！この方、御子には始まりがなく、また造られたのでもなく、比類のない仕方での世に生み出されたのです。ヤハウェの、人知を超えた受肉、人となられたこととしてです。

あるいは、サムエル記第二7章で、ダビデの子孫について「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる」と言われていることはどうでしょう。この二つのことばは、その預言的な広さと深さにおいて、ただイエスにおいてのみ成就します。これらのことばは、時を超えて真実です。とりわけ、この方が人となられたことを指し示しています。けれども、この方の復活と、全宇宙の王への高挙をも指し示しているのです！

神は、ご自分の比類のない御子イエスを、天の御座から再び目に見える世界へ、人の住む地へと導き下されます。すべての人がそれを見るでしょう。そして神のすべての御使いたちは、この方の前にひざまずき、この方に臣従を

誓い、榮譽と礼拝をささげるのです。最初に来られたときにも、まったく同じでした——イエス、子なる神が人となられたときです。

御使いたちについて、神は詩篇104篇でこう言われます。「わたしは御使いたちを風とし、彼らを遣わす。彼らはわたしのしもべであり、わたしは彼らを燃える炎とする。」けれども、ご自分の御子については、まったく別のことを言われます。なぜなら、この方、長子は、造られたのではなく、一度も始まりを持たれたことがないからです。詩篇45篇のことばによって、御子イエスについてこう言われています。「神よ、あなたの王座は堅く立ち、すべてのものの上にあります。始まりもなく終わりもなく、世々限りなく。王笏、あなたの統治の杖は義です。あなたの王の支配は正しいのです。」なぜならイエスは、その地上の生涯において、神の義を何よりも愛し、不法を憎まれたからです。それゆえに、神は**この方**に、喜びと歎声の油を注がれました。神はこの方を王として召されたのであって、ほかの誰でもありません。御使いでもありません。この方こそ油注がれた者、メシア、キリストです。」そして**私たち**こそが、この方の仲間なのです。御使いたちではありません！

御子について、神は詩篇102篇のことばによってこう言われます。「あなたは初めに宇宙を造られました。それはあなたの力ある御手のわざです。けれども、それは滅びます。しかし、あなたはとどまられます。すべては古び、朽ちていきます。着古されて巻かれ、取り替えられる外套のように。宇宙は、崩れ去ってしまわないように、変えられ、取り替えられるのです。それは御子によって新しくなります。けれども、あなた、御子は、同じ方、変わることはない方です。あなたの年は尽きることがなく、決して新しくされる必要がありません。」

神はかつて御使いの誰かに対して、詩篇110篇のことばを語られたことがあったのでしょうか。「わたしとともに王座に着きなさい。そして確信していなさい。あなたがすべての敵を足台のように足の下に置く日が来る。」この方が榮譽の座を受けられるのです。この方が治められるのです。御使いたちではありません。

御使いたちは、今もこれからも、霊的な存在です。仕えるために造られたのです。そうです、彼らは、完全な救いを待っている人たちを助け、支えるために存在しています。彼らは、御子の永遠の王の支配へと、そして神の永遠の安息へと至る困難な道の途上にある人たちを助けるのです。御使いたちはこれまでも、しばしば信じる者たちに仕えてきました。イエスにもそうしたようにです。

第2章

私たちはこの大いなる目的地へと向かう途上にあるのですから、福音で聞いたことに、よく注意を払わなければなりません。そうでなければ、私たちは港にたどり着けない船のようになってしまいます。目的地を通り過ぎて流されてしまうのです。信仰において難破してしまうのです。

私たちヘブル人には、モーセの律法が、シナイ山で御使いたちを通して与えられました。御使いたちの天の会議の前です。そして、それらのことばは明確でした。それを行う者は生きる。それを行わない者は死ぬ。私たちが行うすべてのことには、正しい報いがあります——御使いたちを通して私たちに与えられた律法に基づいてです。けれども、もし私たちが、大いなる救い、**御子**による救いを軽々しく見過ごし、危険にさらし、そうです、軽んじるなら、どうなるでしょうか。そのとき、どうして神の正しいさばきを逃れることができるでしょうか。そのとき、どこへ逃げることができるでしょうか。

この救いは、私たちの主イエスによってもたらされ、始まりました。この方は御国の福音を宣べ伝えられました。死と復活の後、この方は弟子たちに、成し遂げられた大いなる救いを至る所で宣べ伝えるよう命じられました。彼らは私たちにも、イエスが始められた御国と救いの良い知らせを確かなものとしてくれました。神ご自身が、今日に至るまで、超自然的なしるしと不思議によって、この知らせを確証してこられました。神は今もそうしておられます。聖霊を注ぐことによって、また並外れた力あるわざによってもです。このことばが宣べ伝えられ、信じられたところ、また今そうされているところではどこでも、神の王国の力が働いています。これらの出来事は、この知

らせが神ご自身から来ているという以外の結論を許しません。この**御子の**ことばに注意を払いなさい！この方は最後の、しかし同時に最も偉大な預言者でした。この方は御子なのですから。

神はかつて地を人間の支配の下に置かれました——御使いたちの支配の下にはありません。来たるべき世界をも、神は御使いたちに委ねたり、相続財産として与えたりはされませんでした。詩篇8篇にこうあります。「人とは何者なのでしょう。あなたが心に留められるとは。人の子とは何者なのでしょう。あなたが顧みてくださるとは。あなたは、人を御使いたち——エロヒム、造られた神の子ら——よりわずかに低いものとし、栄光と誉れの冠をかぶらせ、万物を彼の足の下に置かれました。」神が御子に、メシアなるイエスに、すべてを委ね、従わせられたのなら、この方に従わないものは何一つ残っていません。御使いたちもそうです。すべてはすべてです。比類のない、比べるもののない、油注がれた人イエスは、人々とともに、ご自分が贖い、召された仲間である私たちとともに、来たるべき世界を治められます。御使いたちさえも治めるのです。

もっとも、イエスのこの全宇宙的な王の支配を、その想像を絶する広がりにおいて、私たちはまだ見ることも体験することもできません。けれども、いつの日か、その時が来ます。この方の時が来れば。けれども私たちが今すでに、信仰により、心の目で認めているのは、次のことです。イエスは、地上の生涯の間、人として御使いたちよりも低くなられた方です。すべての人のために死を味わい、暴力的な死のあらゆる苦さを味わわれた方です。私たちすべてのためにです。こうして神の恵みが、被造物全体に及ぶためです。そして、この方が不可能なことを行い、十字架につけられることを受け入れ、死なれたからこそ、この方は今、神の栄光と誉れをまとい、そうです、栄光の勝利の冠をかぶせられているのです。

それはまた、まったく神のみこころにかなったことでした——万物はこの神によって、この神のために造られたのです——この方、メシアなるイエスを、地上での苦しみを通して完全な者とする。大祭司としての職務と奉仕のために完全な者とする。この大祭司については、これから詳

しくお話しします。この方、イエスこそ、私たちの救いの創始者、先導者、
そうです、救いの船長です。そのような方として、この方は私たち、多くの
息子たち娘たちを、とどまることなく、勝利のうちに、以前は私たちに閉ざ
されていた天の栄光へと導いてくださるのです。

キリストは私たちを聖なる者とし、神のもとへと導き出してくださいまし
た。すべては神から出ています。神はご自分の御子を、人として地上に生ま
れさせられました。私たち、神の息子たち娘たちと同じようにです。だから
メシアは、**人として**、序列において人間より上に立つ御使いたちの前で、私
たち**人間**をご自分の兄弟姉妹と呼ぶことを恥とされないのです。御使いたち
の天の会議、エロヒムの会議の中で、この方は詩篇22篇が言うとおり、大胆
に告白されます。「神よ、わたしはあなたの栄光の御名を、わたしの兄弟姉
妹たちに告げ知らせます。御使いたちの天の会議の真ん中で、わたしはあな
たへの賛美を歌います。」また別の箇所ではこう言われています。「わたし
はこの方に信頼を置く。この新しい家族を望まれた神に。」十字架の上で、
人々は、救われないなら神に信頼すればよいとあざけりました。この方はご
自分の神に信頼されましたが、それでも死なれました。けれども、イザヤ書
8章が言うとおり、これこそがすばらしい結果なのです。「見よ、わたしと、
神がわたしに兄弟姉妹として与えてくださった子どもたち。」メシアは私た
ちすべてを、ご自分の大きな、そうです、数えきれない人間の家族を、天の
会議に紹介し、ご自分が永遠に私たちと結ばれたことを宣言し、祝われるの
です。

どうしてそうなったのでしょうか。どうしてそれが可能だったのでしょうか。
この方、ナザレのイエスは、完全に人となられました。この方は、私た
ちの人間としての、死ぬべき存在を完全にご自分のものとされ、私たちと同
じものとなられました。ただし、罪を除いてです。

私たち人間は、来る日も来る日も、死と死の恐怖の支配下にありました。け
れどもこの方は、死の力を持つ悪魔に打ち勝つために来られました。死と恐
れの力を打ち砕くために来られたのです。罪と違反によって、私たちは律法
による死の宣告の下にあります。そして悪魔、告発者は、この判決を盾に取

っています。けれどもキリストは、ご自分のいけにえの死によって私たちを解放してくださいました。ご自分の死によって、私たちの罪の身代金を支払ってくださったのです。こうしてこの方は、決して満たすことのできない律法の下で、一生の間、良心の苦しみと死の恐怖の中にあったすべての人を解放することがおできになったのです。今や、私たちの救いの先導者イエス・キリストに従うすべての人にとって、死の力は打ち砕かれ、無力になっています。私たちの救いの船長は悪魔に打ち勝ち、その力と武器を奪い取られました。この方のうちに、罪と死からの自由があるのです！

この方が目指されたのは、御使いたちの救いではありませんでした。この方は御使いではなく、人となられたのですから。この方は子孫、アブラハムの子孫を心にかけておられるのです、ヘブル人よ。あなたがたのことであり、また信じるすべての人のことです。なぜなら、アブラハムにおいて、祝福は諸民族にも約束されていたからです。そして信じる者は皆、アブラハムの子どもなのです。

ですから、もう一度言います。イエスは、すべての点において——もちろん罪は別として——ご自分の兄弟姉妹と同じようにならなければなりません。そうしてはじめて、この方は神の前で私たちのための、あわれみ深く、共感してくださる、忠実な大祭司となることがおできになったのです。この方は私たちのために何をしてくださったのでしょうか。この方は私たちの罪を取り除いてくださいました。取り去り、終わらせてくださったのです。それは——イエスを指し示すひな型として——エルサレムの神殿で、イスラエルの民のために行われていたことです。けれども、この方こそ、その成就です。この方は私たちの罪の赦しを勝ち取ってくださいました。完全に、ただ一度で永遠に。

この方は、私たちの罪の問題のために**大祭司**となられただけではありません。いいえ、私たちが目的地に着くまで、ずっと大祭司であり続けてくださいます。この方は、信仰の道を歩む私たちを助けてくださいます。神の前で私たちのためにとりなしてくださいます。私たちのために祈ってくださいます。私たちは弱く、私たちを道からそらそうとする誘惑と迫害に囲まれている

るからです。これらの苦しみ、迫害、苦難を、この方ご自身が体験し、耐え忍ばれました。私たちがいつか体験するであろうよりも、はるかに激しくです。すでに言ったように、そのことが、この方をこの大祭司としての奉仕にふさわしい者としたのです。この方が私たちに共感し、助け、私たちのかたわらに立つことができるようにです。もしこの方が人とならなかったなら、起こったことを体験し、耐え忍ばなかったなら、このような大祭司には決してなれなかったでしょう。

第3章

ですから、聖なる人たち、贖われた信仰の兄弟姉妹の皆さん、信仰によってイエスを見つめなさい。この方に集中しなさい。この方こそ、私たち的大祭司であり、神の使徒です。大祭司として、この方は私たちのために神のもとにおられます。使徒として、この方は神のために私たちのもとにおられます。あなたがたは皆、福音を通しての神の召しの仲間であり、それにあずかる者です。神の召しは、天からあなたがたのもとにきました。そして神は、あなたがたをそこへと召しておられるのです——ご自分の天の聖所へと。

イエスは、ご自分をこの奉仕と職務に任命された方に忠実でしたし、今も忠実です——モーセが、古い神の民であるイスラエルという、自分の家全体において忠実であったようにです。けれども、イエスはモーセよりも大きな榮譽を受けておられます。家を建てる人が、自分の建てた家よりも大きな榮譽を受けるのと同じです。もちろん、どの家も誰かによって建てられます。けれども、すべてを建てられたのは神ご自身です。イエスは、すべてを、つまりモーセとその家をも造られた神なのです。

モーセは、この家における奉仕において忠実でした。それは、あなたがたに宣べ伝えられたことのひな型であり、証しでした。それはキリスト、御子です。この方はこの家の**上**に立っておられます。モーセとは違います。モーセはこの家の**中**のしもべにすぎませんでした。キリストが造られ、キリストのものである家、それは私たちです。この方の家族、神の娘たち息子たちなのです！

けれども、気をつけなさい！あなたがたがそうであるのは、私たちが誇りとすることのできる、喜びに満ちた確信と希望を**しっかりと保ち**——同時に、生涯の終わりまで、あるいはメシアの栄光の来臨まで、揺るがずにいる場合だけなのです。

聖霊は詩篇95篇でこう語っておられます。「今日、神の声が響くとき、よく耳を傾け、神の言われることを行いなさい。心をかたくなにするのではなく。荒野での試みの日々に、苦々しい反逆のときにそうであったように。あのとき、あなたがたの先祖はわたしを試みた。わたしに挑み、疑いながら試したのだ。四十年の間、わたしの真実と配慮を見ていたにもかかわらず。それで、わたしはこの世代に対して怒った。わたしは言った。彼らはいつも心が迷っている。彼らはわたしの良い道を決して知ることがなかったし、知ろうとしなかった。そこで、わたしは聖なる怒りのうちに誓った。エジプトを出たこの世代は——ヨシュアとカレブを除いて——わたしの安息、約束の地カナンに入ることはない、と。」

まさにそれゆえに、自分自身に気をつけなさい。誰一人として、そのような悪い心を持つことがないように。不信仰に満ち、生ける神とメシアから離れ去ろうとする心です。この神とその恵み深さを、あなたがたはメシアなるイエスを通して知り、体験してきました。ですから、この危機的な、試みの多い時代に、日々互いに励まし合いなさい。絶えずそうしなさい。あなたがたの誰一人として、罪の欺きに目をくらまされ、不信仰へと惑わされ、かたくなにされることのないようにです。信仰を捨てれば安息が見つかると思うのは、欺きです。思い起こしなさい。私たちは永遠に、メシアなるイエスの仲間、本当の兄弟姉妹のようになったのです。それ以上のことがあり得るのでしょうか。だからこそ、決然と信仰の道を進み続ける価値があるのではないのでしょうか。初めに持っていた信仰の確信を、終わりまで揺るがずにしっかりと保つときにだけ、私たちはすべてを真実で現実のものとして体験するのです。そして、信仰を捨てないときにだけです。神の安息へと至る旅に、近道はありません。

神の警告はこうです。「今日、そうです、いつでも、わたしの声を聞くなり、あの苦々しい反逆のときのように、心をかたくなにしてはならない。」あのとき心をかたくなにし、神を挑発したのは誰だったのでしょうか。モーセに従ってエジプトを出たすべての人ではなかったのでしょうか。神は誰に対して怒られたのでしょうか。四十年もの間。罪を犯し、そのしかばねが荒野に横たわったままになったすべての人ではなかったのでしょうか。神は、どのイスラエル人に対して、ご自分の安息に入ることはないと言われたのでしょうか。まさに、不従順で、神に対して心をかたくなにした人たちに対してです。彼らが不信仰のゆえに約束の地に入ることができなかったことを、私たちははっきりと見ています。

第4章

ヘブル人よ、そして私の手紙を聞き、読むすべての人たちよ。神が私たちに約束してくださった神の安息に、本当にたどり着くことができるよう、真剣に心を配ろうではありませんか！そこへ向かう途上で、後戻りしてはいけません。そして何よりも、最後に目的地を外してはいけません。私たちには、来たるべき神の安息についての良い知らせが宣べ伝えられました。あのとき、偵察に行った者たちによって、豊かなカナンの地について彼らに伝えられたのと同じようにです。けれども、カナンのすばらしさについての知らせは、彼らには何の役にも立ちませんでした。彼らはそれを信じなかったからです。私たち、メシアについての知らせを信じるすべての者は、天の安息に入るのです。けれども、あのときはまったく違いました。彼らは、神が約束された安息に入りませんでした。何度も何度も心をかたくなにし、神に信頼しなかったからです。

初めから、神は、なお一つの安息があることを示しておられます。神の創造のわざは、初めにすでに完成していたにもかかわらずです。だからこそ、彼らは信じるべきだったのです。モーセはこう言いました。「神は第七日に、そのすべてのわざを終えて休まれた。」けれども、ここではこう言われています。「彼ら、エジプトを出た世代は、決してわたしの安息に入ることはない。」けれども私たちには、信頼するかぎり、安息に入ることが約束されて

います。けれども、あのとき良い知らせを聞いた人々は、その不従順のゆえに安息に至りませんでした。けれども神は今、エジプトからの脱出のずっと後に、改めて新しい恵みの日を定められました——新しい「今日」です。神はダビデを通して、詩篇95篇で、先ほど引用したとおり、こう約束されます。「今日、もしあなたがたが神の声を聞くなら、心をかたくなにすることはしない。」なぜなら、もしモーセの後継者でありイスラエルの指導者であったヨシュアが、あの世代を最終的な安息に導き入れていたなら、神は今、別の安息について語られることはないはずだからです。ですから、神の民のためには、今もなお、来たるべき安息日の休みが残っているのです。創造の第七日である安息日も、カナンの地も、神の最終的な安息をもたらさしませんでした。再び来られるメシアなるイエスによって、この方のいけにえと、この方の統治によって初めて、神の最終的で永遠の安息日の休みが現実となるのです。なぜなら、いつかこの安息日の休みに、この神の平和に入った人は、神ご自身と同じように、自分のわざを終えて休むようになるからです。初めに見られたのと同じようにです。

ですから、確信をもって、神の安息に入るために全力を尽くそうではありませんか。私たちの誰一人として、あのときの人々のように、そこへ向かう途上で倒れることのないようにです。問題は、残念ながら私たちが日々犯してしまう罪のことではありません。大切なのは、あなたがたがキリスト、メシアを信じ、この方にしっかりとつかまっていることです。この方を手放してはいけません。この方があなたがたをしっかりとつかんでいてくださいます！

神は私たちを、一人ひとり、本物の信仰を持っているかどうか吟味されます。神は書き記されたみことばによって私たちを吟味されます。このことばは生きており、それゆえに力があります。それは、まるで神が直接、個人的に私たちに語りかけておられるかのように、私たちに語りかけます。しかも神のことばは鋭く、そうです、両刃の剣の刃よりも鋭いのです。それは私たちの最も奥深い魂の生にまで入り込むからです。それは私たちの最も深い思いの世界と心の姿勢をさばき、あらわにします。この剣は、比喩的に言えば、たましいと霊とを、関節と骨髄とを切り分けることができるのです。こ

うして私たちは、自分自身をはるかによく理解し、評価することができます。また危険を見分け、このことばの力によってそれを打ち砕くこともできます——あるいは、ただそれを避けることもできるのです。

大いなる被造世界の中で、創造主が見ておられないものは何一つありません。どんな被造物も、ただ一人の人間も、神から身を隠したり逃げたりすることはできません。すべてのものは、神の前に裸のようです。私たちは神をごまかすことはできません。神はすべてを見ておられます。被造物として、私たちはこの方に対して責任があり、いつの日か申し開きをしなければならないのです。

これが神の本質であり、現実です。そして、そのために今、私たちが大きな恐れを抱いてもおかしくないとしても、私たちは安心して、勇気をもって進み続けてよいのです。なぜなら私たちには——イスラエルと同じように——大祭司がいるからです。けれども、古いあり方においてではありません。私たちの大祭司は、もろもろの天を通して上られました。そうです、神の天の御座にまでです！天の、永遠の聖所へと。この方は私たちのすべての罪を贖ってくださいました。まさにそれゆえに、私たちはイエスについての信仰告白をしっかりと保つのです！私たちの大祭司は、私たちの弱さ、私たちの恐れや心配、私たちの疲れや無力感、そして疑いやあきらめをも理解することがおできになります。この方は私たちとともに苦しみ、ともに感じてくださいます。この方は、ほかの誰にもできないほどにそうすることがおできになります。なぜなら、この方は人としての全生涯にわたって、すべての点で私たちと同じように試みを受けられたからです。十字架の死に至るまで。この方は誘惑にさらされ、試されました。十字架と恐ろしい苦痛を拒み、十字架のない楽な道を選ぶよう誘惑されたのです。けれどもこの方は耐え抜かれました。私たちとは違って。この方は決して罪と不信仰に屈することがなかったからです。この方は罪のないままであり、罪を犯されませんでした！

ですから、勇気と確信をもって神の前に進み出ようではありませんか。私たちがどこにしようとも。なぜなら、私たちをご自分の兄弟姉妹と呼んでくださる神の御子が、いつも**私たちのために**神の御座のもとにおられるからで

す。この方は私たちを、大胆に**恵みの御座**に来よう招いておられます。この天の御座の前に、すべての心配、恐れ、不安、疑いを広げようではありませんか。感謝しましょう。礼拝しましょう。そこ、恵みの御座のもとで——信仰と聖霊のうちに——時を過ごしましょう。安らぎを得ましょう——そして神の平安を見いだしましょう。この方に耳を傾けましょう。

この方の御座は、私たちにとって告発の場所では**ありません**。恵みの場所です。そこで私たちは歓迎されています。待たれているのです。そこから私たちは、あわれみと恵みを受けます。しかも、まさにそれを必要とするときにです。神はいつも、私たちの願いと嘆願に答えてくださいます。私たちにとって良いように。けれども、神の時にです。ちょうど良い時に！決して遅すぎることはありません！私たちの助けは、天と地を造られた神から来るのです。

第5章

大祭司は、人々のために神の前に立つよう、人々の中から選ばれます。彼は人々のために、ささげ物といけにえを祭壇に携えて行きます。イスラエルの民の罪のためにです。彼自身、無知な人や迷っている人、つまり罪を犯した人たちに対して寛容であり、彼らを理解します。彼自身もまた弱い人間だからです。ほかのすべての人と同じように罪を犯す者です。それはつまり、彼は自分自身のためにもいけにえをささげなければならない、ということです。

イエスの場合は、まったく違います。この方は人々によって大祭司に定められたわけではありません。神によってそれに召されたのです。初めのアロンの場合のように。キリストについて、詩篇2篇はこう言っています。「あなたはわたしの子。わたしが今日、あなたを生んだ。」詩篇110篇では、神はこの方についてこう言われます。「あなたはとこしえに祭司である。アロンのようにではなく、メルキゼデクのように。」

この方の地上の生涯は、どのようなものだったのでしょうか。何がこの方を大祭司にふさわしい者としたのでしょうか。アロンになかった何を、この方は持っておられたのでしょうか。この方の生涯は祈りに満ちていました。ご自

分を死から救い出すことのできるただひとりの方への、願いと嘆願に満ちていたのです。イエスは、叫びと涙をもって、ご自分の神に嘆願さえされました。それほど深く、重く、苦しみがこの方を打ったのです。この方の祈りは聞き届けられました。この方がただ神にだけ信頼し、ただ神にだけ従われたからです。そして何にもまさって神を恐れ、敬われたからです。しかも、この方は永遠の御子であり、そうです、神——父と等しい方であったにもかかわらずです。人となられる前、この方はこの従順を知りませんでした。それはこの方にとって新しいことでした。人として、この方は従順を学ばれたのです。この方は、あらゆる苦しみ、抵抗、反抗にもかかわらず従順でした。これらの試練は無駄ではありませんでした。なぜなら、この方は今、目的地に着いておられるからです。完全な者とされて、神の御座に着いておられます。この聖なる生と死から、比類のないものが生まれました。この方の使命は成し遂げられました。敵対者たちにとって、この方は十字架刑のきっかけでした。私たちにとって、この方は永遠の救いのきっかけであり、根拠なのです。この方は、このようにして、最終的で、永遠で、すべてを包む救いを造り出されました。この方に従い、聞き従う**すべての人**のためにです。

まさにこのような祭司を、神は探しておられたのです！イエスは今、メルキゼデクのような祭司です。それが何を意味するのかについては、これからお話しします。この方が天へ、天の聖所へと上られたとき、神はこの方を厳かに迎え、栄誉を与えられました。神は次のことばでこの方を迎えられたのです。「あなたはメルキゼデクのような大祭司である。」こうして神はすべての者に、ご自分がずっと望んでおられたこの祭司を、今ついに得たことを知らせられたのです。そしてこの祭司とともに、この方が勝ち取った永遠の救いをも、ついに得られたのです！

これについては、まだたくさん言うべきことがあります。けれども、説明するのはそれほど簡単ではありません。なぜなら、残念ながら、あなたがたは鈍くなり、耳が遠くなってしまったからです。しかも、あなたがたはもうずっと前からメシアを知っているにもかかわらずです。**あなたがた**は、どうに教師になることができたはずであり、またそうなるべきでした。けれども、あなたがたは神のことばの初歩を、もう一度学ぶ必要があります。しかも基

礎から、まるで初めて聞くかのようにです。あなたがたには、きちんとした食べ物の代わりに、小さな赤ん坊のように乳を与えなければなりません。——比喩的に言えば——まだ乳を飲んでいる人は皆、経験のない者です。ただキリストによってのみ与えられる神の義のことばを、その人は本当には知りません。それをわかりやすく人に伝えることもできません。その人は、小さな、まだ一人前でない子どものようです。

ちゃんとした食事は、信仰において大人になった人、霊的に成熟した人のためのものです。彼らはそれに慣れていて、それゆえに、善と悪、誤りと正しさを見分けることに習熟しています。彼らは、迫害と拒絶の中にあっても、どのように、そしてなぜイエス・キリストとその福音にしっかりとつかまっているのかを知っているのです。

第6章

それでも私は、今また最初から始めることはしません——掛け算の九九のようには。あなたがたはそれを予想していたでしょう。いいえ。私たちは前進し、大人にならなければなりません。私は、正しく大切ないくつかのことに触れるだけにします。それらは、あなたがたがメシアを知る前から、すでになじみのあるものでした。けれども、メシアを通して、あなたがたははるかに多くのものを受けたのです。天に上り、神の御座に着いておられる方の、あらゆる豊かさを**つかみ取り**なさい。この方はすべてを成し遂げ、同時に私たちにあふれるほど豊かに与えてくださいました。ですから、同胞たちも信じているこれらの古くからなじみのある事柄の陰に、同胞たちの前で身を隠してはいけません。反対されないようにと。

いくつかの初歩の教えを、私たちは今はもう後にして、また最初から始めることはしないようにしなければなりません。救うことのできない、死んだ無益な行いや儀式からの悔い改め。神への信仰。洗いについての教え、あるいは手を置くこと。あるいは、死者の復活と永遠のさばきについての教え。神が時と機会を与えてくださるなら、これらについてもまた話しましょう。けれども今大切なのは、私たちの天の大祭司の偉大さと、この方が成し遂げ、私たちのためにしてくださっていることを知り、しっかりと保つことです。

残念ながら、メシアへの信仰から再び離れ、ユダヤ教に戻っていく人たちがいます。しかも、彼らはかつて照らされ、メシアを知り、聖霊という天の賜物を具体的に体験し、そうです、味わったにもかかわらずです。神の言葉を聞き、それを理解したにもかかわらずです。彼らは、神の来たるべき新しい世界の不思議なわざを見て、ともに体験することさえできました。それでも彼らはキリストから離れ去りました。それは、まるで彼らが——あのときのように——自分自身のためにもう一度メシアを十字架につけたかのようです。そして、そのことを、イエスを拒んでいる同胞たちに知らせているかのようです。信仰を捨て、律法の下での生活と死んだ行いに戻っていくこのような人々にとって、キリストの自由と恵みを再び見いだすことは、ほとんど不可能なのです。

信仰の生涯、そしてまたキリストからの離反をよく表す一つのたとえがあります。畑の土は、しばしば雨と神の祝福を受け、日の光と雨のおかげで、役に立つ、食べられる野菜を生み出します。けれども、同じ畑の土が、雨を受けながらも、いばらとあざみしか生やさないこともあり得ます。そんなものは誰も必要としません。それどころか、人を傷つけることさえあります。ですから、いばらとあざみは良いしるしではありません。むしろ一種の呪いです。最後には、すべてが焼かれてしまいます。キリストから離れ去る人は、いわばこの土地のようなものです。受けた祝福にもかかわらず、もしかするとかつては良い実を結んでいたにもかかわらず、今はもう雑草しか生み出さないのです。

神に愛されている信仰の兄弟姉妹の皆さん。私は今、あえてこれほど誤解の余地のない、厳しい言い方をしています。けれども、あなたがたのうちには、良い実が見えています。主の救いは、あなたがたのものです。神が不正な方であって、あなたがたが神と聖徒たちのためにしてきたことをお忘れになるなどということが、どうしてあるのでしょうか。あなたがたは神の御名を、メシアを愛しています。それは、あなたがたの行いに、神と聖徒たちへのあなたがたの奉仕に見て取ることができます。私は、あなたがた一人ひとりが、このような熱心さを示すことを願っています。それによって、信仰の確信と、終わりまで希望にしっかりとつかまっていることがわかるのです。

そうすれば、あなたがたは鈍くなりません。ですから、信仰と忍耐によって神の約束を受け継ぐ人たちに倣う者となりなさい。

アブラハムの場合もそうでした。神は彼に約束を与え、ご自分にかけて誓われました。「わたしは必ずあなたを豊かに祝福し、あなたを大いに増やす。」そして、アブラハムは忍耐したので、約束を受けたのです——すべてがそれに反するように見え、それが成就するまでに長い時間がかかったにもかかわらずです。人は自分より大いなるものにかけて誓いますが、神はご自分にかけて誓われます。誓い、すなわち宣誓は、あらゆる反論に終止符を打つものです。

こうして神は、約束の相続人——それがあなたがたです——に対して、ご自分にかけて誓いによって、ご自分の計画が変わらないことを証明し、保証されました。こうして私たちは、二つの揺るがないもの——すなわち神の誓いと約束——によって、自分たちが目的地にたどり着くという力強い慰めを得ているのです。神は偽ることがおできになりません。私たちは神のもとに、私たちのメシアのもとに、逃げ場を求めました。この方は私たちに新しい希望を与えてくださいました。それは私たちの信仰を、前方にあるもの、必ず成就するものへと向けさせます。この希望は願望の夢ではなく、幻想でもありません。それは私たちにとって、確かに堅固な錨のようなものです。私たちの最も奥深いところは、天と結ばれています。**希望の錨**は、私たちのうちにではなく、天の聖所の最も奥に下ろされているのです。神の御座のもとにです。なぜなら、イエスは私たちのためにそこへ入って行かれたからです。私たちの先駆けとして。いつの日か、私たちもそこへこの方に従って行くのです。それが私たちの約束です。それが私たちの希望です。神はそう誓われたのです。そうです、この方は、メルキゼデクのような私たちの大祭司となられたのです。

第7章

では、この**メルキゼデク**とは誰なのでしょう。彼はエルサレムの王でした。アブラハムの時代のことです。彼はまた、いと高き神の祭司でもありました。彼は祭司であり王でした。彼は、アブラハムが、甥のロトを連れ去っ

た王たちに勝利して帰って来たとき、アブラハムを出迎えて祝福しました。創世記14章にそう記されています。

アブラハムは彼に、戦利品の十分の一を与えました。メルキゼデクという名は、訳すと「義の王」という意味です。サレムという町の名も平和を意味します。つまり、彼は義の王であり、平和の王なのです。彼について、私たちは父も母も知りません。彼に祭司職の資格を与えるような系図も知りません。私たちは彼を神の御子になぞらえます。彼はメシアのすばらしいひな型なのです。メルキゼデクについて、私たちは彼の生涯の始まりも終わりも知りません。神の御子、メシアについても同じです。メルキゼデクのように、この方はとこしえに祭司なのです。

私たちの父祖アブラハムが、戦利品の十パーセントをさえ贈ったこの王は、どれほど偉大だったことでしょう。レビの子ら、すなわち祭司たちも、律法によって、自分たちの生活のために、兄弟たち、つまり同胞たちから十パーセントを受け取る権利と義務を持っています。しかも同胞たちは、祭司たちと同じようにアブラハムの子孫であり、それゆえに皆、同じ段階に立っているにもかかわらずです。メルキゼデクはアブラハムの親族でさえないのに、彼から十パーセントを受けたのです。それから彼は、——すでに言ったように——約束を受けていたアブラハムを祝福しました。ここで私たちが注意しなければならないことがあります。いつも、低い者が高い者から祝福されるのです！ですから、アブラハムはメルキゼデクを敬ったのです！

レビ人たち、つまり死ぬべき人間たちが十パーセントを受け取ります。その意味では、十分の一を受け取る者であるレビでさえ、それをメルキゼデクに納めたことになります。なぜなら、レビは、まだ生まれていなかったとはいえ、父祖がメルキゼデクに出会ったとき、父祖を通して間接的にそうしたからです。

では、なぜなお別の祭司、メルキゼデクのような祭司が必要なのでしょう。もし罪の赦し、完全さ、そして聖所へのすべての人の自由な立ち入りが、レビ人の祭司職によって保証されているはずだとしたら！モーセの律法

に基づいてです。神が祭司職を変えられるなら、この律法もまた変えられなければならないのではないのでしょうか。

まさにそのことを、私たちはイエスについて言っているのです。この方はレビ族の出ではありません。この方はユダ族の出です。この部族については、モーセは祭司の務めとかかわることを何も語っていません。今、実際にメルキゼデクのような祭司が立てられるとなれば、すべてはさらに明らかになります。レビ人の祭司は、人間の血統の規定という律法に従って召されます。けれどもイエスは、朽ちることのないのちの力によって召されるのです！ キリスト、御子について、神は比類のない仕方でごう証しされます。あなたこそ——ほかの誰でもなく——メルキゼデクの位に等しい祭司である。

こうして、祭司職についての該当するモーセの戒めは、その弱さと無益さのゆえに無効とされます。律法は完全さへと導きませんでした。それに対して今、——この新しい祭司によって——よりすぐれた希望がもたらされるのです。この希望によって、私たちは今、皆、神に近づくのです。

この方が祭司に任命されたことは、神の誓いを伴っていました。レビ族の者たちの場合は、そうではありませんでした。イエスについては、神がこう言われるのを私たちは聞きます。「主は誓われた。そして決して悔やまれることはない。あなたは、メルキゼデクのような、永遠の祭司である。」この地位と役割において、イエスはまた、よりすぐれた契約の保証人、そうです、その保証であり確かさとなられたのです。これについては、このすぐ後で詳しくお話しします。

レビ人の祭司職では、祭司が次から次へと交代しました。彼らは皆、いつかは死んだからです。けれども、この方は永遠にとどまられます。この方の祭司職は変わりません。また、ほかの誰かに引き継がれることも、もはやありません。この方の祭司としての奉仕は決して中断されることも、終わることもないので、この方はすべての人を完全に救い、目的地へと導くことができになるのです。この方を通して、祈りと礼拝のうちに神に近づくすべての人をです。この方はいつも生きていて、神の御座のもとで彼らのために力を尽くし、彼らのために祈っておられるのです。

まさにこのような大祭司こそ、私たちに必要でした。私たちを正しく代表することのできる方です。この方のように聖く、罪がなく、汚れのない方です。罪人たちから離され、今や天よりも高くされた方です。そして神の御座に着いておられる方です。それ以前のすべての大祭司たちのように、まず自分自身の罪のために、それから民の罪のためにいけにえをささげる必要のない方です。いいえ、この方はご自分のためにいけにえをささげられたのではありません。民のために、ただ一度で永遠に、十字架の上でご自身をささげられたのです。

モーセの律法は、弱さを持つ人間を大祭司に任命します。罪を犯す者たちです。そして死ぬ者たちです！けれども、律法が与えられた後に初めて来た、神の誓いのことばは、**御子**を任命します。この方は、この奉仕のために完全な者とされました。その生涯と、その死と、栄光の戴冠によってです。永遠にわたってです。

第8章

私たちが言っていることの要点は、こうです。私たちには、天の玉座の間に着座された大祭司がおられます。神の威光の右にです。この方は、まことの聖所に仕える方です。かつて人間が建てたものではなく、主ご自身が造られたものに仕える方です。

どの大祭司も、ささげ物といけにえをささげるために任命されています。その奉仕を行うためには、それらを持っていなければなりません。もしキリストが地上におられたなら、この方は祭司であることさえできなかったでしょう。律法に従ってささげ物をささげるレビ人の祭司たちが、すでにいるからです。このレビ人の奉仕と彼らの幕屋の聖所は、天の現実を写し出しています。地上の祭儀と聖所の全体は、天にあるものの影なのです。モーセがこの幕屋を張ったとき、神の指示は彼にこうでした。「わたしが山であなたに示したとおりに、すべてを整えるよう気をつけなさい。」

私たちの大祭司の奉仕は、なんとまさっていることでしょう！この方はそのうえ、新しい契約の仲介者ともなわれました。この契約は、はるかにすぐれた約束に基づいて、私たちのために立てられました。もし最初の律法の契約

に欠けがなかったなら、第二の契約が求められることは決してなかったでしょう。なぜなら、あのとき、エレミヤ書31章で、主はご自分の民を責めながらこう言われたからです。「見よ、その日が来る。そのとき、わたしはイスラエルの家とユダの家と**新しい契約**を結ぶ。それは、わたしがあなたがたの手を取ってエジプトから導き出した日に、あなたがたの先祖と結んだ契約とは違うものになる。あなたがたはわたしの契約のうちに生きなかった。それで、わたしはもはやあなたがたを顧みなかった。」

しかし、これこそが、契約が破られたこれらの暗い日々の上に、わたしがイスラエルの家のために新たに立てる新しい契約である。わたしは、わたしの完全な律法を彼らの思いの中にしっかりと据える。そうだ、わたしはそれを彼らの心に書き記す。わたしは再び、彼らが知っている彼らの神となる。彼らはわたしの民となる。そのとき、彼らはもはや、隣人に「私たちの神、主を知りなさい」と教える必要はない。なぜなら、そのとき彼らは皆、小さい者も大きい者も、本当にわたしを知るようになるからだ。わたしは、彼らの過ちにもかかわらず、彼らにあわれみを示す。わたしは、もはや決して彼らの罪を思い起こさない。

神は**新しい契約**について語っておられるので、最初の契約を古いものとされたのです。古くなるものは、すたれていきます。それはまもなく永遠に消え去るのです。

第9章

最初の契約には、地上の聖所での礼拝についての細かな規定がありました。この幕屋の聖所は、次のようになっていました。最初の部分には、七つの枝のある燭台と、供えのパンの机がありました。そこが聖所でした。第二の幕屋、つまり第二の垂れ幕の奥にある第二の部分は、至聖所と呼ばれます。そのすぐ手前には、金の香の祭壇がありました。そして至聖所には、契約の箱がありました。木で造られ、全体が金で覆われた箱です。その中には、荒野でのマナの入った金のつぼがありました。そして、芽を出したアロンの杖。さらに、最初の契約の律法の板がありました。箱の上には、栄光のケルビム、すなわち金で造られた二人の御使いがいて、贖いのふたを見下ろしてい

ます。これらの細かなことはすべて、あなたがたがよく知っていることです。ですから、これ以上詳しく述べる必要はありません。

幕屋の聖所はこのように整えられ、区切られているので、祭司は毎日、最初の部分に入って奉仕を行います。第二の部分には、大祭司だけが入ります。年に一度だけです。彼はいけにえの血を携えて入ります。これを、自分自身のため、また民の罪のためにささげるのです。これによって聖霊は、最初の部分が直接の立ち入りを可能にしないかぎり、至聖所への道は開かれておらず、また知られてもいない、ということを明らかにしておられます。ですから、この奉仕全体が行われている時代は、救いと赦しという点から見れば無益です。なぜなら、どんなささげ物もいけにえも、良心を軽くすることはできず、ましてささげる人を完全にすることはできないからです。食べ物、飲み物、洗いは外面的なものであって、心を完全にしたり、きよめたり、変えたりすることはできないのです。けれども今、完全な良心、きよめられた良心、そうです、解き放たれた良心を持つことのできる時が来ました。

なぜなら、メシアが来られたからです。完全なものの大祭司です。その奉仕が完全さをもたらす方です。そう予告されていたとおりです。この方は、より大いなる、そうです、完全な聖所のために来られました。手で造られたものではありません。それはそもそもこの世のものではないのです。それはもはや、雄やぎや子牛の血とも何のかかわり也没有せん。なぜなら、ここで働くのはキリストの血だからです。ご自分の血が十字架の上で流され、永遠の贖いを成し遂げた後、この方は天に上げられることによって、天の聖所に入って行かれました。この方は、ご自分の流された血の力と、その変わることはない有効性のうちに入って行かれたのです。この方の血は、動物の血にはるかにまさっています。それは、限りなく大きな価値を持っているのです。

そして、この方は、地上の聖所の大祭司のように、再び聖所から出て来られることはありません。再び出て来る必要もありません。なぜなら、この方は私たちのために永遠の、完全な贖いを成し遂げてくださったからです。繰り返すべきことは何もないのです。

雄やぎと雄牛の血、そして、死人に触れた人々に水とともに振りかけられた若い雌牛の灰が、外面的に聖なるものとするのであれば——キリストの血は、どれほどまさって本当の聖めをもたらすことでしょうか。なぜなら、この方は神の永遠の御霊の力と導きによって、自ら進んでご自分を神にささげ、十字架の上でいけにえとなられたからです。しかも、何の汚れも、非難されるべきところもなくです。この方の血は、動物のいけにえの血のように外面的にきよめ、聖なるものとするものではありません。いいえ。それは、あなたがたの良心をきよめるのです！しかも、あなたがたを救うことはいないとあなたがた自身が知っている、死んだ無益な律法の行いからきよめるのです。自由にされ、きよめられた良心をもって、あなたがたはついに生ける神に仕えることができるのです。

この方は、神との新しい、第二の契約の仲介者となりました。この方が死なれ、最初の契約の下での違反からの私たちの贖いのために、ご自分をささげられたからです。この方、私たちの仲介者を通して、福音の召しを受け入れたすべての人は、約束された永遠の相続財産を受けることができます。契約の締結は、いけにえの死が起こって初めて効力を持ちます。いけにえの死と血がなければ、それは効力がありません。だからこそ、最初の契約、古い契約も、血によって成立させられたのです。モーセが民に契約のすべての戒めを読み聞かせたとき、彼はいけにえの血を、水と緋色の羊毛とともに、契約の書と民全体に振りかけました。出エジプト記24章が伝えているとおり、彼はこう言いました。「これは、あなたがたが今その義務を負う契約の血である。」けれども、律法の書と民だけが振りかけられたわけではありません。幕屋の聖所と祭儀の用具も、そうです、ほとんどすべてのものが血によってきよめられます。律法自身がそう定めているのです。したがって、**律法の下では**、血が流されることなしには、罪の赦しも、罪からのきよめもないのです。

天の聖所の写しである幕屋が、血によってきよめられることは必要でした。けれども、天の聖所のためには、はるかにすぐれたいけにえが必要でした。なぜなら、よく知られているように、キリストは、人間が建てた地上の聖所に入られたのではなく、直接天に、神の御座へと入られたからです。そこで

この方は、大祭司として私たちのために立っておられます。神の御顔の前で。

この方がそこに入られたのは、何度も何度もご自分をささげるためではありません。古い契約の下の大祭司はそうでした。彼は何度も何度も入って行きます。自分自身の血ではなく、動物のいけにえの血を携えて。この祭司といけにえの定めに従うなら、キリストは何度も苦しまなければならなかったでしょう。

いいえ、メシアは、神が定められた時に、一度、地上に現れられたのです。この方は、完全ないけにえとして十字架の上でご自分をささげることによって、罪の問題をただ一度で、最終的に解決するために来られました。しかも、人間には一度死ぬことと、その後に神のさばきの前に出ることが定まっているのと同じように、ただ一度で、取り消すことのできない仕方においてです。メシアは一度、そうです、ただ一度で永遠にいけにえとしてささげられました。多くの人の罪を身代わりに負い、消し去るためにです。

その後、この方はもう一度聖所から出て来られます。それは、その後再び罪の赦しのために入って行くためではありません。いいえ、この方は出て来て、ご自分を待ち望むすべての人のために現れてくださるのです。もう一度言います。罪の問題を解決するためではなく、ご自分に信頼する人たちを完全に救い、天の聖所へ、神の永遠の安息へと導き入れるためです。

第10章

いけにえの規定と幕屋の聖所の建造指示を伴う律法は、より大いなるものの影のようなものです。すなわち、キリストにおいて今や現され、到来した完全なものの影です。だから、何度も何度も、毎年、大いなる贖罪の日にささげられるいけにえは、決して完全にすることができないのです。民全体は、この日、赦しを期待して幕屋の聖所に来ます。もしそこに赦しと完全さがあったのなら、いけにえの奉仕全体はもう終わりにすることができたはずです。そうなれば、民も祭司も、赦されていない罪のことでもう良心を悩ませる必要はなかったでしょう。大いなる贖罪の日にも——そして別の機会にも——、雄やぎと雄牛の血が罪を取り除くことは**不可能**です。もっとも、毎年

の贖罪の日は、そのいけにえの儀式によって、何度も何度も罪を思い起こさせはしました！けれども、赦しについての変わることをない確信をもたらすことはできませんでした。せいぜい一年間の良心の平穏だったでしょう。

イエスはこの世に来られたとき、詩篇40篇のことばを指し示し、それがご自身によって成就することを告げられました。「神よ、動物のいけにえや穀物のささげ物を、あなたは本当は一度も望まれませんでした。けれども、あなたはわたしに一つのからだを備えてくださいました。全焼のささげ物や罪のきよめのささげ物は、本当にはあなたのみこころにないませんでした。そこで、わたしは言いました。わたしを見てください。わたしはあなたの救いのみこころを行うために来ました。それは、旧約聖書の巻物に、わたしについてすでに書き記されています。」これらの神のことばは、いけにえの規定を伴うモーセの律法よりもずっと後に来たものであり、何か新しい、はるかにすぐれたものを告知知らせています。

この方が「あなたはどのいけにえも喜ばれませんでした。そうです、それらをまったく望まれませんでした」と言われたとき（それらは神の律法に従ってささげられているにもかかわらず）——、神の心とみこころを理解しておられた御子は、こう言われたのです。「見てください。**わたし**が、あなたの救いのみこころを行うために来ました。」

こうして、この方は最初の契約とそのいけにえの奉仕を取り除き、第二の、新しい、永遠の契約を立てられます。なぜなら、メシアが実行し、成就された神の救いのみこころによって、私たちは聖なる者とされたからです。罪からきよめられたのです。ゴルゴタの十字架の上で、ただ一度ささげられたイエスのからだのいけにえによってです。

古い契約のどの祭司も、毎日**立つて**奉仕を行います。彼は何度も何度も同じいけにえをささげますが、それは決して罪を取り除くことができません。どうしてできるのでしょうか。ささげられた動物は、罪について何も知らないのです。けれどもキリスト、完全な祭司は、罪のためにただ一つのいけにえをささげられました。罪のない方であるご自身をです。この方のいけにえが、**すべて**を償ったのです。それを繰り返す必要はありません。だからこそ、こ

の方は永遠に**座に着かれた**のです。神の御座に。ご自分の御子のいけにえを祝われる神の右に。そこでこの方は、すべての敵がご自分に完全に従わせられるまで待っておられます。なぜなら、ただ一つの完全ないけにえによって、この方は私たち——信じる私たち——を永遠に聖なる者とされたからです。こうしてこの方は、私たちをご自分の目的へと至らせてくださいました。私たちは、この方が望まれたとおりの者となるはずでした。神ご自身によって聖なる者とされ、神の聖所で神とともにいるようにされる私たちです。

まさにこのことを、聖霊は昔の預言者エレミヤのことばによって証ししておられます。「わたしは彼らとこの契約を結ぶ、と主は言われる。わたしは、わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いに書き記す。」そして、「わたしは、彼らの罪と不法を、もはや決して思い起こさない。それらは、まるで起こらなかったかのように赦されている。わたしは、もはや決してそれをあなたがたに突きつけたり、負わせたりはしない。」ですから、赦しが起こったのであれば、それが宣言され、与えられたのであれば、罪のためのさらないけにえは、もはや決して必要ありません。いけにえの奉仕全体は、それによって不要となり、そうです、無効となったのです。

今、大いなる目的が達成されました。それは、ずっと前から神の心からの願いであったことです。天は開かれています。すべての人に。私たちは神のもとに来てよいのです。私たちは今、全き確信を持ち、恐れることなく、安心して、天の聖所の最も奥へ、神の御座の前へと来てよいのです。信仰によって。まだ目には見えません。イエスの血によって。以前にはなかった**新しい道**を通してです。それは生きている道です。それは死ではなく、いのちへと通じています。神の御前へと。この新しい、生きた道を、私たちは絶えず進んで行ってよいのです。イエスご自身が、この道を私たちのために開き、通れるようにしてくださいました。いわば聖所を閉ざしている垂れ幕を通り抜けてです。だから、垂れ幕は裂かれなければなりませんでした。生きておられるイエスは、私たちに、神がどのような方であることを示してくださいました。その生涯において、この方は、まだ裂かれていない垂れ幕のようでした。

た。この方のいけにえ、私たちのためのこの方の死が、初めて道を開いたのです。それによって、古い祭司といけにえの祭儀は永遠に終わったのです。

そして、この方は**私たちの**、神の家をつかさどる偉大な祭司でもあります。この方は私たちのために神のもとにおられます。この方は私たちの手を取って、神の御前へと導き入れてくださいます。この方は、私たちがなお経験するすべての弱さ、過ち、罪にもかかわらず、神の御前でも私たちを導いてくださいます。この方は、そのためのあらゆる責任を引き受けてくださいます。私たちが天の聖所において、確信をもって祈り、礼拝し、安らぎ、神に耳を傾けることができるようにです。

それなら、今こそ本当に、絶えず神のもとに行こうではありませんか！神の御座のもとへ。神を求める誠実な心をもって。ただ信仰だけが与えてくれる、全き確信のうちに。私たちの心は、この方の血によってきよめられているのですから。私たちの罪のことで絶えず私たちを責める良心は、もはやありません。神のことばのきよい水によっても、私たちは——もちろん比喩的な意味においてですが——罪の汚れから洗いきよめられているのです。

これほど豊かに恵みを与えられた者として、私たちの希望を告白し、しっかりと保つこと以外に、何をすべきでしょうか。その希望とは、メシアご自身です。宇宙が治められている神の御座におられる方です。今日、私たちが信仰によってすでに持っているものが、いつの日か真実となり、目に見えるようになるという希望です。私たちにこの約束を与えてくださった方ほど、真実な方はいないのですから。

そうです、愛と思いやりをもって、互いに心を配り合おうではありませんか。監視するためではありません。そうではなく、互いを動機づけるためです。愛と感謝から善を行うように。隣人を励ますために。何度でも集まり、交わりを大切にし、祈り、礼拝しようではありませんか。できるかぎり定期的にそうすることを、何ものも妨げることがあってはなりません。そうすることで、私たちは信仰において前進するのです。ある人たちはそれをすっかりやめてしまい、疲れ果て、信仰と希望をも捨ててしまう危険にさらされています。交わりへと、そして希望のうちに、互いに積極的に励まし合いまし

よう。なぜなら、私たちの主イエスと神の大いなる日が、ますます近づいているからです。日一日と。

信仰と希望を、意識的に、故意に捨てる人は、深刻な問題を抱えています。なぜなら、その人はかつて真理を知ることを許されたのに、それを再び投げ捨てるからです。いったんイエスのいけにえを知りながら、それを再び退けるなら——その人には、よりどころとすることのできるほかのいけにえはありません。そのとき、どんないけにえがなおその人を救うことができるでしょうか。その人に残るのは、神のさばきを恐れながら待つことだけです。なぜなら、古しいけにえの制度は、その人の良心を解き放つことができないからです。残るのは、メシアの敵たちに臨む、とどめることのできないさばきの火を待つことだけです。モーセの律法を退けた者でさえ、証言に基づいて、あわれみを受けることなく死にます。今、神の御子、メシアなるイエスを、まるで汚物であるかのように足で踏みつけ、聖なるものとし完全なものとする新しい永遠の契約の血を汚れたものとみなし、かつて自分にこの恵みをもたらし、それについて自分を照らしてくださった御霊を、まるで自分の身に起こった最悪のことであるかのように侮辱する人への罰は、どれほど恐ろしいものになると、あなたがたは思いますか。私たちがこう言うのは、モーセが申命記32章で語った方を知っているからです。「復讐と報いはわたしのもの」と主は言われます。そしてまた、「主はご自分の民をさばかれる。」このことには、何の疑いもあり得ません。自分の罪を抱えたまま、メシアとそのいけにえを退けたまま、生ける神の手に陥ることは恐ろしいことです。誰も、生ける方との出会いを避けることはできません。一つのことはまったく確かです。死です。そしてその後にさばきがあります。すべての人が、生ける神にお会いするのです。

あなたがたが信仰の道で、キリストのためにすでにどれほど多くのことを耐え忍んできたかを見てごらんください。初めのころ、ずっと前に、恵みの御霊によって照らされたとき、あなたがたは並外れて多くの戦いと苦しみを引き受けました。あなたがたは信仰において揺るがずにいきました。あなたがたは、ひどいことばで、最低のくずのようにののしられ、いじめられました。こうして、あなたがたはすべての人の前で見せ物にされたのです。直接その

目に遭わなかったときにも、あなたがたは、そのような目に遭っている人たちの側に忠実に立ちました。信仰のゆえに捕らわれている人たちを、まるで自分自身が牢にいるかのように支えました。財産を奪われることさえ、あなたがたは喜んで耐え忍びました。あなたがたは皆、はるかにすぐれた、そして何よりも永遠に残る財産を持っていることを知っていたのです。

ですから、信仰を捨てる人たちのように、あなたがたの確信、信頼、希望を投げ捨ててはいけません。公にメシアの側に立ちなさい！大きな報いがあなたがたを待っているのですから。あなたがたは忍耐すべきです！あなたがたは神のみこころを行ってきたではありませんか。メシアなるイエスを受け入れたではありませんか。それなら、この方に従っても行きなさい！そこにとどまりなさい——神の約束があなたがたの人生において成就するように。それまで、預言者ハバククが言うとおりの、もうほんのわずかの時です。来たるべきキリストは来られ、そして——永遠にそこにおられるのです。まだその時でないのには、理由があるのです。

けれども、「正しい者は**信仰によって**生きる！しかし、もし彼が退き、信仰を投げ捨てるなら、わたしは彼を喜ばない。」けれども私たちは、退いて信仰の目的地をあきらめ、滅びに終わる者たちの仲間ではありません。いいえ！私たちは、完全な救いに至る信仰を持ち、救う信仰をしっかりと保つ者たちの仲間なのです——キリストが再び来られるときまで。

第11章

決定的なのは信仰です。けれども、信仰とはいったい何でしょうか。信仰とは、堅い確信であり、揺るがない確かさであり、そうです、望んでいるもの——そしてやがて来るもの——を、いわば先取りすることです。将来のことは、信仰にとってはすでに真実となっているのです。

信仰とは、目に見えないものについての確信、納得です。まだ見えていないものについての確信です。このことを、私は私たちの先祖たち、私たちと同じ人間たちの、励ましとなる例によって、あなたがたに明らかにしましょう。彼らのうちには、信仰が生きていました。そしてその信仰は、とても困

難になったときにも衰えませんでした——あなたがたも体験しているようにです。

世界が神のこばによって存在するようになったことを理解するのは、信仰だけです。私たち人間の誰一人として、その場にいたわけでも、それを見たわけでもありません。神は無から世界を造られました。神のこばがそう語っているのです。

信仰によって、人類の歴史の初めに、アベルは神に喜ばれる動物のいけにえをささげました。それは神にとって、兄弟カインのいけにえよりも大いなるいけにえでした。カインは、地から生えた作物をささげました。神は、ほふられたいけにえを受け入れることによって、アベルが正しく、カインがそうでないことを証しされました。アベルとそのいけにえは、今日もなお——もうずいぶん昔のことなのに——、生きるうえで決定的な知らせを持っています。罪人である私たちには、身代わりが必要だということです。神に受け入れられるには、自分自身の良い行いでは足りないのです。

信仰によって、エノクは天へ、神のもとへと移されました。死を経ることなくです。生きている人間として、彼は天に行きました。なぜでしょうか。神が彼の生き方を大いに喜び、彼をご自分のそばに置きたいと望まれたからです——エノクの同時代の多くの人々とは対照的に。信仰がなければ、決して神に喜ばれることはできません。神に近づこうとして神のもとに来る人は、当然、神がおられることを信じなければなりません。けれども、それだけではありません。神が、誠実に、粘り強くご自分を求める人に報い、答えてくださることも信じなければならないのです。

ノアは神から、大きな船、箱舟を造るようにとの命令を受けました。乾いた陸の上です。近くに海はありません。そのようなことができたのは、信仰だけでした。神から警告を受けて、彼は何十年もの間、いったい何が自分に迫っているのかと、恐れつつ待ちながら箱舟を造りました。どんなに大胆に想像しても、彼にはそれを思い描くことはできませんでした。神に従うことによって、彼は神の側に立ちました。同時に彼は——従順に箱舟を造ること

によって——神に聞き従わない人々の不敬虔を断罪したのです。こうして彼は正しい人となりました。信仰によってです。

アブラハムもまた、信仰によってのみ従順であることができました。神の命令を聞いた後、彼は故郷を離れました。目的地がどこかを知らずに出て行ったのです。神から相続財産として受けることになっていた場所へと。

信仰によって、彼は相続財産として約束された地をさすらいしました。寄留者として、見知らぬ地方に、天幕に住みました。息子イサク、孫ヤコブとともにです。彼らは皆、アブラハムが受けたのと同じ約束の相続人でした。

彼らは、遊牧民のように異国の地に身を置いていました。けれども、彼らはずっと先を見ていました。彼らは、堅固で永遠の土台を持つ都を待ち望んでいたのです。人間が建てたのではなく、神ご自身が建てられた都です。

信仰によって、サラは、もう年を取りすぎていたにもかかわらず、なお子どもを得ることができました。ただ、神が真実であり、ご自分の約束を必ず成就される方だと信じたからです。それはまた、本来もう子をもうけることのできない、年を取りすぎたアブラハムから、それでも数えきれないほどの子孫が生まれたということでもあります。神が約束し、予告されたとおりです。

これらの族長たちは、信仰のうちに死にました。彼らは確かに、相続財産の約束の力によって生きていました。けれども、それをまだ手に入れることはできませんでした。彼らは、いわば遠くから相続財産を見ていたのです。彼らの遊牧の生活は、彼らがその地で、市民権を持たないよそ者であったことを証ししていました。このように生きる人は、自分が別の、そうです、もっとすぐれた故郷を求めていることを、はっきりと示しています。自分たちが出て来た故郷ではありません。そこへなら、いつでも帰ることができたはずですが。けれども、カナンのよそ者として、彼らはずっと先を見ていました。上を見ていたのです。彼らは天の故郷を待ち望んでいました。神が住んでおられるところです。だからこそ神は、イスラエルのこの三人の族長の神と呼ばれることを恥とされないのです。神は、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神と呼ばれます。彼らは信仰のうちに、この神のもとへと旅をしてい

ました。だから神は、天の故郷に、彼らのために一つの都を用意されたのです。永遠のわが家です。

ただ信仰によってのみ、アブラハムは生涯最大の信仰の試練に耐えました。ただひとりの息子、約束を担う者イサクをささげた時のことです。神は彼に、イサクによって子孫が確かなものとなると約束しておられました。アブラハムは、震える心で、いけにえをささげることに進みました。なぜなら彼は、神が死者をもよみがえらせることがおできになると知っていたからです。イサクをささげることは、最後の瞬間に神ご自身によって止められましたが、それは彼がそれをやり遂げたのと同じことでした。その意味で、アブラハムは、息子イサクを、まるで死者の中からよみがえったかのように、その腕に抱きしめることができたのです。

信仰によって、イサクは息子たちヤコブとエサウを、将来のことについて祝福しました。同じように信仰によって、ヤコブは十二人の息子たちを祝福しました。一人ひとりです。そしてそのことで神を礼拝しました。ヨセフは死の床で、信仰によって、すべてのイスラエル人がエジプトを去ることを見通していました。それで彼は、そのときには自分の遺骨と一緒に携えて行くようにと命じたのです。

信仰によって、モーセの両親は、わが子を三か月以上隠しました。彼らは、神がこの子に何か特別なことを計画しておられるのを見たのです。それで、生まれたばかりのすべての男の子を殺すよう命じていたファラオを恐れませんでした。信仰によって、大人になったモーセは、ファラオの娘の子であり続けることを放棄し、そうです、まさに拒んだのです。彼は自分の民の側へと移りました。彼らの恥辱と苦しみをともに担いたいと思ったのです。こうして彼は、ファラオの宮廷での、一時的ではかない罪の楽しみを退けました。彼は、キリストの恥辱——今日の視点から解釈するならですが——をエジプトの財宝よりも大きな富とみなしました。モーセは前を、カナンでの報いを見ていたのです。彼は、一人のエジプト人を殺したとき、ファラオの怒りと追跡を恐れませんでした。彼は、自分の民が解放を体験するという期待のうちに揺るがずにいました。エジプトから逃れ、荒れた地で四十年を過ご

したときにもなおです。彼は、目に見えない神を、まるで直接目の前に見ているかのように見つめていました。信仰によって、彼は過越を祝いました。小羊の血を門柱に塗ったのです——すべての初子が死の御使いから守られるようにと。

信仰によって、彼らは分かれた紅海を通り抜けました。乾いた地の上に行くようにです。彼らを追って来たエジプト人たちも、同じことをしようとしていました。彼らにとって、信仰はもちろん何の意味も持っていませんでした。それで彼らは、崩れ落ちてくる大水の中で滅びたのです。

信仰によって、カナン最初の町エリコの城壁は崩れ落ちました。彼らが七日間、町の周りを行進した後のことです。

この町の城壁の中に住んでいた遊女ラハブは、ほかの人々のようにそこで滅びることはありませんでした。彼女は信仰によって、イスラエルの二人の斥候をかくまったからです。

私は、まだまだ多くのことを語ることができます。ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル、そして預言者たちについて語ることができます。彼らが信仰によって、どのように王国を打ち負かしたか。義を広め、行ったか。約束を手にしたか。獅子に打ち勝ったか。火を消したか。剣による迫害を逃れたか。そして、まったくの弱さの中から再び力を得たか。戦いと戦争の中で、彼らは強くなりました。攻めて来る者たちの大群を押し返しました。そして女たちは、死んだ家族を復活によって返してもらいました。

ほかの人たちは拷問を受け、解放を受け入れませんでした。自分の信仰を否まないためです。彼らは、よりすぐれた復活——永遠のいのちへの復活——を信じていたからです。ほかの人たちは、あざけられ、むち打たれました。鎖につながれ、牢に入れられました。ほかの人たちは、石で打たれ、のこぎりで引かれ、首をはねられました。彼らは羊ややぎの皮を着て、さまよい歩きました。ひどく乏しく、苦しめられ、虐待されました。この世にとって、彼らには何の価値も、意味も、評判もありませんでした。彼らは荒野や山々をさまよいました。洞穴や地の穴に身を隠しました。

ここに私が挙げた人たちは皆、その信仰が証しされた人たちですが、約束されたものを受けませんでした。なぜでしょうか。神が、もっとすぐれたものを用意しておられたからです。私たちのためにです！そのために、彼らは待たなければなりませんでした。私たちもまた相続し、その仲間に加わるためです。ですから今、彼らと私たちは、ともに目的地へと導かれるのです。新しい契約においてです。私たちは皆、今、ともに、あのとき約束されていたものよりもはるかにすぐれたものを受けるのです。

第12章

競技場の中にいるように、私たちはこれほど多くの信仰の証人たち、殉教者たちに囲まれています。彼らは皆、私たちの模範です。信仰と忍耐が報われることの証拠です。彼らはもはや私たちの世界には生きていませんが、私たちは信仰によって彼らと結ばれています。ですから、信仰の競走を放棄することなく、彼らからバトンを受け継ごうではありませんか。走り続けようではありませんか。邪魔になるものは投げ捨てなさい。私たちの足を鈍らせる、無益で妨げとなる重荷は、すべて下ろしなさい。どんな気晴らしも、どんな誘惑も無視しなさい。何よりも、私たちにたやすくまとわりつき、私たちをつまずかせる罪をもです。

前を、イエスを見つめなさい！右も左も見てはいけません。ただこの方だけを。この方こそ、最も偉大な方です。この方は、信じるすべての人の先頭に立っておられます。この方は、信仰のうちに走られました。ゴールまで。この方は、信仰の創始者であり、完成者です。私たちの人生において、この方が信仰を生み出し、私たちを目的地へと導いてくださいます。この方は、何ものによってもそこからそらされることがありませんでした。恥をものともせず、恐ろしい十字架を耐え忍ばれました。なぜなら、この方は、前に置かれている大きな喜びを見つめておられたからです。すなわち、神の右に着座し、多くの息子たち娘たちを栄光へと導くことです。悪い人々から、これほど大きな反抗と敵対を忍ばなければならなかった方のことを考えてみなさい。それでもこの方は目的地に到達されたのです。この方があなたがたの模

範であるなら、あなたがたは疲れ果てたり、元気を失ったりすることはありません。

あなたがたは、イエスのように、血を流すまで抵抗し、抵抗に耐え抜いたことはまだありません。メシアなるイエスから離れるという罪に対してです。あなたがたは、息子たち娘たちとしてのあなたがたに語りかけている勧めを忘れてしまいました。「わが子よ、主があなたを今のままにしておかれないことを、祝福として歓迎しなさい。主が時にあなたを厳しく扱わなければならないとき、気落ちしてはならない。それは愛から出ている。主はご自分の息子たち娘たちを無条件に愛しておられるからだ。もしあなたがたがまったく戒めとしつけを受けていないなら、あなたがたは天の父の息子たち娘たちではないのだ。」

私たちの肉の親も、私たちをしつけてくれたではありませんか。必要なら、厳しくです。私たちは彼らにも従いました。それなら、私たちの天の父に服し、その訓練を受け入れるべきではないでしょうか。この方は霊の父です。私たちに仕えるすべての御使いたちが、この方の意のままに用いられます。たとえ私たちにはそれが見えなくてもです。私たちのしつけは、この方にとって大切なことであり、この方は、ご自分が用いることのできるすべてのものをもって、そのことに心を配ってくださいます。この方の良い御手に、心から「はい」と言いましょう。たとえ時に厳しくてもです。そうすれば、私たちは生きるのです。永遠に。

私たちの肉の親は、人間として、誤りうる自分たちの力の及ぶかぎり、私たちをしつけ、罰しました。ほんの数年の間だけです。神は、私たちが目的地に着くまで、誤りなく私たちを訓練してくださいます。霊的な幼年期だけではありません。すでに長く信仰の道を歩んでいるときにもです。なぜでしょう。私たちがますます神に似た者となるためです。神の比類のない神としてのご本質と、神の聖さに似た者となるためです。神の懲らしめは、将来への備えであって、決して過去に対する罰ではありません。

このような訓練は、困難な時を通っているときには、喜びの理由にはなりません。正直に言えば、むしろ悲しみの理由です。けれども、その中で、神に

喜ばれる尊い実が、とどまることなく私たちの人生のうちに育っていきます。私たちが神の訓練から逃げ出さないかぎりです。なぜなら、私たちが困難を神の御手から受け取り、その中で忍耐強く鍛錬するなら、私たちは変えられていくからです。良い方へと。たとえ自分ではそれに気づかなかったり、認めたくなかったりするとしてもです。

イザヤ書35章にこうあります。「だから、弱った手と衰えたひざをまっすぐにし、まっすぐな道を歩みなさい。」そうでないと、疲れた人や気の弱い人が、足の萎えた人が癒やされるどころか、かえって道から外れてしまうのです。

一つにまとまっていなさい！イエスに従うすべての人とともに、互いの間の平和のために決然と戦いなさい。同じように、聖さのためにも戦いなさい。あらゆる罪を憎み、神に喜ばれないすべてのものから距離を置くことによってです。もし私たちが罪を憎まないなら、あの大いなる日に、私たちは神を私たちの父として仰ぎ見ることが**ない**でしょう。

そして、あなたがたの誰一人として、神の恵みの外で生き、自分の救いといのちを自分自身と自分の行いにかかったものとするものがないよう、互いに気をつけなさい。あるいは、律法に、古い契約に逆戻りすることのないようにです。

あなたがたの誰のうちにも、苦々しさと悪意の毒の根が芽を出すものがないよう、気をつけなさい。初めは心の中に隠れています。けれども、それがさらに育つと、信じる者たちの交わりを乱し、多くの人に悪い影響を与え、毒するのです。

あなたがたの中に、淫らな者が一人もいてはなりません。誰もが自分の結婚相手に忠実であるべきです。

あなたがたの誰一人として、何ものも聖なるものと思わない者であってはなりません。神をさえも。エサウのようにです。彼は、ただ一杯のレンズ豆の煮物のために、長子の権利を売り払ってしまいました。その直後、彼は自分がなんと軽はずみなことをしてしまったかに気づきました。涙を流し、熱心

にもがいたにもかかわらず、彼は自分の態度を改めることも、本当の心の転換に至ることもできませんでした。

あなたがたの救いにおける立場を、神がご覧になるとおりに評価しなさい。あなたがたはメシアに従う者として、かつて恐れと恐怖のうちに始まった古い契約のもとに來たではありません。目に見える山、シナイ山でのことです。

- 触れることのできない山。
- その上で火が燃えていた山。
- 大きな雲がそこにあった山。
- 暗闇と闇に包まれた山。
- その周りで恐ろしい嵐が吹き荒れていた山。
- 大きなラッパの音が聞こえた山。
- そして、大きな、はっきりと聞き取れる声。

聞いていた人々は、そのことばにもう耐えられず、それ以上自分たちに語られることのないようにと願いました。たとえ一頭の獣でも山に触れたなら、殺されなければなりません。金の子牛の罪の後のシナイ山での一連の出来事全体はあまりに恐ろしく、モーセでさえこう認めたほどでした。「私は主の怒りを恐れて震えています。」

メシアなるイエスに従う皆さん。神はあなたがたに、圧倒されるほど新しい契約を与えてくださいました。あなたがたの前には、まったく新しいもの、広々とした地平が開かれました。霊的な、まだ目には見えない現実です。けれども、それは私たちがかつて想像し得たどんなものにもまさっています。私たちは、神が住まわれるシオンの山に來たのです。

- 生ける神の都、天のエルサレムに。
- 何万もの天の使者たち、神の御使いたちの、大きな喜びに満ちた厳かな祝宴の集まりに。
- 天に名が記されている、すべての贖われた者たちの長子たちの集会に。
- そして、すべての人をさばかれる方であり、私たちが今その御前で聖なる者とされている神ご自身に。

- 死んで、すでに天の目的地に着いている正しい人たちに。
- メシアなるイエスに。新しい契約の仲介者に。
- そしてこの方の血に。この血は、報復を叫び求めたアベルの血よりもはるかにすぐれたことを語ります。キリストの血は、私たちを完全にきよく、聖なる者とするのです。

天からイエスにおいてあなたがたに語られた方を、拒むことのないように気をつけなさい。あのときシナイ山と荒野で、地上から神の声を聞きながら、それを拒んだ人々は、逃れることができませんでした。もし私たちが、イエスを通して天からの神の声を聞きながら、それを拒むなら、私たちはなおさら責任を問われるでしょう。

この声は、あのとき地を揺り動かしました。その後、神は預言者ハガイを通して予告されました。「もう一度、わたしは地を揺り動かす。しかし地だけでなく、天をも揺り動かす。」この揺り動かしによって、造られたものはすべて過ぎ去ります。けれども、その揺れの中で、揺り動かされても耐え、過ぎ去らないものが明らかになるのです。私たちはメシアを通して、揺り動かされることのない、永遠にとどまる王国を受けるのです。そのことを、私たちは日々神に感謝します！恵みによって、私たちはこの神に仕えています。それを、自分自身ではなく**神**に喜ばれるように行おうではありませんか。神にふさわしい畏れと敬いをもってです。恐怖のうちではなく、けれども一種の畏怖をもってです。申命記4章24節にすでにこうあるからです。「私たちが属している神は、私たちにとっても焼き尽くす火のような方。ねたむ神である。」けれども、焼き尽くす火は私たちを滅ぼそうとしているのではありません——私たちは新しい契約のうちに生きているのですから——。そうではなく、私たちの感謝のいけにえを受け入れようとしておられるのです。

第13章

すべての信仰の兄弟姉妹への愛を生きなさい。それを、もてなしの心によって示しなさい。惜しみなく互いを招き合いなさい。そのようにして、あなたがたのうちのある人たちは——それと知らずに——御使いたちをもてなしたのです。すでに言ったように、御使いたちは、私たちの天の父が遣わされる

ところならどこでも、私たちのために奉仕して働いています。ですから、もしあなたがたがもてなしの心を持たないなら、御使いたちの訪問を逃してしまうかもしれないのです。

捕らわれている人たちのことを思いなさい。しかも、まるで自分も彼らとともに牢にいるかのように。虐待され、それを自分のからだで味わわなければならない人たちのことも思いなさい。

結婚の契りと結婚生活は、尊ばれ、大切にされるべきです。共に生きることのあらゆる面においてです。夫婦の寝床と性の喜びは、ただ夫婦だけのものです。それが結婚の契りを強くします。淫らな者や姦淫する者、つまり、ほかの女性や男性との性的関係によって結婚の契りを破る者や、結婚の契りなしに好き勝手な性的関係を自分に許す者——そのような者たちを、神は見逃すことなくさばかれます。

金銭を愛することなく生きなさい。自分が持っているもので満足しなさい。過ぎ去っていくものを、ますます多く所有しようとすることには、何の意味もありません。欠乏、貧困、飢えにもかかわらず、一つのことは変わらずに残ります——神の約束です。「わたしは決してあなたを忘れず、決してあなたを見捨てない。だから私たちは、勇気をもって、きっぱりと言うことができます。主は私の助け手。私たちは恐れる必要はない。人が私たちに何ができるだろうか。」

あなたがたにみことばを、神の福音を宣べ伝えた人たちの献身と信仰と忠実さによって、励ましを受けなさい。彼らが、生涯の終わりまで信仰のうちにとどまったのを見なさい。

イエス・キリスト、私たちのメシアは、いつも同じ方であり続けます。その方であるところにおいて、その宣べ伝えられたことにおいて、その約束されたことにおいてです。この方は、きのう、つまり地上におられた時代にも、今日、私たちの日々の生活においても、そして永遠に、救いの歴史の目的地においても、同じ、真実で、まことの主なのです。

さまざまな、異質な教えによって、気をそらされたり、心を奪われたりしてはいけません。ある種の食べ物によって信仰において成長しようとする事には、何の意味也没有せん。そのような外面的で目に見えるものは、古い契約の本質に属していたからです。それはまったく無益でした。私たちの心は、恵みによって堅くされ、強くされるのです。なぜなら、私たちには霊的によりすぐれた、目に見えない祭壇があるからです。そこから私たちは食べます。比喩的な意味で、私たちはメシアの恵みと、その臨在を食べるのです。目に見える神殿でお奉仕を行っている人たちは、それを知りません——彼らには、そうする権利もないのです。

大祭司によってその血が聖所に携え入れられるいけにえの動物は、宿営の外で焼かれます。同じように、イエスもエルサレムの町の外で苦しみを受け、十字架を耐え忍ばれました。ご自分の流された血によって私たちを聖なる者とされたときのことです。

ですから、私たちはこの方のもとへ出て行こうではありませんか。最初の契約の古い制度を、すっかり後にしようではありませんか。たとえそれが辱めを伴い、いくらかの犠牲を払うことになるとしても。この方の辱めを負うことは、決して無駄ではありません。

前を、そうです、上を見上げようではありませんか。なぜなら、私たちには地上のどこにも、わが家となる永続する都がないからです。私たちはよそ者です。来たるべき都へと向かう旅の途上にあるのです。天のエルサレム、私たちの偉大な王の都が、すでに私たちを待っています。

この希望のうちに生きるのなら、賛美と感謝のいけにえを神にささげようではありませんか。いつでも。どこでも。ひとりで、またともに。目に見える祭壇の上の動物のいけにえではありません。いいえ。語られ、歌われる、感謝と賛美と礼拝のことばです。思い起こしなさい。神はご自分の民の賛美のうちに住まわれるのです。

あなたがたが、ことばによってこのようないけにえをささげるとき、物質的ないけにえ——困っている人たちに善を行ったり、経済的に助けたりするいけにえ——を、決して忘れてはいけません。あなたがたに何かを——時間、

お金、力を——犠牲として求め、もしかすると何かを手放すことを意味するようないけにえを、私たちの神は特に喜ばれるのです。

あなたがたの霊的な指導者たちに従い、いつも批判ばかりしてはいけません。彼らはただ、あなたがたが信仰において健やかで、揺るがずにいられるよう、あなたがたを危険から守りたいと願っているのです。彼らは、この務めをどれほど良く、熱心に果たしたかについて、神の前に申し開きをしなければなりません。ですから、彼らの奉仕を尊び、認めなさい。そうすれば、彼らは喜んでそれを行うことができます。それは、あなたがたにとって大いに益となるでしょう。彼らがため息をつきながら、あるいはただ義務感からそれを行うよりも、はるかに良いのです。

私たちのために祈ってください！私たちは、すべてにおいて神に喜ばれることを行い、そのように生きたいと願っています。私のためには、なおいっそう祈ってください！そうすれば、私はまもなく、またあなたがたのもとに行くことができます。

平和の神は、私たちの主イエスを死の中から導き出されました。この方の血が、新しい、よりすぐれた、そうです、永遠の契約を打ち立てたのです。この方は羊の大牧者です。この方はまもなく、どれほど多くの人たちを、ご自身で死の中から導き出し、永遠の故郷へと導き、いのちの泉のほとりで養われることでしょう。この方が再び来られるときに。

神がイエスを死の中から導き出されたのなら、神はあなたがたの人生においても働くことがおできになり、またそう望んでおられます。神は——そして私たちはそのために祈っていますが——私たちを良いわざへと動かし、そのための備えを与えることがおできになります。神のみこころを行うためにもです。それはすべて、イエス・キリストを通してです。この方、私たちの贖い主に、栄光と誉れがとこしえにありますように。

私の手紙の勧めを受け入れてください！私は、わずかなことばで、手短にあなたがたに書いたのですから。

私たちの兄弟テモテが釈放されました。私たちは一緒に、まもなくあなたがたのもとに行き、ようやくまたあなたがたに会えるでしょう。

あなたがたのすべての霊的な指導者たちに、よろしく伝えてください。キリストにあるすべての聖徒たちに、です。イタリアの聖徒たちが、あなたがたによろしくと言っています。

恵みが、あなたがたすべてとともにありますように！アーメン。

ヨハネの黙示録

黙示録の書に期待できること

『地獄の黙示録』（原題 Apocalypse Now）！これは、1980年代の、世界的に有名な、きわめて陰鬱な反戦映画の題名です。これから取り上げる聖書の書も、アポカリプス（黙示）と呼ばれます。これもまた、陰鬱な場面に満ちています。けれども、映画とは違って、そこにはたくさんの光と希望があり、歴史の終わりには善が勝利するのです。アポカリプスとは、「終末のシナリオ」や「世界滅亡のシナリオ」という意味ではありません——「覆いを取る」という意味です。覆いを取られて明らかにされるのは、神が悪と苦しみとどのように打ち勝たれるか、ということです。神とご自分の世界との歴史は、新しい地の上の新しいエルサレムで終わります。新しい世界へ、新しい創造への出発こそが、そのクライマックスです。それは一つの点でありながら、もはや決して終わることのない一本の線となる点なのです。そのことをともに体験するためにこそ、イエスに従う価値があるのです。

けれども、あなたに警告しておかなければなりません。この聖書の最後の書は、あなたがこれまで読んできたどの書とも、まったく違ってしています。イエスの弟子であるヨハネが、高齢になってから、自分が見たことを書き記しました。彼は、神の天の玉座の間に足を踏み入れることを許されました。彼は、七つの封印のある巻物が開かれるのを見ました。それに続いて、一連の劇的な場面が展開していきます。

ヨハネは、途方もない想像力と、圧倒的な描写力に満ちた世界を見て、描き出しています。彼は私たちを、自分の頭の中の映画館で、このドラマに加わるようにと、まさに招いているのです。この書は、通常、集まったキリスト者の教会で朗読されました。人々はそれに耳を傾けました。今日のように、誰もが自分の聖書で目で追いながら読んでいたわけではありません。聞く人の前には、21世紀の私たちにはなじみのない、象徴、しるし、超現実的な情景に満ちた世界が開かれます。しばしば人を当惑させ、奇怪で、劇的で、そうです、残酷で誇張されています。一見、矛盾していたり、非論理的であっ

たりします。けれども、とても美しく、圧倒的で、慰めに満ち、約束にあふれた情景もあるのです。

ヨハネの時代には、この文学的な様式はかなり広く好まれていました。それはユダヤの**黙示文学**と呼ばれています。この書き方は、もうずっと前からありません。ほんの少しだけ、今日のものにたとえるなら、『ジュラシック・パーク』と『ロード・オブ・ザ・リング』と『スター・ウォーズ』を混ぜ合わせたようなものと言えるかもしれません。あなたを待っているのは、ジェットコースターの旅です。天へ、そして地へと戻って来る。それを何度も繰り返します。未来へと。そうです、シートベルトをお締めください！

黙示文学は、生きるうえで決定的な信仰の危機を取り上げています。危機というのは、あらゆるものが、神が不正に対して沈黙しておられるように見えるからです。なぜ悪はエスカレートし、これほど思いもよらない規模に達するのでしょうか。黙示文学は、それ独自の仕方で、大胆に強調します。神は世界とご自分の民に背を向けては**おられない**、と。その反対なのです。何一つ、神の手から滑り落ちてはいません。神は思いがけない仕方、劇的に介入されます。神は必ず救いをもたらされます。悪は打ち負かされ、神の民は救われるのです。

全体像を、全体をとらえるようにしてください。大切なのは、まず本文の細部や微妙な点ではありません。思いの中で、絵にあまり近づきすぎないでください。一歩か二歩下がって、絵全体が目に入るようにしてください。それは、細部が問題ではない印象派の絵のようなものです。大切なのは、画家が表現しようとしている全体の印象です。黙示文学は、小さな細部を重んじるのではなく、絵全体の伝えるメッセージを重んじます。細部は時に、全体を強める役割を果たしているにすぎません。全体を見失わないようにすれば、あなたは何度となく、驚きと畏れに、そうです、礼拝へと導かれることでしょう。

黙示的な幻の中には、さまざまな要素があります。象徴的なもの、予告的なもの、暗示的なもの、あるいは何かをほのめかすもの、文字どおりのもの、比喩的なもの。そして、これらの要素の組み合わせもあります。それが、私

たちにとって事を簡単にはしてくれません。ここで**大切な**のは、次のことです。黙示録のすべてが、4章以降のすべてでさえ、必ずしも未来の預言という意味での予告であるわけではありません。何かを未来のこととして解釈するには、十分な根拠がなければなりません。なぜなら、それはほぼ2000年前の古代のキリスト者たちに向けて書かれたものだからです。そして、もしそうであるとしても、それが具体的にどのように成就するのかを、私たちは決して知ることができません。黙示文学は、未来のルポルタージュではないのです。

確かに、これから起こることも扱われています。すでに起こったことも扱われています。けれども、この書が未来の時刻表であろうとはしていないことを受け入れることが大切です。そこには**時間軸はありません**。私たちがそれを無理に組み立てて持ち込むこともできません。これから読むことになる七つの封印、七つのラップ、七つの鉢は、すべてが順番に続いて起こるのではなく、並行して同時に起こるものだと考えてください。それらは、同じ出来事のさまざまな側面を描いているからです。

はっきり言っておきましょう。黙示録は、未来の細部を見ることのできる**水晶玉ではありません**。情報が問題なのではありません。それは忠実であれという呼びかけなのです。

霊的な現実も、歴史的な出来事も、象徴と比喩的なことばによって目に見えるように描かれています。ですから、そのほとんどは、**文字どおりに理解することはできませんし、またそうしてはならないのです**。

光と闇の戦い、神と悪魔の戦いが、戦争と暴力のことばで描かれています。ユダヤ人たちは、メシアの到来をそのように待ち望んでいました。文字どおりの意味で敵を滅ぼす、神の戦士としてです。けれども、ヨハネのもとで、解放者はどのような姿をしているのでしょうか。彼は、勝利したユダ族の獅子について聞きます。その獅子を見ようとすると、どこにも見当たりません。けれども、彼は一頭の小羊を見ます。神の御座の真ん中に。死の傷を負った小羊です。これこそ、この書の鍵となる場面と行うことができるでしょう。

黙示録における**戦い**は、**霊的に理解すべきもの**です。文字どおりに人間に向けられたものではありません。小羊は暴力も強制も用いず、ご自分の死によって、暴力によらずに打ち勝たれます。キリストとその従う者たちは、力によってではなく、真理と忠実さによって勝ち取られる、宇宙的な戦いの一部なのです。イエスに従う者たちの抵抗は、イエスという模範に倣っています——**暴力によらない抵抗**です。いのちを失う覚悟をもってです。なぜなら、それこそが彼らの勝利だからです。戦争のことばは、いつも比喻です。主な戦い手は、文字どおりの意味での一頭の小羊や七つの頭を持つ竜ではありません。それでも、偽りと真理、忠実さと惑わしの間の霊的な戦いは、文字どおりの戦争に劣らず現実のものです。それはあまりに現実的なので、イエスに従う者たちは、文字どおりいのちを失うこともあり得るのです。彼らは、血肉に対して戦うのではない、本当の「救世軍」なのです。

この戦いのことばと情景を理解しようとするとき、決して忘れないほうがよいことがあります。黙示録のイエスは、福音書のイエスと同じ方です。黙示録のイエスは、十字架のイエス——つまり、ほふられた小羊なのです。一見すると、黙示録では、この方が暴力を用いる戦士であるかのような印象を受けるでしょう。私たちが知り、愛しているこの方とは、まったく違うかのよう。いいえ、この方は**同じ方**であり、これからもそうなのです。ヨハネは、イエスをどう描くかに細心の注意を払っています。この方の口から出る剣は、真理であり、神のことばであり、忠実な証しであって、人を殺す武器では**ありません**。このイエスを目の前に見ながら、私たちは黙示録を読みます。そうすれば、ヨハネが描いているのは、まさに復讐を行う恐ろしい戦士ではないことがわかります。それは、この世の、神々の、神話の考え方の型です。それでもこの方には、天においても地においても、すべての権威が与えられています。この方の来臨に、剣が伴う必要はありません——かつてペテロがイエスを守ろうとしたようにはです。いつの日か、この方の目に見える臨在だけで、すべての者を沈黙させるのに十分なのです。

この世界の歴史の終わりのために、この方は父から、さばきを行う務めを受けておられます。そして、この方とその弟子たちが絶えず敵視され、暴力を加えられ、またそのほかにも人々と被造物に対してかたくなに悪意を持ち続

けるところでは——、この方がそれを終わらせられます。誰もが、この方の前で申し開きをすることになります。**正義**が勝利し、最後のことばを語るのです！

当時、黙示文学は、それが何を言おうとし、何を言おうとしていないのかが、多かれ少なかれ理解できるものでした。今日の私たちには、もはやそうではありません。それでも、古い物語と、私たちの紀元の初めの世界史についての少しの知識があれば、かなりのところまで行くことができます。ヨハネが見ることのほとんどすべてには、ヘブライ語聖書、すなわち旧約聖書の中に対応するものや根があります。黙示録において、旧約聖書からの糸が一つに集まります。なぜなら、黙示録は成就を、世界の完成を描いているからです。ですから、黙示録の情景を解釈しようとするときには、あなたの西洋的な論理に頼ってはいけません。ここで書いているのは、ヘブライ的な思考の世界に生きる一人のユダヤ人であり、また自分の時代の子でもあるのです。解釈は、しばしば旧約聖書の光の中でのみ可能です。私の説明を加えた訳の中で、私はところどころに、さらにたどっていくことのできる手がかりを残しておきました。

ヨハネはまた、自分が生きていた世界をも映し出しています。たとえば、皇帝が神として崇められていたローマ帝国です。そうです、彼は名前を挙げることなく、ほのめかしと情景によって、自分の時代の偶像礼拝と生き方を**批判**しているのです。この世の王国や都市の中で、イエスに従う者たちの立場は攻撃にさらされており、勝ち誇ったものではありません。彼らは、神のことばに忠実であり、イエスをこの世のまことの主と告白し、惑わしに屈しないために苦しみます。そのために、多くの者がいのちを失います。けれども、彼らの死は彼らの勝利なのです。

黙示録の多くのことは、表面上見えるのとは違っているように思われます。この、ほふられた小羊の確信が、一本の赤い糸のように、この書全体を貫いています。イエスのための死は勝利です。けれども、それは完成のときになって初めて明らかになるのです。同じように、イエスに従う者たちに対して罪を犯した者たちの滅びも評価されなければなりません。彼らは勝利者のよ

うに見えました。けれども、そうではないのです！偉大な模範は、十字架の死によって勝利された神の小羊です。力と暴力によってではなく、死に至るまでの献身によってです。暴力によらないことによってです。ただそのようにしてのみ、新しい創造が初めて可能となったのです——今すでに。

その意味で、この書は今日、かつてないほど時宜になっています。本当の**慰めの書**です。最も深い励ましです。なぜなら、たとえそれが私たちのいのちを犠牲にするとしても、神の計画と勝利は確かだからです。

この書は、神とイエスをあがめることを目的としています。それは、神のうちに、神とともに、神のもとにとどまるようにとの呼びかけです。たとえば世界中がその反対のことをするとしてもです。聞く人と読む人は、信仰とイエスに従うことをあきらめないようにと励まされます。

黙示録は、その預言的な働きによって、かたくなになった心にも届こうとしています。それは、揺り起こすための嵐のようなものです。

もう一つの目的は礼拝です。神と小羊がどのように礼拝されるかが、しばしば描かれています。**礼拝に声を合わせてください**。神の偉大さに心を奪われてください。

この書は、具体的には、小アジア、今日のトルコにある七つの教会に宛てて書かれています。語りかけられているのは、すべての人です。それは私たちの心に働きかけ、私たちを変えようとしています。けれどもまた、必要であれば、新しい道を歩み始めるよう、私たちを動機づけようともしているのです。それが可能になるためには、黙示録がただそのまま私たちに語りかけるのを許さなければなりません。これらの劇的な情景の助けを借りてです。その感情のこもったことばを、本当に感じ取らなければならないのです。

私たちはすでに、ヨハネをその福音書によって、イエスの生涯と語られたことについての記録によって知っています。黙示録を読むとき、忘れないでください。黙示録もまた福音であり、良い知らせなのです。それは、神が恵みによってすべての人に与えようとしておられるもの——けれども誰にも押しつけはされないもの——を、無償で受け取るようにとの、最後の、そして最

も強烈な呼びかけです。それは、神の新しい永遠の世界に加わるようにとの、聞き逃すことのできない招きなのです！

最後に、もう一つ。黙示文学は、ところどころで神秘的なま**であり続けます**。問いは残ります。けれども、だからといって読むのをやめないでください。この書を読んでください。何度でも！

ヨハネの黙示録

- 小羊、ユダ族から出た獅子——そして竜
- 人を幸いにする書
- 礼拝を受けるにふさわしいのは誰か
- 世界の王は誰か
- 再び来られる主
- 教会への希望
- 小羊の勝利
- 小羊に従う殉教者と勝利者
- 王の帰還
- 教会への慰め
- 万物の目標
- 黙示とは、覆いを取ることに！

ヨハネの黙示録

これは主イエス・キリストの黙示です。アポカリプス。覆いを取り去ること。この方、メシア、王の王について、そして歴史の目標についての黙示です。

神はそれをこの方、人の子にお与えになりました。それを伝えるためです。ご自分のしもべたち、従う者たちにです。すぐに起こらなければならないことを彼らに示し、それを彼らに打ち明けるためでした。この世界に対する神の救いのご計画の中で起こることをです。

一人の御使いが遣わされました。イエスのよく知られた弟子であり、しもべであるヨハネに、劇的なしるしのうちに起こるすべてのことを示すためです。彼はそれを書き留めました。こうして、ほぼ2000年前に聞き、見たことを証ししたのです。神のことばと、イエス・キリストについての告白をです。神に感謝します！彼は私たちのために、すべてを書き記してくれたのです！

この預言的な神のことばを読む人、また朗読されるのを聞く人は、皆**幸い**と呼ばれるべきです！ヨハネが書き記して証ししていることを、神からの宝のように守り——そして行う人は、皆幸いです。このことばが成就する時が近いからです。それは必ず来ます。今この瞬間にも、その時が来るかもしれないのです。

私ヨハネは、ローマの属州小アジアにある七つの教会に書き送ります。主がご自分の預言のことばを向けられた教会です。

神の恵みと平安が、あなたがたの間に増し加わりますように！生ける神によって。今おられ、昔からいつもおられ、やがて来られる方によって！永遠に存在する方、あなたがたのためにそこにいてくださるヤハウェからです。

また、全能で全知の方の御座の前にいる七つの御霊からです！この七つの御霊は、あらゆる場所、あらゆる時に、聖霊の臨在と働きを保証しています。

ご自分の民のもとに。そして神が治めておられるところに。またイエス・キリストからです。忠実な証人であり殉教者である方からです。この方は死に至るまで忠実でした。けれども死者の中から戻って来られました。初めに生まれた方として。新しい復活の世界、すなわち天と地の新しい創造の、最初の方、いと高き方として。よみがえるすべての者の最初の方として。この方は地のすべての王たちの君です。この方をこの世から片づけてしまおうとした者たちは、今やこの方に服従させられます。この方の前に立ちおおせる者は一人もいません。

この方こそ、私たちを愛してくださるイエスです！いつも。ほかの誰にもまさって。私たちの味方でいてくださる方です！私たちを受け入れてくださる方です！

この方は、私たちの罪、私たちの不法、私たちの身勝手を赦し、取り除いてくださいました。ご自分の血によって、ゴルゴタの十字架の上での犠牲の死によってです。

この方は、失われた罪人である私たちを**王**としてくださいました。この方とともに治めるためです。私たちが王家の血筋を引いているわけでもないのです。

この方は、望みもなく、取るに足りない私たちを、神の**祭司**としてくださいました。神の御前で生きることを許され、神の栄光を世界へと運んで行く祭司です。

私たちは、イエスから御父への贈り物なのです！王として、また祭司として。自分自身のためではありません。初めの樂園でそうであったように。アダムとエバもまた、神のための祭司であり王でした。けれども彼らはすべてを失ってしまいました。しかし今、回復の時が来ます。イエスによって。新しく、よりすばらしい樂園です！

愛をもって被造物全体を新しくし、ご自分の造られたものを見捨てることのないこの神に、栄光と、すべてのもののの上に立つ力が、とこしえにありますように！

アーメン。

この主、王の王が来られます！すべての人の目に見える仕方で——天の雲に乗って！この出来事——イエス・キリストの目に見える臨在——は、すべてをひっくり返します。そのため、諸国の民がまるごと不安と恐れに陥るのです。この方を十字架につけ、刺し通した者たちでさえ、この方の来臨を見ましょう。たとえ彼らがすでに死んでいたとしてもです。天と地が会うとき、誰もがこの出来事を見なければなりません。さばき主であり救い主である方が、二度目に来られるときに。

恐れと恐慌は、とりわけこの方を待ち望みもせず、あがめもしなかった者たちを襲うでしょう。彼らは自分の罪責、無関心、軽蔑を抱えたまま、力と栄光のうちに来られる方、イエス・キリストの前に、震えおののいて立つことになります。私たちにとって、この日はすべての希望の成就です。すべてが永遠に変えられます。目標に到達するのです。そして、そこから本当の始まりが来るのです。ハレルヤ！そうです、アーメン！

わたしはアルファであり、オメガである、と主なる神ヤハウエは言われます。最初であり、最後である。永遠に存在する者。今おり、昔おり、やがて来る者。すべてのものを生かし保つ者、エル・シャダイ。あらゆる欠けを満たす者。すべてを治める者。すべてを知る者。いつもそこにいる者。決して遅れることのない者。目標に到達する者。

私ヨハネは、あなたがたの兄弟です。あなたがたの多くと同じように、この方の御名のために苦難と患難の中にいる者です。私たちがこの方の御国に属しているからです。苦しみを通して栄光へと向かう道の上で。私たちは忍耐してこの方を待ち望んでいます。この方は、私たちのすべての苦しみをも終わらせてくださいます。ご自分の時に。

私は**パトモス**という島に**流刑**の身でいました。自分から望んだではありません。私が神のことばを堅く保ち、イエス・キリストこそ世界の真の支配者だと告白したために、流されたのです。それはローマの当局者たちの気にまったく入りません！ですから彼らは、小アジア州のキリスト者たちの中で使徒であった私を捕らえたのです。私たちを弱らせるためにです。

週の初めの日、主の日のことでした。私ははっきりと覚えています。御霊が私の上に臨まれました。私は神の御霊のうちにとらえられました。私は何度も、別の天の世界へと移されるのを感じました。私は大いなることを聞き、また見たのです！

それはこうして始まりました。私が御霊のうちにあったとき、後ろから、大きく力強い声が私に語りかけました。ラッパのような声でした。「今あなたが見ていること、またこれから見ることをすべてを、羊皮紙の巻物に書き記しなさい。それを小アジアにある七つの教会に送りなさい。エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルディス、フィラデルフィア、ラオディキアに。」

私は振り向いて、その声のほうを向きました。誰がこれほど力強く私に語っているのかを見ようとしたのです。すると私はまず、七つの金の燭台と、その光を見ました。そして、この七つの燭台の真ん中に、私に語りかけた方を見ました。その方は人のような姿をしておられました。

この方はどなたなのか、と私は自問しました。御使いでしょうか。いいえ。神ご自身でしょうか。それは**イエス**でした。けれども、私が知っていた、親しく近い方ではありません。いいえ。まったく違っていました。あなたがた自身、聞いてください。

その方は、長い衣を着ておられました。足まで届く、法衣のような衣です。胸のあたりで、それは金の帯で締められていました。

私にはすぐにわかりました。この人の子は、祭司のように燭台を点検し、きよめ、油を補っておられるのだと。祭司としての威厳をもって。また王としての栄誉をもって。そして、さばき主としての権威をもってです。

その頭の髪は、羊の毛のように白く、雪のように白かったのです。この方だけが聖であり、清いのです。そして、ダニエル書7章が言うとおり、太古からおられる方でもあります。この方は永遠であり、誰も手出しのできない方だからです。私は、昔の預言者ダニエルが見て体験したことを思い起こさせ

られました。それがとてもよく似ていたからです。そして私はこの瞬間、ダニエルと同じことを体験することになったのです。

その目は燃える炎のようでした。それは神の栄光を放っていました。その目はすべてを見通し、すべてを照らし出しました。完全な聖さをもってです。

その足は、炉の中で赤く燃える銅のように輝いていました。この方の強く立つ力と強さは大きいのです。地上での生涯の中で試され、確かなものとされたのです。

その声は力強いものでした。地を揺るがす大きな滝の轟きのようでした。ご自分の民には慰めとなり、敵には恐れとなる声です。

その方は右手に七つの星を持っておられました。

その口からは、鋭い両刃の剣が出ていました。神のことばと、真理と真実のしるしです。この方は、買収されることのないさばき主です。完全な義が最後のことばを語るのです。

その顔は、真昼に照り輝く太陽のようでした。見つめれば目がつぶれてしまう太陽です。

この姿はあまりに恐ろしく、あまりに恐れを抱かせるものだったので、私は、かつてのダニエルのように、その方の足もとに倒れました。死んだ者のようにです。私のうちの何一つとして、この方の前に耐えることはできませんでした。ただただ圧倒されたのです。本当の意味での神との出会いでした。

それから私は、その方が**右手**を私の上に置かれるのを感じました。友のように。そして私にこう言われました。「恐れることはない！わたしは最初であり、最後である。わたしはあらゆる時の前からおり、いつまでもいる。そして、生きている者である。よみがえった人の子である。わたしは死んだからだ。十字架の上で、辱めを受けて殺された。けれども今、わたしは生きている。いつまでも。とこしえに。わたしは死を突き破って打ち負かし、死とよみの鍵を持っている。死の力は退き、恐れはもはやなくなる。」

あなたがこれから見ることを書き記しなさい。終わりの日々にかかること——ベツレヘムでのわたしの到来から始まって、天の雲に乗ってのわたしの再臨に至るまでのことを。

その方は、七つの燭台と、手に持っておられた七つの星の奥義を私に説明してくださいました。それらは何を意味していたのでしょうか。七つの星は御使いたちです。七つの教会を代表する者たちです。それは私には奇妙に思え、同時にすばらしくも思えました。彼らは、地上にある、小アジアの七つの町にあるこれらの教会を表しています。同時に教会は、御使いたちを通して、すでに天にも現にあるのです。そこが教会のわが家です。神の御座のもとです。教会はこの方の力強い御手の中に保たれています。これらの教会は、この方、人の子のものなのです。

第2章

このすばらしい主、神のキュリオス（主）は、**エペソ**にある教会の御使いに——そしてそれによって世界中の教会にも——重要な知らせを記した手紙を書くよう、私にお命じになりました。七つの教会がその方のものである方からの手紙です。教会をその力強い御手の中に保ち、七つの金の燭台の間で祭司の務めを果たしておられる方からの手紙です。その知らせはこうです。

わたしはあなたのことを細部に至るまで知っている。あなたの良い行いも、隣人への愛も。あなたは大いに労苦している。あらゆる奉仕における、あなたの忍耐強い忍耐もまた模範的だ。

また、あなたが自分たちの中で悪い者たちに場所を与えず、彼らを受け入れないことも知っている。やって来て自分たちは使徒だと言った者たちを、あなたは試し、その正体を暴いた。彼らは偽りの使徒だったからだ。

わたしの名のための苦しみも、あなたは忍耐して耐えてきた。あなたは疲れ果てることがなかった。

けれども、すべての良いことにもかかわらず、あなたが捨ててしまった本質的なものがある！**あなたの初めの愛**だ。あなたの最初の愛——わたしが初めてあなたに出会い、あなたの心をとらえたときの愛だ。そのとき、わたしへ

の、信仰の兄弟姉妹への、そしてあなたの周りの人々へのあなたの愛は、燃えていて新鮮だった。それが、あなたのしたすべてのことの土台であり、動機だった。

あなたがどこから落ちたのかを思い起こしなさい。立ち返り、悔い改めなさい。初めにしていた行いをしなさい。本物の愛から。

もしあなたがそこへ立ち返らないなら、わたしはあなたの燭台を取り去る。そうなれば、あなたはもうエペソでわたしの証しとして役に立たない。あなたが悔いることも悔い改めることもしないなら、あなたはもうわたしのために輝くことはない。愛こそが最も大切で、最も偉大なものだからだ。愛がなければ、すべては無に等しい。

けれども、あなたがニコライ派の行いを憎んでいることを、わたしはほめる。わたしもそれを憎んでいる。つまり、不品行を容認し、他の人々を惑わし、偶像に献げた肉を食べよう勧める者たちのことだ。

耳を開いている者は、わたしが神の御霊によって諸教会に語ることを聞きなさい。この状態に打ち勝ち、初めの愛に立ち返る者を、わたしは豊かに報いる。わたしはその者に、いのちの木から食べることを許す。その木は神の楽園の真ん中に立っている。新しく、よりすばらしいエデンの中に。新しいエルサレムの中に。わたしが自分の死と復活によって造り出した新しい世界の中に。そこでその者は、途切れることなく、いつまでもその実を味わうことができる。

スミルナにある教会の御使いに——そしてこの町でこの教会に属するすべての人に——私はイエスの命を受けて書き送ります。最初であり、最後である方が言われることを、私は伝えます。すべてのものの前におられ、最後に勝利者として立たれる方。死なれたけれども、再び生きた方。いつまでも生きておられる方。死を打ち負かした方です。

わたしは、あなたの愛の行いを、あなたがわたしのために耐えている迫害と苦しみを、よく知っている。あなたの貧しさも知っている。けれども、決し

て忘れてはならない。あなたはわたしにあって富んでいる。来たるべき世界はあなたのものだ。

わたしはまた、自分はユダヤ人だと誇らしげに名乗る者たちの、ののしりと中傷も知っている。彼らは血筋の上では確かにユダヤ人だが、実際にはサタンの会堂なのだ。彼らはメシアであるイエスを憎んでいる——そして、この方に従うすべての者をも。とりわけ、あなたがたの中でわたしを信じているユダヤ人たちを。

あなたがこれからなお耐え忍ばなければならない、イエスのための苦しみを**恐れてはならない**。悪魔、すなわちサタンは、あなたがたのうちの何人かを牢に投げ込もうとしている。あなたがたが信仰を捨てるように、彼はユダヤ人と異邦人をあなたがたに対して動員する。けれども、その反対のことが起こる。あなたがたの信仰は試され、強められるのだ。あなたがたの苦難は十日間続く。それはわたしが定める期間であり、誰も変えることはできない。サタンでさえも。

死に至るまで忠実でありなさい！ 皇帝や偶像を拝むことと引き換えに、いのちと自由を差し出されても、あきらめてはならない。わたしはあなたに、いのちの勝利の冠を与えるからだ。死に至るまで忠実であり続けるなら、あなたは生き続ける。そうだ——本当のいのちを味わうのだ。わたしの永遠の御国で。わたしの栄光の中で。わたしのもとで。

耳のある者は、わたしが御霊によって諸教会に語ることに耳を傾け、よく聞き、それを行いなさい。あなたがたはわたしを真剣に受け止めなければならない。わたしのことばどおりに受け取らなければならない。これは大切なことであり、わたしは何度も繰り返しはしない。

打ち勝ち、死に至るまで忠実であり続ける者は、第二の死によって害を受けることはない。それは永遠の死、わたしから切り離された死だ。わたしから遠く離れた、火の池での死だ。わたしに従わず、わたしを拒んだ者はみな、その死を受ける。けれども、あなたがたは生きる。わたしが生きているからだ。

ペルガモにある教会の御使いに——そしてこの教会に属するすべての人に——私はイエス・キリストの命を受けて書き送ります。鋭く、刺し通す両刃の剣を持っておられる方が言われることを、私は伝えます。この方のことばには、誰も逆らうことができません。

わたしは、あなたのすべての良い愛の行いを知っている。あなたがどこに住み、どこで生きているかを、わたしはよく知っている。そこはサタンの王座があるところだ。サタンが支配し、人々を偶像礼拝の中に捕らえているところだ。わたしの姿が何一つ見えないところで、あなたはわたしの名を堅く保っている。あなたの町のこれほど多くの目に見える神殿を前にしても、目に見えないわたしへの信仰を、あなたは否まなかった。わたしの忠実な証人アンティパスがペルガモで殺されたときでさえもだ。サタンが住みつき、人々をあなたがたに対してけしかけている、その場所でのことだ。

けれども、わたしにはあなたに対して責めるべきことがある。それをわたしは受け入れはしない。あなたがたのところには、バラムの教えを良いものと認め、それを保っている者たちがいる。バラムはかつてバラクに、イスラエルの民をどうすれば打ち負かせるかを教えた。軍事力によってではなく、誘惑によってだ。すなわち、偶像への献げ物にあずからせ、それに結びついた性的な放縦によってである。

同じように、あなたがたの中には、ニコライ派の教えを保っている者たちもいる。彼らもまた、性的な放埒を良いものとしている。わたしは、教会を滅ぼし、損なうこれらの教えを憎む。

あなたがたは皆、これに責任があるのだから、悔い改めなさい。悔いて、立ち返りなさい！あなたがたはこれを改め、それに立ち向かわなければならぬ。もしあなたがたがまったくそうしないか、あるいは中途半端にしかしないなら、わたし自身が行く。わたしの口から出る激しい剣をもって。わたしは彼らと戦い、彼らが立ち返って悔い改めるようにする。あるいは、彼らがあなたがたの中から取り除かれるようにする。

耳のある者は、わたしが御霊によって諸教会に語ることに耳を傾け、よく聞き、それを行いなさい。

バラムに従う者たちとニコライ派に打ち勝ち、偶像の祭りや性的な放縱に加わらない者には、わたしは隠されたマナを与えて食べさせる。偶像に献げた肉ではなく、本当の天の食べ物が、あなたがたを待っている。

わたしは彼らに白い石を与える。マナのように白い石だ。清い石だ。そしてその上に、受ける者のほかには誰も知らない新しい名を書き記す。それは有罪の宣告ではなく、無罪の宣告であり、すでに始まった新しい時代における、新しいいのちだ。わたしの個人的な友として、わたしとの交わりのうちに生きるいのちだ。

テアテラにある教会に、燃える炎のように輝く目を持つ方が書き送られます。その目はすべてを見通し、どんな悪も容赦することができません。炉の中で燃えているかのように光り輝く銅のような足を持つ方です。聖さと真理にかかわることについては、一步も譲らない立場をとる方です。

わたしは、あなたがしているすべての良いことを知っており、それを高く評価している。あなたの本物の愛と忠実な奉仕を。そして、あなたの忍耐強い忍耐を。あなたが今わたしのために力を注いでいることは、初めにしていたことよりも、明らかに多く、また熱心だ。わたしは、あなたの成長をよく知っている。

けれども、それでもわたしには、あなたに対して責めるべきことがある。あなたは、アハブの妻イゼベルのような一人の女を容認し、好きなようにさせている。彼女は自分を女預言者と称し、あなたがたのところでは多くの者が彼女に耳を傾けている。けれども、彼女の言うことはわたしから出たものではない。彼女は、わたしのしもべたちに、偶像礼拝の神殿の宴に加わるよう教え、**惑わして**いる。それに加えて、性的な放縱が起こっている。淫らな行いと、偶像に献げた肉を食べることだ。それなのに、あなたがたは手を打たない！

彼女はもう長い間そうしている。わたしは彼女に、考えを改める時を与えた。惑わしと淫らな行いをやめるようにと。けれども、彼女はまったくわたしに聞こうとしなかった。それゆえ、わたしは彼女をさばき、その淫らな寝床を病の床に変える。つまり、わたしは彼女を退ける！けれども、彼女と関

係を持っている、惑わされ、道を誤らされた者たちもだ。彼らが考えを改め、立ち返り、イゼベルの行いをやめないなら、わたしは彼らを大きな苦難に陥らせる。彼女に結びつき、彼女の言うことに素直に従っている彼女の霊的な子どもたちを、わたしは死に至る病で殺す。彼らが悔い改め、本当に立ち返らないかぎりは。

すべての教会は、わたしが心と意思を探る者であることを知るようになる。すべてを見通し、見ている者であることを。わたしの教会では、誰一人として、責任を負い、申し開きをすることなしに、そのようなことをすることはない。わたしは、一人ひとりにその行いに応じて報いる。

けれども、あなたがた、イゼベルの教えに従っていない残りの者たちには言う。**あなたがたの持っているものを堅く保ちなさい。**あなたがたは、あの者たちが誇っている、サタンの深みを知らなかった。あなたがたは、この見せかけの知識に従わなかった。自分たちの思い込みの特別な知識によってそのすべてを把握したと誇っている、あの者たちのようにはならなかった。さらに悪いのは、こうした振る舞いは罪ではないという彼らの主張だ。ほかの皆には、わたしは重荷を負わせない。けれども、わたしと、わたしのことばに対する忠実さと献身を求める——わたしが来るまで。

イゼベルとその行いに打ち勝ち、目標に到達するまでわたしの行いをする者には、わたしは諸国の民を治める権威を与える。たとえ今あなたがたが取るに足りない者に見え、イゼベルとその支持者たちに対して何もできないように思えてもだ。わたしとともに、あなたがたは諸国の民を治め、羊飼いのように、いたわりと愛をもって彼らを牧する。逆らう者たちを、あなたがたは土の器のように打ち砕く。わたしはこれをわたしの父から受けた。そして、この力と権威を、打ち勝つ者たちもまた、わたしから受けるのだ。

わたしは彼らに明けの明星を与える。彼らは、メシアである王、輝く明けの明星であるわたしとともに、光り輝き、治める。いつまでも。まもなく夜が明ける。

耳のある者は、わたしが御霊によって諸教会に語ることを聞きなさい。わたしのみこころを行いなさい！わたしは、わたしの御霊とわたしのことばによ

って、全地のすべての教会に語っているのだ！

第3章

サルディスにある教会の御使いに——そしてそれによって、この教会に属するすべての人に——書き送りなさい。神の七つの御霊を持つ方がこう言われます。イザヤ書11章もそのことを語っています。同時に七つの星、すなわち諸教会の七人の御使いを、したがってすべての教会を、その手に握っておられる方です。

わたしは、あなたの行いと、あなたがしていることのすべてを知っている。あなたが本当はどういう状態にあるのかを、わたしは知っている。あなたは、生き生きとした活動的な教会として知られている。けれども実際には、あなたは**いのちがない**。そうだ、霊的に死んでいる。あなたには、わたしの生きた、自覚的な関係が欠けている。あなたは、自分の静けさ、平和、居心地の良さを、墓の静けさ、霊的な死の静けさと取り違えている。だから目を覚ましなさい！すでに霊的に死にかけている人たちを気にかけて、世話をしなさい。彼らが死んでしまわないように、彼らを力づけなさい。わたしは、あなたの行いがわたしの神の前に良いとは認めなかった。それは長続きしないものだ。

あなたが初めてわたしのことばを聞いたとき、どれほどの喜びをもってそれを受け入れたかを思い起こしなさい。このことば、わたしの福音を堅く保ち、考えを改めなさい。わたしのことばに立ち返りなさい。まだ遅すぎはしない。あなたは再び生き返らされることができる。

もしあなたが目を覚まさず、自分の仲間たちを力づけず、わたしのことばに立ち返らないなら、わたしはあなたのところに行く。祝福をもってではなく、盗人のように。災いがいつ来るのか、あなたにはわからない。あなたが立ち返らないなら、わたしはあなたをさばく。

けれども、あなたのところには、自分の衣を汚さなかった者たちが確かに何人かいる。彼らは、わたしの喜ばないことから距離を置いている。彼らは、あなたがたの異教的で偶像礼拝的な周囲の環境に合わせることもしない。**わ**

たしが探しているのは、まさにそういう人たちだ。彼らは復活のときに、白く清い衣を受ける——わたしからだ。わたしとともに、彼らは新しいエルサレムを散策し、歩き回る。新しい地の上で。彼らはそれにふさわしいからだ。サルディスのほかの人々は、彼らがわたしに喜ばれようとしていたために、彼らから距離を置き、彼らを避けた。けれども、まさに彼らこそが、わたしの栄誉ある客となるのだ。

サルディスにいる者で——そしてわたしは今、一人ひとりに語りかけているのだが——霊的な死に打ち勝ち、自分の衣を汚さず、わたしのことばに立ち返る者は、わたしから白い衣を受ける。いのちの書——わたしの神に属するすべての者が記されている名簿——から、わたしはその者を消し去らない。わたしは、わたしの父とその御使いたちの前で、その者の名を言い表す。

耳のある者は、わたしが御霊によって諸教会に語ることを聞き、わたしのみところを行いなさい！わたしは、わたしの御霊とわたしのことばによって、全地のすべての教会に語っているのだ！

フィラデルフィアにある教会の御使いに——そしてそれによって教会全体、そこに属するすべての人に——私は書き送るように命じられています。聖なる方、真実なる方、全き信頼を寄せることのできる方がこう言われます。この方はダビデの子であり、王の鍵を持っておられます——つまり、扉を開き、また閉じる力を持っておられるのです。ほかの誰もそれをすることはできません。そして、わたしのすることを妨げたり、押し返したりする権限は、誰にもない。

あなたの行いをも、わたしはよく知っており、つぶさに調べている。見よ、わたしはあなたの前に、誰も閉じることのできない扉を開いておいた。霊的な実が結ばれる。わたしはあなたに、人々をわたしのもつものに導くために、彼らに近づく道を与える。確かにあなたには**少しばかりの力**しかないが、それでも多くのことを成し遂げることができる。あなたは小さな始まりや目立たない事柄を軽んじなかった。あなたは、わたしの言うことを守り、行ったからだ。そしてあなたは、フィラデルフィアの町でわたしの名を否まず、むしろ大胆に言い表した。反対やあざけりや敵意にもかかわらずだ。

ユダヤ人の中から何人かが信仰に至るようにしているのは、わたしだ。すでにそうになってきたとおりだ。けれども、わたしはまた、そのためにあなたを悪口と中傷で攻撃しているユダヤ人たちのことも知っている。彼らはあなたがたを会堂から追い出した。けれども彼らは真のユダヤ人ではない。彼らは、本物のユダヤ人としてすべきこと、信じるべきことのすべてを否んでいる。彼らはサタンの会堂に属している。わたしは彼らに、あなたがたと、わたしに従っている彼らの同胞の前にひれ伏させる。彼らは、わたしがあなたを愛していることを認めざるをえなくなる。わたし、真のユダヤ人であり、メシアであるわたしを拒む彼らではなく、あなたをだ。

あなたは、忍耐してわたしを待つようにというわたしのことばを守り、宣べ伝えてきた。あなたはわたしの来臨を望みとして生きている。だからわたしもまた、大いなる惑わしの時に、あなたを守る。その時はまもなく全世界にあふれ、地に住むすべての人を試みるだろう。

いつも繰り返し、心に留めておきなさい。わたしはすぐに来る。そうだ、思いがけなくだ！だから、あなたが持っているものを、何としても堅く保ちなさい。それを手放してはならない。粘り強く続けなさい。そうすれば、誰もあなたがたから勝利の冠を奪い取ることはない。

打ち勝ち、わたしのことばを守り、わたしの名を言い表す者を、わたしはわたしの神の神殿の聖所の柱のように、重要な者とする。その忍耐と、わたしの名を言い表したことが、永遠にその者の誉れとなる。その者は、この天の神の神殿から二度と出て行くことはない。そこがその者のわが家となる。わたしはその者の上に、わたしの神の名を書き記す。そして、わたしの神の都の名をも。それは、天から新しい地へと降って来る新しいエルサレムだ。そしてわたしは、わたしの新しい名をその者の上に書き記す。こうしてその者は、永遠にわたしの神のものとなる。そして永遠に新しいエルサレムの市民となる。わたし、自分の血によってその者を買収したわたしのものにもなる。わたし、新しい世界秩序の創造者、よみがえった者のものにだ。

耳のある者は、わたしが御霊によって諸教会に語ることを聞きなさい——そして、わたしのみこころを行いなさい！わたしは、わたしの御霊とわたしの

ことばによって、全地のすべての教会に語っているのだ！

ラオディキアにある教会の御使いに——そしてそれによって教会全体に——私は書き送るように命じられています。そこに属するすべての人にです。アーメンである方がこう言われます。その方においてすべてが確かに成就し、最後のことばを語る方です。忠実で真実な証人が語られます。わたし、イエス、自分の告白と献身を自分の血によって支払った者だ。被造物の初めである方、最初の創造と新しい創造の両方の創造者である方が語られます——ご自分の復活の力によって。

ほかのすべての教会と同じように、わたしはあなたのことも知っている。あなたが何をしているのかを、わたしは知っている。わたしはそれを、すぐに、率直に、はっきりと言おう。あなたは冷たくもなく、熱くもない！ああ、むしろあなたが冷たければよかったのに。きれいで冷たい水をひと口飲むときのように、さわやかであればよかったのに。あるいは熱ければよかった——心地よい入浴や熱いお茶のために。けれども、あなたはなまぬるい。冷たくもなく、温かくもない。冷たいか熱いかだと思って、そのような得体の知れないものを飲めば、人はそれを吐き出してしまう。わたしにとって、あなたもまさにそうなのだ。あなたは個性のない中途半端な存在だ。どっちつかずだ。あなたは何でも少しずつ持っている。けれども、あまりにも少なすぎる。あなたがわたしのために燃えていればよかったのに。あるいは、はっきりとわたしに逆らっていればよかったのに。そうすれば、今よりもまだ望みがあっただろう。

なぜ、あなたはそれほどなまぬるいのか。あなたがうぬぼれていて、自分に自信を持っているからだ。あなたはこう言う。「私は富んでいる。豊かになった。何も、誰も必要としない。」恵みも、自分の教会の外にいる信仰の兄弟姉妹も必要としないと。けれども、あなたには見えていないことがある。実際には、あなたはみじめで、哀れな状態にあるのだ。あなたは物乞いのようだ。貧しく、目が見えない。裸で、上着もない。

だから、わたしがあなたに勧められることは一つだけだ。わたしから金を買いなさい。火で精錬された純金を。そうしてはじめて、あなたは本当に富む

者となる。また白い衣を買いなさい。あなたがもう裸でいることのないように、あなたのみじめな状態が覆われるように。目薬もわたしから手に入れることができる。あなたがついに、何が真実であり、わたしの前で自分がどのような状態にあるのかを見ることができるように。

わたしは、わたしが愛する者をみな——あなたがたをも——戒める。わたしは彼らの罪を彼らの目の前に示す。彼らが立ち返るためだ。わたしは彼らを訓練する。それは痛みを伴うこともあるが、大いに救いをもたらすものだ。努力し、熱心になって、あなたに欠けているものをすべてわたしに求めなさい。悔いなさい！立ち返りなさい！自分のみじめな状態を認めなさい。新しく始めることができるように。

あなたがたのところでは、わたしはまったく歓迎されていない。けれども、わたしはあなたがたの戸の外に立っている。中に入るために、わたしは戸をたたく。わたしは呼びかける。もしあなたがたのうちの誰かがわたしの声を聞き、心の戸を開くなら、わたしはその人の人生の中に入って行く。そして、わたしたちはともに食事をし、生き生きとした、実際的な交わりを持つ。わたしは、誰かが戸を開けるのを待っている。わたしは誰にも、そうすることを強いはしない。

打ち勝ち、わたしのもとに来る者、自分にどうしても欠けているものを本気で求める者は、わたしとともにわたしの支配の座に着き、ともに治める。わたしが忠実な証人として打ち勝ち、死に至るまで忠実であったのと同じように。だから、わたしの父はわたしをご自分の王座に着かせ、ご自分とともに支配させてくださったのだ。

耳のある者は、わたしが御霊によって諸教会に語ることを聞きなさい——そして、わたしのみこころを行いなさい！わたしは、わたしの御霊とわたしのことばによって、全地のすべての教会に語っているのだ！

第4章

七つの燭台の真ん中におられる威厳に満ちたキリストを見て、諸教会への七つの手紙を書き終えた後、私が目を上げると、天に一つの開かれた扉が見え

ました。それから、ラッパのように大きな声が私に語りかけるのが聞こえました。私はその声を前にも聞いたことがありました。その声は私に、上って来て、扉を通して天に入るようにと命じました。私はそこで、すでに見たことの後に、さらに何が起こり、何が見えるのかを見ることになっていたのです。

後になって思い起こしたのですが、この後、全部でさらに四度、天で事柄が**開かれる**ことになっていました。私には全部で**五つの幻**が開かれました。それぞれ異なる情景でしたが、どれもメシアの帰還で終わっていました。私にはわかりました。それらはいつも順番に続いているわけではなく、並行して、並び合って、同時に進む出来事も描いているのだと。それらはみな、一つの大いなる目標に行き着くからです。

それから御霊が私の上に臨み、私を扉を通して天へと運ばれました。私は神を見ました。王座の間の中に。けれども、それははるかに大きなものでした。どこにも、どの方向にも果てがありませんでした。その真ん中に、私は一つの巨大な王座を見たからです。嵐の目のような場所です。万物の震源のような場所です。

一人の方が、この威厳ある**御座**に座っておられました。私にはその輪郭しか見分けることができませんでした。御座は空ではありませんでした。そのことは私を大いに安心させました。明らかに、私はまず何よりもこの光景を見ることになっていたのです。すなわち、神がより大きな方であり、すべてのものの上に立っておられるということです。そして、神が最後のことばを語られるということです。そして、たとえそうは見えなくても、神が治めておられ、すべてを掌握し続けておられるということです。

そこに座っておられる方は、碧玉や赤めのうのような宝石のように見えました。見事な赤みを帯びた色で、美しく輝く宝石です。圧倒されるばかりでした。

御座の上には、一方の端からもう一方の端まで、虹のような光の輝きが照り映えていました。けれども、それはエメラルドの緑の宝石のようにきらめいていました。ただただ感動的でした。

御座の周りに、私は円を描くように、ほかの座を見ました。それらはもっと小さなものでした。私は24を数えました。そこには、私にも見分けのつく者たちが座っていました。長老たちでした。年配の男たちです。彼らは白い衣を着ていました。頭には、勝利の冠のような金の冠をかぶっていました。御使いたちが諸教会を代表していたように、私は長老たちの中に、あらゆる時代の聖徒たちを見ました。イスラエルの12人の父祖と12人の使徒を合わせたようにです。彼らは全身白をまとい、打ち勝った者として勝利の冠を受けていました。王たちのように、また祭司たちのように。

真ん中の御座からは、稲妻がほとぼしり出ていました。声が聞こえました。そして力強い雷鳴が。かつて神がシナイでモーセにご自分を現されたときのようになります。私は、この御座から、地を含む全宇宙が支えられ、保たれていることに気づきました。

御座の前では、七つの火のたいまつが燃え盛っていました。それは、全地に遣わされた神の七つの御霊です。この御霊、すなわち神の御霊は、救いへの道を照らし出し、神の義を輝き出させるのです。

御座の前の領域は、私には大きな海のように見えました。けれども、荒れ狂い、逆巻く波からなる海ではなく、固いガラスでできた海でした。水晶のように輝いていました。それは、すべての力と自然の猛威よりも強いのです。落ち着くことのない、不敬虔な諸国の民の海もまた、この御座の前では氷のように固まってしまいます。神の足もとにあるサファイアの敷石のようになります。出エジプト記24章で、モーセと長老たちがシナイ山に上って神のもとに行ったときに語られていることに比べることができます。

御座のそば、そうです、御座の真ん中に、そしてその周りに、私は四つの生き物を見ました。それらは御使いのように動いていました。けれども、やはりまったく違っていました。ただただ比類のない存在でした。御座に座っておられる方のこれほど近くにいます。それらは至るところに目がありました。前にも後ろにもです。似たようなものを、預言者イザヤとエゼキエルもはるか昔にすでに見ていました。それらは私には、宇宙をつなぎとめている力のように見えました。

私はこれらの生き物を、ある順序で見ました。序列という意味ではありません。それらは、創造者としての永遠なる方を表していました。そして、**ご自分の被造物**とのいのちのつながりを。神がその中のすべてのもの、一つひとつのものを、どのように見ておられ、また見ようとしておられるかを。東西南北の四方にわたってです。被造物を気遣う創造者として、また力強く保たれる方として、神はすべてに目を注いでおられます。

第一の生き物は獅子のようでした。あの猛々しく、王者の風格のある獣です。

第二の生き物は若い雄牛のようでした。力強い獣です。

第三の生き物は人間のような顔をしていました。私はそれを、ほかの生き物とは違ったものとして受け止めました。それは私に、神のかたちを担う者という特別な役割における人間を示していました。

第四の生き物は、飛んでいる鷲のようでした。速く、気高く、神秘的でした。

内側にも外側にも目がびっしりとついている四つの生き物は、みな六つの翼を持っていました。

すべてを見、休むことなく語り続けるこれらの生き物は、少ないけれども、ただそれだけがふさわしいこのことばを、疲れることなく、いつも繰り返しています。聖なる、聖なる、聖なる、神ヤハウェ、神である主！全能者、パントクラートル、エル・シャダイ！永遠に存在する方！昔おられ、今おられ、やがて来られる方！

私たち人間や、そのほかの被造物と比べて、この方は何と**限りなく**高く、限りなく異なり、そうです、何とまさっておられることでしょう！

四つの生き物が、世々限りなく生きておられるいと高き方に、礼拝しつつ、誉れと感謝、威光と栄光を叫ぶとき、24人の長老たちは自分の座の前でひざまずきます。御座に座っておられる方の前に。神の前にです。

彼らは、世々限りなく生きておられる方を礼拝します。そうです、彼らは自分たちの勝利の冠を御座の前に置いて、皆で声を合わせて言うのです。「私

たちではなく、あなただけがふさわしい方です。あなただけが、栄光と誉れ、尊厳と力を受けるべき方です。

あなたがすべてを——全宇宙を造られたからです。それはただあなたの**みこころ**によるものでした。あなたはご自分のためにそれを造られました。あなたゆえに、これらすべてが存在するのです。あなたのみこころがなければ、何も存在しなかったでしょう。ただあなただけがおられたでしょう。」

私たちが神のみこころの結果であるとは、何という尊厳でしょう！神の創造の中に組み入れられているのです。全地は神の栄光に満ちています。

第5章

それから私は、御座に座っておられる方の神の右の手に、一つの**巻物**を見ました。それは表にも裏にも文字が書かれていました。あまりに分量が多くて、片面では足りなかったのです。けれどもそれは、七つもの蠟の封印で封じられていました。神ご自身によってです。

私はこの巻物を見つめました。そして突然、とてつもなく重要なことが問題になっているのだとわかりました。明らかに、世界の運命がそれにかかっていたのです。それは、神の全能、全知、そして歴史の導きを記した証書のようなものでした。

そのとき、一人の強く大きな御使いが御座の前に進み出ました。彼は、宇宙のすべての存在が聞こえるほどの、大きな、雷のような声で叫びました。

「七つの封印のある巻物を開くのにふさわしく、その資格があるのは誰か。そこに書かれていることを実行するために！」

けれども、それを引き受けようとして進み出る者は誰もいませんでした。天にも、地にも、地の下、死者の国にも、誰一人いませんでした。死んだような静けさでした。息が詰まるようでした。誰も封印を開くことも、中を見ることができなかったのです。

私は絶望にとらわれました。私は激しく**泣き**始めました。それは、すべてが今のまま変わらないということを意味するからです。死や痛みや病からの自由や解放への望みはありません。戦争はいつまでも続くでしょう。飢えと苦

しみはなくならないでしょう。新しい地は来ないでしょう。ほとんどの人にとって、生き残るためのみじめな闘いは、果てしなく続くことになるでしょう。世界には、勝利者が与えられないのでしょうか。

けれども、24人の長老のうちの一人が私のところに来て、私に手を置きました。彼は、私がそのとき知ることのできなかったことを知っていました。彼は私に言いました。「泣いてはいけません！解決はあります。見なさい。一人の方が勝利を得られました。ユダ族から出た王なる獅子です。約束されたメシアです。ユダとダビデの子孫です。この方、メシアこそ、巻物を開き、七つの封印を解くのにふさわしい方です。」

私はほっとして目を上げ、力強い獅子、勝利者を見ようと思いました。けれども、私は何を見たでしょう。私が見たのは一頭の小羊でした——屠られたような小羊です。いけにえの小羊です。首に死の傷を負っていました。つまり獅子は小羊だったのです。獅子は力と暴力によって勝利したのではなく、その死によって勝利したのです——小羊として！支配者たちやカエサルたちの世界とはまったく違います。神は、傷つきやすい小さな小羊によって勝利されるのです。暴力によらずに。獅子とは違って。この方の死は、あらゆる時代の中で最も重要な出来事です。この世界の苦しみの歴史に対する決定的な勝利です。それは、すべての約束を保証します。そして、敵対するすべての力に対する神の勝利を保証するのです。

その小羊——獅子の心を持つ小羊——は、今や御座の真ん中に立っていました。本来いるべきところにです。四つの生き物の真ん中に。そして24人の長老たちの内側に。小羊は中心に立っていたのです！すべての者が、死の傷を負ったこの小さな小羊を見つめていました。そうです、神はご自分を小羊と一つにされ、それによって、ご自分がどのような方であり、どのように歴史を導かれるのかを示されたのです。暴力や力や強制によらず、身をささげる自己犠牲によって、神は歴史の栄光に満ちた目標に到達されます。その目標を、私はやがて見ることになるのです。

その小羊には、私がそれまでに見たどの小羊とも違って、二本ではなく、七本の角がありました。つまり、神の完全な力です。小さな小羊でありなが

ら、すべての力と権威がこの方に委ねられていたのです。そのうえ、七つの目がありました。これもまた、全地に遣わされてすべてを見ている神の七つの御霊です。そして同時に、人々を照らして救いへと導く御霊なのです。

この小羊は今、御座のほうへ進んで行きました。そして、御座に座っておられる方の右の手から巻物を受け取りました。御座の方は、それを小羊に差し出されました。それは永遠に残る瞬間でした。威厳に満ち、それでいて不思議な瞬間でした。何しろ、ただの小羊なのです。けれども今や、世界の運命は、この方、死んでよみがえったメシアの手の中にありました。これ以上良い手はありません。

小羊が巻物を受け取ったとき、次のことが起こりました。24人の長老たちが、先ほどと同じようにひれ伏しました。四つの生き物でさえ、深く身をかめました。彼らはみな小羊を礼拝しました。24人の長老たち、王であり祭司である者たちは、天の神殿の中にいるように、香の満ちた鉢を持っていました。鉢の中の香は、聖徒たちのすべての祈りでした。彼らの礼拝、願い、そして嘆きもです。彼らはまた豎琴を手にして、それに合わせて新しい歌を歌い始めました。それはまさに新しい歌でなければなりませんでした！小羊によって、今や何もかもが、本当に何もかもが変わったからです。彼らは礼拝と感謝をもって、小羊に向かって歌いました。

あなただけが、巻物を開き、封印を解き、それを読み、そこに書かれていることを実行するのにふさわしい方です。

あなた、神の小羊は、いけにえとしてささげられたからです。あなたはご自分の血によって、私たちを神のために買い取られました。あらゆる部族、あらゆる言語、国民、民族の中から。

あなたは彼らすべてを、**全地**から集められた大勢の人々を、私たちの神のために**王**とし、**祭司**とされました。

彼らは地を治めるでしょう！そして、神の心にあったことを行うでしょう。初めからあったことを。そして御顔の前で神に仕えるのです。

彼らの歌が終わったとき、私は御使いたちを見ました。彼らもまた、生き物たちや長老たちとともに、御座の周りに集まっていました。それは、天の星のように大勢の御使いたちでした。御使いの海のように、彼らは今、小羊へのこの賛美に声を合わせたのです。それは想像を絶する天の賛美でした。あまりに壮大で、自分が見聞きしていることをほとんど信じられないほどでした。

屠られた小羊こそ、ふさわしい方！

すべての力と富と知恵を受けるにふさわしい方。

すべての力強さと誉れと栄光と賛美を。

御使いたちがそう言い終えると、全宇宙がその賛美に加わりました。天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもの、海の上にあるもの、海の中にあるもの、すべての被造物がこう言うのを、私は聞きました。

御座に座っておられる方、すなわち父なる神と、小羊、すなわち父の永遠の御子にだけ、賛美と誉れと栄光と力がふさわしいのです。しかも、世々限りなくとこしえまで。

すると四つの生き物は言いました。「アーメン。」そして24人の長老たちは、再び顔を伏せてひれ伏し、礼拝しました。

第6章

さて、小羊は封印を一つずつ開き始めました。けれども、封印が開かれるたびに、あの力強い、雷のような声が伴いました。御座のそばにいる四つの生き物の一つが、こう叫んだのです。「ここに来て、よく見なさい！」

私はそのとおりにしました。**第一の封印**が開かれたとき、私は一頭の白い馬を見ました。それに乗っている者は弓を持っていました。そしてこの乗り手には、勝利の冠が与えられました。そして彼、その御使いのような存在は、行く先々で勝利を収めるために駆け出して行きました。世界の征服者のようにです。それは良い御使いではありませんでした。

私にはわかりました。安全はどこにもないのだと。どこにもです。王国は打ち負かされ、踏みにじられます。新しい帝国が興ります。ローマ帝国とローマの平和もまた、いつの日か倒れるでしょう。神がそう望まれるからです。

小羊が**第二の封印**を開いたとき、第二の生き物も、第一の生き物と同じように言いました。「ここに来て、よく見なさい！」

今度もまた私は一頭の馬を見ました。火のように赤い馬です。それに乗っている者は、人々と諸国の民の間から平和を取り去る権威を与えられていました。そうなれば、彼らは互いに殺し合うでしょう。数えきれないほどの戦争と内戦の中で。その乗り手は大きな剣を受け取り、それで平和を打ち砕きました。この者もまた、良い御使いではありませんでした。

神と小羊は、これらの悪しき、破壊的な悪の力を、もはや押しとどめられませんでした。神が悪の力に場所をお与えになるとき、それが神のさばきなのです。神は彼らに命じる必要はありません。彼らは自分から悪を行います。それがこの黙示録の中で広がっていくのです。

小羊が**第三の封印**を開いたとき、第三の生き物も言いました。「ここに来て、よく見なさい！」

すると私は一頭の黒い馬を見ました。それに乗っている者は、小麦と大麦を量るための秤を持っていました。

四つの生き物の真ん中から、一つの声がこう告げました。「12時間働く日雇い労働者の一日分の賃金で、一日分の小麦。一日分の賃金で、三日分の大麦。オリーブ油とぶどう酒を損なってはならない。」これは、基本的な食料としては法外な高値です。けれども、それほど必要ではないオリーブ油とぶどう酒は、安く手に入るのです。不平等な社会です。戦争と干ばつが収穫を台無しにし——飢えがやって来るとき、ほとんどの人が毎日、生き残るために闘っているのです。それなのに、一部の人々はぜいたくに暮らしています。そうです、これは決してこうあるべきではなかった世界です。それは贖いを求めて叫んでいます。人々は、自分の創造者であり養い主である方に立ち返るべきなのです。

第四の封印が開かれたとき、第四の生き物が言いました。「ここに来て、よく見なさい！」

今度もまた私は一頭の馬を見ました。青ざめた灰色の馬です。それに乗っている者の名は「死」でした。ハデス、すなわち死者の国が彼に付き従っていました。彼は、すべての死者、殺された者たちを捕らえました。彼らは、あの世、目に見えない世界で、大いなるさばきの日まで生き続けるのです。この死の使い、滅ぼす者には、地に住む者の四分の一を殺す権威が与えられました。戦いの剣と、飢饉と疫病と、地の野獣によってです。

これらすべての乗り手は、神がさばきを通して人々を立ち返りへと呼んでおられることを、私に示しました。神はさばきの中でもご自分の恵みを示し、人々がご自分に聞き従うように、あらゆることをなさいます。ご自分のいくつしみによって、けれども災いによってもです。

小羊が第五の封印を開いたとき、私はまったく違うものを見ました。天の神殿の中に、私は全焼のいけにえの祭壇を認めました。その祭壇の下に、神のことばに従い、イエスを証したために、力づくで殺された人々が立っているのを見えました。小羊と同じように、彼らもまた自分のいのちをささげ、死に渡したのです。今、彼らは天にいます。小羊のもとに、神のもとにいます。

これらの**殉教者**たちは、御座の前で声を合わせ、大声で嘆き叫びました。「聖なる、真実な、絶対の主権者よ。いつまでですか。私たちの罪のない血のことで、私たちを殺した者たちに責任を問い、私たちを殺した地上の者たちをさばいてくださるのは。この不正に終わりが来るように。」

すると、彼らすべてにまず白い衣が与えられました。打ち勝った者として、彼らはそれにふさわしかったからです。そうです、彼らは死を通して打ち勝ったのです——小羊のように。御座に座っておられる方ご自身が彼らに言われました。イエスの証人としての重荷の多い人生の歩みから、しばらくの間休みなさい、と。地上にいる彼らの苦難の仲間たちもまた殺され、こうして殉教者の数が満ちるまでです。責任を問われる日は来ます。これほど多くの

殉教者のゆえに、それは必ず来なければなりません。悪はもう長くは存在しないのです。

それから**第六の封印**が来ました。そしてそれは、世界の歴史の終わりでした。世界のさばきです。責任を問われる日です。非常に大きな地震が地を揺るがしました。太陽はもはや輝かず、黒くなりました。月は血のように赤くなりました。天の星は、木が激しく揺さぶられて落ちる熟していないいちじくの実のように、地に落ちて来ました。天は巻物のように巻き取られました。すべての山と島は、この混乱の中で、その場所から移されました。

何一つ、元のままではなくなります。宇宙の秩序と社会の秩序は解体されます。それらすべては、もはや必要とされないのです。これらすべての出来事は、終わりと神の顕現そのものを表しています。

この宇宙的な世界の終わりを前にして、人々は何をしたでしょう。すべての王たち、高い身分の者たち、富める者たち、高官たち、力ある者たち、すべての奴隷と自由人は、山の洞穴や岩の間に身を守る場所を見つけようとしてしました。今や、どんな社会的な違いもまったく意味がありませんでした。誰もが同じように打たれたのです。

絶望のあまり、彼らは山々と岩に向かって、自分たちの上に倒れかかってくれるよう懇願しました。御座に座っておられる方から身を隠し、守ってもらうためです。永遠の、生ける、唯一の、聖なる神、全地をさばく方から。そして小羊の怒りから。怒る小羊というものについて、私はそれまで聞いたことも見たこともありませんでした。けれども、かつてエルサレムで苦しめられ、殺されたメシアには、確かに世界の支配とさばきが委ねられているのです。私はイエスが怒っておられるのを、ほとんど一度も見たことがありませんでした。一度だけ、神殿で、イエスは本当に怒られました。父の家が汚されていたからです。

この方は、ご自分に従う者たちを救い、彼らを迫害する者たちには義をもって臨まれます。あらゆる不義に対するこの方の怒りのさばきの大きな日が、今や来たからです。誰もそれを逃れることはできません。誰一人です。そして人々は、これが終わりであり、自分たちが間違った側に立っていたこ

とに気づきます。彼らにとって、神と小羊はどうでもよい存在だったからです。

そして、誰が**小羊の怒り**の前に立つことができるでしょうか。

それを私は、この後見ることになりました。立つことのできる人たちは、確かにいたのです。

第7章

その後、私は四人の御使いが地の四隅に立っているのを見ました。彼らは風を押しとどめていました。地の上にも、木々の上にも、海の上にも風が吹かないようにです。それから私は、もう一人の御使い、五人目の御使いが、日の昇る方から、東から来るのを見ました。神から遣わされた御使いです。彼は一つの印を携えていました。生ける神の所有の印です。

この御使いは、四人の御使いに力強い声で叫びました。「あなたがたが嵐を解き放つとき、地も、木々も、海も損なってはならない。私たちが地上にいる神のしもべたちすべての額に、この印をもって目に見えるしるしを付けてしまうまでは、決してそうしてはならない。」それによって彼らは苦難の中で守られ、目標に、すなわち神の御座のもとでの永遠のいのちに到達するのです。

これら自然の力をつかさどる御使いたちは、いつでも、どんな時でも、人間に害を加えようとしています。けれども神は人々を守っておられます。さばきにおいて、神はその守りを引き上げ、ご自分に仕える者たちだけを守られるのです。

それから私は、彼らが何人に印を押すことになっているのかを聞きました。144,000人です。イスラエルの子ら、すなわちヤコブの子らのすべての部族からです。今聞いたような部族の順序を、私はそれまで一度も聞いたことも読んだこともありませんでした。

ユダから12,000人。ルベンから12,000人。ガドから12,000人。アシェルから12,000人。ナフタリから12,000人。マナセから12,000人。シメオンから

12,000人。レビから12,000人。イッサカルから12,000人。ゼブルンから12,000人。ヨセフから12,000人。ベニヤミンから12,000人。

これらは、メシアであるイエスに従い、そのために同胞であるユダヤ人たちからひどく軽蔑され、迫害された、イスラエルのすべての人々でした。すでに書いたとおり、サタンの会堂からです。最初に福音を告げ知らされた彼らは、教会の核であり、始まりでした。彼らは初穂でした。神に知られ、神の所有とされた者たちです。メシアを拒んだほかのすべてのユダヤ人とはまったく対照的にです。実際、真に選ばれた者たちは、今もなお神の心とご計画の中に生きています。それが、12部族という象徴的な完全数によって表されているのです。たとえ今は見つけることができないとしてもです。そうです、諸国の民の大いなる収穫——私がこの後すぐに見ることになる収穫——が集められるとき、イスラエルはみな救われるのです。私の同胞たち。彼らがイエスを自分たちのメシアとして認めるようになることを、私は心から願っています。

その後、私は数えきれないほどの、おびただしい諸国の民の群衆を見ました。いと高き方の御座の前にいる、大きな人の海のようにでした。彼らは、あらゆる民族、部族、国民、言語から来ていました。それは、大いなる国際的な諸国の民の収穫でした。そうです、イザヤがイエスの苦しみについて預言していたとおり、この方のたましいの激しい苦しみの実だったのです。彼らはみな、御座の前と小羊の前に立っていました。白い衣を着ていました。手にはなつめ椰子の枝と葉を持って振り、小羊の勝利と、新しい、**最終的な出エジプト**を祝っていました。彼らがただ一つの力強い歓喜の合唱で、こう叫ぶのを聞いたとき、私は身震いしました。「救いは、ただ御座に座っておられる方のおかげです。私たちの神と小羊のおかげです。」

それが起こったとき、私は、数えきれない御使いたちがみな御座の周りに立っているのを見ました。闘技場のようでしたが、人間が造ることのできるどんなものよりも大きなものでした。彼らにとって、贖われた国際的な人々の群れは、奇跡の中の奇跡でした。そこには24人の長老たちと四つの生き物もいました。彼らはみな顔を伏せてひれ伏し、神を礼拝しました。彼らは、

人々が叫んだことに「アーメン」と言いました。それから彼らは礼拝して言いました。「私たちの神に、すべての賛美、すべての栄光と知恵、そして感謝と誉れと力と強さがありますように！ただ神にだけ、とこしえに！今も、いつまでも。」

それから、前と同じように、24人の長老の一人が私に語りかけました。彼は私に尋ねて、白い衣を着て御座の前に立っているこの人々が誰であり、どこから来たのか、見当がつくかどうかを知ろうとしました。私にはわかりませんでした。本当に見当もつかなかったので、彼にそう言いました。彼が何と言うのか、私は興味津々でした。

彼は言いました。「この人たちは、**大きな苦難**を通して来た者たちです。彼らはみな、小羊の血で自分の衣を洗って白くしたのです。彼らはキリストの血による赦しを信じました。そのこと、ただそのことだけが、彼らが今ここ、神の御座の前、神の御顔の前にいて、神に仕えている理由なのです。昼も夜も、いつまでも。王として、また祭司として。神の天の神殿の中で。そして御座に座っておられる神は、彼らの上に、また彼らの周りにご自分の住まいを張り、彼らとともにおられます。神は彼らのところに来て、彼らのもとに宿られるのです。彼らはもう二度と、飢えることも渴くこともありません。生き残るための闘いも、生活への不安も、もはやありません。照りつけて干からびさせる太陽の熱も、決して彼らを襲うことはありません。御座の中心におられる小羊ご自身が、気遣いと愛に満ちた**羊飼**いのように彼らを守り、養ってくださるからです。小羊は彼らを、永遠のいのちの、生きた、湧き出る**水の泉**へと導いてくださいます。

神は彼らの目から、すべての**涙**をぬぐい取ってくださいます。彼らはもう二度と泣くことはありません。泣く理由がもはやなくなるからです。痛みも、悲しみも、戦争も、もはやなくなります。神と小羊が、すべてを新しくされるのです。」

長老がそれを私に告げたとき、私はほとんど理解することができませんでした。小羊の収穫は、本当にこれほどまでに大きなものになるのでしょうか。私は確かに五旬節に、そしてエルサレムで、何千人もの人が信仰に至るのを

体験しました。その後も、大勢の人がいました。そして今、ここ小アジアでも大勢の人がいました。けれども、これほど多くの人が？私は言葉を失いました。すばらしい！そうなれば、福音は地の果てまで届いたことになるのです。神の民は、いつも私たちが考えるよりも**大きい**のです。

けれども、彼らはみな、私自身もその中にいた苦難の中から来たのであり、信仰のゆえにつらい経験をしてきたのです。けれども彼らは忠実であり続けました。今、彼らは天の王座の間に入っていました。至るところから。目標に到達したのです。自分たちの神と、神のために自分たちを買い取ってくださった小羊の、すぐそばに。

今や私は知りました。小羊の怒りと、御座に座っておられる方の前に、誰が立つことができ、誰ができないのかを。

第8章

今や小羊は第七の封印を開きました。これで巻物は完全に開かれました。あまりの緊張のために、天は静まり返りました。半時間の沈黙と静止です。神の臨在がさばきのうちに現れ、さばきが目前に迫るとき、すべてが沈黙するのと同じようにです。

こうして、二度目に何かが開かれました。今回は第七の封印です。これによって**第二の幻の系列**が始まりました。これもまた、キリストの再臨で終わることになっていたのです。

それから先へと進み、私は**七人の御使い**が御座の前に立っているのを見ました。彼らにはそれぞれ一つずつ**ラッパ**が与えられました。

けれども、そこにはもう一人の御使いがいました。金の香炉を持っていました。彼は、神の御座の前にある香の祭壇のすぐそばに立っていました。彼には多くの香が与えられました。彼はこの香を祭壇の上に置きました。聖徒たちの多くの、そうです、数えきれない祈りに添えて。それらの祈りが、芳しい香りの煙の中で、神の前に立ち上るためです。迫害されている教会にとって、自分たちの祈りが、それを聞き届けることのできる方のもとに届くということは、何という慰めでしょう。

けれどもそれから、御使いは祭壇の上の燃える炭火の一部を香炉に入れ——それを地に投げつけました。それは、地から天へと立ち上ったすべての祈りへの答えでした。すると、雷鳴と声と稲妻と地震が起きました。神は、ご自分の民と殉教者たちの祈りに、終わりの日になってはじめて答えられるのではありません。

その後、ラッパを持った七人の御使いたちは、ラッパを吹き鳴らし、さらなるさばきを告げ知らせる準備を整えました。ここ小アジアの人々が、とりわけ恐れおののくさばきです。

第一の御使いがラッパを吹き鳴らしました。すると、雹と、ほとぼしる大きくまばゆい稲妻が地に投げつけられました。そのため、木々の三分の一と、すべての青草が焼けてしまいました。

第二の御使いがラッパを吹き鳴らしました。すると、燃えている大きな山のようなものが海に投げ込まれました。海の三分の一が血になりました。海の生き物の三分の一が死にました。そして、海の上の船の三分の一が壊されました。

第三の御使いがラッパを吹き鳴らしました。すると、たいまつのように燃えている大きな星が天から落ちました。それは川の三分の一と水源の上に落ちました。その星の名は苦よもぎといいます。そのため、水の三分の一が苦よもぎになりました。その水を飲んだ多くの人が死にました。水が苦くなっていたからです。

第四の御使いがラッパを吹き鳴らしました。すると、太陽の三分の一と、月と星の三分の一が打たれました。それらは暗くなり、昼の三分の一は光がなくなり、夜も同じようになりました。

多くのことが、私に、エジプトの10の災いを思い起こさせました。神が、かたくななファラオとエジプト人たちの上にもたらされた災いです。

それから私は、一羽の鷲が中天高く飛んでいるのを見ました。それは、まるでともに苦しんでいるかのように、大声で叫んでいました。「わざわいだ、わざわいだ、わざわいだ！地に住む者たちは、さらに三つのラッパのさばき

を経験することになる！」それらは、最初の四つよりもさらにひどいものになるはずでした。

第9章

それから、**第五の御使い**がラッパを吹き鳴らしました。私は、一つの星が天から落ちているのを見ました。それは一人の御使いで、底知れぬ所、アビュッソスの縦穴を開ける鍵を受け取りました。彼がそれを開けると、その縦穴から、濃い、黒い煙が立ち上りました。炉から出る煙のようでした。空気全体と太陽が暗くなりました。

けれども、その煙の中にはいなごが潜んでいて、今それが地上に出て来ました。それらには、毒針で力をふるうさそりのような力が与えられました。

それらには恐ろしい務めが与えられました。いなごが普通するように、木々や畑を食い荒らして人々から食物を奪うではありません。そうではなく、毒針で人々を苦しめ、害を加えることになっていたのです。ただし、額に神の所有の印を押されていない人々だけです。それらには、人々を文字どおり拷問するための期間として、五か月が与えられました。神によって限られた期間で、いなごの一生の周期に相当する期間です。それらは人々を殺しはしませんでした。彼らを苦しめることを楽しみました。心にも体にもあまりにひどい苦しみなので、人々は自ら命を絶とうとし、死ぬことだけが唯一の逃げ道だと考えるようになります。けれども、それは彼らに許されません。死のほうが、まるで彼らから逃げて行くのです。けれども、神の所有とされた人々は、それを免れます。

そのいなごの姿は、戦いのために武装した軍隊のようでした。頭には金の勝利の冠のようなものをかぶっていました。顔は人間の顔のようでした。髪は女の髪のように長かったのです。歯は、獲物を引き裂く獅子の歯のようでした。鉄の胸当てで武装していました。羽ばたく翼の轟きは、馬に引かれて戦いに向かう多くの戦車の音のように聞こえました。尾はさそりの尾のようで、その先に毒針が備わっていました。それによって、五か月の間、人々を苦しめる権威を受けたのです。

それは悪霊の軍勢です。神の寛容を絶えず退け続ける人々を、悪意をもって苦しめるのです。

その頭であり王であるのは、底知れぬ所から来た、墮落した天使長です。その名はヘブル語でアバドンといいます。ギリシア語ではアポリュオン——滅ぼす者——という名を持っています。人間でさえ墮落していて悪いのなら、底知れぬ所の使いたち、悪しき者が底知れぬ所から投げ出した闇の霊的存在は、どれほどそうでしょう！滅ぼす者は、これまでにどれほどたびたび動き回ってきたことでしょう。エジプトで初子を殺したときもそうでした。

今、**第一のわざわい**は過ぎ去りました。まだ二つのわざわいが来ます。

その後、**第六の御使い**がラッパを吹き鳴らしました。すると私は、神の前にある祭壇の四つの角の一つから出る声を聞きました。その声は第六の御使いに言いました。「大河ユーフラテスのほとりに縛られている四人の悪しき御使いを解き放て。彼らがその悪しきわざを行えるように。」ユーフラテス、それはローマ帝国の境であり、帝国を恐ろしいペルシア人から隔てている川です。

そして、この時のために備えられていた四人の御使いが解き放たれました。人類の三分の一を殺すためです。それは巨大な騎兵の軍団で、さばきを執行するために出陣しました。ほとんど数えきれないほど大きな、おびただしい軍勢です。ローマの強大な敵であるパルティア人のようでした。彼らはローマ帝国にとって脅威であり、一度も打ち負かされたことがないのです。

馬とそれに乗っている者たちは、次のような姿でした。彼らは、火のような色、ヒヤシンスの色、硫黄のような黄色の胸当てを着けていました。馬の頭は獅子の頭のようにでした。その口からは、火と煙と硫黄が出て来ます。馬の力は、その口と尾にあります。尾は毒蛇のようで、それで害を加えるのです。

これらの災いによって殺されなかった残りの人々は、それでも悔いることがありませんでした。彼らはそれまでの生き方を続けました。これらのさばきにもかかわらず、自分たちが行っていたあらゆる悪から立ち返りませんでし

た。彼らは悪霊や悪しき霊たちと関わり、偶像を拝み続けました——金、銀、鉄、石、木で造られ、見ることも、聞くことも、歩くこともできない偶像をです。彼らは悔い改めず、自分たちの殺人と、オカルト的な魔術から——そして自分自身を偶像とすることから、立ち返りませんでした。歯止めのない淫らな行いと盗みからも立ち返りませんでした。悪からの離反もなく、神への方向転換もなかったのです。

これらすべての出来事、神のさばきは、まさにメガホンのようなものだったのです。人々を大きな声ではっきりと立ち返りへと呼び、生ける神のもとでしか安全はないことを、彼らがついに悟るようにするためのものでした。

第10章

その後、私は、もう一人の御使いが地に降って来るのを見ました。ひときわ強い御使いで——衣をまとうように雲に包まれていました。その頭の上には、虹のような光の輝きがありました。その顔は太陽のように強く輝いていました。その足は火の柱のようでした。その手には、開かれた小さな巻物を持っていました。それは、小羊がその七つの封印を開いた巻物でした。そこには、この世界に対する神のご計画のすべてと、神の知恵によるその実現が記されていました。

彼は右足を海の上に置きましたが、その中に沈むことはありませんでした。そして左足を地の上に置きました。こうして彼は、神の名において、地と海を神の所有であると宣言したのです。それから彼は、獅子がほえるように、大きな声で叫びました。彼がそのように叫ぶと、七つの雷がそれぞれの声で語りました。

そこで私は、七つの雷が言い表したことのすべてを書き留め始めました。けれども、天からの声が私を戒め、それを書き留めないようにと言いました。それは封じられ、秘められたままにしておかれるべきなのです。それはただ神の事柄でした。私たち人間はすべてを知ることはできませんし、知ることもないでしょう。知るとしても、それは目標に到達したときです。

そして、海と地の上に立っていたその強い御使いは、巻物を持った手を天に上げ、永遠に生きておられる方にかけて誓いました。天とその中に生きるものを創造された方にかけて。地とその上に生きるものを創造された方にかけて。そして海とその中に生きるすべてのものを創造された方にかけてです。この誓いは、きわめてはっきりと言っていました。もうこれ以上の猶予も延期もない。終わりが来たのだ。それは、第七の御使いがラッパを吹き鳴らし始める日々にかかる。そのとき、神の奥義、すなわちこの世界に対する神のご計画が完成する。神がご自分のしもべたちに告げられたとおりに。

それから私は、再び天からの声を聞きました。私に語っておられたのはイエスでした。私は、海と地の上に立っている御使いのところに行き、その手から**巻物**を受け取るようになりました。私は彼のところに行き、その書物を求めました。彼はそれを私に渡して言いました。「それを食べ尽くしなさい。それはあなたの口には蜜のように甘い、あなたの腹には苦い。」そこで私はそれを受け取り、かつてエゼキエルがしたように、それを食べ尽くしました。すると、それは本当に私の口に蜜のように甘かったのです。けれども、私の腹の中では、それが苦いを感じました。さばきから来るすべての苦しみと嘆きが、その中に含まれていたのです。けれども、それは確かに私の口には甘くもあり、ご自分のしもべたちに対する神の真実を私に示していました。神は彼らに報い、ご自分の新しい世界へと招いてくださるのです。

それから彼らは私に言いました。あなたは再び、もろもろの民族、国民、言語、そして多くの王たちについて預言し、予言しなければならない、と。私が食べたあの書物には、これらすべての預言が含まれていたのです。

第11章

それから、私に測り竿が与えられました。「立って、**神殿の聖所**と祭壇と、そこで礼拝している者たちを測りなさい。けれども、神殿の外の庭は測ってはならない。それは諸国の民に与えられたのだ。彼らは聖なる都エルサレムを42か月の間踏みにじる。」

振り返ってみれば、それは、かつて紀元70年まで存在していたエルサレムの神殿でした。私はそこに、象徴的に、忠実に奉仕していた人々を見ました。

メシアニック・ジュー、すなわち、メシアを軽んじ、諸国の民に惑わされていた同胞の只中にある、イスラエルの真の残りの者たちです。それはまた私に、イスラエルの全部族から印を押された144,000人と、彼らの信じない兄弟たちの反キリスト的な抵抗とを、改めて思い起こさせました。

「そしてわたしは、この期間、わたしの**二人の証人**にすべての権威を与える。1260日、つまり42か月の間、彼らは預言する。へりくだって、嘆きながら——粗布をまとって。」この二人は、全地の主の前に立っている二本のオリーブの木であり、二つの燭台です。そして、誰であれ彼らに害を加えよう、あるいは彼らを黙らせようとする者がいると——彼らの口から火が出て、敵を滅ぼします。そうです、彼らに害を加える者は殺されなければなりません。彼らは、自分たちが預言し、人々の罪を明るみに出して彼らを告発する期間、雨が降らないように天を閉ざす力さえ持っています。かつてのエリヤのときと同じようにです。彼らはさらに、モーセのように、水を血に変える権威も持っています。彼らは望むたびごとに、あらゆる災いで地を打つことができるのです。

私は、この二人が誰でありうるのかを考えました。彼らは象徴的に理解すべきなのでしょうか。最終的に私は、彼らの中に、教会の代表者たちを見るのが最もふさわしいと考えました。たとえそれが一見すると理解しにくいとしてもです。けれども、彼らの忠実さ、彼らの証し、初めからの彼らの献身が、それを示唆しているように思えるのです。彼らはあらゆる苦難を甘んじて受けました。二人の証人と同じように、信じる者たちの教会もまた、神の守りと権威のもとにあって、止めることのできないものでした。どれほど激しく圧迫されてもです。さばきは教会のゆえに行われ、最後にはすべてが極限まで先鋭化していきました。教会は文字どおりに敵を滅ぼしたわけではありません。教会の戦いは霊的なものです。教会のメッセージによって、敵は沈黙させられました。時には、出来事が不思議な仕方教会に有利な方向へと転じたのです。

証人たちの日々が終わると、底知れぬ所から上って来る獣——それについては後で詳しく報告します——が彼らに襲いかかります。実際、その獣は彼ら

に打ち勝ち、彼らを殺すのです。そして彼らの死体は、大きな都エルサレムの大通りにさらされます。その都は、靈的にも道徳的にも、ソドムやエジプトとまったく同じように不敬虔です。それは、私たちの主イエスが十字架につけられた都です。けれども、この都について言われていることは、最終的にはすべての都に、そうです、全地と地に住むすべての者に当てはまるのです。

この悪の勝利を、あらゆる民族、部族、言語、国民の中の多くの人々が目の当たりにします。3日半の間、彼らは大通りに横たわっています。全世界、偶像に仕え、生ける神とイエスを拒み、あるいは軽蔑するすべての者たちが、それを喜びます。彼らは互いに祝いのことばや贈り物を送り合うでしょう。3年半もの間、災いによって自分たちを苦しめ、自分たちの罪と不正を絶えず指摘してきた者たちが、ついに殺されたからです。その目的は、かつてファラオも悔い改めに至るべきであったように、彼らを悔い改めと立ち返りに導くことでした。

けれどもそのとき、3日半の後、まったく予想もしなかったこと、そうです、人々にとってはまったくばかげたことが起こりました。二人の証人に再びいのちが戻ったのです。神が初めにアダムにいのちを吹き込まれたように、あるいはエゼキエル書の死者の骨にご自分の息を吹き込まれたように、今、この二人の忠実な殉教者にも同じことが起こったのです。彼らは死からよみがえりました。それは、それを見た大勢の人々をみな震え上がらせました。彼らは大きな恐れを抱きました。天から、二人に向かって「ここに上って来なさい！」と言う大きな声を、彼らはみな聞いたからです。そして、かつてのエリヤのように、また彼らの主イエスのように、二人は雲に包まれて天に上って行きました。彼らの敵たちの目の前で。

このように、信じる者たちの教会は、最後にはほとんど消し去られてしまうでしょう。けれども、その**殉教**こそが、最後には教会の**勝利**となるのです。小羊が死を通して勝利されたのと同じように。教会は神のもとへ引き上げられます。そして神に迎え入れられ、高く上げられるのです。それが教会の勝利であり、同時に、教会の敵たちの終わりの始まりなのです。

二人の預言者とその引き上げに対する驚愕のこの時に、大きな地震が起きました。エルサレムの都の十分の一が崩れ落ちました。七千人がこの地震で死にました。残りの者たちはみな恐れを抱き、天の神に栄光を帰しました。そうです、悔いと立ち返りがあったのです。それこそが、さばきによって意図されていたことでした。終わりの日に、イスラエルはみな救われるのです。

これで**第二のわざわい**は過ぎ去りました。**第三のわざわい**がすぐに来ます。

それから私は、ラッパを持った**第七の御使い**を、固唾をのんで待ちました。そして彼がラッパを吹き鳴らすと、天で大きな声々が起きました。それらは言いました。「今や全世界が、全地が、神の王国として、主ヤハウェとそのキリスト、そのメシアに渡された。今、その支配が始まる。それは永遠に続く。」

神の前で自分たちの座に着いている24人の長老たちは、それを聞いて顔を伏せてひれ伏し、こう言って礼拝しました。「私たちはあなたに感謝します。主よ、神よ、全能者よ、いつもおられ、今おられ、やがて来られる方よ。あなたは今、ついに暗黒の時代を終わらせ、最終的な**平和の支配**を始められたからです。

諸国の民は何千年もの間、怒り狂ってきました。けれども今、長い忍耐の後に、あなたの最後の怒りが来たのです。そしてついに、すべての死者があなたの御座の前でさばかれる時が来たのです。そしてあなたは、あらゆる時代のあなたのすべてのしもべたちに、その**報い**を与えられます。預言者たちに、すべての聖徒たちに、そうです、あなたの御名を恐れるすべての者に。小さな者にも大きな者にも。けれども、あなたがご自分のしもべたちに報いを与えられるのとまったく同じように、地とその上に住む人々を滅ぼした者たちには、滅びをお与えになるのです。」

そして、終わりの時についてのこの壮大な幻の結びは、天にある神殿、至聖所が開かれ、神の契約の箱が見えたことでした。そこで、稲妻と、声と、雷鳴と、地震と、大きな雹が起きます。起こったすべてのことは、神が御座

に着いておられる最も奥の聖所から出たものでした。すべては、ここで私たちに知らされている神の主権的なみこころだったのです。

これが、**三度目**に何かが**開かれた**ときでした。今回は神殿です。これによって**第三の幻の系列**が始まりました。これもまた、主イエスが栄光のうちに来られることで終わったのです。

第12章

それから、天に一つの大きなしるしが現れました。私は一人の若い**女**を見ました。臨月で、太陽をまもっていました。その足の下には月がありました。頭には12の星の冠をかぶっていました。彼女は産みの苦しみの痛みのために叫んでいます。今まさに子を産もうとしているのです。

けれども私は、天にもう一つの大きなしるしを見ました。巨大な、火のように赤い**竜**です。多くの頭を持つ水の蛇で、ヒュドラのような、詩篇74篇に出てくる海の怪物レビヤタンのようなものでした。それには七つの頭と十本の角がありました。その頭には七つの冠をかぶっていました。その大きな尾は、星の三分の一を掃き落とし、地へと投げ落とします。きわめて強大で、知恵があり、脅威に満ちた、そうです、人殺しの存在です。

この蛇のような竜は、今にも子を産もうとしている女の前に身を起こしました。子が生まれたらすぐに、それを食い尽くそうとしているのです。女は**男の子**を産みました。その子は、世界とすべての民族を治めるよう定められていました。けれども竜は、それを阻もうとしました。自分自身が世界を支配し、所有したいからです。ところが不思議なことが起こりました。竜はその男の子をつかまえることができなかったのです。その子は神のもとへ、その御座へと引き上げられたからです。竜が神のご計画を止めることができないのは明らかでした。

私には、これらのしるしが何を意味しているのか、おぼろげにわかってきました。女はイスラエルでした。ローマ人によって包囲されたイスラエルです。とりわけ、メシアを切に待ち望んでいたイスラエルの忠実な人々です。

そして、大いなる敵対者、神の敵を表すのに、七つの頭を持つ竜ほどふさわしいしるしはありませんでした。そうです、イエスを殺すために、ヘロデをそそのかしてベツレヘムの幼児虐殺を行わせたのは彼でした。その後も、何度も何度も、彼はメシアを亡き者にしようとしてしました。そして最後に、それに成功したかに見えたとき、彼は思い知らされなければなりませんでした。イエスの十字架の死は自分の勝利ではなく、自分の最大の、そして決定的な敗北だったのだ、と。

私は、このような像や物語を、エジプト人、バビロニア人、ギリシア人の神話から知っていました。明らかに神は、その中のいくつかを取り上げて、新しい光のもとで解釈し直されたのです。すなわち、世界の支配が本当に属している方を指し示すようにです。この方こそ贖い主——主キリストだからです。この方こそ、迫害されているキリスト者たちの真の神です。これは神話ではなく、真理です。そして、私が見たこれらの天のしるしによって、この方は古い神話とその神々のすべてを無意味なものとされるのです。

そうです、そして天のこれらのしるしは、男の子、メシアの誕生日を告げる**星の配置**を指し示していました。それはすでに、東方の博士たちに、その子が生まれた家畜小屋への道を示していました。太陽がおとめ座の真ん中、ちょうどおとめが子を胎に宿している位置にあるとき。月がその足もとにあり、その下には毒を持つさそり座、しし座の星々がおとめの頭の上に冠のように並んでいるとき。そしてさらに、きわめてまれなことですが、惑星の王である木星と、王の星レグルスが、しし座の中で触れ合うとき。それは、紀元前3年の9月11日でした。この星の配置が、ベツレヘムの家畜小屋へのメシアの到来を指し示していたのです。ユダヤ暦では、イエス・キリストの誕生日は新年の日にあたりました。そしてそれは**ノア**の誕生日でもありました。そうです、メシアの到来は真の新しい始まりでした。新しい創造をもたらし、サタンとその使いたち、すなわち墮落した神の子らと、その子孫である悪霊たちに永遠に打ち勝つ、新しいノアです。竜は、その尾で御使いの三分の一を天から掃き落としました。そうです、それほど多くの御使いが、彼の反乱に従ったのです。けれども最後には、男の子、その男子、小羊が勝利するのです。

それから女は荒野へと逃れました。神が備えられた場所へです。そこで彼女は、1260日、つまり**3年半**の期間、養われました。二人の証人が預言していたのと同じ長さです。私は何度も、この期間にさまざまな単位で出会いました。時として、日として、年としてです。ダニエルもすでに語っているこの期間は、ここでは、小羊に従うすべての者の苦難を表す象徴となり、その典型となっています。それは、男の子が神の御座へ引き上げられ、栄光を受けたときに始まりました。この方が再び来られ、世界の支配を始められるまでの期間です。そうです、シリアの王アンティオコス・エピファネスのもとでの忠実なユダヤ人たちへの恐ろしい迫害は、3年半続きました。私たちの主の証しは3年半続きました。そしてエルサレムは、ローマ人によって破壊される前に、3年半包囲されたのです。イスラエルのように、女は荒野へと向かいました。神のいたわりを体験するためです。神ご自身のもとへと向かう旅の途上で。

そのとき、天に戦いが起こりました。天使長ミカエルは、自分の御使いたちとともに、火のように赤い竜とその使いたちと戦いました。けれども竜とその使いたちは、ミカエルとその軍勢に立ち向かうことができませんでした。竜、すなわち悪魔と、それに従う使いたちにとって、天にある神の御座に近づく道は、もはやありません。それが彼らの終わりの始まりです。

大いなる竜は、最初の人間たちを惑わした、エデンの古い蛇です。それは悪魔とも、サタンとも呼ばれます。それは神の敵対者であり、惑わす者であり、そうです、全世界の神です。それは諸国の民を迷わせます。それは地に投げ落とされました。かつてイエスが言われるのを私が聞いたとおり、この世の君は追い出されたのです。

男の子、すなわちメシアであるイエスが、神の御座に、神の右に着座された今、兄弟たちを訴える者には、天においてもはや何の資格もありません。イエスはご自分の血によって、永遠の贖いを成し遂げられたのです。

天でのこの壮大な出来事は、大きな声で祝われました。私は、この画期的なことばを聞きました。**今や救いは成し遂げられた**。私たちの神の力と支配が来た。そして神のキリスト、神に油注がれた方の力と権威が来た。

私たちの兄弟たちを訴える者は、天から追放されたからです。地へと投げ落とされたのです。何千年もの間、休むことなく、兄弟たちをその罪のゆえに神の前で訴え、彼らを罰するよう言い張ること以外に、何もすることのなかった者です。けれども、兄弟たちを神の前で訴える理由は、もはやありません。そして、これから決してありません。それは過去のことなのです！聖徒たち、イエスに従う者たちは、今や小羊の血によって罪から解き放たれているからです。小羊の血の中で、すべては洗い流されました。血によって、彼らは悪魔に打ち勝ちました。小羊を言い表す告白と、彼らの忠実さによってです。そのために、彼らの多くは殺されました。彼らは死に至るまで、自分のいのちを愛しませんでした。彼らを贖ってくださった小羊とまったく同じように。

ですから、天と、そこに住むすべての者、御使いたちと完成された聖徒たちは喜びなさい。時代の転換が来たのですから、祝いなさい。小羊の勝利はすべてを変え、これからすべてを永遠に変えていきます。けれども、地上ではまだ祝われていません。悪魔が投げ落とされたからです。天ではすでにメシアの勝利が祝われているので、自分にはもうあまり時間が残されていないことを、悪魔はよく知っています。そして、あまり時間がないので、悪魔は激しい怒りをもって人々を惑わし、滅ぼそうとします。メシアから世界の支配を奪い取り、自分自身のためにそれを打ち立てることができるという妄想と誤った信念にとらわれてです。地上の人々はわざわざいだ。悪魔があなたがたのところの下ったからだ。

とりわけ、悪魔の怒りは、メシアを産んだ女に向けられました。つまり、メシアを信じ、メシアに従ったイスラエルの人々にです。悪魔は彼らを迫害しました。女は超自然的な仕方で助けられました。彼女には大きな鷲の翼が二つ与えられました。荒野にある避け所へと飛んで行くためです。そこで彼女は、1260日、3年半、一時と二時と半時の間、養われ、**霊的に守られる**のです。竜は彼女をつかまえることができなかったのも、口から水の流れを吐き出して彼女をおぼれさせようとしたからです。けれども、女はまたしても助けられました。地が口を開き、竜の口から出た大水を、そのまま飲み込んでしま

ったのです。竜はあらゆる手を尽くしましたが、勝つことはできませんでした。

竜は、女に害を加えることができなかったので、ひどく怒りました。そこで竜は、神の戒めを守り、イエス・キリストを言い表すほかのすべての人々に矛先を向けました。それは女の子孫です。ユダヤ人キリスト者たちの宣教によってキリストのもとに至った、あらゆる民族から来た大勢の人々です。竜は、機会があればどこでも、小羊に従うすべての者に襲いかかります。全地においてです。

第13章

それから私は、さらなるしるしを見るために、海辺へと移されました。

私は、一匹の**海から上って来る獣**を見ました。それは恐ろしい姿をしていて、火のように赤い竜に似ていました。それにも七つの頭と十本の角があったからです。十本の角の上には冠がありました。頭の上には、いと高き神を冒瀆する名が書かれていました。

その獣、いえ、むしろその野獣は、ダニエルがかつて見て記した獣の姿に似ていました。それらは世界帝国とその支配者たちを象徴していました。荒れ狂う諸国の民の海から上って来たこの獣もそうでした。ただ今回は、ダニエルの見たそれらの獣がみな一つに合わさった、あるいは組み合わせられた獣でした。それは、危険で素早いジャガーか豹のように見えました。その足は、飽くことを知らない熊の足のようでした。その強大な口は、獅子の口のようにな大きなものでした。悪魔的な世界権力を体現する、恐ろしい猛獣です。

そして今、私は、誰がこの獣に力と、支配するための王座を与えたのかも見ました。それは**竜**でした。そうです、その獣は、竜の受肉、竜が肉となったもののようでした。私には、竜がこの獣を海から上って来させたように思えました。それは竜が造り出したものだったのです。

それから私は、七つの頭のうちの一つが剣で致命傷を負い、獣が死にかけているのを見ました。けれども、その傷は致命的なものだったのに、すぐに治

ってしまいました。それは地上の人々を驚かせ、彼らはその獣に感嘆しました。

そのため、彼らは竜を拝みました。竜が獣にそれほどの力と権威を与えたからです。そして彼らは、同じように獣をも拝んで言いました。「誰がこの獣に匹敵できようか。誰がこれと戦い、これに打ち勝つことができようか。」

私は不思議に思いました。御座の真ん中にいたあの小さな小羊にも、死の傷がありました。私にはそれが、まねごとのように、**パロディー**のように思えました。まるで竜が父なる神のようになろうとし、獣がその子であるかのようです。人々には竜は見え、ただ獣だけが見えていました。獣は竜の現れだったのです。

それは、神に逆らい、キリストに逆らう同盟でした。王や皇帝のような支配者である獣には、高慢に大きなことを語り、人々を感嘆させることばを語ることが許されました。そして、神と小羊に対する冒瀆を口にすることがです。獣は、思いのままにふるまうことができました。42か月の間です。獣は、生ける神を絶えず冒瀆しました。それは天の神と、天で神に仕えるすべての者に、厚かましく挑みかかりました。獣は、自分は強く、無敵だと感じていました。獣には、すべての聖徒たちと戦い、さらには彼らに打ち勝つ自由さえ許されました。しかも生ける神ご自身によってです。獣は、生ける神とそのキリストの記憶を地上から根絶やしにするために、できるかぎり多くの聖徒たちを殺しました。

獣は自由を得ました——私にはそれを理解するのがどれほど難しかったことでしょう——支配するための政治的、軍事的な権威を得たのです。神は、これらすべてが生じるのを許すために、ご自分の守りを引き上げられました。獣は、あらゆる部族、あらゆる言語、あらゆる民族を支配しました。新しい世界秩序の中で、獣は、地上に住み、天の神を知らないすべての者たちを一つにまとめます。彼らはこの支配者を拝みます。それは、小羊のいのちの書に記されていないすべての者たちです——あらゆる部族、言語、民族の中から人々を贖うためにいけにえとしてささげられた、あの小羊のいのちの書にです。

耳のある者は、よく聞きなさい。**聖徒たち**にとって、それは至るところで捕らわれの身となることを意味します。多くの人にとっては、剣による死を意味します。それについて幻想を抱いてはいけません。けれども、それは神が望まれる間だけ起こるのです。小羊に従う者は、同じ運命を覚悟しなければなりません。こうして、この暗黒の時代に、聖徒たち、イエスに従う者たちの忍耐と粘り強さが際立つのです。そして彼らの忠実さと信仰がです。

私は、私の時代にもよく似た支配者がいることを理解しました。私自身、パトモスで捕らわれの身になっていたのです。私は殺されはしませんでした。けれども、それもまたあちこちで起こりました。すでに書いたように、スミルナやベルガモです。終わりに至るまで、自分を拝ませ、イエスに従う者たちを殺す、世界帝国の支配者たちが現れるでしょう。終わりの前に、そのような者——私が見たことのすべてが当てはまる、あの獣のような者——が現れるのでしょうか。まったく非人間的で、神に逆らう、悪意に満ちた本性を完全に備えた者が。神は主権者であり、ご自分の目標に到達されます。たとえ、地と人々がこれまで一度も見つたことのないような、終わりの時の極限状態が来るかもしれないとしてもです。

それに加えて、**第二の獣**も現れることになっていました。これもまた、超現実的な混合生物のような獣の姿でした。今度は、それが地から上って来るのを私は見ました。墓から出て来るかのようにです。それには、小羊のような二本の角がありました。けれども、その獣を通して竜が語っているかのように、竜の声が響きました。それは第一の獣と結びついていて、第一の獣からすべての権威を受けていました。この獣は、人々に第一の獣を拝ませるために、あらゆることをしました。死の傷がそれほど不思議に治ったあの獣です。第二の獣は大きなしるしを行いました。天から火を降らせることさえできたのです。

こうして、闇の、悪魔的な三位一体が明らかになりました。この第二の獣は、キリストの栄光を現される聖霊のパロディーのようなものでした。第二の獣は第一の獣、すなわち支配者の栄光を現しました。第二の獣はまた、一人の人間をも象徴しています。宣伝相のような者で、小羊に従わない人々を

迷わせるのです。滅びへと。並外れたしるしを行う権威を与えられ、それによって成功を収める偽預言者です。これらのしるしはあまりに印象的で、第一の獣の偉大さを称え、誉めそやすものだったので、真の神を知らない人々は、海から上って来たこの第一の獣を神として拝むのです。

それから第二の獣は、致命傷が治って再び生き返った第一の獣のために、像を建てるよう人々に命じます。第一の獣を体現するこの像に、小羊のような姿をしたこの偽預言者は、今度はいのちを与えました。そうです、この像が生き、ものを言い、さらには第一の獣を拝まないすべての者を探し出す知能まで得るようになる力が、生ける神から彼に与えられたのです。そうしなかった者はみな、その結果、生き物となったこの像によって殺されました。

偽預言者、すなわち海から上って来た第一の獣の宣伝相は、小さな者にも大きな者にも、富んでいる者にも貧しい者にも、自由人にも奴隷にも、すべての人に、目に見える刻印を帯びさせます。右の手か、額にです。これによって、獣を拝み、この刻印によってそれを証明した者だけが、売り買いできるようにされたのです。その刻印には、獣の名か、その名の数値が含まれていました。知恵のある者は、獣の数字を数えなさい。それは人間の数字です。獣は人間なのです。そして、その数字は666です。

私ヨハネは、すでに困難で試練に満ちた時代に生きていました。キリスト者たちが迫害され、皇帝たちが自分を神として拝ませていた時代です。私が見たことのいくつかは、私の時代を映し出していましたし、これからも何度でも映し出すでしょう。けれども、今私が見たことは、それをはるかに超えていました。もしかするとそれは、未来を、おそらくは人類の歴史の最後の時代、小羊が再び来られてご自分の支配を始められる直前の時代を描いているのかもしれません。神はご自分の守りを引き上げ、闇の力と、それらが利用するこうした人間たちに、力を持ち、しるしを行い、人類を惑わし、完全に支配することを許されるでしょう。人々が、さばきと災いによっても立ち返らなかったからです。神のさばきは、神が多くの寛容の後にご自分の守りを引き上げ、人々を彼ら自身と闇の悪しき力とに任せてしまわれるところまで起こるのです。

第14章

私がまだこの闇について思いめぐらし、心の内で揺さぶられていたとき、私の目は再び上へ、天へと向けられました。光の中へとです。そこには、まことの神の小羊が、天の**シオン**の山の上に立っておられました。小羊とともに、額に父の名を記された、印を押された144,000人がいました。私がすでに見たのと同じ人々です。彼らは小羊と一つにされていました。この後すぐに、私は、先に見たあの大きな国際的な群衆のように、さらに多くの勝利者たちを見ることになります。

私は天からの声を聞きました。それは大水の轟きのようであり、激しい雷鳴のようでした。けれども私はまた、豎琴を弾きながら歌う人々の、豎琴の音も聞きました。

彼らはまったく**新しい歌**を奏でています。御座の前で、四つの生き物と24人の長老たちの前で。この歌は、144,000人しか歌うことができませんでした。彼らは地から買い取られた者たちでした。ほかには誰もその歌を知りませんでした。この人たちは、おとめが花婿を愛するように、小羊を愛しています。この人たちは、小羊が行く所にはどこにでもついて行きました。自分のいのちを愛することなく。彼らは、神と小羊にささげられる初穂として、人々の中から買い取られた者たちです。

彼らは悪いことを語らず、偽りを言わず、間違ったことを口にしませんでした。彼らは小羊によって、神の御座の前で傷のない者とされているのです。

何という慰めでしょう！闇が最後のことばを語るのではないということは、何という励ましでしょう。小羊と聖徒たちは勝利し、その歓喜には終わりがありません。

それから私は、もう一人の御使いが中天を飛んでいるのを見ました。彼は全地の上を飛んでいました。地に住むすべての者への知らせを携えていたからです。すべての国民、部族、言語、民族への知らせです。それは良い知らせ、**永遠の福音**でした。彼は、すべての人に聞こえるように、大きな声で叫びました。「生けるまことの神を恐れよ。ただ神にだけ栄光を帰せよ。天と

地と海と水の源を造られた創造者を礼拝せよ。さばきの時が目前に迫っているからだ。」

この知らせは、あらゆる時代に当てはまりました。そして最後の時まで当てはまります。たとえ二匹の獣が人類の目をくらませ、神を知る知識がもはやなくなってしまったとしてもです。神は、人々が良い知らせ、福音を聞くことになるよう、必ず取り計らわれます。

その後、第二の御使いが続きました。この御使いも知らせを携えていました。すべての聖徒たちにとっては慰めの知らせ、けれども、ほかのすべての人々にとっては恐るべき知らせです。「倒れた、倒れた、大いなる都**バビロン**が。この都は、その淫行と不実の情熱のぶどう酒で、すべての民族を酔いつぶれさせたのだ。」

バビロンについては、後でまた報告します。この都については、私はまだ非常に多くのことを見ていたのです。バビロンは、地球規模の、高度に発達した世界システムを表しています。新しいエルサレムとは対照的に、神が住んでおられず、神が歓迎されていない都です。

第三の御使いが続き、大きな声で言いました。「もし誰かが、海から上って来た獣とその像を拝み、ひれ伏して、その刻印を手か額に受けるなら、その者は神の激しい怒りのぶどう酒を飲むことになる。このぶどう酒は、神の怒りの杯の中に、薄められることなく蓄えられている。そうだ、獣を拝み、永遠の福音に耳を傾けないすべての者は、聖なる御使いたちの前、小羊の前で、火と硫黄によって苦しめられる。」そうです、彼らは小羊を認めるでしょう。けれども小羊は彼らを助けることができません。そのときでさえ、彼らは小羊を拒むからです。

この火とこの苦しみの煙は立ち上り、決してやむことはありません。火はいつまでも、世々限りなく燃えます。これらの人々は、文字どおりの火の中で燃えるわけではありません。彼らは存在し続け、安らぎを見いだすことがないのです。彼らの良心が彼らを苦しめます。彼らの孤独が彼らを苦しめます。知っているのです。生ける神はおられる。けれども自分たちはその神を礼拝しなかった、と。今や彼らは永遠に外にいることになります。自責の念に満

ちた苦しみです。彼らは、獣とその像を拝んだことを、苦々しく悔やむでしょう。神は、彼らがいつか神から見捨てられ、自分自身に任されてしまうことなど、決して望まれませんでした。彼らは一度も神の近くにいることを望まなかったのです、それゆえに、神の近くにいることがどれほど限りなく良いことかを、もう決して味わうことがないのです。これらの強烈な像は、これ以上ないほど印象的であり、最も差し迫った警告として受け止めるべきものです。その場所がどのようなものであれ、そこにいたいと思う人は誰もいないでしょう。

それとは対照的なのが、獣の死をもたらす時代における、聖徒たちの身をささげた忍耐です。神の戒めと、イエスへの信仰を守った人々です。大きな訓練の時に耐え抜くことは、彼らにとってつらいことでしょう。獣を拝む者たちは、楽に過ごすでしょう。けれども死の向こう側では、それが逆になります。そのときには、永遠にです。

私は、こう言う声を聞いたからです。「**主にあって死ぬ死者たちは幸いです！**」「そうだ」と御霊は喜んで言われます。「彼らはその労苦から解き放たれて休む。彼らがイエスのために働いたことは、何一つむだにはならない。彼らの行いは彼らについて行き、それは永遠に残る。」

私はまた何かを見ました。一つの白い雲で、その上に誰かが座っていました。すなわち人の子です。ダニエルも見たとおりの方です。それはイエスでした。この方は頭に王の冠をかぶり、手には鋭い**鎌**を持っておられました。この方は何かを待っておられるようでした。そのとき、天の神殿から一人の御使いが出て来て、人の子に向かって大声で叫びました。「あなたの鎌を入れて刈り取ってください！ 刈り入れの時が来たからです。収穫はもうほとんど枯れかけているので、今が刈り入れの最後の時なのです。」すると、雲の上に座っておられる人の子は、ご自分の鎌を地に送られ、地は刈り取られました。

そうです、最後まで、可能なかぎり長く、神の寛容は待っておられるのです。それからイエスは、ご自分の民の収穫を刈り入れ、家へと連れ帰られます。この方に従い、この方の名を堅く保ったすべての人をです。

ご自分の民にとって、それはこの最後の時における救いとなるでしょう。祝福の収穫です。けれども、**さばきの収穫**もあります。残りの者たちのためにです。もう一人の御使いが、この天の神殿から出て来たからです。この御使いも鋭い鎌を持っていました。さらに今度は、もう一人の御使いが天の祭壇から出て来ました。彼は火をつかさどる権威を持っていました。彼はさばきの御使いでした。この御使いは、鎌を持った御使いに向かって大声で叫びました。「あなたの鎌をぶどうの収穫に送り入れよ。ぶどうの木を刈り取れ。実が熟したからだ。」そこでこの御使いは、地のぶどうの木を刈り取り、ぶどうを踏みつぶすための酒ぶねに投げ込みました。それは神の怒りと激しい憤りの大きな酒ぶねです。それはエルサレムの都の外で踏まれます。酒ぶねからは、血のような赤いぶどうの汁がたくさん流れ出しました。それは馬のくつわに届くほどでした。周囲300キロメートルにわたってです。

恐ろしい光景です。印象的です。けれども、すべての人には、収穫が育ち、熟していく間、時間がありました。最後に悪と不法がはびこったとき、収穫が来るのです。神のさばきは厳粛なものであり、軽く考えてはなりません。人は、自分が蒔いたものを刈り取ることになります。神は侮られるような方ではありません。誰も神に挑もうとすべきではありません。海から上って来た獣がそうしたように。それにひれ伏すすべての者たちにとって、それは見習うべき手本となってしまったのです。

第15章

それから私は、天にもう一つのしるしを見ました。大きな、驚くべきしるしです。**最後の七つの災い**を携えた七人の御使いです。それらによって、神の怒りは極みに達します。

けれども、これらの災いが始まる前に、私が先に見たこと、すなわち二匹の暴虐な野獣の荒れ狂いは、終わりを迎えていました。獣は、どれほど多くのイエスの証人たちを殺したことでしょう。獣は聖徒たちに打ち勝っていました。けれども今、私は彼らを見ました。彼らこそが本当の勝利者だったからです。彼らは自分のいのちを愛さず、死に至るまで忠実でした。

私は、ガラスの海のようなものを見ました。火の混じった海で、氷のように固まっていました。この海の岸辺、神の御座のそば、私がすでに最初に見たその場所に、彼らは立っていました。獣と、その像と、その名の神秘的な数字に打ち勝った者たちです。彼らは豎琴を持ち、神を賛美して奏でていました。まるで**新しい出エジプト**の中で、たった今、岸の安全な側へと上がって来たかのようにでした。反キリスト的な獣から救い出されたのです——かつてイスラエルがファラオから救い出されたように。ファラオは海に沈み、最期を遂げました。二匹の獣にも、同じことが起こるでしょう。だから彼らは、神のしもべモーセの歌と、小羊の歌を歌うのです。「主よ、神よ、万物を保たれる方よ、あなたのみわざは大きく、驚くべきものです。あなたの道は正しく、真実です。その道によって、あなたはご自分の主権のうちに、諸国の民をあなたの目標へと導かれます。あなたこそ、諸国の民のまことの王だからです。天の御座におられる方です。あなたを恐れず、神は神であり、これからも神であり続けることを受け入れない者がいるとすれば、それはなんと愚かなことでしょう。そして、あなたに栄光を帰さない者がいるとすれば。あなただけが聖なる方だからです。誰もあなたに並ぶ者はありません。すべての国民が来て、あなたの前にひれ伏します。あなたのみわざがすべての国民に明らかにされ、彼らが、あなただけが神であって、ほかには誰もいないと認める日が来るからです。」

それから私は、天の神殿を見ました。扉が開き、最後の災いを携えた七人の御使いが出て来ました。彼らは、清く輝く衣を着て、胸には金の帯を締めていました。それから、四つの生き物のうちの一つが来て、七人の御使いに七つの金の鉢を渡しました。それらは、世々限りなく生きておられる神の激しい憤りと怒りで満ちていました。

すると、神殿全体が、神の栄光の臨在とその力から立ち上る煙で満たされました。御使いたちが七つの怒りの鉢を注ぎ終えるまで、そうでした。その間、誰も神殿に入ることができませんでした。

第16章

それから私は、大きな声を聞きました。それは、神の激しい憤りに満ちた鉢を地に注ぐようにという、御使いたちへの命令でした。

第一の御使いが、第一の鉢を地に注ぎました。すると、ひどい悪性の腫れものが人々にできました。けれども、獣の刻印を帯び、獣の像にひれ伏した人々にだけです。神は区別をなさるのです。かつてエジプトで、エジプト人とは対照的に、神の民がほとんどの災いを免れたときのようにです。

第二の御使いが、その鉢を海に注ぎました。すると、海全体が血になりました。海全体が死に、その中に生きていたすべてのものも死にました。ファラオが、モーセを通して語られた神の指示に絶えず逆らっていたときのエジプトと同じようにです。

第三の御使いが、その鉢を水の源と川に注ぎました。それらもまた血になり、死にました。すると、地の水をつかさどる御使いたち、すなわち、この場合は自然を担当する領域の御使いたちが言いました。「あなたはまったく正しい方です。今おられ、昔おられ、一度も造られたことのない方。聖なる、比べるもののない方。罪を耐え忍ぶことのできない方。あなたが水を変え、人々がもはや生きていけなくなるのは正しいことです。彼らは、聖徒たちと預言者たちの罪のない血を、理由もなく、暴力によって大量に流したからです。今あなたは、彼らに血を飲ませておられます。彼らはそれ以外の何にも値しません。そして殉教者たちは、その流された血が覚えられるのにふさわしいのです。」こうして神は、ファラオが殺させた多くの男の赤ちゃんのゆえに、エジプト人たちに血を飲ませられたのです。

それから私は、その足もとにあらゆる殉教者たちをすでに見ていたあの祭壇が、こう言うのを聞きました。「そうです、主よ、神よ、万物を保たれる方よ！あなたのさばきと、あなたの激しい憤りと怒りは、真実で、正しく、当然のものです。」

それから、**第四の御使い**が、その鉢を太陽に注ぎました。すると、太陽の熱があまりに強くなったので、人々は火で焼かれるように焦がされます。そし

て実際に、人々は激しい熱で焼かれました。けれども、それによって考えを改めて神をあがめる代わりに、彼らは、これらの災いをつかさどる力を持つておられる神を冒瀆しました。

第五の御使いが、その鉢を獣の王座に注ぎました。獣の支配領域全体が暗くなりました。かつてエジプトで、三日間真っ暗になり、闇を手でつかめるほどだったときのようにです。この闇は、体と心に痛みを引き起こすような種類のものです。痛みのあまり、人々は自分の舌をかみました。そしてそのすべての中で、彼らは、自分たちの王である獣が手本を示したとおりに、天の神を冒瀆しました。彼らは自分の生き方を悔いることなく、罪深い行いを続けて生きました。痛みと腫れもののゆえに、彼らは神に救いを嘆き求める代わりに、神を冒瀆したのです。

第六の御使いが、その怒りの鉢を大河ユーフラテスに注ぎました。それによって、この大河にはそれまで決して起こらなかったことですが、川は干上がってしまいました。こうして、この自然の境界は取り払われ、日の出る方から来る王たちのための道が開かれました。それから私は、竜の口と、海から上って来た獣の口と、地から上って来た獣、すなわち偽預言者の口から、三つの汚れた霊が出て来るのを見ました。これらの霊は、蛙のような姿をしていました。それは、しるしを行う悪霊の霊です。これらの霊は地のすべての王たちのところに出て行き、宣伝のしるしによって彼らを惑わし、彼らがみな戦いのために集まるようにします。神と小羊に対する戦いのためにです。けれども、それは彼らの戦いではありません。それは神の戦いとなるのです。彼らは、神の大いなる日の戦い、すべてを御手に握っておられるエル・シャダイ、全能者の戦いのために来るのです。

「見よ」とイエスは言われます。すでにサルディスの教会に言われたように。「わたしは**盗人**のように来る。目を覚まして気をつけ、自分の衣を保ち、衣をはがれて裸で歩き回り、恥をさらすことのないようにしている者は幸いだ。」この困難な時代のために、私はこのことばを繰り返します。イスラエルで、この方ご自身から聞いたとおりにです。すべての人がこれを聞

き、心に留めるべきです。非常に多くのことが、そうです、すべてがかかっているのです。

そして地の王たちは、それぞれの軍勢とともに、ある特定の場所に集まりました。彼らはハルマゲドンにきました。ヘブル語ではそう呼ばれます。それはエルサレムとシオンの山です。そこで、光と闇との間、メシアと、悪魔、獣、偽預言者からなる悪魔的な三位一体との間の、最後の大いなる戦いが行われます。彼らは、神の山、集会の山に攻め寄せ、自分たちの世界政府を打ち立てようとします。地の王たちは、イザヤ書14章の世界の支配者のようになろうとしているのでしょうか。そうです。けれども、彼らの必死の試みは成功しません。そのことは後で描きます。それもまた、私はすでに見ることができたのです。私は、いつか歴史となることを知ることを許されたのです。

それから、**第七の御使い**が、その鉢を空中に注ぎました。すると、神殿から、いと高き方、すべてを御手に握り、保っておられる方の御座から、大きな声が出て来ました。「事は成就した！」

すると、声と稲妻と雷鳴が起こりました。私はそれを、今やもう**四度目**に見ていました。そして、そのたびごとに出来事は激しさを増していきました。すさまじい付随現象が、世界の終わりを描き出しています。地震もまったくそうです。この地震は、人類の歴史においてそれまでなかったほど強大なものでした。それによって、大いなる都エルサレムは三つに裂けました。そして諸国の民のすべての町も倒れました。そしてバビロン、すなわちローマ、あの淫婦が神の前に覚えられ、神の怒りのぶどう酒の杯が与えられることになったのです。

それは、私がすでに何度も見てきたように、古い世界秩序の終わりでした。すべての島は消え去りました。山々はもはや見当たらなくなりました。ただ消えてしまったのです。1タラントもの重さ、40キログラムもある雹の石が、天から人々の上に降って来ます。

けれども、悔い改めて、災いを終わらせることのできる方に立ち返る代わりに、人々はこの時もまた、この雹の災いのゆえに天の神を冒瀆します。その

災いが非常に大きいからです。モーセの時代のエジプトの雹よりも、はるかに大きいのです。

第17章

それから、鉢を持った七人の御使いの一人が私のところに来て言いました。

「一緒に来なさい。多くの水の上に座っている大淫婦、**バビロン**に対する神の判決とさばきを見せよう。彼女はすべての人を惑わした。まず地の王たちが彼女と淫行を行い、彼女に欲情を抱いた。彼らはバビロンの心を自分たちの心とした。そして、この不実な淫婦と、彼女に溺れた王たちによって、地に住むすべての人々が、彼女の欲情と淫行のぶどう酒に酔わされた。彼らは完全に彼女に操られた。」この意味で、かつて古代の大都ニネベは預言者ナホムによって、またツロの町はイザヤによって、淫婦と呼ばれていたのです。文字どおりの娼婦ではありません。むしろ比喩的な意味においてです。偶像礼拝と不敬虔の場所として、その生き方を毒のように至るところへまき散らすところとして、そう呼ばれたのです。

それから神の御霊は私を荒野へと導かれました。体ごとか、霊においてか——それは私にはわかりません。そこから私は、一人の女が赤い獣に乗っているのを見ました。それは大淫婦バビロンでした。その獣には見覚えがありました。その上には、神を冒瀆することばが書かれているのが見えました。それには七つの頭と十本の角がありました。それは、私が海から上って来るのを見た第一の獣でした。赤い竜、サタンに操られ、そそのかされていた獣です。

獣に乗り、この獣に担がれていたその女は、実に人目を引くものでした。彼女は紫と緋色の衣をまとい、人を惑わすほどに着飾っていました。金をかぶせ、真珠と宝石をちりばめていました。手には金の杯を持ち、そこから飲んでいました。その杯は、忌まわしいもので縁までいっぱいでした。とりわけ、彼女の淫らな行いの汚物で満ちていました。彼女の額にも、何かが書かれていました。

奥義

大いなるバビロン

淫婦たちの母

地の忌まわしいもの。

この女は、処刑されたイエスの証人たちの血に酔っていました。そうです、殺された神のしもべたちを見て楽しむことに、彼女は飽きることがなかったのです。恐ろしい光景でした。私がそこで見たもの、この大都の忌まわしさのすべては、それに惑わされたあらゆる関係者も含めて——反キリストの王国の最後の大いなる砦なのです。私はそこにローマを認めました。けれども、それはすべての大都市に当てはまりうるのです。

私ヨハネは、非常に驚きました。私はおびえました。このような猥褻さ、歯止めのない貪欲、人を人とも思わない暴力を見なければならぬことに、私は言葉を失いました。このしるしは何を意味していたのでしょうか。それは確かに、何か現実のことを表していました。これから起こることなのでしょうか。御使いは私のことを不思議に思って尋ねました。「なぜ驚いているのか。この女と、彼女を担っている、七つの頭と十本の角を持つ獣の奥義を、あなたに説明しよう。

あなたが見た獣は、かつてはいたが、今はいない。それは再び戻って来て、底知れぬ所から上って来ようとしている。けれども、その最終的な滅びは止めることができない。」つまりそれは、反キリストを政治的な支配者、独裁者とする、あの反キリスト的な世界帝国だったのです。すべてはまたしても、まことの神のまねごとにすぎませんでした。神はいつもおられたからです。神は今おられ、やがて来られます。神は——獣とは対照的に——小羊とともに**いつまでもとどまられる**のです。

地に住む者たちで、いのちの書に名が記されていない者たちは、この獣に大いに感心するでしょう。それはかつて存在し、その後滅び、そして今、さらに強くなって再び現れるからです。まるで死者の中からよみがえるかのようです。これもまた、死んでいたが今はとこしえに生きておられる小羊イエスのパロディーでした。

これが、知恵のある者のための解き明かしです。獣の七つの頭は七つの山に当たります。女はその上に座っています。そしてこれらの山は、七人の王でもあります。王たちのうち五人はすでに倒れました。一人は今生きています。もう一人、七人目はまだ来ていません。そして、その者が来たときには、しばらくの間とどまらなければなりません。

この全体像は、私に七つの丘を持つローマを思い起こさせました。それはローマでした。そして同時に、そこに淫婦が座っていたのです。けれども、それはおそらく歴史の中の一つの通過点にすぎなかったのでしょうか。私が見たことの成就是、私の時代のローマではありませんでした。この像の成就是、さらに大きなものになるかもしれません。私自身はもう体験することのない何かです。私はすでに人生の終わりに差ししかかっているからです。

七人の王のうち五人は倒れていました。そうです、エジプトからアッシリア、バビロン、メディア・ペルシア、そしてギリシアに至る世界帝国は、もはや存在しませんでした。**六番目**の世界帝国はローマです。その後、まだ誰も知らない帝国が来ることになっていました。けれども、**八人目**の王が来ることになっていました——偽りのメシアを王とする最後の世界帝国です。それは、それ以前のすべての帝国と同じように、その核心と本質において、まことの生ける神を軽んじ、偶像とその支配者たちを神々として拝んできた世界帝国です。この最後の帝国は、そしてそれとともにそれ以前のすべての帝国は、ダニエルが描いているとおりに滅びます。ダニエルは一つの石を見ました。すなわちキリストです。その石は山から転がり落ちて、世界帝国を表していた像を打ち砕きました。それからメシアの平和の王国が来ます。それはいつまでも続くのです。

そして、かつていて、滅び、再び生きた獣、それが**八人目**の王です。そして同時に、彼はそれ以前のすべての王と同じように、彼らのうちの一人なのです。文字どおりにではなく、その本質においてです。彼が来ると、すぐに滅びに向かいます。御使いがたった今、私に明らかにしてくれたとおりです。人々を惑わし、自分の後について来させる異教のメシアのような者です。けれども彼は、まことのメシアによって捕らえられ、仮面をはがされ、打ち負

かされます。この数え方での**九**人目の王は、まことのメシアである王であり、この方がいつまでもとどまられるのです。

そして十本の角は、ダニエル書7章にも記されているとおり、王たちです。彼らは、終わりの時の反キリストの時代に現れます。彼らは初めから力を持っているわけではなく、まだ自分の王国も持っていません。けれども、獣の時、すなわち獣が無制限の力を受ける短い期間、3年半が来ると、この十人の王たちは自分の王国と権威を受けます。十人はみな、完全に獣に仕え、獣に依存する者となり、連合を打ち立てます。彼らはみなで力を合わせ、まったくの思い上がりで目のくらみのうちに、天におられる小羊と戦おうとします。小羊を王座から突き落とそうとするのです。

けれども、小羊は彼らに打ち勝ちます。彼らには勝ち目がありません。ほかの誰でもなく、この方こそが主の主、王の王だからです。そして小羊は一人ではありません。福音によって小羊がご自分のもとの召し、選ばれ、最後まで忠実に小羊に従ってきたすべての人々が、小羊に従っています。彼らは、最後の戦いに小羊に従って行くという栄誉にあずかっているのです。出来事の証人としてです。小羊は助けを必要とされないからです。この方に従う人々の多くは、獣と淫婦によって殺されましたが、今や勝利者の側にいることを許されているのです。

御使いはさらに言いました。「淫婦が座っている水とは、地のすべての民族、部族、言語のことである。」

けれどもそれから、御使いはまったく思いがけないことを言いました。「それから、獣とその十本の角、すなわち十人の王たちは、突然、淫婦を憎むようになる。」彼女は獣に担がれ、彼らは手を組んでいたにもかかわらずです。獣は女から衣をはぎ取り、彼女を食らい、彼女のものだったすべてを自分のものにします。獣にとって役に立たないものは、火で焼き尽くします。獣は、自分の傍らにどんな力も偉大さも許しません。すでに先に見たように、獣は人々の礼拝をただ自分だけに要求するのです。

なぜ獣は突然、女をこれほど憎むようになったのでしょうか。神ご自身が、そうすることを獣と十人の王たちの心に起こされたからです。神は、どんなこ

ともどんなものも、ご自分の望まれるとおりに、まったく正しく向きを変えることがおできになります。神は、ご自分から背を向けたすべての被造物に、あらゆる点でまさっておられます。ご自分の目標に到達するために、神は強制も暴力も必要とされないのです。

女、すなわちバビロンは、そのすべての力を獣に奪われました。これによって、彼女のさばきは決定されたのです。こうして反キリスト的な獣は、神のご計画を遂行する手先にほかなりませんでした。おそらく——それと知らずにです。けれども、今やさらに大きくなった獣の支配もまた、終わりの日々についての神のことが成就するまでしか続かないことになっていました。

私が見た女は、終わりの時の大いなる世界の首都です。かつてのローマよりも大きく、強大な都です。それでいて、そのゆがんだ神々、その退廃、神に逆らう文化、そして同時に経済的な成功への追求において、ローマにまったくよく似ています。さらにそれだけでなく、その宗教的な魂の魅惑、一種の統一宗教もそうです。それは、ほかのすべての町に、そうです、全地に広がっていくでしょう。このバビロンの、そうです、人を麻痺させ、酔わせる杯が、全地に回されることになります。これらすべては、何千年も前に、この文字どおりのバビロンの町で生まれました。人々が大きな塔によって天まで、神の御座にまで上ろうとしたときのことです。終わりの時が来るとき、これは何倍にも悪化するでしょう。バビロンは、獣によって滅ぼされる前には、すべてのものを支配する女王だったのです。

第18章

それから私は、もう一人の御使いが天から降って来るのを見ました。彼は大きな権威を持っていました。地は、神が彼にお与えになった輝きと栄光によって照らされました。それは、バビロンのはかない栄光のこけおどしとは対照的な、真の、神の栄光でした。そして彼は、全地に向かって大きな声で叫びました。「倒れた！倒れた、大いなるバビロンが。」

彼女は多くの悪霊の住みかとなっていたからです。それは、ノアの洪水で滅びた巨人たちの悪霊でした。彼らは、人間に害を加え、神のご計画をくじこうとした、墮落した神の子らでした。バビロンは、これらの汚れた霊たちを

喜んで受け入れ、もはや去らせようとはしませんでした。それはちょうど、これらの闇の、目に見えない存在を象徴する汚れた鳥たちを、バビロンが宿らせていたのと同じです。バビロンは、目に見えない悪しき力、竜のしもべたちで満ちていました。彼らは、すべてがまことの神とその戒めに逆らう方向に向かうように、すべてを導き、影響を及ぼしたのです。

歯止めのない情熱、金銭への愛、偶像礼拝と魔術、退廃と享楽、そして性的な放縦という、彼女のぶどう酒を、すべての民族が飲みました。たとえ多くの貧しい人々は、実際にはそれにあずかっていなかったとしてもです。地のすべての王たちは彼女と関係を持ち、彼女と一つになりました。地の商人たちは、彼女によって富を得たのです。

それから私は、神の民、イエスの証人たちに向けられた別の声を聞きました。「バビロンから出て行きなさい。彼女の罪にあずからないように。さもないと、あなたがたも彼女の災いにあずかることになる。彼女の罪の山は天にまで届いている。」それによって今、神は彼女のことを思い起こされたのです。神は命じられます。「彼女が他の人々に報いたとおりに、彼女に報いなさい！しかも、彼女が行ったあらゆる悪に応じて、二倍にして報いなさい。わたしに対して、また人々に対して行った悪に応じて。彼女が自分の杯に持っていたもの、聖徒たちの血、それを二倍にして報いなさい。

彼女が他の人々を犠牲にして自分を誇り、ぜいたくに暮らし、何が間違っていて何が正しいのか、何が善で何が悪なのかを一度も問わなかった、それと同じだけ——同じだけの苦しみと悲しみと孤独を、彼女に返しなさい。彼女は心の中でこう言ったからだ。『私は女王としてここに安泰に座っている。私はやもめではないし、決してやもめにはならない。すべての王たちが私を求めているのだから。悲しみなど決して味わうことはない。』」

世界システムの中では、人は、すべてがいつまでもこのまま続くかのように考え、行動します。進歩が私たちの未来を保証する。ただ、それを信じることさえやめなければよい、と。けれども、この進歩信仰は神の上ではなく、人間の上に築かれています。ですから、それは初めから滅びに定められているのです。

それゆえ、彼女の災いは突然、一日のうちにやって来ます。死と悲しみと飢饉です。彼女は火で焼かれます。彼女をさばかれる神、主は強い方だからです。そして神は、獣、海から上って来た野獣に、このさばきを執行するよう命じられるのです。

そして誰もが、この滅亡——バビロンの破壊——を嘆き悲しむでしょう。とりわけ、彼女と関係を持ち、そのおかげで——淫婦自身と同じように——ゼいたく三昧に暮らすことのできたすべての王たちがです。

その日、彼らが彼女の焼かれる煙を遠くから見て、自分たちも恐れとおののきに襲われるとき、彼らは言うでしょう。「わざわいだ！わざわいだ！大いなる都、バビロン、強く力ある都よ！わずか一時のうちに、おまえのさばきが来て、おまえの富と影響力は崩れ落ちて、大きながれきの山となった。」

地の商人たちは愕然とし、淫婦の死を泣き悲しみます。もう誰も彼らの商品を買わないからです。世界の経済システム全体が崩壊してしまったからです。金、銀、宝石、真珠、亜麻布、紫布、絹、緋色の布、香木、象牙の器、高価な木材の器、青銅、鉄、大理石、肉桂、アモモ（香料）、香油、樹脂製品と乳香、ぶどう酒、オリーブ油、上等の小麦粉と小麦、家畜と羊、馬と車、奴隷と人のいのちが取引されていました。おまえが楽しんでいた選り抜きの果実は、すべてなくなった。おまえのきらびやかな輝きは、消え失せてしまった。

これらすべての品物を商って富を得た商人たちは、彼女の苦しみを恐れて遠く離れて立ち、泣き悲しむでしょう。彼らは愕然として言います。「わざわいだ！わざわいだ！大いなる都よ！亜麻布と紫布と緋色の布を豊かにまとい、金で飾り、宝石と真珠で覆われていた都よ。」

商人たちは打ちのめされています。この莫大な富を荒廃させ、世界の経済システムを破壊するのに、わずか一時しかかからなかったからです。

船に乗っている人々、船長たちや乗組員たちもみな、海の上から大いなる都の滅亡を見ました。彼らは、天のしるしのような巨大な煙の雲を見て言いました。「この大いなる都に並ぶものがあっただろうか。」

そして彼らは頭にちりをかぶり、悲しみ泣きながら叫びました。「わざわいだ！わざわいだ！大いなる都よ！」その都が、商船を持つすべての人々を富ませていたからです。そして今、すべてはわずか一時のうちに終わり、無に帰してしまいました。彼らの未来は失われたのです。

けれども天では、この滅亡はまったく違うふうに見られていました。「喜び祝いなさい、すべての聖徒たち、使徒たち、預言者たちよ！神があなたがたのために、彼女へのさばきを行われたからだ！あなたがたが一度もわが家としたことのない都に。あなたがたがその滅亡を預言したために、あなたがたを憎んだ都に。あなたがたがそこから出て行った都にだ。」

それから私は、一人の強い御使いが大きな石臼を持ち上げ、それを海に投げ込むのを見ました。彼は言いました。「このように、大いなる都バビロンは、激しい勢いで投げ倒される。アトランティスのように、それはもう二度と見つからない。」

笛を吹く者、豎琴を弾き歌う者、楽師、ラッパを吹く者の声は、もう二度とその中で聞かれることはありません。彼女は文化を、果てしない娯楽と気晴らしを提供し、人々を虜にしていました。芸術家も、彼らが生み出した芸術も、もはやその中に見いだされることはありません。穀物をひいて上等の小麦粉にしていた石臼の音も、もはや聞かれることはありません。多くのともしびの光は、もうおまえの中で輝くことはありません。花嫁と花婿の喜ばしい声も、もうおまえの中で聞かれることはありません。

おまえの商人たちは地の大物たちで、おまえの商品を至るところに運び、すべての人々にそれを供給していたからです。けれども、それは人々にとって陶酔のようなものでした。おまえの商売は魔術のようなもので、人々を迷わせました。おまえの麻薬、そうです、おまえの偶像は消費であり、お金はマモンだったのです。

同時に、大いなる都であるおまえの中で、聖徒たちと預言者たちの血が流され、地上で殺されたすべての人々の血が見いだされたからです。これらの血の証人たちを通して語られる神の声に、人々は耳を傾けようとしませんでした。バビロンは、それを脅威と感じていたのです。淫婦は、これらすべての

賜物と能力の与え主であり創造者である神についての記憶を、ことごとく消し去ろうとしました。そして、捕まえられるところならどこでも、力づくでイエスの証人たちを殺そうとしたのです。

第19章

それから私は、天で大きな声を聞きました。それは数えきれないほどの大群衆の声で、こう叫んでいました。「ハレルヤ」——神をほめたたえよ！救いは、神である主から来る。すべての栄光、すべての誉れと力はこの方のものだ！この方のさばきは真実で、まったく正しいからだ。この方は、淫らな行いによって全地を腐敗させた大淫婦をさばかれた。彼女が暴力によって流したご自分のしもべたちのおびただしい血の償いを求め、彼女に正義を行われたのだ。彼女は暴力によっていのちを消し去った——そして今、自分のいのちを失うのだ。

そして天では、人々がこう言いました。「ハレルヤ！彼女の煙は世々限りなく立ち上る！」この都は二度と存在することはありません。永遠に廃墟のままなのです。

私ヨハネは、都の中でこれらのことをすべて見たあとで、再び天からの視点を与えられたことを本当にうれしく思いました。

すると、二十四人の長老と四つの生き物はひれ伏し、御座に着いておられる神を礼拝しました。そして声を合わせて叫びました。「アーメン！ハレルヤ」！

それから御座から声があって、こう言いました。「私たちの神をほめたたえよ。神を恐れる者たち、神のしもべたちよ。小さい者も卑しい者も、大きな者も同じように！」

それから私は、以前にも一度聞いたことのある大群衆の声を聞きました。それは大水のとどろきのようであり、激しい雷鳴のようでした。「ハレルヤ！私たちの神である主が、今、支配を始め、統治を開始された！今こそ私たちは喜びを思いきりあふれさせ、楽しみ、この方に栄光を帰すことができる！ついにその時が来た。目標に到達したのだ。私たちは永遠に安全だ。永遠

に、神と小羊のもとで、わが家にいるのだ。すべての敵は打ち負かされた。新しい時代が始まる。神がご自分の支配を打ち立てられたからだ。目に見える形で、そしてあらゆるところに。

天に引き上げられてから、私はすでに何度も、世界の歴史の終わりと神の敵の滅亡を見ていました。救いの歴史の目標に至る道が私に示されたのは、今回でおそらく**四度目**でした——歓声と礼拝、大きな声と雷鳴を伴っていました。

この**第四のまとまり**を締めくくる頂点は、これまでの幻よりもさらに美しいものでした。それは天の婚礼へと流れ込んでいったからです。待ちに待った**小羊の婚礼**が来たのです！そして小羊の妻は、このすばらしい婚礼のために用意を整え、身支度をしていました。彼女は小羊に従い、その再臨を待つ用意ができていました。花嫁には婚礼の衣が与えられました。輝く白い、上質の亜麻布の衣です。

この女こそ、真の**花嫁**でした。彼女は王の愛する者です。彼女の美しさは飾り気のないものでしたが、本物で、深く、清らかでした。偽りの花嫁、大淫婦バビロンとはまったく違います。あちらはまず終わりを迎えなければなりませんでした。そうして今、婚宴が始まることができるのです。

花嫁は小羊の愛する者です。想像を絶する愛で愛されています。死に至るまでの愛です。彼女は小羊の血で自分の衣を白くしたのですから。

花嫁、小羊の妻とは、あらゆる時代のすべての聖徒たちです。そして彼女の婚礼の衣は、聖徒たちが地上で行ったあの良い行いのすべてを映し出して輝いています。そこで、その大いなる日に、それらは認められ、目に留められるのです。彼らがイエスのために倦むことなく尽くして行ったことのうち、主が忘れてしまわれたものは一つもありません。花婿である小羊は、花嫁が主にとってどのような存在であるか、また主のために何をしてきたか、そのすべてにおいて花嫁の美しさを感じ嘆いて見つめられるでしょう。

そして一人の御使いが私に言いました。「小羊の婚宴に招かれている人たちは皆、幸いだ！」そしてその御使いはもう一度それを確かなものとして、こ

う言いました。「これは生ける神の、真実で信頼できることばである！」私はそれを主からすでに知っていました。**すべての人**がこの婚礼に招かれていて、歓迎されているのです。けれども、そこにいることができるのは、その招きを受け入れた人たちだけです。

婚礼は始まり、もう二度と終わることがありませんでした。祝いは果てしなく続きます。祝われるのは、小羊の愛です。祝われるのは、神の統治と臨在です。永遠に。

私はこのことにすっかり心を動かされ、心を打たれて、その御使いを拝もうとして足もとにひれ伏しました。けれども御使いは、まるで驚き慌てたかのようにこう言いました。「いけない、私を拝んではならない。決して。どんなことがあってもだ。私は被造物だ。私はしもべだ——あなたと同じように、そしてイエスの証しを持っているあなたの兄弟たちと同じように。いつも神だけを礼拝しなさい。決して人間を礼拝してはならない。たとえその人たちが死んでいても。御使いもだめだ。神と小羊イエスを礼拝しなさい。預言の霊とは、イエスによる証しであり、イエスについての証しだからだ。」神の御霊はイエスを証しし、イエスを大いなる方とされるのです。

今、**五度目**に、私の前に何かが開かれました。これが最後です。今回は天全体が地に向かって開かれ、地の終わりを描き出したのです。それは、いきなりメシアの再臨から始まりました。今こそ、この方ご自身が現れたからです。ご本人が、直々に。イエスです。この方は**白い馬に乗った騎手**として来られました。

勝利者であるこの方、私のイエス。その騎手は「忠実で真実な方」と呼ばれていました。この方は、ご自分を権威づけ、その務めを委ねられた御父の名によって、義をもってさばかれます。正義を執行することによって、義を実現されるのです。

私は再び、以前にも見たように、この方の目を見ました。燃える炎のような目です。すべてを見通し、見抜き、判断し、さばく目です。この方の頭には多くの王冠があります。王の位はこの方だけのものです。獣や竜が王冠をかぶっていても、それは彼らのものではありません。この方には、ご自分のほ

かには誰も知らない名が記されています。御父から受けた名、御父とのたぐいまれな関係を言い表す名です。

この方は血に浸された衣をまもっていました。私は、それがこの方が地上に来られる前から、すでに血に浸されていたことに気づきました。そうです、それは、この方が私たちのために流されたご自身の血だったのです。この犠牲の死が、今この霊的な戦いへと出陣する権利をこの方に与えたのです。ほかの名とともに、この方は**神のことば**という呼び名も持っておられます。そうです、この方こそ、神が語ろうとしておられることそのものです。この方はロゴス、神がどのような方であるか、神が何を望み、何を語られるかを言い表す方なのです。

以前にも見たとおり、この方はお一人ではありませんでした。天の軍勢、御使いたちと聖徒たちが、白い馬に乗ってこの方に従っていました。上質の亜麻布、勝利の色である清く白い亜麻布をまもっていました。おびただしい大軍です。

先頭の騎手の口からは鋭い剣が出ていました。それで反逆する諸国の民を打つためです。この方が語られることは、そのとおりに起こります。そしてそれは真理です。この方のことばこそ、この方の最も強力な武器なのです。真理と義のことばです。

私は、これらの軍事的で戦いの力強さを表す描写は、文字どおりに、そのまま一対一で置き換えられるものではないと理解しました。実際に物質的な戦いが起こるわけではありません。そうではなく、勝利はすでに十字架の上で勝ち取られていたのです。それはこの現れの日に勝ち取られるのではありません。小羊であるキリストは、血に飢えた残忍な戦士ではありません。反キリストの獣こそ、まさにそうなのです。キリストは復讐の天使ではありません。違います！この方は、ご自分のことばの真理によって判決を下し、正義を執行される、正しく、買収されることのない審判者です。この方は小羊であり、これから小羊であり続けられます。この出来事においてもそうです。獣の軍勢をさばくのはこの方だけであって、この方に従う者たちではありません。この方のことばこそ両刃の剣です。この方のことばだけで十分な

のです。そのことを、私はかつてあの園で体験しました。人々がイエスを捜し、捕らえようとした時のことです。イエスが「わたしがそれだ」と言われたとき、彼らは皆、打ちのめされたかのように地に倒れました。この方が来られるとき、この方が目に見える形で臨在されるだけで、すべての人をひざまずかせるのに十分なのです。

この方は鉄の杖を持つ羊飼いとなります。良い羊飼いの配慮と慈しみをもって、人々を治められるのです。

そしてこの方は、全能者である神の激しい憤りと怒りの酒ぶねを踏まれます。キリストは小羊であられるのに、また神の恵みは尽きることがないのに、ここ最後の対決においては、その恵みは沈黙し、身を隠します。今や、この方に敵対して戦う者たち、この方を拒む者たち、そうです、この方を憎む者たちに対して、正義が執行されなければならないからです。やはり変わることはありません。このように生ける神の手の中に陥ることは、恐ろしいことなのです。

この方の衣と腿には、もう一つの名が記されています。あらゆる反論に終止符を打つ名です。**王の王**、主の主。

この騎手が軍勢を率いて天から地に向かって来られるのを私が見たとき、もう一人の御使いが現れて、空を飛ぶすべての鳥に大声で呼びかけました。

「さあ、皆ここに来て、神の大宴会に集まれ。王たちの肉、千人隊長たちの肉、力ある者たちの肉、馬とそれに乗る者たちの肉を食らうためだ。すべての者の肉、自由人と奴隷、大きな者と小さな者の肉を。」すべての人が招かれていた小羊の婚宴とは、何という対照でしょう。このことばは身の毛もよだつものでしたが、同時に典型的な黙示文学のことばでもありました。この激烈なことばには、ただ一つの意味しかありませんでした。獣を拝んだ者たちが皆歩んだこの道に足を踏み入れないよう、すべての人に警告することです。

今、私は地上に巨大な軍勢を見ました。海から上って来た獣、すなわちこの反キリスト的な世界の支配者と、地の王たちとその軍勢が集結していました。馬に乗っておられる方と、天から来たその軍勢に戦いを挑むためです。

それは奇怪な状況でした。人間が手を結んで王の王に立ち向かうなど、どうしてありえるのでしょうか？その盲目はどれほど大きくなりうるのでしょうか？その思い上がりはどれほど大きいのでしょうか？神の御子と戦い、この方に挑むとは、正気の沙汰ではない企てです。けれども、この対決は結局のところ、昔からずっと、獣がサタンのな誘惑者であり、キリストが真の神のことであるという点にあったのです。

ですから、戦いもありませんでした。双方に死者が出る殺戮もありませんでした。そうではありません。獣は捕らえられました。抵抗は無駄でした。獣とともに、偽預言者も取り除かれました。しるしと不思議によって人々を惑わし、獣に仕え、獣を拝むように仕向けた者です。私が海から上って来る獣、そして地から上って来る獣として見た二人の男は、どちらも捕らえられ、火と硫黄の燃える火の池に生きたまま投げ込まれました。彼らがそこに連れて行かれたのは、消し去られるためではありません。むしろ火の池は、神から遠く離れていること、孤独と空虚、そして闇の極みなのです。すでに述べたとおり、終わりのない場所であり状態です。出口も逃げ道もない場所です。望みのない場所です。ここで、この二人の男の地上の歴史は終わりました。そして神には、彼らのためにここ以外の場所はありませんでした。彼らが地上で経験したすべてのさばきは——エジプトのファラオがモーセと対決させられたときに比べることができますが——この男たちを悔い改めに導くことはありませんでした。彼らは文字どおりの意味で、獣のように、ただ自分の本能に従っただけなのです。

二匹の獣に従っていた残りの者たちは、白い馬に乗って天の軍勢を率いていた方の鋭い剣によって殺されました。御使いの呼びかけに応じたすべての鳥は、腹いっぱいになりました。地の王たちをこの場所、ハルマゲドンに集めるために出て行った蛙のような霊どもに、それほど多くの兵士が従っていたのです。第六の怒りの鉢のときに私が見たとおりです。

世界の救い主であり、世界を完成される方であるキリストは、悪との戦いを、始まったのと同じくらい速やかに終わらせられました。悪しき者、そしてそれとともに悪は打ち負かされたのです。

第20章

それから私は、一人の御使いが天から降りて来るのを見ました。彼は底知れぬ所、アビュッソスの鍵を持っていました。さらにその手には大きな鉄の鎖がありました。そして竜、すなわち古い蛇、サタンが捕らえられました。彼は千年の間、鎖につながれ、底知れぬ所に投げ込まれ、閉じ込められました。彼は抵抗しませんでした。自分の時が来たことを知っていたのです。底知れぬ所は閉じられ、封印されました。千年の間、彼はもはや諸国の民を惑わすことができませんでした。千年が終わると、彼はしばらくの間、解き放たなければなりません。

サタンが鍵をかけて閉じ込められたことを、私はうれしく思いました。けれども、彼が獣や偽預言者のように火の池に投げ込まれなかったことを不思議に思いました！人類を惑わす者、初めから人殺しであった者に、神がもう一度悪を行う機会を与えるなどということがありえるのでしょうか？あのドラマがもう一度繰り返されるといえるのでしょうか？次の場面を見たとき、私は、自分が理解すべきこと、それが何を意味していたのかを悟り始めました。

私は、いくつもの座が設けられているのを見ました。そこには、獣が支配した時代から来た殉教者たちが座っていました。今や、彼らがさばきを行う時が来たのです。殉教者たちについては、こう言われていました。私は、イエスの証しを忠実に堅く保ち、神のことばに最後まで従った人たちのたましいを見た。そのために彼らは首をはねられ、その忠実さのゆえに頭を失い、それとともにいのちを失ったのだ、と。彼らは獣、すなわち反キリストの独裁者を拝まず、その像も拝みませんでした。また獣の刻印を額にも手にも受けませんでした。これらの血の証人たち、殉教者たちは、今、死者の中からの復活において生き返りました。そしてそれとともに、彼らが、キリスト、メシアとともに、さばき、治める時が来たのです。千年の間。

似たようなことを、私は預言者ダニエルの第7章で読んでいました。そこでは、四つの獣のうち最後の、最も恐ろしい獣が打ち負かされました。聖徒たちを殺した獣です。けれどもその後、この聖徒たちは神ご自身から、座と支

配と王国を受けたのです。そして同じことがここでも起こりました。以前には、獣が3年半続いた自分の王国で聖徒たちに打ち勝ったのですが、今や殉教者たちが義と認められたのです。すべてが彼らにとって有利な方向へと転じました。さばきが彼らに委ねられ、支配が彼らに渡されたのです。メシアとともにです。けれども**3年半**ではなく、**千年**の間です。

死んだそのほかの者たち——それは獣と偽預言者に従ったすべての者でした——は生き返りませんでした。千年が終わるまでは、そうでした。

私はユダヤ人の文書の中で、メシアが来られた後、新しい創造の前に打ち立てられるという中間の王国について、たびたび読んだことがありました。ここで私は、以前にもユダヤ人の思想世界やギリシア人の神話の中のほかの人物像がそうであったように、それが新たに解釈し直されていることに気づきました。この描写によって、獣の滅亡と殉教者たちの勝利が印象深く描き出されることになっているのです。この千年王国という描写には、獣に対する殉教者たちの勝利を示すという役割があります。ただそれだけを目指しているのです——文字どおりの、期間の限られた王国を目指しているわけではありません。むしろ私は、千年をただ、短い3年半と対比させればよかったのです。

殉教者たちの復活は**第一**の復活だからです。この第一の復活にあずかる者は幸いであり、聖なる者です。これら復活した者たちに対して、**第二の死**は何の力も持ちません。これら復活した者たち——そしてそこには**すべての**イエスに従う者も含まれます——は皆、神とキリストの祭司となります。そうです、キリストは私たちを祭司とし、王としてくださいました。そして今、それが何の制限もなく成就する時が来たのです。彼らはキリストとともに千年の間、治めるのです。

それに対して獣は**第二の死**を被り、それによってこの闇の王国は終わりを告げるのです。

悪魔的な三位一体、すなわち竜と獣と偽預言者の滅亡を描くこの描写は、さらにもう一度強められます。キリストの王国における殉教者たちの勝利が二

度と覆されることはないということを最終的に示すために、悪魔に、もう一度諸国の民を惑わす最後の機会が与えられるのです。

千年の後、サタンはその牢から解き放たれます。彼は四方八方に出て行き、すべての国々を惑わします。ゴグとマゴグを戦いのために集めます。海の砂のように数の多い、象徴的な軍勢です。彼らは地の広い平原に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都、難攻不落の天のエルサレムを取り囲みました。

何が起こるのでしょうか？それは速やかに、戦いもなく起こりました。天から火が下って、その巨大な軍勢を焼き尽くしたのです。

今こそ、私が待っていた時が来ました。諸国の民を惑わす者、悪魔は、硫黄の燃える火の池に投げ込まれたのです。そこにはすでに獣と偽預言者が待っていました。彼らはそこで昼も夜も、世々限りなく苦しみを受けます。そこに、サタンの三位一体が再びそろったのです。諸国の民を神と小羊に逆らわせ、聖徒たち、イエスに従う者たちに打ち勝ったあの三者です。

聖徒たちの勝利こそ、神の**最後のことば**です。悪魔による再度の惑わしは、獣の支配の繰り返しではありません。そうではなく、メシア、白い馬に乗った騎手が目に見える形で来られた後には、どちらに力があるのかという問題が最終的に、永遠に決着しているということの**しるし**なのです。今や実際に、新たな反乱はもはやありえません。キリストの王国もまた、千年の後に、もう一度攻め落とされるかもしれないという危険に陥ることはもうないのと同じです。それは永遠であり、神の新しい世界において成就するのです。私はまもなく、その世界を見ることを許されました。

私ヨハネは、今や世界の歴史の終わり、最初の、そして墮落した創造の終わりが来たのだと悟り始めました。私は大きな**白い御座**と、そこに着いておられる方を見ました。この方の前から、天と地、全宇宙が、まさに逃げ去ったのです。

私は数えきれないほど多くの人々を見ました。かつて生きたことのあるすべての人が、御座の前に立っていました。小さい者も大きい者も。皆がそこに

呼び出され、そこに出頭しなければなりませんでした。ただ一人の例外もありませんでした。そして皆が同じように扱われました。

それは大いなるさばきの日でした。**最後の審判**です。人間が行ったすべてのことが、神によって正しく判断される日です。すべての人が、自分の行ったすべてのことについて、自分の創造主の前で申し開きをしなければならないということを、最終的に自覚する日です。

いくつもの書物が開かれました。そこには、人々の生涯と、そのすべての思い、動機、行いが記録されていました。無限の記憶容量を持つ完全な記憶のようにです。けれども、そこにはもう一つの書物もありました。いのちの書です。それも開かれました。

そこに立っていた死者たちは、自分が行ったことに応じて、正しくさばかれました。

死者たちは本当にあらゆるところからやって来ました。永遠に消え去ってしまったと思われていたところからもです。彼らは海の深みから出て来ました。死とハデスも、その中にいた死者たちを出しました。そして死者たちは皆、自分自身が行ったことに応じてさばかれました。

それから、死とハデスは火の池に投げ込まれました。死は最終的に打ち負かされ、死者の国も一緒に打ち負かされました。もう必要なくなったからです。万物のこれまでの秩序は、ここで終わりを迎えました。火の池は第二の死、最後の、決定的な死です。それは消滅の場所ではありません。そこで人々は存在し続けるからです。けれども、自分が神と人々に対して行った悪を思い知らされる状態の中でのです。

すべての人が、自分の行いに応じて極めて精密に、かつ正しくさばかれたにもかかわらず、その人がいのちの書に記されているかどうか調べられました。それがそこでの重要な問いでした。そうです、何よりも重要な問いだったのです。問われたのは、その人が永遠のいのちを得るために小羊を信じ、小羊に従ったかどうかでした。この小羊のいのちの書には、生ける神を礼拝したすべての人が記されていました。

御座の前に立っていた者たちのうち、この書に見いだされなかった者は、火の池に投げ込まれました。たとえ書物の中に多くの良い行いが見いだされても、その名がこの書に記されていないならば、そうなったのです。彼らは火の池に引き渡されました。人々は恐怖と絶望のあまり立ちすくみました。誰一人として、この恐ろしい場所に行きたいと思った者はいなかったからです。そして、そこへ行くように前もって定められていた者も、一人もいませんでした。そこは、人々が自分の悪い行いの結果である正当な罰を受け、しかも神が恵みによって、彼らが自覚的に行った良い行いさえも考慮に入れてくださる場所なのです。いのちの書に見いだされた人たちは、自分の主の永遠の喜びに入りました。受けるに値しないのに、恵みによってです。彼らは、自分の悪い行いのために死んでくださった小羊に信頼していたからです。

ほかの者たちは、神から遠く離れたところへと去って行きました。火の池に投げ込まれた者たちにとって、それは二度と戻ることのない別れでした。ここでも、この描写はそれほどまでに強烈でした。これを聞くすべての人への警告として語られているからです。神のことなどどうでもよいと思っているすべての人への警告です。そういう人たちにも、この激烈なことばによって届くことが意図されているのです。

第21章

私ヨハネは、天への旅の中で多くのものを見てきました。それらは、私たちのヘブル語聖書から、そのまま、あるいは似た形で知っていたものでした。今、私はすべての約束の成就、そうです、その完成を見ることを許されたのです。古い契約の書を知っていたからこそ、私が見たすべてのしるしと出来事が何を意味しているのかを、そもそも理解することができたのです。

今、私は、私たちの希望と期待の**成就**であるものを見ました。私は新しい天と新しい地を見たのです。私がつづいていた古い地は、もはやありませんでした。

海はもはやありませんでした。比喩的な意味での海、あの獣が上って来た海、脅かし、逆巻く諸国の民の海が、消え去っていたのです。

私は、この新しい地を、自分が予想していたようには見ませんでした。山々や川、植物や湖のある、牧歌的な自然の風景としてではありません。それは、それ以前の多くのものと同じように、ここでもまた象徴と描写によって、**都**として、**花嫁**として、そして**園**として私に示されました。それは、私たちの心が最も慕い求めているものという視点から、新しい現実を描き出していました。つまり、神と小羊との関係、その近さ、その臨在においてです。もちろん、最初の創造の時と同じように、山々や川、植物や湖、そして動物もあるでしょう。最初の創造は、非常に良いものだったのであります。

新しい天と新しい地の約束を、私はイザヤ書65章と66章から知っていました。

それから私は、聖なる都、新しいエルサレムが、天から新しい地へと降って来るのを見ました。神のもとから、神の御座から出て来たのです。ここで、神のご計画が成就したのです。

この都は、夫のために飾られた花嫁のようでした。そして私は、この都が何であるのかを、すぐに知らされることになりました。それは、贖われた者たちの完成された共同体だったのです。彼らは一方では都そのものであり、他方では都の中に住んでいました。私が見た描写はどれも、特別な仕方でも多次元的で、多くの意味を持っていました。とにかく含蓄に富んでいるのです。私たちが今なお生きている、古い地上の現実とは違っていました。

私は、御座から大きな声がこう言うのを聞きました。見よ、人々の真ん中にある**神の住まい**を。神は人々のもとに、ご自分の永遠のわが家、ご自分の住まいを打ち立てられる。そして神は彼らとともに住まわれる。新しい地の上で。そして人々は神の民となる。そして神ご自身、永遠なる方、全能者が、彼らと交わりを持たれる。彼らの神として。彼らは神をありのままに見るようになる。天と地が一つになる。見えない世界が見える世界となる。信仰が、見ることへと至ったのです。

そして神は、慰める母親のように、彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださいます。悲しみと不安と絶望の涙は、もう二度とありません。すべてが、思い煩いのない喜びへと変わるのです。すべての恥は取り除かれま

す。誰もが恐れ、すべてを滅ぼす死は、もはやありません。悲しみも、叫び声も、痛みも、もはやありません。最初のもの、古いもの、墮落したもの、失われたもの、望みのないものは、もはや存在しないからです。

そして御座に着いておられる方が言われました。見よ、わたしはすべてを新しくする。

そして御座に着いておられる方は、私に直接語りかけて言われました。「書き記せ。これらのことばは確かで、真実だからだ。それはまったく信頼できる」。私が見たものを見、私が聞いたものを聞いた者にとっては、このことばこそ、まさに私にふさわしいものでした。私が生きていた世界を思うと、これほどまでに違う世界を体験することは、信じられないほど素晴らしいことだったからです。そして、それは本当にそのとおりになるのです。そうです、神にとっては、すべてがすでに存在しているのです。私は神が私にこう言われるのを聞いたからです。「事は成った。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。わたしはいつもいたし、いつまでもいる。わたしは約束したことを行う。あなたがたはわたしに頼ってよい。」

わたしは、渇く者に、わたしの泉からいのちの水を与えよう。代価なしに、ただで。からだの渇きをいやす水ではなく、わたしへの渇き、本物の真のいのちへの渇きをいやす水だ。誰でも来て飲んでよい。永遠のいのちから、わたしの新しい創造から、素晴らしいわが家から。私の神がどれほど人々を慕い求めておられるか、ご自分の新しい創造に加わるようにと、どれほどすべての人を呼んでおられるかに、私は深く心を打たれました。けれども神は、人々に代わって決断されたわけではありません。人々は**自分で**、恵みの福音を受け入れることによって、このいのちの水を飲むと決断しなければならなかったのです。

勝利を得る者、わたしの言うことを信じ、それを堅く保つ者は、この新しい創造を受け継ぐ。けれども、戦いなくして勝利はない！華々しくも完璧でもないが、イエスのために決然として。軽やかな凱旋ではない。そうではなく、挑戦に満ちた、妥協のない狭い道を通して、神の新しい世界へと進んで

行くのだ。新しい世界は彼らのものとなる。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの息子、娘となる。

けれども、すべての人が神の息子、娘になるわけではありません。すべての人が新しい地を体験するわけではありません。迫害を恐れて、イエスに中途半端にしか従わなかった臆病な者たち。神のことなどどうでもよい不信仰な者たち。忌まわしい行いをした人々。人殺しと性的に倒錯した者たち。悪霊とかかわりを持ったオカルトの徒。お金や名誉や自己実現を何よりも大切にしたい偶像礼拝者たち——そして、その生涯全体が偽りであった偽り者たち——彼らは皆、立ち返らなかったために、第二の死を被ることになります。いのちの水、この神の無償の贈り物を飲まなかったからです。彼らは、硫黄の燃える火の池で終わりを迎えます。彼らはあらゆる警告を拒みました。彼らの永遠の存在は、自責の念に満ちています。神の警告に従わなかったからです。

それから、最後の怒りの鉢を持っていた七人の御使いの一人がやって来ました。彼は私に言いました。「来なさい！あなたに花嫁、小羊の妻を見せよう。」そして彼は、御霊によって私を大きな高い山へと連れて行きました。かつて昔の預言者エゼキエルがそうされたようにです。そこからの眺めは圧倒的でした。そして私は、大いなる都、聖なるエルサレムが、神のもとから、天から地へと降って来るのを見ました。この都には人が住み、そうです、神の栄光に満ちていました。それは高価な宝石のように輝いていました。その光の輝きは、水晶のような、碧玉のようでした。

都は大きな城壁に囲まれていました。そうです、教会が絶えず抱えていた不安と追われる身の境遇は、神のとしえの守りと保護へと変えられていたのです。

都には十二の門がありました。つまり、内と外があったのです。門には十二人の御使いが門番として立っていました。同時に、イスラエルの十二部族の代表としてです。門の上には彼らの名を読むことができました。それは、御座の前の大いなる国際的な群衆を見る前から、私にはすでになじみのあるも

のでした。東側に三つの門がありました——そして北側、南側、西側にもです。

古い契約の、そして新しい契約の神の民は、永遠にこの都で一つにされていました。そのことは、都の下の部分にも表れていました。私は十二の土台を見ました。これらの土台の上には、それぞれ小羊の十二使徒の名が一つずつ記されていました。私ヨハネは大いに驚きました。私の名もそこに刻まれているのを見つけたのです。私たち弟子にとって、何という栄誉でしょう。

私と話していた御使いは、都とその門と城壁を測るために、物差し、金の測り竿を手を持っていました。

都は四角形でした。正方形のようでした。彼が測ると、ほぼ2300キロメートルの寸法になりました。都の長さ、幅、そして高さまでもが同じなのです。つまり、この都は立方体の形をしていたのです。すべての長さがまったく同じでした。

私は、古代の都市バビロン、ニネベ、そしてローマも、正方形に設計されていたことを知っていました。けれども、高さにおいてはではありません。

これは私に何を思い起こさせたのでしょうか？そうです、私の知っている立方体はただ一つしかありませんでした。それは幕屋と神殿の至聖所です。この場所は完全な立方体のようでした。その中には契約の箱がありました。それは神の御座でした。ですから、この巨大な都は、神ご自身が住まわれる至聖所のようなのです。このことは、私がすでに聞いていたことを確かなものにしてくれました。神は人々のもとに住まれ、こうして天を地にもたらし、地をご自分の至聖所とされるのです。

都の寸法全体は、超自然的、霊的、そして象徴的なものでした。途方もない深さと広がりを持っていました。今度は城壁が測られました。それは12×12、つまり144キュビトの幅でした。御使いの尺度は人間の尺度でもあります。ですから城壁は、およそ70メートルの厚さ、あるいは高さがありました。それは乗り越えることのできない城壁であり、大いなる聖なる都の安全を表し、また保証していました。

私がすでに都が輝いているのを見ていたように、城壁は碧玉でできていました。私が一番初めに御座の上に見た方も、そのような姿をしておられました。都全体そのものは、透き通ったガラスのような純金でできていました。透明で澄んだガラスは、私たちの時代にはまだありませんでした。ですから、私が見たものはまったく特別なものなのです。

十二人の名が刻まれていた十二の土台石は、どうやら、それぞれが一つの高価な宝石でできているようでした。想像を絶するほど美しい装飾品のようでした。

第一の土台石は碧玉、第二はサファイア、第三は玉髄、第四はエメラルド、第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九はトパーズ、第十は緑玉髄、第十一はヒヤシンス石、第十二は紫水晶でした。

これらの宝石のほとんどを、私は大祭司の胸当てから知っていました。それが偶然であるはずはありませんでした。

そして都の十二の門は——私は自分の目をほとんど疑いました——十二の巨大な真珠でした。門の一つひとつが、傷一つない巨大な一つの真珠でできていたのです。

都の大通り、その生命線は、透き通ったガラスのような純金でできていました。そうです、都のすべての通りがそうでした。

エルサレムの都の中に、私は神殿を見ませんでした。それは私を驚かせました。もし神殿を持つ都があるとすれば、それはエルサレムだったからです。けれども、主、全能者である神ご自身と小羊が、その神殿なのです。そもそも都全体が神殿であり、立方体として造られていたのです——神殿の至聖所のようにです。

太陽と月はあるでしょうが、都には太陽の光も、夜の月の光も必要ありません。神の臨在の栄光が都を照らすのです。都のともしばは小羊です。世の光であるイエスです。いつか太陽が燃え尽きる日が来ても、それは新しい地にとって何の意味も持たないでしょう。

私は、イスラエルの歴史の中の小さな一場面を思い出しました。第九の災いが来たとき、手で触れることができるほど濃い暗闇が三日間続きました。けれども、イスラエル人の家々には光がありました。過越の小羊がいたところ です。第六の怒りの鉢のもとで、すでに獣の王国の上に暗闇が来ていました。今、完成の時に、小羊が都の光でした。都の外は暗闇でした。そこには、この都に入ろうとしなかったすべての者がいるのです。

内と外があるとはいえ——都の中には聖徒たちが、外には不信仰な者たちがいます——、新しいエルサレムのこの多義的な描写は、新しい地を示しています。脈打ついのち、創造的な働き、発見、文化、音楽、芸術、そのほか神が人間に可能性として授けてくださったすべてのものをです。

地の諸国の民は、この都の光の中で生きるでしょう。その王たちと民は、イザヤが語ったように、自分たちの栄光をこの都に携えて来ます。彼らは新しい地の首都にやって来て、都の栄誉と豊かさのために、あらゆるすばらしいものを携えて来るのです。

都の門は、夜に閉じる必要がもはやありません。そもそも夜がもはやないのです。敵や盗人が待ち伏せする夜の危険は、もはやありません。夜への恐れは、永遠に過去のものとなります。それはただ一つの昼のようになるでしょう。

諸国の民の栄光と誉れ、彼らが持つ物質的、精神的、霊的な富の中のすばらしいものは何であれ、彼らはそれをこの神の都に携えて来ます。都を喜ばせ、誉れを与え、豊かにするためです。

この都には、汚れた者は決して入ることができません。「小羊の血で洗われて」いない者は、入る資格がありません。忌まわしい憎むべきことを行った者も入れません。神ご自身がすでに強調されたように、偽り者も入れません。そこは聖なる場所となるでしょう。神の臨在の中では、すべてが神と一致していなければならないのです。

第22章

今、私はこの都の中を、新たな視点で見せられました。私は、尽きることのない神のいのちの場所を見たのです。

御使いは今度、私に一本の川を見せてくれました。流れる水の大河です。いのちの水です。水晶のように澄んでいました。その水は水晶のように輝き、きらめいていました。この水の流れは、神と小羊の御座から出ていました。似たように、エゼキエルは、神殿から水が、ますます大きくなっていく川が流れ出るのを見ていました。今、私は、この川が本当はどこから来ていたのかを知りました。つまり、神の御座から直接だったのです。それはすべてのものをいのちと成長で満たしました。

都の真ん中には金の大通りがあり、その傍らをいのちの水の川が流れていました。大通りと川の両側には、いのちの木々が見えました。それは年に十二回実を結びます。毎月その実が熟すのです。今日の私たちの自然とは比べものになりません。その実の量と多様さは、言葉に尽くせないものでした。

これらの木の葉は、諸国の民をいやす薬のようです。実際には、からだの病気も心の病気も、もはやありません。誰も、どの民も、もはや疫病や、病をもたらすもの、弱らせるものに冒されることはありません。永遠のいやしの力が、彼らをそれらから守るのです。

もはや、のろいはありません。それはキリストと十字架上のその犠牲によって取り除かれたのです。これは、初めのエデンよりも新しく、より良い樂園でした。キリストが小羊のように死に、よみがえられたからです。新しい創造の始まりとして、その源としてです。

そうです、神と小羊の唯一の御座が、この都の中にありました。まるで神と小羊が天から人々のもとへ引っ越して来られたかのようでした。神は、宇宙を治めておられるご自分の御座を、地上に移されたのです。

そして神のしもべたちは、喜んで神に仕えます。そして彼らは神の御顔を見るのです。神の御顔をです。それは、被造物にとってありうる最高のことで

す。何よりも、彼らは皆かつて不敬虔な罪人だったのですから。この恵みの奇跡を、誰が理解できるのでしょうか？

彼らの額には神の名が記されています。彼らは神のものだからです。

死と不安と孤独と危険の夜は、もはやありません。

すべてを照らすともしびは、もはや必要ありません。太陽ももはや必要ないでしょう。いつか太陽が燃え尽きても、それがなくて困ることはありません。神ご自身と小羊が彼らの光となり、彼らの上に輝かれるのです。

彼らは世々限りなく治めます。人々を治めるのではありません。彼らは今、初めに与えられた創造の命令、地を従えるという務めを実行するのです。神が望まれたとおりにです。贖われた者は皆、喜びと生きがいをもって、新しい創造の中で自分の務めを果たすのです。

こうして私は、私たちが皆待ち望んでいる新しい世界をのぞき見ることを許されました。私は新しい創造を、移り変わる比喻の中で多次元的に、花嫁として、都として、そして園として見ました。私はそれを、今や全地に広がる至聖所のように見ました。すべての人は、新しい地のどこにいても、神の御顔を見るでしょう。神が地上に、すべての人に見える形で住まわれるからです。神は彼らと交わりを持ち、彼らを訪ね、彼らと語り合われます。かつてエデンで、アダムとエバのもとで、そよ風の吹く頃にそうされたようにです。私たちは神と小羊と語り合うでしょう。たくさんの質問をし——そして思いもよらなかった答えを受け取るでしょう。

そして御使いは私に言いました。「これらの神のことばは確かで、真実で、信頼できる。預言者たちの霊の神である主が、ご自分のしもべたちに、すぐに起こらなければならないことを示すために、ご自分の御使いを遣わされたのだ。見よ！わたし、イエスはすぐに来る。そうだ——思いがけない時に！

この書のことばを守り、それを行う人は皆、幸いである！」

すべてのことばと描写の意味を理解する必要はありません。けれども、神と小羊の勝利に励まされて、私たちはこの書のメッセージを守り、小羊に従って行くのです。

私ヨハネは、これらすべてを見、また聞きました。私は、それを私に示してくれた御使いの足もとにひれ伏しました。それほど圧倒されていたのです。すると御使いが言いました。そして私は、同じことが以前にも一度起こったことを思い出しました。「決してそんなことをしてはならない。私も、あなたがたイエスに従う者たちと同じように、神のしもべの一人にすぎない。私たち御使いは、あなたの兄弟姉妹と預言者たち、そしてこの書のことばを堅く守るすべての人に仕えている。神だけを礼拝しなさい。」

それから彼は私に言いました。「かつてダニエルは封印するように命じられたが、この書の預言のことばは封印しては**ならない**。時が近いからだ。このことばは、この時代のためのものだ。すでに今日から。」

不正を行う者は、さらに不正を行うがよい。汚れを好む者は、さらに自分を汚すがよい。けれども、その人は終わりのことを考え、自分の生き方を考え直すべきです。しかし、正しいことを行う者は、引き続き正しいことを行いなさい。聖別された生活を送る者は、引き続き神に喜ばれるように生きなさい。勝利者とはそのように生きる人たちです。最後まで忠実に堅く立ち、落胆や不安や失敗のために投げ出すことはしません。倒れても、また立ち上がります。神の恵みの力の中で生きているからです。

見よ、わたしはすぐに来る。速やかに、思いがけない時に！だから、いつでも、喜びと期待をもってわたしを迎えられるように備えていなさい。わたしは、一人ひとりへの報いを携えて行く。それぞれの働き、行い、労苦に応じて、その人が受けるにふさわしい報いを。

わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。この名をもって、わたし、イエスは、この黙示録全体に署名する。

小羊の血で自分の衣を洗う者たちは幸いだ！自分の生涯という汚れた衣のままで、彼らが小羊の婚礼に来ることは決して許されない。けれども、わたし、イエスと、わたしの死による赦しを信じることによって自分の衣を洗うなら、彼らはいのちの木から食べることが許される。そのとき彼らは、栄光の真珠の門を通して、新しいエルサレム、聖なる都に入っていくのだ。

誰でも来てよい。外にとどまる者は、自分でそれを望んだのだ。外にとどまるのは、汚れたものにとらわれ、その中にとどまり続けようとし、贖いを拒む犬どもだ。闇の力とかかわりを持った魔術師たち。性を自分の神のように崇めた淫らな者たち。人殺し、偶像礼拝者、そして偽りを愛するすべての者だ。彼らは神よりも罪を愛し、立ち返ろうとしなかったので、神の都の永遠の喜びに入ることは許されない。

わたし、イエスは、あなたがたにこれらすべてのことを示し、証しするために、わたしの御使いを遣わした。それはわたしから出たものだ。人間や御使いの作り事ではない。小アジアの七つの教会だけでなく、すべての教会がこれを知るべきだ。

わたし、イエスは、ダビデの根、約束されたメシアである。ダビデの真の子孫である。わたしは輝く明けの明星である。わたしは、はるか昔にバラムが語った星、イスラエルから出るようになっていた星である。世界の救い主、世界を完成する者として、もはや夜が続くことのない永遠の朝をもたらす者である。

そして聖霊と、すべてのイエスに従う者たちからなる花嫁なる教会は言います。来てください、主イエスよ！そして、この呼びかけを聞く人は誰でも、声を合わせて言いなさい。来てください！と。私たちの慕い求める思いを表し、それを口に出して言いましょう。

渇いている人は誰でも——神に、平安に、いのちに、生きる意味と希望に渇いている人は誰でも——いのちの水を飲みなさい！まだ時があるうちに、恵みが続いているうちに、それをただで受けることができます。良い行いによって手に入れることはできません。ただで受け取らなければならないのです。私たちはそれを、ただ無償でいただくだけなのです！

神は、聖なる情熱をもって人々に対するご自分の目的を追い求め、人々がご自分とともに永遠を過ごすように、その心を勝ち取ろうとしておられます。

この書の預言のことばを聞くすべての人に、わたしは言う。「もし誰かが故意にこの書に何かを付け加え、それによってこの書のメッセージを曲げるな

ら、神はその人に、この書に書かれている災いを加えられる。

もし誰かがこの書のメッセージから何かを取り除き、隠すなら、神はその人から、いのちの木と聖なる都に入る資格を取り除かれる。」

これらのことを証しする方は、私たちがそれを知ることが望んでおられるので、こう言われます。「しかり、わたしはすぐに来る！」

私たちは希望をもって答えます。アーメン！来てください、主イエスよ。

私たちの主イエス・キリストの恵みが、いつの時も、どこにおいても、すべての聖徒たちとともにありますように。この方が来られるときまで。

「神ご自身が、私たちの慕い求める思いの究極の目標となられる。私たちはこの方を終わりなく仰ぎ見、飽きることも疲れることもなく愛し、ほめたたえるであろう。」

ヒッポのアウグスティヌス (Augustinus von Hippo)

結びに

読みながら、神があなたに語りかけておられること、あなたの心を得ようと力を尽くしておられることを感じていただけたなら、心からうれしく思います。神は励まし、教えてください。けれども同時に、神から出たものではなく、それゆえに私たちを害するあらゆるものについて警告もしてくださるのです。

神があなたについて、またあなたに直接語ってくださったすべての良いことを、神に**感謝**してください。

ご質問があれば、私たちにお便りください：info@kirchefüralle.de

新約聖書のほかの手紙や福音書も、このような形で知りたいと思われる方も、どうぞお便りください。

最後に、いくつか大切なヒントを：

聖書を読んでください。できれば定期的に。

- 聖書をほかの人たちと一緒に読み——そして語り合ってください。
- イエスの生涯についての記録、つまり福音書から始めてください。
- 神がご自分のことばをあなたにとって生きたものとしてくださるように——まるで神があなたに直接語りかけておられるかのように——祈ってください。
- 聖書の箇所を、声に出して二回続けて読んでください。

聖書の箇所に、次のような問いを投げかけてみてください：

- この箇所にどんな見出しをつけますか？
- この箇所は、神とイエスについて何を語っていますか？
- この箇所は、人間について何を語っていますか？
- 私たちはこの箇所から何を学びますか？
- 私たちは何をすべきでしょうか？

- このみことばは、私たちをどのように励ましてくれますか？

また集まったときには、自分の経験や体験したことについて語り合ってください。

イエスを愛し、敬うクリスチャン、聖書を大切にし、読み、真剣に受け止めるクリスチャンとの接点と交わりを求めてください。